

出版圖書新聞廣告行數累年比較表

—單位千行— (日本電報通信社調査)

新聞名	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
東京十二新聞	六、六四七	七、五八九	八、一九一	六、五二八	七、一六三	六、三三四	六、二二五	七、一七九	七、四六六
大阪三新聞	一、九六五	二、四〇〇	二、八三九	二、五〇一	二、三七八	二、一三九	二、〇九九	二、三六六	二、三六四
合計	八、六一二	九、九九九	一一、〇三〇	九、〇二九	九、五四一	八、五〇一	八、三三四	九、五〇五	九、五二〇

出版圖書新聞廣告行數順位累年比較表

—單位千行— (日本電報通信社調査)

品名	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
藥品	五、二〇三	五、〇一三	五、〇七五	五、三六〇	五、四三七	六、一三八
化粧品	三、九五〇	三、六三三	三、八三九	三、五〇〇	三、四五六	四、一七三
圖書	二、七〇六	二、七九〇	二、六五三	二、七三三	三、八八九	三、〇九〇
食品	三、〇四一	二、四〇三	二、三二九	二、〇、四二九	三、一八九	三、一六六
雜件	一、七、二九〇	一、六、三五八	一、四、九三三	一、六、七五五	一、八、五二八	一、九、三三四
雜器	一、三、〇二六	一、〇、九九九	一、〇、九六七	一、〇、二〇六	一、三、四五五	一、三、一三九
雜品	九、九二四	九、八八八	九、八二一	九、四六八	九、四八八	一一、六五四
以下略						

(備考) 右の順位は全國百十一新聞の廣告行數の比較であるが、これを東京十二新聞のみに就て比較すると、圖書の廣告は大正十四年までは第三位であつたが同本全盛時代たる大正十五年(昭和元年)、昭和二年、昭和三年と第一位を占め、昭和四年以後は第二位に落ちてゐる。

昭和十年新刊數種類細別表

(本年産所數分)

<p>一、哲學 二五五</p> <p>哲學概論・哲學一般 二八</p> <p>西洋哲學・西洋思想 五七</p> <p>東洋哲學・東洋思想 三三</p> <p>日本哲學・日本思想 三九</p> <p>論理學 二</p> <p>心理學・精神分析 一〇</p> <p>美學・藝術哲學 二</p> <p>倫理學 二</p> <p>人生論・人生觀 二</p> <p>處世哲學・修養 二</p> <p>心靈・妖怪 二</p> <p>性學・占術 一八</p>	<p>教育史・教育思潮 二四</p> <p>教育行政 三</p> <p>教育實務・法規・要覽 六</p> <p>教育心理學・兒童研究 二</p> <p>道德教育・國民道德 三</p> <p>宗教教育 六</p> <p>社會教育・公民教育 八</p> <p>青年教育・青年學校 四</p> <p>實業教育・補習教育 四</p> <p>職業指導 六</p> <p>學校教育・學級經營 三〇</p> <p>教授法・學習指導 一〇</p> <p>修身教育 三</p> <p>國語教育 三</p> <p>綴方教育 二</p> <p>書方教育 六</p> <p>數學教育 四七</p> <p>理科教育 一八</p> <p>歴史教育 三三</p> <p>地理教育 二</p> <p>國畫教育 二</p> <p>手工教育 一〇</p> <p>農業教育 一</p>	<p>家事・作法教育 九</p> <p>裁縫・手藝教育 五</p> <p>音樂教育 一</p> <p>體育・體育ダンス 二七</p> <p>學校遊戲 二</p> <p>學校劇・學藝會 二</p> <p>學校設備・學校衛生 四</p> <p>家庭教育・幼稚園 七</p>	<p>文學總論・文藝評論 一三</p> <p>歐米文學研究・評論 五</p> <p>續譯 三</p> <p>支那文學研究・評論 二</p> <p>續譯 二</p> <p>童話研究 二</p> <p>文藝辭典・文藝年鑑 二</p> <p>B)國文學・漢文學 二</p> <p>國文學史・研究・雜著 二</p> <p>和歌史・同研究 二</p> <p>俳諧史・同研究 二</p> <p>明治大正文學史・同研 一</p>	<p>究(附現代文學研究) 九</p> <p>國文學註釋書 三</p> <p>國文學校訂本 三</p> <p>漢文學研究 二</p> <p>漢詩 一</p> <p>(C)隨筆・文集・日記 一七</p> <p>隨筆 一</p> <p>文集・讀本 九</p> <p>日記・書簡 一八</p> <p>(D)詩歌・俳句・民謡 五</p> <p>詩論・作詩法 四</p> <p>續譯詩集 一〇</p> <p>歌論・作歌法 二〇</p> <p>歌集 二七</p> <p>俳論・作句法 三</p> <p>俳句集 三</p> <p>川柳 三</p> <p>民謡・歌謠 一</p> <p>童話 六</p> <p>(E)小説・戯曲 二〇</p> <p>現代小説(創作) 二〇</p>
---	---	--	---	---

園藝・作物
林業・造林
蠶業・製紙
畜産・家禽
水産
農具

一四、理科學・數學 一八一
科學一般・日常科學 三〇
物理・化學 五二
天文・地理・氣象 二六
動物學 二〇
植物學 三〇
礦物學 一一
航空・兵器科學 一一
採集・標本・模型製作 二七
珠算 二二
數學 二二

一五、醫學・衛生 三三〇
醫學・醫事一般 三三
生理學 二二
衛生學・營養學 二二
解剖學 二二
病理・組織學 二二

細菌學・免疫學
醫化學・藥草
血液學
神經病學
臨床學・診斷學・治療學
內科
小兒科
產科・婦人科
外科
皮膚科・性病科
耳鼻喉科
眼科
齒科・口腔科
家庭醫學・治療法
健康法・預防醫學
性・妊娠・優生學
兒童衛生
看護學・產婆學

一六、運動・趣味・娛樂 八七
運動一般 八七
陸上競技 一一
水泳 一一
野球 一一

蹴球・籠球・排球
柔道・劍道・空手・相撲
スキー
ゴルフ
拳闘
釣魚
社交ダンス
圍碁
將棋
茶道・盆栽
食道樂・雜趣味
各種娛樂・遊び方

一七、婦人・家庭 四九
婦人一般 四九
家事・家政 四九
育兒・お産 四九
裁縫・手藝 四九
料理 四九
禮式・作法 四九
生花・投入 四九

一八、受験參考書 三二四
入學案内・受験案内 三二四
試験問題集及解答集 三二四
文檢參考書 三二四

教員・師範受験書
高等文官・普通文官受
驗書
志願兵受験案内
巡查受験案内
鐵道員受験案内
通信受験案内
各種獨學受験案内
國語・漢文・作文參考書
數學參考書
物理・化學參考書
博物參考書
歷史參考書
地理參考書
英語參考書
各國語參考書
法律參考書
簿記參考書

一九、兒童書類 二八六
(A)兒童讀物 二八六
(B)兒童學習書 二八六

岩波書店 昭和十一年新刊書

哲學の根本問題 續編 西田幾多郎著 小四六
哲學論文集(第二) 西田幾多郎著 三〇四
哲學論文集(第一) 西田幾多郎著 三〇四
宗 教 哲學 波多野精一著 小四六
偶然性の問題 九鬼周造著 三〇四
西 田 哲 學 高山岩男著 四二二
カン 神の存在の證明根據 他 長田中郎著 五〇〇
ルヘイ 大 論 理 學 中卷 鈴木楯三郎著 四二二
フオール 西洋哲學史 第二卷 栗田實三郎著 五〇〇
ベリヒ 哲 學 序 說 古野由三郎著 五〇〇
續 日本精神史研究 和辻哲郎著 四七〇
風 土 人間學的考察 和辻哲郎著 四七〇
道 元 の 研 究 秋山範二著 四二〇
法 律 哲 學 原 理 三谷隆正著 二九八
十 年 哲 學 論 集 東北帝國大學 法文學部編 四三〇

岩波書店 昭和十一年新刊

解說附圖書 總目錄進呈

日本精神史論纂 第二卷 法政大學日本編 二九二
最近心理學論文集 增田博士謝恩 論文集編纂會 四八六
心理學論文集 第五輯 日本心理學會編 五七〇
教 育 科 學(3) 廣島文理科大學 教育學研究室 二〇四
攝 大 乘 論 研 究 關 口 泰 著 三五六
佛 教 學 の 諸 問 題 宇 井 伯 壽 著 九八二
辯 證 法 的 神 學 序 說 佛 誕 二 千 五 百 年 一 〇 九 八 紀念學會編 二〇九
余は如何にして基督 信徒となりし乎 後藤安雄著 二〇九
論 國 語 學 史 要 鈴木楯三郎著 四四四
日本文學の本質と國語教育 山田孝雄著 三〇六
國文學の文獻學的研究 國語教育學會編 七二四
日 本 文 藝 學 佐佐木信綱著 四六四
日 本 文 藝 學 岡崎義惠著 六六六
柿 本 人 磨 (新山房) 春藤茂吉著 三六六

東京商大教授 猪谷善一	全國大學教授 國際經濟學會 神戶商大教授 北野大	大藏研究室 田畑爲彦	元住友銀行 岸谷梧郎	大藏研究室 田畑爲彦	海軍少佐 齋藤直幹	國民新聞主筆 長谷川光太郎	西下貞次	同	大門富之助	白金光助	富倉堅三	西下貞次											
日滿支經濟論	國際經濟研究	國際經濟精說	銀行新讀本	銀及通貨論	軍備と財政	商況經濟記事の見方	商店經營の知識	小賣店讀本	勸業券利殖の仕方	公債利殖の仕方	勸業債券致富百話	新商賣開業百話											
菊入上製判 380	菊入上製判 500	菊入上製判 320	並四六製判 400	並四六製判 200	包四六製判 350	並四六製判 250	並四六製判 300	並四六製判 220	並四六製判 300	並四六製判 200	並四六製判 220	並四六製判 220											
二、五〇	三、五〇	二、二〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	七〇	一、〇〇	五〇	八〇	五〇	五〇	五〇											
日本經濟の將來を卜するプロック經濟問題の各様相を分析し全面的根本策を提供したものである。斯界の權威全國大學教授が國際經濟問題を挑へて眞向からふりかざす眞摯なる研究。此貿易を思想との關聯下に史的に研究したのが本書。最近國際經濟諸現象の根本問題を檢討し、且つ民族の對抗勢力に論究精説せる良書。我國金融市場の主體たる普通銀行を詳述して平易、而も學問的氣品高き寶書。	時として國際金融市場に旋風を捲起す銀を凡ゆる方面より論じたるもの。	軍備と財政との關係を述べし且つ國防と公債増税問題等にも明快に解答。	日々の新聞雜誌に最も重要な社會的役割を演ずる商況經濟欄の懇切なる解説。	商店危機の打開、繁榮、仕入れ、金策、商法商略、廣告等十五講に分かり論述。	（全五卷）第一卷、顧客吸引、金融、販賣等凡そ小賣店經營上必要な秘策は全部本書。	堅實な算盤の上からも利殖投資の正道を歩む勸業債券富れば一舉數千圓。	絶対安全且必ず儲かる公債の賣買をその根本から店頭の要領まで詳述。	勸業債券で巨萬の富を得た幾多人士の經驗と將來の致富法。	勤め人、學生、婦女がやつても絶対に損のない商賣百種とその開業法。	大島及び布哇を中心とする海洋民族の生活を描いたもの。蘇峰絶賛の書。	人生と宗教との問題は人類最古の問題であつて而も明日の？である。	鋭敏な觀察と独自の表現を以て鳴る著者が正體を現はしての社會人物批評。	高年、陶庵公とその碩學内藤湖南先生との三十年に亘る交友記。	支那古代夏殷周三王朝盛衰に絡む悲話、暴君明君の登場怪奇凄婉物語。	今日の日本を築き上げ身は國家の藩屏となりし幕末偉人の血涙史話。	明治大正昭和に亘る憲政の沿革とその間興亡せる歴代内閣の變遷を論じたる書。	典據正確と傍證と故實と讀解の平易と及び著者の女性である事が特徴。	易經講義によつて易の根本を知らしめ占筮法に至らしむ絶好の指導書。	漢々たる人生と變轉常なき運命の交錯を論じ現代處世法に及ぶ。	海行かばみづく屍の日本士道精神の化神ともなりし先哲の遺訓を解説。	前編を古代女性の龜鑑物語。後編を註釋づきの教訓書とす。	堯舜を祖述する孔孟の教義解説著者はこれ斯界の著宿。	支那の思想史は儒教と其の反對者の諸説を見れば足る。

大毎社會部長 井上吉次郎	知恩院大僧都 井川慶定	大毎硯滴筆者 丸山幹治	安藤徳器	三浦義臣	安藤徳器	同	小林榮子	文學博士 遠藤隆吉	大谷良寛	丸岡英夫	同	北村佳逸	同
海の蒼生記	人生と宗教	黒頭巾を脱ぐ	西園寺公と湖南先生	支那怪奇物語	幕末偉人物語	憲政治草物語	新註枕草紙	易學入門	人生と運命	日本士道讀本	日本婦道讀本	孔子教解説	孔子教のそ反對者
包四六製判 320	包四六製判 320	菊入上製判 350	菊入上製判 350	菊入上製判 350	菊入上製判 400	菊入上製判 350	菊入上製判 600	菊入上製判 600	並四六製判 250	並四六製判 290	並四六製判 240	菊入上製判 300	菊入上製判 300
一、五〇	一、二〇	一、八〇	一、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	三、五〇	三、五〇	六〇	八〇	八〇	二、一〇	二、一〇
大島及び布哇を中心とする海洋民族の生活を描いたもの。蘇峰絶賛の書。	人生と宗教との問題は人類最古の問題であつて而も明日の？である。	鋭敏な觀察と独自の表現を以て鳴る著者が正體を現はしての社會人物批評。	高年、陶庵公とその碩學内藤湖南先生との三十年に亘る交友記。	支那古代夏殷周三王朝盛衰に絡む悲話、暴君明君の登場怪奇凄婉物語。	今日の日本を築き上げ身は國家の藩屏となりし幕末偉人の血涙史話。	明治大正昭和に亘る憲政の沿革とその間興亡せる歴代内閣の變遷を論じたる書。	典據正確と傍證と故實と讀解の平易と及び著者の女性である事が特徴。	易經講義によつて易の根本を知らしめ占筮法に至らしむ絶好の指導書。	漢々たる人生と變轉常なき運命の交錯を論じ現代處世法に及ぶ。	海行かばみづく屍の日本士道精神の化神ともなりし先哲の遺訓を解説。	前編を古代女性の龜鑑物語。後編を註釋づきの教訓書とす。	堯舜を祖述する孔孟の教義解説著者はこれ斯界の著宿。	支那の思想史は儒教と其の反對者の諸説を見れば足る。

優秀なる参考書 健文社版

長澤英一郎先生著 四六判特製三五〇頁 價一圓二十錢送八錢

學習 最新英文法講義 受驗 價一圓二十錢送八錢

渡部金次郎先生著 四六判特製四〇〇頁 價一圓五十錢送十錢

學習 最新化學講義 受驗 價一圓五十錢送十錢

訂改 英文構成法 濱林生之助著 價二圓半送八錢

二版新式 英文和譯狙ひ所 鈴木芳松著 價五十錢送四錢

十版新式 和文英譯狙ひ所 鈴木芳松著 價五十錢送四錢

五版 語原重要單語推理式記憶法 宮田峯一著 價一圓半送八錢

五版 幾何學 解方の目標方 向と補助線の 着眼 青島清一著 價一圓半送八錢

五版 最新數學公式 代數・平面 立體・三角 健文社編輯部 價五十錢送四錢

廿版 訂改 簡明日本地理 柴田親雄著 價一圓半送八錢

訂改 簡明世界地理 柴田親雄著 價一圓半送八錢

重版 國文法新解 中泉哲俊著 價一圓送八錢

重版 國文解釋法 永野忠一著 價一圓半送八錢

輕俳畫の描き方 鶴月左青著 價一圓半送六錢

俳句の用語と季寄せ 鶴月左青著 價八十五錢送四錢

新版俳文讀本 島東吉著 價一圓半送十錢

古今漢詩評釋愛吟詩集 川口白浦著 價五十錢送四錢

馬術競馬の儲け方 岡田光一郎著 價一圓半送六錢

英和對照泰西の格言と俚諺 原田英夫著 價一圓半送八錢

春城閑話 市島春城著 價二圓半送十錢

郊外通信 加藤武雄著 價一圓半送十錢

釣ざんまい 中村星湖著 價一圓半送十錢

轉向作家の手記 細田源吉著 價一圓半送十錢

★健全文社の好評趣味書類!!

齋藤巢潮著 最新刊 四六判美裝函入 定價二圓五十錢 送料十四錢

茶道 竹内綠堂著 價二圓半送十四錢

酒道 西村文則著 價二圓半送十四錢

弓道 竹内尉著 價二圓半送十四錢

弓道・新射法 竹内尉著 價一圓半送十二錢

日本畫道 鷹田其石著 價二圓送十四錢

道 竹内尉著 價二圓半送十四錢

(近刊) 書

東美 京土 神代 田町 健文社 振替東京四四八六 電話神田(25)一六六五

!!書の童兒きなれ汚に校學に庭家! 讚絶評好

阪本牙城先生著 フールス判挿畫澤山
價二圓三十錢送八錢

最新刊
足で描いた漫画

面白いうちに、知らず知らず、色々な事を覚える……これはステキこれは素晴らしい……

— 漫画・漫文・訪問記 —

カネ クツ レミ ンボ	夢 の 梯 子	桃 色 の た ま ご	狐 狩 り	魔 法	童 心 雜 筆	子 と 遊 ぶ
坪田譲治著	川村岡花子著	川村岡花子著	坪田譲治著	坪田譲治著	松原至大著	和邦坊著
價一圓三十錢送十錢	價一圓三十錢送十錢	價一圓三十錢送十錢	價一圓三十錢送十錢	價一圓三十錢送十錢	價二圓四十錢送十錢	價二圓四十錢送十錢

つぼみのゆめ	あすさく花	赤い風船	女學生用脚本集	みのもる兒童劇	澁澤青花著
小野政方著	小野政方著	小野政方著	野村多夫著	伊達左衛門著	澁澤青花著
價一圓三十錢送十錢	價一圓三十錢送十錢	價一圓三十錢送十錢	價一圓五十錢送十錢	價二圓五十錢送十錢	價一圓三十錢送十錢

東美 京土 神代 田町 健文社 振替東京四四八六四番 電話(25)田神 四六八四四 五六六一

! 版スレロの社文健

チャタレイ夫人の戀人

D・H・ロレンス 伊藤 整譯・三岸節子裝幀

之は現代に於て、全く此類を絶した戀愛の聖書である。二十世紀の新文學が達し得た最高の倫理の書である! 如何に生きんかに悩むもの。如何に愛すべきに悩むもの! 火の如き古今獨歩の藝術に觸れんと希ふものは來つて本書の精神にふれよ。本書こそ性道德の指標! — 忽十版!

永松定譯	伊藤整譯	木下常太郎譯	宮西豊逸譯	フ立重譯	新銳十五作家
愛と藝術の手紙	戀 愛 論	處女とジプシー	島を愛した男	ロレンスの生涯	ロレンスのもとに
價一圓八十錢	價一圓八十錢	價一圓八十錢	價一圓八十錢	價一圓八十錢	價一圓八十錢

加藤野郎著	武野燭介著	井東地著	モツパツサン著	T.F.ボイム著	エフ・スミス著	中村白雲著	五松ガ口著	明大卒業生著
文壇餘白	診	重役病患者	一市民の日曜日	ポイス短篇選集	死の家の記録	ドストエフスキー	月・水・金	健文社發兌
價一圓十錢	價一圓十錢	價一圓十錢	價一圓十錢	價一圓十錢	價一圓十錢	價一圓十錢	價一圓十錢	價一圓十錢

新撰動物學

一冊にして動物學の全般を説明せる最新最良の權威書！

動物學の全部をあげて最新研究により總論（動物學の範圍・發生より進化まで十章）各論（原生動物より脊椎動物まで十八章）の二篇に分ち（章・節・綱目）に分類して一々原語を附し動物學の應用に至るまで簡明要を盡して明快に説述す圖版一千餘箇挿入す

東大教授文學博士吉田熊次著 定價四圓八拾錢 送料二拾六錢

社會教育原論

日本社會教育の歴史・本質・設備・機關・教化運動・指導の新方法・重要問題を解明せる最新の名著

廣島文理大教授 文學博士 清原貞雄著 定價四圓八拾錢 送料二拾六錢

國民道德原論

日本精神を中心とする國民道德の全體系を總論各論教養に分類して明快に論述す

廣島文理大教授 文學博士 清原貞雄著 定價四圓八拾錢 送料二拾六錢

歴史教育論

大阪毎日新聞激賞の名著！

新見博士は透徹の新理論と豊富なる引例の中に國史を中心とする歴史教育の新しい理論と最良の方法を明快に論述して國民に新時代の指導原理と方法を示された近來の名著であると大阪毎日新聞が激賞！

廣島文理科 文學博士 新見吉次著 定價四圓八拾錢 送料二拾六錢

一七六

廣島文理大教授 阿部余四男 新著 菊版天金背革洋裝八三五頁 定價六圓八拾錢送料三十錢

綜合國史研究

國史綜合研究の殿堂！ 唯一の國史總覽！ 最初の國史解題書

我が國史の全部をあげて國史の本質・國史學・國史補助學・國史研究法・通史・國史教育を解明し國史研究書の全部を各時代別に社會文化史（政治史等の八項）・精神文化史（藝術史等の八項）・雜載・史料等の十五章に分類して一其の研究法と内容と價值を明示せる最至便！ 國史研究の最良參考書

廣島文理大教授 栗田元次著 定價四圓八拾錢 送料二拾六錢

國史教育原論

大阪朝日新聞激賞の名著！ 近來稀に見る快著！ 清新明快要を盡せる第一等の書と

廣島高師教授長谷川與三治著 定價四圓八拾錢 送料二拾六錢

地理教育新論

新しき地理教育の本質・教材觀・最良方法・設備・用具・研究參考書・滿蒙認識の地理教育まで解明す

廣島文理大教授 栗田元次 新著 菊版天金最上布洋裝 上卷六五〇定價四圓八拾錢 中卷五三〇定價參圓八拾錢 下卷六五〇定價五圓

廣島文理科 文學博士 勝部謙造著 定價四圓八拾錢 送料二拾六錢

人間を見つめる

人間研究の世界的名著！

世界的の哲學者ハイデガーは人間研究の少なき今日の學界をなげいた。此の時勝部博士は人間研究の歴史・人間の本質・人間の全生活を説き極め教育との關係を解明して教育の根本問題解決につとめた。此の偉大なる研究を見よ。

一七七

東京市四谷目 東仲町三丁目 振替 一三一六 東京 六番

東京市四谷目 東仲町三丁目 振替 一三一六 東京 六番

東京外國語學校 高橋盛雄先生 共著
元米國加州大學 教授 エフ・ディー・ペトロー先生

英米會話の實例と練習

(版三評好)

新四六判八八頁 挿圖六七〇 アート刷挿繪三枚
總皮天金特製四・〇〇 上製三・〇〇 送料各二・三〇
英文大阪毎日學習號一批評一現今英語の會話書は各種各樣その數甚だ多に上つて居るが本書ほど親切味たつぷりな會話書は減多とあるまい。先づ實行容易なる會話の練習法より説き起し、英語と米語とを混用せぬやう區別してこれを示し、更に英字新聞より最近の實例を採りて懇切なる説明を加へ、活きた資料たらしめ、邦人の誤り易き文法上の難點をよく判るやう解釋せる點が本書の特色の一である。尙今日、英米で使用する者の理解を便せしめる等諸方面に細心の注意が拂はれてゐるから英學生は勿論、これから外國へ旅行せんとする人々は是非一讀の必要がある。

英語論文の書き方

東京外語元講師 高橋盛雄先生著 (四月下旬發賣)
英文手紙の實例と練習
最新刊
四六判上製書六頁 定價三・五 送料八
新四六版 七百頁 挿圖三百八十個 定價三・八〇 送料一・六

◇書考參良優の堂海山き高判評然斷◇

小野圭次郎著	最新 英文の解釋	一・五	八	湯地孝著	最新 現代文の解釋	一・五	六
小野圭次郎著	最新 英語の作文	一・五	八	佐藤正範著	最新 國文法の要領	一・五	六
小野圭次郎著	最新 英語の文法	一・八	八	隈部次雄著	最新 國語の單語	一・〇	六
小野圭次郎著	最新 初步の英文法	一・〇	六	佐藤正範著	最新 漢文の解釋	一・〇	八
小野圭次郎著	訂三最新英語のアクセント	一・五	二	佐藤正範著	最新 漢文解釋法	一・五	八
小野圭次郎著	最新 英語の單語	一・〇	六	佐藤正範著	最新 漢文法の要領	一・五	二
小野圭次郎著	最新 英語の熟語	一・〇	六	太田貴郎著	受學 基礎物理學詳解講義	二・〇	二
小野圭次郎著	受驗 特選英單語	一・五	二	大島久次郎著	最新 物理の精解	一・〇	六
小野圭次郎著	受驗 特選英熟語	一・五	二	滋賀多喜雄著	訂改 物理の解法	一・〇	六
幸野省三著	受驗 特選英文法入試問題答案	一・五	二	滋賀多喜雄著	推理的 化學の解法	一・〇	六
古田信夫著	代數 融合問題の研究	一・五	四	山海所編	短期 植物問題の答案	一・五	二
佐藤正範著	訂改 國文の解釋	一・五	六	山海所編	短期 動物問題の答案	一・五	四
				鈴木豐著	最新 動物學の講義	一・五	六

東京市神田區 山海堂出版部 振替東京二六一九番 電話九段一三〇番

伊藤	機械用語新辭典	三・五	二〇	伊藤	電氣術用語新辭典	三・五	二〇
坪井	和獨英 機械用語集	二・〇	〇	伊藤	和獨英 電氣用語集	二・〇	〇
太田	カナ 新機械用語辭典	二・〇	〇	水野	カナ 新電氣用語辭典	二・五	〇
伊藤	電氣術用語新辭典	三・五	二〇	水野	工業用語新辭典	三・五	〇
伊藤	電氣用語新辭典	三・五	二〇	原田	工業術用語新辭典	三・〇	〇
須藤	建築用語新辭典	二・五	〇	川上	動物學用語新辭典	二・五	〇
川上	動物學用語新辭典	二・五	〇	川上	植物學用語新辭典	二・五	〇
橋本	化學用語新辭典	三・五	〇	加藤	商業用語新辭典	二・〇	〇
須藤	建築用語新辭典	二・五	〇	菊地	法律經濟用語新辭典	三・五	〇
原田	工業術用語新辭典	三・〇	〇	粟本	兵語新辭典	三・五	八
水野	工業用語新辭典	三・五	〇		圖書目錄送呈す		

東京市神田區 太陽堂 振替東京三九一七番 電話九段四四九番

◇書考參良優の堂海山き高判評然斷◇

鈴木 豊著	川合重太郎著	川合重太郎著	桑原親通著	桑原親通著	桑原親通著	宮本幸惠著	隈部一雄著	野口尙一著	末松 榮著	福田武雄著	福田武雄著	小倉金之助著	新宮 隆著	恒次郎 宮譯註	小倉金之助著	出井 彌門譯
最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究
礦物學の講義	日本地理	外國地理	日本歴史	東洋歴史	西洋歴史	新用器畫法演習	内燃機關學	應用彈性學	鐵筋コンクリート理論	工業數學	工業數學	カシヨリ初等數學史	ベリー初等實用數學	新興物理學	物理學要論	飛行機の力學
一・〇〇六	一・〇〇六	一・〇〇六	一・〇〇八	一・〇〇六	一・〇〇八	二・五〇四	一・〇〇〇	四・五〇三	七・五〇三	三・八〇三	三・八〇三	四・〇〇三	二・五〇三	三・五〇四	二・五〇四	三・五〇四
問谷力共著	森本清著	小倉金之助著	柳原吉次著	小倉金之助著	武邊松衛著	三守 守譯	中川千之助著	佐藤良一郎著	石井省吾著	石井省吾著	新宮恒次郎著	小倉金之助著	久保 田著	武田祐吉著	武田祐吉著	武田祐吉著
最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究	最新研究
數學公式要覽	數學公式(附)要項及	初等幾何學講義	初等幾何學	ブルーレー初等代數學	ベテルセン幾何學	初等解析學(解析幾何及)	ポレル幾何學	ポレル代數學	ポレル代數學	ポレル代數學	ポレル代數學	ポレル代數學	ポレル代數學	ポレル代數學	ポレル代數學	ポレル代數學
一・〇〇六	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇	三・〇〇〇

東京市神田區 海山堂出版部 振替東京二六一九番 電話九段一三〇番

◇書考參良優の堂海山き高判評然斷◇

加藤武夫著	武原熊吉著	箕作新六著	四方敬一著	四方敬一著	有賀 輝著	尾形輝太郎著	西井 壽著	野田哲夫共譯	福田光治著	福田光治著	小倉 隆譯	恒次郎 宮譯註	新宮 隆著	出井 彌門譯	小倉金之助著
自然科學	有機化學	膠質化學	氣體分析化學	氣體製法化學	光 化 學	感 光 色 素	飛行機の力學	物理學要論	新興物理學	物理學要論	カシヨリ初等數學史	ベリー初等實用數學	新興物理學	物理學要論	飛行機の力學
一・八〇三	二・五〇四	二・五〇四	三・五〇四	三・五〇四	五・〇〇三	三・〇〇四	三・五〇四	二・五〇四	三・五〇四	三・五〇四	三・〇〇三	二・五〇三	三・五〇四	二・五〇四	三・五〇四
紀平正美著	入澤宗壽著	深作安文著	藤川忠治著	藤川忠治著	久松 壽一著	藤村 作共著	峯岸義秋著	和田萬吉著	中島悦次著	武田祐吉著	武田祐吉著	武田祐吉著	久保 田著	武田祐吉著	武田祐吉著
論理學及哲學の基礎概念	現代教育思想概説	思想問題研究	正岡 子規	硯友社の文學運動	明治文學序説	國文學の批評的研究	國文學の批評的研究	國文學の批評的研究	國文學の批評的研究	國文學の批評的研究	國文學の批評的研究	國文學の批評的研究	國文學の批評的研究	國文學の批評的研究	國文學の批評的研究
一・八〇三	一・五〇三	一・五〇八	三・〇〇三	二・五〇四	二・五〇四	一・五〇四	一・五〇四	一・五〇四	一・五〇四	一・五〇四	一・五〇四	一・五〇四	一・五〇四	一・五〇四	一・五〇四

東京市神田區 海山堂出版部 振替東京二六一九番 電話九段一三〇番

架へは小! ポケトへ!

岡倉由三郎先生編 特價二円八十錢
社究研 スクール英和辞新
 目が大切ならスクール英和! 明瞭な大活字と清新適切な用語と鮮麗な木版畫、更に二色刷給單語十八頁、懇切な學習附録二百頁等正に日本一!

市河三喜先生指導 特價二円二十錢
社究研 新英和小辭典
 薄く軽く一握のスマートな小英和! 而も日常語一切を略約して且つ同意語・反意語に迄及んで我が國最初の双解小英和を具現したものである。

岡倉由三郎先生編 特價二円七十錢
社究研 僕の英語辭典
 本辭典は二三年の爲に、現行リードの全単語を収めた明快な英和辭典! 譯語も譯語も文例も熟語も適切なもののみで、巻末に和英辭典を添ふ。

岡倉由三郎先生編 特價二円
社究研 スクール和英辞新
 本英和は、英和と同じく語彙を學生中心に置き、教科書、最近入試をも参考した文例を示した。巻末二百頁は英作文本位の學習附録とした。

研究社編輯部編 特價二円二十錢
社究研 新和英小辭典
 最小にして最新、「英和」と同じく小冊によく大和英に迫る語彙を収録し新語に於ては寧ろ坊間の大和英をも採録する清新な小和英である。

中島・藤田兩先生編 特價二円八十錢
社究研 英和商業經濟辭典
 斬新適切な商業英語の把握は本辭典へ! 著者多年の経験と深き學殖は礎つて此の一冊にあり、實用を旨とせる無二の商業辭典これである。

東京 麹町 區 一
 東富 見 一
社 究 研
 東京 啓 東 一〇六八
 電話 九四二〇・四三〇三

大は書

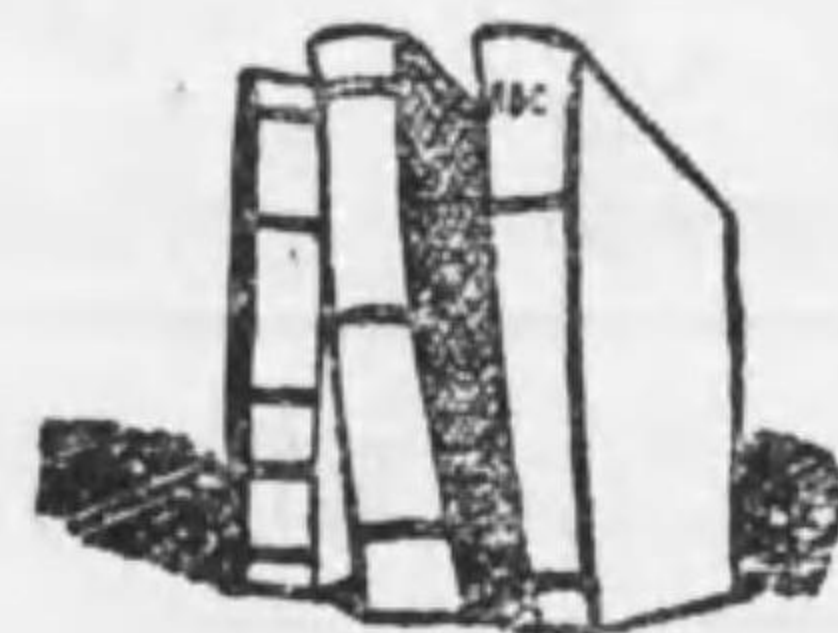
英語辭典は
研究社版!!

最新内容、而も定價至廉!!
 研究社英語辭典は、英語出版三十年の経験と、現代一流大家の最新編纂法に據るものであります。而も尙必要に應じては改訂或ひは増補をも常に怠らず、日に内容の清新を期し、現代に即する辭典たる配意を悉してゐます。且つ一方には犠牲的廉價を以て提供しつゝあり、洵に天下第一を誇る堂々たる辭書陣であります。切に一本の必備活用を御薦め致します。

全國學校指定の最高位!!

岡倉由三郎先生編 特價六圓五十錢
社究研 新英和大辭典
 最大、最新、名實共に英和の大御所! 岡倉英和一凡ゆる點に於て既經辭典を遙かに凌駕す。乞ふ速かに此の大書を御覧にして辨様活用あれ!

武信由太郎先生編(並製 特價五円五十錢) 特價七
社究研 新和英大辭典
 現代日本の代表和英は本辭典! 堂々五十萬の日本語を最大成し、特に譯語は外人日本語學者サシム先生協力に成る其本格的英和に終始す。



【店書國全捌賣】

文明社 特選優良圖書拔抄

東京市小石川区水道端二ノ一〇・振替東京一七〇一六・電話大塚五三五九

大學・文 檢參考書	佐高教授 大上茂喬	微分學演習	¥3.50	14
	同上	積分學演習	上下各¥1.80	各14
	同上	代數學演習	上下各¥1.20	各14
	大上茂喬著 松室隆光	解析幾何學演習	1.2.3.各¥1.80	各14
	弘高教授 若桑光雄	物理學演習	上下各¥3.90 ¥4.00	各14
	大上茂喬著 松室隆光	力學演習	上下各¥3.00 ¥2.30	各14
	西鐵之輔	無機化學演習	¥3.00	14
	同上	有機化學演習	¥2.50	14
	ロバート・ベル著 松室隆光譯	立體解析幾何學	¥3.50	14
	大上茂喬	數學閑話	¥2.00	14
中等參 參考書	越智治成	代數學狙ひ所	上下各¥1.30 ¥1.50	各10
	高橋啓藏	幾何學精解	¥1.50	08
	大中孝男	階段式英文和譯徹底的研究	¥1.70	12
	越智治成	代數學徹底的研究	¥1.50	10
	同	幾何學徹底的研究	¥1.50	10
教育參 參考書	若桑光雄著 掛谷近一	中等程度物理學演習	¥1.50	10
	西谷茂喬	歐米數學教授參觀記	¥1.50	10
	島本靜夫	數學教育概説	¥1.50	08
	稻次靜一	算術教育原論	¥4.00	22
	同	算術の本質と指導の根柢	¥1.50	08
	北澤種一	作業教育の本質	¥2.00	10
	野田兵一	産業組合の話	¥1.00	08
	リチャード・ローズ著 今村有徳	共同海損法論	¥3.80	14
	西谷茂喬	外遊記 見たまゝ聞いたまゝ	¥1.50	14

源氏物語講義

立教文理科大學
名譽教授 文學博士
宮内省歌所所長
鳥野幸次序

松井簡治序

德本正俊著

德本先生は巻頭の松井、鳥野兩先生の序文にある如く源氏物語の研究に如何か特色がなして、現今多種多様の講義書のあるにも拘はらず本書の刊行は其處に何か特色がなして、これならぬ。其特長は如何「補」なる項を設け重要語句の解釋及語源を究め、次に「評」なる項にて、先生多年の研究の批評鑑賞を下し亦懇切なる「現代語釋」「語釋」とにより何人にも理解出来る様萬全を期してゐる。

【第一卷】 菊判七五〇餘頁
内容 桐壺、帚木、夕顔
若紫、末摘花

【第二卷】 菊判七三〇餘頁
内容 紅葉賀、花宴、葵、賢木花散里、須磨明石
定價 各册 金參圓八拾錢
送料 貳拾四錢

丸山眞幸著 倭漢朗詠集新釋	宮下幸平著 太平記の講義	齊藤馨著 入試必修英語單語	相良左著 英文法講義	松川昇太郎著 英文法問題演習と講義
¥2.50 千 12	¥1.00 千 10	¥.50 千 4	¥2.50 千 18	¥1.80 千 12

東京市神保町一丁目 芳文堂 振替 東京五九五六番



優良参考書精選

目錄呈

東京神田區司町二
振替東京四七七〇七

司書院

市河三喜序 堀川三四郎著	新編英文解釋法	定送 1.50 .08
林鶴一序 林昌平著	代數學重要整理と問題 事項選集	定送 1.50 .08
天野一之丞著	代數の講義(上)	定送 1.30 .06
同	代數の講義(下)	定送 1.50 .08
同	平面幾何の講義(上)	定送 2.30 .10
岡田實廣共著 神戸戸榮著	自修英文法作文教本 初級用	定送 1.50 .10
同	自修英文法作文教本 上級用	定送 1.50 .08
山田巖著	英文法の講義	定送 2.00 .10
商業教育編 研究会編	學習英文商業通信新研究 要訣	定送 1.50 .08
同	學習最新商業簿記研究(上) 要訣	定送 1.80 .10
山田寛著	最新外國貿易實踐提要	定送 1.20 .06
パイロット社編 編輯部編	新模範英和單語集	定送 .40 .04
同	新模範和英單語集	定送 .40 .04
同	新模範英語熟語集	定送 .40 .04
スプリング ノート刊行會編	明快ノート(既刊十九冊)各冊	定送 .35 .04

◆學生參考書界唯一無二の寵兒!◆



◆ますます躍進のパイロット社詳解◆

類あつて比なき吾がパイ
ロット社と推賞せられて共
に日本一と推賞せられて共
居ります。

◆ ◆

商業英語	英文法	英文作文法	リーダス	英語
商業英語	地理歴史	商業簿記	漢文	國語

各種詳解約四百種出
きたして居ります。評判よ
御準備下さいませ。御願
い

〇一〇五一東京振替 社トツロイパ 區田神市京東
二一〇三三田神語電 四十ノ二町司

受験界に君臨する優良準備書

著者名	版数	書名	定價	送料
石野勝五郎先生著	増補改訂版 110版	受験 代數のあたま	1.60	10
石野勝五郎先生著	増補改訂版 100版	受験 幾何のあたま	1.50	10
奈良善雄先生著	増補改訂版 35版	受験 三角のあたま	1.20	10
奈良善雄先生著	18版	上級の代數 <small>問題の仕訳法 及び解法</small>	1.80	12
奈良善雄先生著	18版	上級の幾何 <small>問題の仕訳法 及び解法</small>	1.70	12
奈良善雄先生著	5版	五年の立體幾何	.80	6
島田鈞一先生著	18版	参考十八史略通解 <small>普及版</small>	1.30	10
島田鈞一先生著	40版	十八史略新釋	1.50	10
島田鈞一先生著	最新刊	論語全解 <small>普及版</small>	1.40	10
島田鈞一先生著	最新刊	全譯 孟子全解 <small>普及版</small>	1.80	10
島田鈞一先生著	35版	孟子新釋	1.50	10
島田鈞一先生著	25版	全譯 文章軌範新釋	1.40	10
淺尾芳之助先生著	27版	國文單語の整理	.35	4
淺尾芳之助先生著	15版	簡明 國文法の整理	.45	4
淺尾芳之助先生著	23版	受験 漢文單語の整理	.50	4
淺尾芳之助先生著	6版	國漢文單語の整理	1.00	10
淺尾芳之助先生著	忽再版	答案法 國文のあたま	.55	4
淺尾芳之助先生著	15版	受験 漢文のあたま	.45	4
丸山 茂先生著	忽3版	分り易い 國文法のあたま	.45	4
佐野保太郎先生著	最新刊	新訂 徒然草全解	1.20	10
佐野・服部共著	13版	花月雙紙新釋	1.00	10
村山 功先生著	忽17版	受験 英文解釋のあたま	1.50	12
村山 功先生著	忽5版	受験 和文英譯のあたま	1.20	10
江見節男先生著	最新刊	受験 化學のあたま	1.70	12

東京市神田區神保町一丁目 振替東京六七九四九番 有精堂出版部 [内容見本入] [圖書目錄進呈]

入試突破の捷徑は本書の購読にあり

増訂百版 石野勝五郎先生著 増訂百版

受験 代數のあたま

増補改訂版

受験生及び一般學習者の必讀すべき好著として参考書界に歴史的賣行きを示せる兩書は、受験界の趨勢に順應すべく、過般増訂斷行以來益々其眞價を發揮し賣行亦俄に激増せり。兩書は如何に類書に卓越し、且つ讀者諸君より歡迎されてゐるか先輩の戰跡を見るも合格者の使用數學參考書中燦然として一大頭角を現はし大好評を博し、而かして多數採用されてゐる事によつても明かなり。準備は今日より本書に據つて萬全を期せられん事を望む。

受験 幾何のあたま

奈良善雄先生著
本書はあらゆる基礎問題の上に入試問題の萃を集め、能率的學習法に立脚して仕譯し、一々解法の着眼點を指摘したのみならず、全問題の解答を別冊とし、解答を別冊とし、照らして便ならしめてある。爲めに本書は初めて三角法を學ぶ學生には絶好の練習書であると共に受験準備者にとりて無二の好伴侶である。

増訂第卅五版

四六判美本
紙數五六八頁
定價壹圓六拾錢
送料拾錢

四六判美本
紙數五一八頁
定價壹圓五拾錢
送料拾錢

● 錢八 送 錢拾貳圓壹價定 頁〇七三判六四 ●

(入本見容内) 呈進錄目書圖 部版出堂精有 目丁一町保神區田神京東 番九四九七六京東替振

文學士 井上義昌先生著作

英語類語辭典

忽五版

A DICTIONARY OF ENGLISH SYNONYMS

四六判總クロス装訂優美 定價金貳圓八拾錢
上等印刷紙 S30 頁 送料二十二錢

本辭典の七大特色

- 英語々義の的確なる把握!!
- 1 収録の語句約五千普通に用ひらるゝ類語・類句を網羅せること
 - 2 語句の選擇並びに解説はあくまで邦人本位にして、且つ實用を主眼とせること
 - 3 内外文献の總動員により諸學者の説を集成綜合して引證該博なること
 - 4 解説中の重要な語句には一々原語の註を加へて original works の解説を髣髴せしめること
 - 5 解説の懇切丁寧なること内外の類書にその比を見ぬこと
 - 6 例文は多く近代及び現代作家の living English より採用せること
 - 7 綿密なる索引を附し所要の語を直ちに檢索し得ること
要するに本辭典は普通辭典・參考書の足らざるを補ひ、英語の語義を的確に把握せしむる點で一般英語學習者の參考となるのみでなく、英語教壇に立つ人々の好伴侶として時間と努力とを節約し得るであらう

本邦唯一の英語類語辭典!!

東京市神田區西神田 株式會社 開拓社 振替東京三九五八七番
一丁目二番地 電話神田二〇〇一・二〇〇二

集語單語英準標

anxious (12)

- ② anxious ['æŋkʃəs] 【形】 心配な。
- anxiously ['æŋkʃəsli] 【副】 心配して。
- anxiety [æŋ'zaiəti] 【名】 心配。不。
- ① any ['eni] 【形】 何か。誰
- anybody ['eni'bɒdi] 【代】 【名】 誰でも
- anyone ['eniwʌn] 【代】 【名】 誰でも
- anything ['eniθiŋ] 【代】 何でも。い
- ③ anyhow ['enihaʊ] 【副】 【接】 兎も
- ③ anyway ['eniwei] 【副】 【接】 どの
- ③ anywhere ['eniwɛə] 【副】 何處でも。
- ④ apart [ə'pa:t] 【副】 離れて。い
- ④ apartment [ə'pɑ:tmənt] 【名】 部屋。割
- ④ apiece [ə'pi:əs] 【副】 一つにつ
- ④ apologize [ə'pɒlədʒaiz] 【自】 謝罪する。
- apology [ə'pɒlədʒi] 【名】 謝罪。申
- (apologetic) [ə,pələ'dʒetik] 【形】 辯解
- (apologetically) [ə,pələ'dʒetikəli] 【副】
- ④ appeal [ə'pi:l] 【他】 控訴する。訴へる。
- ④ appear [ə'piə] 【自】 現れる。
- disappear [disə'piə] 【自】 消える。い
- reappear [riə'piə] 【自】 再現する。
- appearance [ə'piərəns] 【名】 出現。風
- disappearance [disə'piərəns] 【名】 消

I am anxious about it. (それが心配です)。
to go abroad. (洋行したがつて居る) The new
anxiety. (その知らせで心配した) There is
(假合あつても少い) He is anything but hone
ても正直とはいへぬ) Apart from joking, wh
with it? (冗談は別としてそれをどうしようか)。
gize to you for not having written to you s
早く手紙を差上げないで済みません) You sh
apology for your rudeness. (無禮の詫を言ふ

果然入試用單語は本表に決定!!
既に横濱高商等は一昨年から本表の範圍内で入試問題用單語を決定されて
居たが(受験と學生五月號西村教授執筆参照)昭和十年度より各高校・外語
其他も單語範圍を本表(文部省內英語教授研究所發表)によることとなつた。
本書は右の單語表に長沼直見先生が譯を附すると共に必修熟語を配したもので、受験生必讀の
寶典である。 三六版 二六〇頁 總タロース 定價金八拾錢 送料六錢

番七八五九三京東座口替振 社拓開 區田神市京東
二〇〇二・一〇〇二田神話電 二ノ一田神西

◆卓越せる平野書房發行圖書◆

ワン・デ・ヴェルデ著 平野馨共譯 有山浩夫譯

完全なる夫婦 第二部

四六判・五百餘頁 定價二圓五十錢 送料十四錢

本書は、結婚生活を地上の樂園とするには、如何にした
らよいかの問題に就いて、微に入り細を盡して説明した
もので、結婚者必讀の名著として、世界各國から推賞さ
れ、原書は四十餘萬部も賣れて世界の讀書界を風靡し、
我國に於いても既に江湖に廣く知られ、際限なき賣行き
を示し、感嘆・稱讚の聲絶えず。乞ふ全男女の必讀を!!

マリー・ストロプス著 廣島一郎譯

避妊の研究

四六判・四百頁 定價一圓五十錢 送料十錢

本書は各時代、各國で使用せる避妊法に就き、詳細に説
明、批判せるもので、避妊の問題に關する唯一の權威書
であり、昭和四年發行以來、本書の要求は益々大にして
版を重ねること十數回、今日尙ほ類書を懸して好評噴々
たるものあり。結婚者の必讀を要望して止まざる名著

マリー・ストロプス著 廣島一郎譯

結婚讀本

四六判・二百頁 定價一圓 送料六錢

本書は著名なる「結婚愛」の完譯にして、その内容に就
いては説明する迄もなく、我國に於いても著名なもの。

臺灣總督府 法學士 井出季和太著

支那の奇習と異聞

四六判・三五〇頁 定價一圓五十錢 送料十錢

支那民族性及び支那人社會を研究する上の好個の資料に
して、著者が十數年に亘り、實地に調査し、又各種文獻
を研究して著したもので、讀物としても、極めて興味深
きものである。支那と關係深い日本人の必讀書。

東京市本郷區本郷五丁目廿五

平野書房

電話小石川八〇七四番
振替東京 五二二一八番
七六九〇六番

◆卓越せる平野書房發行圖書◆

高島平三郎先生名著

家庭に於ける子女の教育

四六判・二五〇頁 定價壹圓 送料八錢

第一部 竹の園生の御徳(全三章)、第二部 家庭に於け
る子女の教育(全七章)、第三部 子供に對する家庭の注
意(全四章)、第四部 母性愛に就いて(全四章)の四部十
八章に亘り、子女の教育問題を説き、子女を有する両親
は勿論、全教育家の必讀を要すべき良書である。

結婚婦人に與ふる書

四六判・三百餘頁 定價一圓八十錢 送料十錢

高島平三郎先生が、松平直亮伯の委囑を受け、嫁ぎ行か
る、令嬢の爲に、將來家婦として知得し、實行すべき條
項に就いて講義をなされ、更に徳川喜久子姫が高松宮宣
仁親王殿下と御婚約の成るに際し、恩命を拜して、喜久
子姫の爲に松平伯の委囑と同様の事を御進講なされたの
が、即ち本書で、此の御進講は嫁ぎ行く一般の婦人も、
必讀を要すべき結婚の準備書である。

文學博士 下田次郎先生序

木下謙次郎先生推奨

魚谷著料理讀本

四六判・三〇四頁 定價一圓二十錢 送料十錢

一般家庭の日常惣菜を主眼とし、ありふれた材料を用ひ
安價な費用で、家庭料理を美味しく作る様に、料理の基
本から説明し、且つ「コツ」をつかめる様に説明してあ
り、全國各女學校で惣菜の參考書に使用され、非常な好
評を博してゐる。一般主婦の必讀書として推奨する。

文學士 林 惠海先生著

社會有機體論の研究

菊版・一六〇頁 定價一圓二十錢 送料十錢

東京市本郷區本郷五丁目廿五

平野書房

電話小石川八〇七四番
振替東京 五二二一八番
七六九〇六番

空前の獨創！現代國語の鑑

小型辭典・大型辭典の壘を摩し
國語辭典・漢和辭典の領域を兼備す

總頁數壹千餘頁

收載語數八萬五千



東京文理科大学講師
東京高等師範學校教授
垣内松三先生編

三六判・全オフセット印刷
索引自由自在(音訓・漢字
總劃・ローマ字表音)
特價金壹圓七拾錢
十萬部
限り
内地送料十錢

一九五

東京市豊島区東橋本一丁目
電話神田四〇二七番
振替東京七三八七番
東神市一丁目
三學社
神田区
電話神田四〇二七番
振替東京七三八七番

學級教育講座

第一・第四 各全十二輯

★定價各一圓 送料十錢・全輯分各十一圓卅錢★

歴史教育講座

・内容見本贈呈・

全十四輯

★一輯定價一圓七十錢・郵税十四錢・全輯金廿二圓五十錢★

歴史教育 歴史學研究

月刊誌
定價五十錢
郵税一錢半
六冊金三圓
定額四十錢
郵税一圓
六冊二・四〇

明治以後の歴史學の發達	研究會編輯	中川一男著	定價金二圓八十錢 郵送料金二十二錢
歴史學及歴史教育の本質	大森金五郎著	木代修一編	定價金四圓三十錢 郵送料金十四錢
日本中世史論	後藤守一著	松田壽男著	定價金三圓八十錢 郵送料金二十二錢
日本文化史圖	野原四郎著	野原四郎著	定價金三圓八十錢 郵送料金二十二錢
東洋史序	野原四郎著	野原四郎著	定價金三圓八十錢 郵送料金二十二錢
支那封建社會	野原四郎著	野原四郎著	定價金三圓八十錢 郵送料金二十二錢
滿洲史研究	野原四郎著	野原四郎著	定價金三圓八十錢 郵送料金二十二錢
歴史學年報	歴史學研究會編輯	歴史學研究會編輯	定價金三圓八十錢 郵送料金二十二錢
掌中東西年表	岩井大慧編	岩井大慧編	定價金六十五錢 郵送料金十四錢

四海書房

東京市豊島区東橋本一丁目
振替東京七三八七番

一九四

書考參と書科教校學年青るあ評定

・編部輯編社版出海北・

綜合女子青年教本

普通科用 都市用 自一卷至二卷各卷〇錢
 普通科用 農村用 自一卷至二卷各卷〇錢
 普通科用 都市用 自一卷至二卷各卷〇錢
 普通科用 農村用 自一卷至二卷各卷〇錢

綜合青年教本

呈贈 實物見本 六度刷別丁地圖 金四十五錢

★五年制用 昭和十一年の卷
 ★四年制用

新青年學校教本

北海出版社編輯部編

本見容内・書意趣纂編
 呈呈贈一表當配材教

月刊誌 實踐青年學校

青年學校經營の指南車!

菊判一四四頁 金四拾錢

月刊誌 實踐青年學校講話資料大成

實踐青年學校編輯部編

菊判四六二頁クローズ特裝・二圓五十錢

北海道青年學校施設經營の實際

北海道廳編纂

菊判三五二頁布特裝・二圓八十錢

菅原龜五郎著 青年學校の新經營

菅原龜五郎著

菊判三五〇頁クローズ特裝・二圓八十錢

渡部政盛著 農村青年學校の教育

渡部政盛著

菊判三五〇頁クローズ特裝・二圓五十錢

渡部政盛著 青年學校の理想と經營

渡部政盛著

菊判三〇四頁クローズ特裝・二圓五十錢

東京市麹町區飯田町一丁目 北海出版社 東京市南區二條西二十四丁目

山中峯太郎著 敵中橫斷三百里 一三三	佐藤紅綠著 英雄行進曲 一〇〇	横山美智子著 紅薔薇白薔薇 二九〇
山中峯太郎著 亞細亞の曙 一三三	佐藤紅綠著 少年聯盟 二〇〇	北川千代著 春やいづこ 一〇〇
佐藤紅綠著 あゝ玉杯に花うけて 一三五	佐藤紅綠著 しき母 二〇〇	宇野浩二著 花の首輪 一三三
佐藤紅綠著 夾竹桃の花咲けば 一三三	南洋一郎著 吼える密林 一〇〇	宇野浩二著 母いづこ 一三三
佐藤紅綠著 紅顔美談 一三三	南洋一郎著 海洋冒險物語 一〇〇	宇野浩二著 父の國と母の國 一三三
佐藤紅綠著 少年讚歌 一三五	平田晋策著 新戰艦高千穂 一〇〇	村岡花子著 小太郎と小百合 一三三
佐藤紅綠著 一直線 一三三	山中峯太郎著 太陽の凱歌 一〇〇	村岡花子著 日本イソップ繪物語 一三三
佐藤紅綠著 朝の雲雀 一三五	山中峯太郎著 萬國の王城 一〇〇	田河水泡著 のらくろ上等兵 一〇〇
佐藤紅綠著 鳩の行方 一三五	山中峯太郎著 大東の鐵人 一〇〇	田河水泡著 のらくろ軍曹 一〇〇
佐藤紅綠著 親鳩子鳩 一三五	山中峯太郎著 見えない飛行機 一〇〇	田河水泡著 のらくろ曹長 一〇〇
平田晋策著 昭和遊撃隊 一〇〇	高垣 暁著 怪傑黒頭巾 一〇〇	田河水泡著 のらくろ黒兵衛 一〇〇
佐々木 邦著 苦心の學友 一〇〇	久米正雄著 青空に微笑む 一〇〇	田河水泡著 凸凹黒兵衛 一〇〇
佐々木 邦著 全權先生 一〇〇	森下雨村著 謎の暗號 一〇〇	田河水泡著 漫畫常設館 一〇〇
マクハチロー著 ユーモア艦隊 一〇〇	佐々木 邦著 村の少年團 一〇〇	田河水泡著 蝟の八ちゃん 一〇〇
吉川英治著 神州天馬俠 一〇〇	佐々木 邦著 トム君・サム君 一〇〇	牧野大誓著 無敵三銃士 一〇〇
横山美智子著 嵐の小夜曲 一〇〇	佐々木 邦著 少女百面相 一〇〇	牧野大誓著 長靴の三銃士 一〇〇
加藤武雄著 海に立つ虹 一〇〇	マクハチロー著 おさらひ横町 一〇〇	馬田啓三著 冒險ダン吉 一〇〇
吉屋信子著 三つの花 一〇〇	土師清二著 萬歳栗毛 一〇〇	馬田啓三著 冒險ダン吉大遠征 一〇〇
吉屋信子著 あの道この道 一〇〇	加藤武雄著 君よ知るや南の國 一〇〇	阪本牙城著 タンク・タンクロー 一〇〇
北川千代著 絹絲の草履 一〇〇	千葉省三著 陸奥の嵐 一〇〇	宮尾しげを著 〇〇サン・助サン 一〇〇

尾島庄太郎著 [五百部限定版]

英詩文叢放

文學士 白鳥 清編

東洋史概説

早大教授 中桐確太郎著

全訂論理學綱

▲菊判總四〇〇頁 ▲定價參圓五拾錢 ▲最上クロロス装 ▲送料拾四錢

創想的想像力の活動するところ、文學は發秀清冽なる光輝をばなつ。早大文科に詩學を講ずる著者は、想像的直観から生れることだけを、意識よりも高尙にして清峻なる創造的意識から生れることを、英吉利、古今の詩歌を主として、清新なる見地より開明する。ウヰン、クラシコ、オシアン、ゴオルリツヂ、ロオゼツ、テイ兄妹、モリス、ジェフ、グリーンズ等を論じ、新しくはT.S.エリオット、シトウエル、姉弟、グレイヴス、スヘンダ、ルイス、オウデイン等に及ぶ。著者独自の清秀高邁なる洞察、俊拔而も瑰麗美なる筆觸、英文學壇屈指の名文に成れる英詩文研究として切に一讀をすゝめたる。

▲菊判上製二百八十七頁 ▲送料十四錢

▲定價金二圓五十錢

本書は斯界の權威白鳥庫吉博士の篋底に蔵する稿本を獲てこれに取捨を加へ東洋の複雑なる民族關係及文化の交流を説き滿洲國の建國まで挿圖及地圖を以て要約綜合概説せるが本書である。斯學研究者及文檢者の必讀の書敢て一本を薦める所以である。

▲菊判上製三百八十頁 ▲送料十六錢

▲定價金二圓八十錢

本書は斯學の權威者たる、早大教授中桐確太郎先生が、早大學園に於ける講述を基礎として、特に教科書用として公にしたるものを、今回更に改訂を加へ文體を一變して口語體とせられその主旨とする所は初學者をして容易に理解せしむる點にある。今同本書の出現により論理學の難解なものでなく寧ろ興味ある學たることをうなづかしむるに至つたのである。文檢受験者必讀の書である。

觀堂の新刊圖書

文學士 重原慶信著

增訂國史概論

東京商大教授 文檢委員 村林專之助著

實珠算講義

學習院教授 岩田九郎編

標準假名遣便覽

▲菊判布製函入 ▲本文二百八十五頁 ▲定價金二圓

▲送料金十四錢

一國の將來を卜するに其國の過去即ち歴史より立論すべきであるが、我が國史より見て、日本の將來に於ける隆盛發展は必然の事と云はねばならぬ。領土、國民、主權、文化等は、國の將來を卜すべき重要な要素と云はれるが、我が國の歴史に於て、此等の點を考へるに、何れも優美にして生氣あり、此の國史を文化史的に平易に書かれたのが本書である。

▲菊判四百七十餘頁 ▲送料二十二錢

▲定價二圓九十錢

本書は著者が論述研究の結果工夫自得せられたる所を述べられた得がたき名著である。専ら珠算全般に通曉し敏捷の計算、練達の秘腕を養成せん爲め實用に適切なるを選擇せられた。附録として加減乗除練習問題百六十餘頁附。

▲定價金十五錢 ▲送料金貳錢

日本語を用ふる人は必ず一冊文だけは必要だ！家庭でも事務所でも、無造作に使ひ古した言葉や筆を持つてすゝ當惑するのはカナツカイであらう。厚い何百頁の辭書や文法書を引張り出さず、手軽にポケットから出して極めて簡明に「送り假名」「字音假名遣」「國語假名遣」等がわかる

東京市橋區戸塚大觀堂書店 電話一七三二五 振替東京一七三二五 電話六六六三番

大獨日辭典

登張信一郎著
四六判函入美裝一七八〇頁
特價四圓八拾錢
內容進呈 送料・三三
見本

這般本書の第一版(大形)を出すや果然! 稀有の名著として絶讚激賞を浴び、爾來屢々版を重ねて江湖の御愛需に添々来りましたが全國の學生、研究者よりの普及版を出せの熱望に應へ、茲に形容を改め、而も大形の半價に足らぬ驚異的廉價を以て普及版の發賣を斷行致して居ります。

★現代日本辭典界の双璧!! 東京日本橋區茅場町 大倉書店 振替東京二三八番

國語辭書の數は多い、然し何れも單なる國語の假名順排列に過ぎないため實用には甚だ遠い。何故なら、我國の文章は假名と漢字を混用し而も重要な語は殆んど漢字を以て記すから。この特殊な讀書國が有する唯一最良の辭書が即ち「新式辭典」である。敢て本書を推薦する所以。

修改新式辭典

芳賀矢一著
藤村作改修
四六判函入美裝一九三四頁
特價貳圓八拾錢
(內容見本進呈) 送料・三三

★書學工良優と書の準標界學語★

大英和辭典 全二冊 藤岡博士 八、五〇士	新獨和大辭典 普及版 登張信一郎 三、八〇	訂增新佛和辭典 野村泰亨 二、八〇	新和佛辭典 松井・上田 二、八〇	新露和大辭典 普及版 八杉他二名 四、八〇	原草書大字 圓道・新之 三、九〇	速解新式辭典 芳賀・藤村 二、八〇	修改新撰俳諧辭典 岩本・宮澤 四、八〇	訂增日本大辭典 修改 並製 六、六〇	訂增佛敎大辭典 大版 一、七〇	新英語言音聲學 神保 二、三〇	日滿露會話 横田・佐藤 一、七〇
健康住宅設計圖案集 大毎新聞社 價二、八〇	改訂日本住宅百圖 遠藤於菟 價四、七〇	西洋住宅百圖 遠藤於菟 價五、〇〇	和洋住宅設備圖集 遠藤於菟 價二、三〇	日本建築詳細圖 一・二 遠藤・井出 價各一、八〇	和洋建築常識 佐藤・彰美 價一、八〇	近代欄間百種 渡邊安次郎 價一、七〇	規矩術 附社寺建築の概要 山本 價三、二〇	土木工學便覽 全二冊 長崎 價八、〇〇	最新工事請負便覽 畑中 價四、五〇	各工事の見積と其價格 畑中 價三、五〇	塗料及塗裝法 清水 價三、五〇

東京日本橋區茅場町 大倉書店 振替東京二三八番

初學者必備の二小辭典

八萬餘語
八萬餘語
八萬餘語
八萬餘語

袖珍
八羊珍
八羊珍
八羊珍

袖珍
八羊珍
八羊珍
八羊珍

ポケット支那語辭典

陸大宮島吉敏氏
高拓矢野藤助氏
教授編



漢和辭典を引ける程の人なら誰でも容易に引ける



ドイツ語學修最初の辭典!! ABCから始める人も容易に引ける

標音獨和新辭典

監修成瀬博士
杉山・和田・板倉
三文學士共編

袖珍
六羊珍
六羊珍
六羊珍

總目録
呈送

振替東京四三九一
四四三九一

尙文堂

東京市神田區
神保町二丁目

歐文社の受験参考書について

参考書は受験生の最も鋭き武器であります。故に通信教授界にて絶對的權威と信頼とを得て居り、斯界の最高權威者を網羅する吾が社は、比類なき卓越せる内容と、美麗鮮明なる印刷と、堅牢優美なる製本との、三要素を具備する代表的な参考書を出版致します。眞價を御認めの上、何卒御援助を御願申します。圖書目録、通信添削會規定、受験界ニユースを呈呈します。

歐文社々主 赤尾好夫編 第四十九版	入試突破の對策を語る	¥ 0.80 〒0.08
陸軍士官學校數學部 林 茂増先生・松室隆光先生共編	第廿八版 秀才の幾何學	¥ 1.80 〒0.14
東京高等商船學校語學部長 須藤兼吉先生著	第廿二版 英文解釋の徹底的研究	¥ 1.60 〒0.10
東京高等商船學校語學部長 須藤兼吉先生著	第十六版 和文英譯の徹底的研究	¥ 1.60 〒0.10
原 仙作先生著	第十五版 英文標準問題精講付 出典解説	¥ 1.00 〒0.06
陸軍士官學校教授 江原 廣先生共著 慈惠會醫科大學教授 緒方信助	第九版 物理學の徹底的研究	¥ 2.00 〒0.14
第五高等學校教授 高津巖先生著	幾何融合問題綜合準備	¥ 0.80 〒0.10
歐文社國漢科主任 保坂弘司著	第十六版 國文解釋の綜合的研究	¥ 1.50 〒0.14
信 定 建一著	最新刊 國文單語の綜合整理	¥ 1.00 〒0.10
文學士 手塚一夫著	最新刊 完璧日本歴史	¥ 1.50 〒0.14
研數學館講師 渡部金次郎著	最新刊 化學の綜合準備	¥ 1.00 〒0.12
歐文社々主 赤尾好夫編	第四十二版 英語單語の綜合的研究	¥ 1.50 〒0.14

本書には入試に必要なあらゆる單語二萬以上が含まれてゐるが、之等が僅に三千餘りの基本語の下に、一目瞭然と統一されてゐる故に、一ヶ月の日子があれば充分に覚えらるるのである。

東京澁橋區下落 歐文社 振替東京二四一〇〇
合四ノ一九八六 電落合長崎二六〇六

★ 各名家御推賞の良書 ★

感激實話全集

四六判三五〇頁 全十卷 各冊價壹圓

各國語に翻譯して
全人類に讀ませよ

下田次郎博士は本全集に對して右のやうに極言された。それ程本全集は有益であり且つ日本精神を横溢して居り、それ程にも全人類を感激せしめ發奮せしめる感化力を以て居る。何故か？言ふまでもなく本全集は小説や昔話ではなく全てが生きた實話であり生きた教訓だからだ。然も讀みやすく面白からだ。日に増し賣行の増大して行くのもまた當然であらう。

東京市神田區神保町三ノ二

金星堂

電話九段四〇六八番
振替東京三三二八番

<p>最新 祝詞作例文範 正篇 補遺</p>	<p>新撰 諸祭神名總覽 一冊</p>	<p>折焚く柴の記新註 完本</p>	<p>神社寺院法規手續總覽</p>	<p>明治史總覽 全五冊</p>	<p>日本書紀新講 全二冊</p>
<p>監修 河野省三博士 著者 山本信哉博士 武田政一先生</p>	<p>序文 島野幸次先生 校閱 河野省三博士 著者 佐藤三郎先生</p>	<p>著者 新井白石先生 註釋 笠原節二先生</p>	<p>著者 岩崎徂堂先生 中山筑南先生</p>	<p>顧問 笹川臨風先生 著者 藤井甚太郎先生 蘇武綠郎先生</p>	<p>校本 飯田武郷翁 著者 飯田季治先生</p>
<p>祝詞參考書中の王座 好評第八版作例總數 一千三百有餘祝詞正 引收載附錄營業假名 引枕詞萬葉假名</p>	<p>好評第三版祭神研究 書中の白眉、神國日 本人として必讀を要 すべき絶好の大著</p>	<p>青少年必讀の修養書 師範學校中學校課外 讀本として正に好適 親切無比の頭註あり</p>	<p>簡便明瞭此種參考書 として正に手頃。神 社寺院教會の必備書</p>	<p>明治史の事ならどん な事でもすぐ分る。 明治史辭典を兼ねた る絶好の大著。</p>	<p>本書出でて書紀好參 考書無し其の歎聲跡を 絶つ。的確無比前人 未踏の境地をひらく</p>
<p>菊判美本上中下補遺四冊 特價各冊三圓五十錢 送料 内地 二十二錢 植民地 六十二錢</p>	<p>菊判一冊六百五十餘頁 特價一冊四圓〇二錢 送料 内地 二十二錢 植民地 六十二錢</p>	<p>菊判一冊三百有餘頁 特價一冊一圓五十錢 送料 一冊 十四錢 十部以上割引アリ</p>	<p>四六版一冊三百有餘頁 定價一冊一圓五十錢 送料 内地 十四錢 植民地 四十九錢</p>	<p>菊判各冊一千頁全五冊 定價一冊五圓五十錢 送料 内地 三十錢 植民地 七十五錢</p>	<p>菊判一冊七百頁上下二冊 定價一冊五圓 送料 内地 二十二錢 植民地 六十二錢</p>
<p>東京・龍野川區 文明社 電話 小石川三九四番 (內容見本進呈)</p>					

陸軍大將 男爵 荒木貞夫閣下題字
文學博士 宮地直一先生序文

鈴木武一謹著

四六判・二六〇頁
祝詞、神道圖表添附

版 四

氏神と氏子

上製大和綴
金一圓二十錢
普及版特價
金八錢
送料各八錢

近時大小幾多の新興宗教續出擡頭に鑑み、求道の近道は己が靈の親たる氏神(産土神)の加護啓導を受くるにあることを知らしめ、以て如何なる教理、教説を奉ずるとも、親たる氏神は斷じて無視すべからざる所以を、古傳に基く顯幽不二の見地から強調せる一大熱書。道を求めて窮極の安心が得られぬ人、各宗教を漁つて行詰れる人、迷へる人々は須く己れの靈の古巢たる氏神社に歸り其處から湧出し來る本然の熱と力と勇氣とを以つて出直されよ。

復刻 公爵 一條實孝閣下題字
六人部宿彌是香著

産須那社古傳抄

四六倍版大和綴
價送料共一圓〇六錢

近刊

神道老大家 村山惣作謹述

日本精神の産土神信仰から

菊判大和綴
價送料共一圓〇八錢

發行所

東京市牛込區山吹町四ノ二七七
振替東京八三七〇三番

五色屋書房

★目書行刊學語版スムイタ★

編輯部編纂	倉長眞著	英語基礎單語四〇〇〇	小島嶽著	英文の公式	一・七〇
倉長眞著	受驗英語新單語	一・〇〇	鶴見祐輔著	英文現代日本論	一・五〇
倉長眞著	英語基礎熟語八〇〇	一・〇〇	鹿子木夫人著	獨逸語基礎單語四〇〇〇	一・三〇
倉長眞著	新英文解釋基礎一五〇項	一・〇〇	宮下義信著	新聞獨逸語の読み方	一・五〇
倉長眞著	新和文英譯基礎八〇項	一・〇〇	上西半三郎著	獨逸語文法整理ノート	一・八〇
倉長眞著	英語入試問題種本調べ	一・〇〇	大島桂吾著	佛蘭西語基礎單語四〇〇〇	一・〇〇
遠藤武男著	和文英譯基礎單語句四〇〇	一・〇〇	鷺尾猛著	佛蘭西語基礎熟語二〇〇〇	一・〇〇
松村寛著	英語會話練習帳	一・八〇	鷺尾佛蘭西語自習書	基本新佛蘭西語文法	一・二〇
松村寛著	新聞英語の読み方	一・五〇	大村雄治著	露西亞語基礎單語四〇〇〇	一・〇〇
松村寛著	英語對照現代米語小辭典	一・〇〇	松田衛著	露西亞語動詞圖解辭典	一・〇〇
下總昌著	英語書取の聴き方書き方	一・〇〇	金田常三郎編譯	露西亞語慣用句二〇〇〇	一・五〇
白井同風著	英語のバンクチュエーション	一・五〇	ウ・ゴロフ著	露西亞語略語新語辭典	一・八〇
城谷一著	分解式和文英譯	一・五〇	編輯部編纂	支那新聞の読み方	一・八〇
佐伯有三著	分解式英文和譯	一・五〇	入江啓四郎著		

スムイタ出版社

東京市麹區 有樂町二丁目

東京市麹區 有樂町二丁目

日本工學全書

既刊書目

豫約せず、豫告せず、全日本工業界の權威97氏を顧問とし、一流學者、技術家總動員で、豫定書目350種に渉る大計畫。先づ下記19冊を發賣(5月現在)、引續き毎月3—5冊宛發賣の豫定

北大教授 太秦康光博士	分析化學	A 5判洋裝 3圓80錢 440頁函入(送20錢)
長岡高工助教授 内田宗義氏	無機容量分析の基礎	A 5判洋裝 2圓20錢 252頁函入(送14錢)
明治專門教授 岡山義雄博士	化學平衡論 (瓦斯反應編)	A 5判洋裝 3圓50錢 400頁函入(送20錢)
内務技師 本間仁學士	水理學	A 5判洋裝 3圓 346頁函入(送14錢)
南嶺工專教授 淺野好學士	運河	A 5判洋裝 2圓80錢 314頁函入(送14錢)
建築士 平岡正夫學士	工場建築	A 5判洋裝 3圓 330頁函入(送14錢)
阪神軍部 城谷正氏	限界ゲージ方式機械設計製圖	A 5判洋裝 3圓80錢 472頁函入(送22錢)
九大助教授 森周六博士	農業用原動機 附、農業用牽引機	A 5判洋裝 2圓60錢 298頁函入(送14錢)
長岡高工教授 幸林良作氏	減摩劑及減摩法	A 5判洋裝 2圓40錢 266頁函入(送14錢)
東大教授 望月重雄博士	高壓工學	A 5判洋裝 2圓 210頁函入(送14錢)
東嶺工大教授 長谷川熊彦博士	砂鐵	A 5判洋裝 3圓20錢 320頁函入(送14錢)
東北大教授 渡邊萬次郎博士	銀	A 5判洋裝 3圓60錢 454頁函入(送20錢)
工業試驗所技師 杉本俊三博士	合成樹脂	A 5判洋裝 3圓50錢 480頁函入(送22錢)
旭硝子會社技師 上田清學士 太田廣太郎學士	硝子	A 5判洋裝 4圓80錢 611頁函入(送22錢)
鐵道試驗所 深井冬史博士	醬油釀造法	A 5判洋裝 3圓 340頁函入(送14錢)
上田高工助教授 金子英雄博士	製絲化學	A 5判洋裝 2圓 226頁函入(送14錢)
同 博士	絹絲化學	A 5判洋裝 2圓20錢 246頁函入(送14錢)
絹糸試驗所 小岩隆道氏	最新絹絲紡績學 (上)	A 5判洋裝 4圓50錢 557頁函入(送22錢)
同 氏	同 (下)	A 5判洋裝 6圓60錢 740頁函入(送22錢)

圖書目錄
東京市神田區昌平橋際振替東京六七二
工業圖書株式會社

七一九

流量表

日常多く使用せらるる、管種管徑のものに就て、流速流量並に損失水頭を計算表示せるもの、著者の公式は、鑄鐵管と流量につき一定關係式を理論的に誘導し、之を實驗により實證して、各種年齡、材質の管又は水路によく適用し得る。

工學博士 池田篤三郎著 印刷中 四月下旬發賣

工學博士 龜山直人著 菊判七〇五頁 價六圓五十錢 送二錢

工學博士 厚木勝基著 菊判五八〇頁 價五圓五十錢 送二錢

工學博士 幡野俊一 共著 菊判三九〇頁 價四圓

工學博士 幡野俊一 共著 菊判三九〇頁 價四圓

工學博士 幡野俊一 共著 菊判三九〇頁 價四圓

工學博士 幡野俊一 共著 菊判三九〇頁 價四圓

工學博士 幡野俊一 共著 菊判三九〇頁 價四圓

電氣化學に就て其全部を盡した權威書。電氣化學の理論を基礎から説き應用に際しても、それに導く原理を主眼として理解を易からしめてゐるが、この改版は最近の斯學の發達を悉く取入れ面目を一新してゐる。

斯界の權威的著書の全的改稿版、人造絹絲の最近の製造法及性質を詳細明確に記述し、その製造原理、性質の依つて來る所を明説し、隨所に獨創に富む新研究を點綴してゐる。また將來の動向及人造紡績纖維にも論及してゐる。

高壓及高温應用の各種工業は世界的に躍進して化學工業の全貌を變化せしめてゐるが、本書はこの新興工業の基礎たる高壓化學の技術に就て説述せる嚆矢のもの。能ふ限りの材料と現在達し得る最高水準を極めた餘蘊なき成果である。

邦文書には勿論、外國書にも比すべき類書を見ざるもの、斯界の權威及新銳諸名が各々得意とする所を分擔執筆して非金屬材料の全部を網羅してゐる。

複雜多岐に亘る一般工業各方面の材料につき、その性質、品質、試驗法等の知識を要説し、その邦文書には勿論、外國書にも比すべき類書を見ざるもの、斯界の權威及新銳諸名が各々得意とする所を分擔執筆して非金屬材料の全部を網羅してゐる。

邦文書には勿論、外國書にも比すべき類書を見ざるもの、斯界の權威及新銳諸名が各々得意とする所を分擔執筆して非金屬材料の全部を網羅してゐる。

邦文書には勿論、外國書にも比すべき類書を見ざるもの、斯界の權威及新銳諸名が各々得意とする所を分擔執筆して非金屬材料の全部を網羅してゐる。

邦文書には勿論、外國書にも比すべき類書を見ざるもの、斯界の權威及新銳諸名が各々得意とする所を分擔執筆して非金屬材料の全部を網羅してゐる。

通橋本日京東(所行發)
社會式株善丸
京 札 仙 福 横 名 京 神 大
城 幌 臺 岡 濱 古 都 戸 阪
(香五第京東替振)
ルビ丸・田稻早・田三・田神=京東

二一八

著生先一秀木々佐 授事主學小屬附 京東

教育讀本

清新にして具體的な敘述
現代教育の欠陥を指摘し教育向上の契機を説く

★師範の卒業生諸君は、まづ本書によつて教育方法を計畫せよ！
★殊に低學年受持の諸君は本書によつて何處にその欠陥があるかを知れ！
★若き教師諸君は本書の平易なる敘述によつて新精神を得るであらう。
★母が教師にその讀むべき教育書を問ふたならばまづ第一に本書を奨めよ！

内容一斑

- ◇母と教師に送る言葉
教育愛を説き、母と教師の教育的修養を説く。
- ◇精神發展の契機
人生と教育と、精神發展の契機と、其必要を説く。
- ◇精神發展の道
教育の方法を説き、直接經驗と間接經驗の具體的方案を細大洩らさず説く。
- ◇健康は第一のだから
肺病を免ぐる如く、いかに健康の大切であるかを説き、自ら方法を暗示す。
- ◇花はくれなゐ柳はみどり
個性の種々相を説き盡して個性教育の方法と精神とを知らしめる。
- ◇教育のゆりかご
家庭教育の欠陥を指摘しその必要と父母との教育精神を明かにす。
- ◇花園を荒すもの
社會教育の欠陥を目的のあたりに説き教育の眞理想を宣言する。
- ◇聖地を齋すもの
宗教と道德の教育を説いて本然の姿を明かにする。
- ◇美的情操を培ふもの
音楽と圖畫の教育を説きその方法的と藝術教育の價値とを宣揚する。
- ◇眞理を追求する
算術と理科の教育を説きその欠陥を明かにし新方法を暗示する。
- ◇日本独自のもの
日本独自の教科國語國史を説き、その他日本教育の方向を指標する。
- ◇歐米教育を語る
ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ、その他の歐米教育を語つて日本教育の方向を暗示する。

頁〇〇三列六四
錢十二圓一價定

七一一三七京東 院書江刀 通橋聖・田神・京東
九八一三・一七二三話電

15,000,000 全日本児童の

児童

「児童」といふ月刊雑誌は、子供の切實な問題に就いて明瞭な情眼で居られる眞面目な教育者との良心的な兩顧のために、發刊された雑誌です。子供について何の心配も懸念もない存心な「いや、實は無責任な御両親や教育者には用ない雑誌ですが、一度でも子供の事を考へて下さつた方には、乾度御力になり得る雑誌です。」

子供をめぐるこの峻悪な世相

これでも尚子供の心を小さな私事として放つておいてもいいか！

子供の眞引顯な現はれる！ 實の子を殺した母親が現はれる！ 不相變、親子心中は勝を絶たない！ おそらく今日ほど子供をめぐる世相が峻悪をきはた大事は曾てなかつたらう。問題の子供を、それにまつはる子供の問題は、今こそ眞々學校に、家庭に、社會に、國家にその解決を強要してゐる。

教科書の
一頁を教
へる前に
本誌を

兩親にも教育者に
も一番親しみ易い
子供研究綜合雑誌

月刊、百六十頁
價一月 四十錢
半年 二圓三十錢
一年 四圓五十錢

東京高師教授附屬小學主事 佐々木秀一先生著

教育讀本

この清新にして具體的な敘述を見よ！
現代實際教育の欠陥を指摘し教育向上の契機を説く！

- ★師範の卒業生諸君は、まづ本書によつて教育方法を計畫せよ！
- ★殊に低學年受持の諸君は、本書によつて何處にその欠陥があるかを知れ！
- ★若き教師諸君は、本書の平易なる敘述によつてのみ教育の新精神を感得するであらう。
- ★母が教師に、その讀むべき教育書を問ふたならば先づ第一に本書を奨めよ！

八一一三七京東 院書江刀 田神・京東
九八一三・一七二三話電

編社縫裁及事家

の校學女等高
學年青料資良
書考參好の校

文部省裁縫新教授書準據 高等裁縫科指導細案 小學裁縫科指導細案

◇高等小學の裁縫教授は、尋常小學に接続するもので、同時に高等女學校・青年學校の下學年と相通するものである。此等裁縫指導者の要求は、獨り本書によつて完全に充たされる。尙專門學校上級生の研究授業の好資料である。
◇本書の目指すところは活用案であると共に實際的研究案である。本書は曩に發刊せし尋常小學校裁縫科指導細案の姉妹篇として諸姉の教壇上に送る所以である。
(定價一圓八十錢 送料十二錢)

矢區込牛市京東
地番二十二町來
社縫裁及事家
番二八三二七京東替振

★尋常小學裁縫科指導細案 定價十一圓 送料十錢

★立脚せる 家事裁縫の實際化 定價一圓八十錢 送料十二錢

★裁縫の創作的學習 定價一圓八十錢 送料十二錢

★婦人子供服專門講座 六全 定價六圓 送料六錢

★歐米に於ける技藝教育の趨勢 定價八十錢 送料十錢

★特作法教育の研究 定價四圓 送料四錢

★檢文 家事及裁縫試驗問題集 定價一圓六十錢 送料六錢

★東京市小學校 家事學習帖 定價三十錢 送料六錢

渡邊龍策先生著

(四六判美裝) 定價一圓・稅十錢

【評好大】

少年滿洲帝國全史

波瀾萬丈數奇を極めた大滿洲國の
血沸き肉躍る興亡秘史!

序文より「滿洲國が獨立した事をば、中華民國の人々は決して聞くにはあません。私は何とてかして中華民國及び滿洲國の人々の氣持を日本の若き人々にお傳へたいと思つてゐたのです。日本に歸り昨年この熱情やみ難くして「少年少女滿洲國の話」を公にしましたそれは實に思ひがけない反響を得ました。そうしてゐる内に帝政が布かれまして。この際新滿洲帝國の歴史を一通り若き諸君にお傳へすることは決して無意義でないと思つて、書中に現はる人物流れゆく時代精神より何物かをつかんで下されば幸であります。國の興亡は全て民族の根強い精神によります。(略)

◇學校に文庫に圖書館に!
◇童心の糧として大好評!

目次大要	一 滿洲帝國皇帝陛下	二 滿洲に起つた國々
三日清戰爭	四 露戰爭	五 戦後の滿洲に光る列強の眼
六 日本滿蒙開發	七 張作霖	八 滿洲の排日
九 日九滿洲事變の勃發	十 昂々溪の大戦闘	十一 錦州入城
十二 ハルビン入城	十三 上海事變	十四 新滿洲國の建設
十五 五建國第一年の滿洲	十六 熱河討伐	十七 最近の滿洲國
少年 滿洲國の話	渡邊龍策著	定價一圓・稅十錢
少年 神秘・驚異・怪奇の自然譚	吉田弘一著	定價一圓・稅十錢
少年 面白い動物の話	大西陸治著	定價一圓・稅十錢
少年 科學文明の驚異	荒川文吾著	定價一圓・稅十錢
少年 日本武勇物語	櫻井勝三著	定價一圓・稅十錢
飛行少年の知識	野口一等飛行士著	定價一圓・稅十錢

振替東京東七五七番
電話神田二五一五番
南光社
東京市神田區
神保町一ノ三〇

獨逸語に歴倒的的頼を確保せよ
片山獨和第一改訂版

徹底的な双解は原辭典の權威を備へしめ譯語の源泉となり
試金石となつて其の正確を保證し文法的關係を明かにす。

片山正雄

雙
獨和八辭典

裝革 九圓
裝布 八圓

雙
獨和小辭典

裝革 四圓半
裝布 四圓

獨和辭典

裝革 二圓
裝布 一圓半

大辭典追加別冊

廿圓

獨逸語の簡易化

標準獨和辭典

内容見本贈呈
橋本忠雄監修

正價金參圓半
紙版二段組八二〇頁
横十一cm 縦十九cm

ラヂオ講座の開設は到る處に獨逸語研究者の簇出を見ると共に、其師友として缺くべからざる辭書の簡易化を要望する叫びを聞くに到つたのは又當然の勢ひである。監修者橋本忠雄氏は申すまでもなく斯壇の一權威ラヂオ獨逸語講座に於ける一重鎮である。その全藪蓄を本辭典の爲に傾注せられ責任を以て懇篤に監修されたので、本書の内容は絶対的に保證し得るものである。

東京市本郷區春木町 株式會社 江南堂 振替 東京一四九 都都市寺町御池 振替 一五一〇五

北海道廳水産試驗場長 倉上政幹先生序
合同漁業會社常務 横山將來先生序
北海道廳水産課技師 谷 巖先生校閱
坂本福太郎著

建網の手びき
別冊漁網圖譜

四六判本文六百五十頁
別冊圖譜百三十頁
二冊箱入 定價四圓五十錢
送料二十二錢
棹太朝鮮四十七錢

本書は著者坂本氏が二十年來の實地經驗に基き漁網中最主要なる建網の數十種について其の構成・設計・建て方及其漁撈法に至る迄詳説せるもの更に別冊の漁網圖譜は鮮明精密なる圖版に依りて圖解せるものにして本文と對照せば漁網に關する一切のことは手に取るように理解し得べく文章平易にして説明の懇切なる恐らく本書の外絶對に見るを得ざるもの敢て薦む。

大取次店

外全國各地書店
大阪市東區北久太郎町 大日本橋三丁目
東京市神田區小川町 東京市麹町區九段下
東京市丸之內區三菱六號館 東京市赤坂區溜池町

柳原書店 丸善株式會社 東文堂 海京堂 東水産會社 日本水産會社

本書は漁網の全般に互り圖面を以て説明せるもの既に定評あり爾來改訂増補して倍々需用多し。漁網のことならば何んでも分る理屈を抜きにしたる實際的の書なり。

送料 四六判箱入 定價二圓八十錢

改訂漁網集覽

小樽水産學校元教諭

伊吹群作先生著

發行所 東京市本郷區打越町三丁目 左文書店 振替 東京一八三 小樽市小樽一八三 振替 東京二〇七

＝ 御 一 覽 乞 ぶ ＝

大倉高商前教授 塚本文治著
實務計算知識
 定價三圓 送料十四錢
 ▼タロース製箱入美装・菊判・三百五十餘頁▲

大倉高商前教授 塚本文治著
〔實務計算表及其使用法〕
 附商品單位表
 ▲一般金融業者は無論各種の商業及工業的事業のオフィスには是非一本を備へられんことを。
 定價三圓八十錢 送料十六錢

東京高師若溪會讀物調査部編
優良圖書一覽
 ▲第一輯 自大正二年 定價三圓五錢 送料六錢
 ▲第二輯 自昭和三年 定價一圓五錢 送料三錢
 ▲至昭和拾年 定價一圓五錢 送料三錢
 ◎良書を購はんとせば本書を見よ◎

大倉高商前教授 塚本文治著
金融一般數理
 ▲第一篇基本數理。第一章無限級數
 ▲第二篇應用數理。第二章「經費に資本化」固定資本へ還元。施設・壽命伸縮等。
 ◎内容見本進呈◎
 定價四圓 送料十六錢

河野手藝專門學院長 河野富子著
 共立女子職業學校講師
ドロインウオーク
 ▲誰にも出来る最新家庭手藝▲
 ◎内容見本贈呈◎
 定價三圓 送料十八錢

旅順工科大学教授 橋本五作著
岡田式靜座の力
 ▲本書により救はれた人既に幾千百なるを知らず
〔續岡田式靜座の力〕
 定價一圓五十錢 送料八錢
 定價三圓五錢 送料七錢

四三九七東京替振 五二五三橋京話電 堂松三邑松 區橋京市京東 五日丁二町楳

和獨辭典

南山堂版

特製 ¥4.50 並製 ¥4.00

澤井要一・辻善定共編
 斯界の絶對的支持を
 得て聲價愈々揚がる

日本に於て最初の
 完成せる和獨辭典

總てに優る内容

1. 語彙の豊富. 内容の新鮮
2. 譯語の明快. 懇切
3. 譯語の豊富. 語感の滲出
4. 性. 數. 格の明示. 用例の豊富
5. 檢索の容易. 至便
6. 印刷. 製本の優秀
7. 校閲の嚴正

袖珍判型
 縦..... 190m.m.
 横..... 105m.m.
 厚サ..... 25m.m.
 重量..... 450g
 總紙數..... 1080頁
 檢索語彙..... 50000語
 收録語彙..... 130000語

裝 幀
 特 製——總羊革裝背金箔押
 並 製——總洋布裝背金箔押

本文用紙 三菱製紙會社特瀉辭典用紙
 印刷 精巧なる寫真縮刷版

南山堂書店發行
 東京市本郷區龍岡町
 振替東京六三三八番
 電話小石川四二三・四七五七番

★ 編會查審題問驗試學入校學等中國全 ★

へ鍛を礎基の書科教
る鍊を力實てい突を所急

學習
國語のちから

六
年
用
菊
判
四
五
〇
頁
定
價
七
十
錢
送
料
十
錢

學習
算術のちから

六
年
用
菊
判
三
五
〇
頁
定
價
七
十
錢
送
料
十
錢

學習
理科のまとめ

四・五・六
年
用
菊
判
四
五
〇
頁
定
價
七
十
錢
送
料
十
錢

學習
地理のまとめ

五・六
年
用
菊
判
三
五
〇
頁
定
價
六
十
錢
送
料
八
錢

學習
國史のまとめ

五・六
年
用
菊
判
三
五
〇
頁
定
價
六
十
錢
送
料
八
錢

發行所 東京麹町區 創文社 振替口座東京 四〇五六番 全國書店 發售

大東京の表現地圖

われ等の市民地圖・新發賣!

この地圖一枚
わが手にあらば
大東京を縦横に
駛驅するも易し



東部地圖界に定評ある地形社が新地圖表現法を應用した市街地圖にして特筆すべき内容は町名・地番の精細無比・交通・道路網の段落的展開・全地域の人家密集地帯の集落地理學的表示等である。地圖製作上の要素たる正確・明瞭・鮮麗の三點を完備した「われ等の市民地圖」として好評絶頂なり。

事業用大東京白地圖	・三八・〇四
三十五區大東京區分地圖	一區・四五・〇二
ポケット型コンサイス東京地圖	・七〇・〇六
同	メガネ版
時局樞要日滿支・展開地圖	近刊

地形社編

▲横三尺六寸・縦二尺六寸
▲A模造紙精密六色刷袋入
定價金三十八錢
(送料 四錢)

東京日本橋・人形町角

地形社

電話場五〇四一・振替東京七二六七

雑誌「保線」

定価十五銭
毎月一回発行
毎月大附録付
全鐵道従事員は勿論殊
に鐵路の安全性を確保
する立場に在る保線保
事員にとりては必讀の
ものである。菊版八十
頁で總ルビ付の美本。

速度と保線

定価三圓五〇銭
送料二二銭
元價送料高氏盛著
著者は國鐵が劃期的な
主要線の列車スピード
アップの計畫に携つて
からその任務に就つて
居たので、従つて之
等が關係事項に就ては
細大漏らさず詳述され
空前の歴卷である。

神田區須田町一ノ廿四
鐵道出版局
振替東京三五四七〇

◇時局及社會常識の泉◇

各冊定價十錢(送料二錢)

善三 太郎	善三 太郎	善三 太郎	英輪 武井	善三 太郎	善三 太郎	大立 吉春	著者 書名
働くには働かせるには これだけは心得おくべし	日々々の論語	人生と人相秘訣 これだけは心得おくべし	男女禮法と社交術 これだけは心得おくべし	人を使ふには使はれるには これだけは心得おくべし	挨拶の仕方と話の種類 これだけは心得おくべし	人情調處世訓・川柳道話	著者 書名
尾崎雄 氏速	新渡戸 造	須田 介	シヤム ラ	明裕 道田	友小 治林	松角大 下岡山	芳松 男下
元老西園寺公と 大養毅を語る	讀書と人生 その趣味と利益	會議座談會及び演說會の仕方	日本はどうなるか? スパイの觀た日本の内情	北支獨立運動の實相と日本の立場	明日の政權を擔ふ人々 維新の群雄七人男	イタリ―立ちエチオピア應ず 東阿の戰雲世界を掩ふ	明日の軍部を擔ふ人々
(廿錢價)	(廿錢價)						

中海 佐崎
十對六の比率では
どうして戦争が出来ぬか

芳松 男下
永田 鐵山 論

芳松 男下
明日の軍部を擔ふ人々

松角大 下岡山
イタリ―立ちエチオピア應ず
東阿の戰雲世界を掩ふ

友小 治林
明日の政權を擔ふ人々
維新の群雄七人男

明裕 道田
北支獨立運動の實相と日本の立場

シヤム ラ
日本はどうなるか?
スパイの觀た日本の内情

須田 介
會議座談會及び演說會の仕方

新渡戸 造
讀書と人生
その趣味と利益

尾崎雄 氏速
元老西園寺公と
大養毅を語る

白隱禪師著書 宮裡祖泰編

白隱禪師法語集

定價壹圓
送料十錢

□四六判上製函入全一冊□

容内書本

- 白隱禪師略傳
- 夜船閑話
- 遠羅天釜
- 假名法語

- 辻座禪和談
- 施行人歌
- 安心ほこりたよき
- 主心お婆粉引歌

- おたふく女郎粉引歌
- 寢ほけの眼覺
- 大道ちよぼくれ
- 見性成佛丸
- 寶鏡窟記

著 治 助 田 吉 史 本 日 の 話 童					
(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
十五夜の藤	平安の都	奈良の都	難波の堀江	寶の國	美しい國
(12)	(11)	(10)	(9)	(8)	(7)
吉野の宮	笠置の山	神風の國	鎌倉の山	白旗の光	赤旗の光
著 二 瓊 本 岡 本 讀 外 課 童 兒					
○天下豊臣秀吉	○勤王楠木正成	○海の勇將東郷元帥	○軍神乃木大将	○明治天皇御偉業	
○大將軍徳川家康	○奇傑新海舟	○豪傑新西郷盛	○八郎源為朝	○發明王エチブソン	
冊一全判六四各上以 錢十料送 錢拾六各價定					

二三三

東 京 市 神 田 區 東 替 振 三 三 〇 七 番 電 話 神 田 三 〇 一 二 番
東 京 市 錦 町 一 八 區 神 田 區 文 陽 堂 書 店

二三三

東 京 市 神 田 區 須 田 町 一 四 廿 四 番 普 及 社 振 替 東 京 三 五 四 七 〇 三 番 電 話 神 田 三 二 二 三 番

基礎日本語 土居光知著 送定 一〇二〇
 哲學敍說 森信三著 送定 二・三六〇
 和聲學 成田爲三著 送定 三・五六〇
 BASIC JAPANESE 土居光知著 送定 三・一五〇

最新音樂辭典 鹽入龜輔著 送定 一〇〇六〇
 七樂典 門馬直衛著 送定 一・二四〇
 絃樂器論 山口常光著 送定 二・一四〇
 作曲法 門馬直衛著 送定 三・一四〇

六星館 振替東京46236番 電話下谷(83)1718番
 東京市神田區 佐久間河岸27

好評嘖々たる弘道閣選書!

伊藤武夫編主 博物辭典(呈見内容) 千五百頁四六上製 送定 五・五〇〇
 伊藤武夫著 臺灣植物圖說(正編) 各編上製全頁圖版 送定 三・三〇〇
 村林仁著 淡水動物 二九〇頁四六上製 送定 二・〇〇〇
 村林仁著 遺傳の研究 三〇〇頁四六上製 送定 二・五〇〇
 岡山秀吉著 竹工・指物・玩具 木工術 五三〇頁四六上製 送定 三・五〇〇
 見坊著 實際農家副業大典 六百頁四六上製 送定 六・〇〇〇
 太田著 指導 農家副業大典 六百頁四六上製 送定 六・〇〇〇
 秋山著 教科書に 生産地理精義 四百頁四六上製 送定 二・二〇〇
 工藤著 準據せる 生産地理精義 四百頁四六上製 送定 二・二〇〇
 松井佳一著 科學と趣味 金魚の研究 二七〇頁四六上製 送定 一・五〇〇
 松井佳一著 實験 金魚の愛玩と飼育法 二七〇頁四六上製 送定 一・五〇〇
 山崎延吉著 山崎延吉全集(全六卷) 四千頁四六上製 送定 十八圓
 山崎延吉著 我農生回顧録 四四〇頁四六上製 送定 一・五〇〇

中西良夫著 子供繪卷の指導 三五〇頁四六上製 送定 二・八〇〇
 帝國美術會編 日本書畫家名鑑 三六版本二冊附入 送定 一・二〇〇
 三浦義厚著 改訂商業簿記詳解 五二〇頁四六上製 送定 一・八〇〇
 植松貞吉著 火災保險の話 一三〇頁四六上製 送定 〇・七〇〇
 辻克己著 ウキンド裝飾圖案集 四一六頁 送定 一・八〇〇
 安藤徳器著 趣味の金子健四郎と其時代 四一六頁 送定 一・八〇〇
 中村徳五郎著 明治維新史の大西郷と月照 四百頁四六上製 送定 一・八〇〇
 尾崎久彌著 江戸小説研究 六百頁四六上製 送定 四・五〇〇
 石塚龍學著 英法然上人行狀繪圖 千頁頁四六上製 送定 六・〇〇〇
 神道研究會編 昭和十年神道年鑑 六八〇頁四六上製 送定 一・八〇〇
 中村徳五郎著 皇大神宮史 六百頁四六上製 送定 二・八〇〇

發行所 東京・神田・錦町二ノ三 振替東京七〇一四三番 弘道閣

著者	書名	定價	送料	著者	書名	定價	送料
田島順著	民法一九二條の研究	六・五〇	一一	北村佳逸著	黒子六解	二・〇〇	一一
吉川大二郎著	教材民事訴訟法記録	二・五〇	一一	同	兵法三略・司馬法	二・〇〇	一一
竹田直平著	手形法及小切手法	三・〇〇	一四	同	日本精神朗吟詩集	二・〇〇	一一
濱薫明著	二十世紀に於ける死刑	一・四〇	一〇	同	短歌初集	一・五〇	一一
蛭川虎三著	東洋政治學	一・二〇	一〇	同	昭代一首の講義	一・八〇	一一
谷口吉彦著	漁村問題と其對策	一・五〇	〇八	同	百人一首の講義	一・五〇	一一
大谷政敬著	米專賣の問題	一・五〇	〇八	同	作歌入萬歌集	二・四〇	一四
助川啓四郎著	農村の窮乏と對策	二・〇〇	〇八	同	短歌用語小辭典	一・五〇	一〇
助川啓四郎著	農村問題對策	一・〇〇	〇八	同	短歌文法七十講	二・〇〇	一〇
金原兼一郎著	米穀問題解決方策	一・〇〇	〇八	同	日本和歌讀本	一・二〇	一〇
小笠原三九郎著	金買入法と金の諸問題	一・八〇	〇八	同	萬葉集新辭典	一・五〇	一〇
白金光助著	勸業債券の買方賣方	一・二〇	〇八	同	俳句表現辭典	一・五〇	一〇
景山哲夫著	貿易政策原論	三・〇〇	一四	同	俳句文法六十講	一・五〇	一〇
熊田克郎著	歐洲政局の不安	一・五〇	一〇	同	新俳句提唱	一・五〇	一〇
井原 純著	政治的神話と經濟的現實	二・〇〇	一〇	同	家系圖の合理的研究法	二・五〇	一〇
山崎靖純著	外國爲替新讀本	一・五〇	一〇	同	維新精神史研究	六・〇〇	一〇
串木友三郎著	爲替戰爭理解の爲に	一・六〇	〇八	同	教育家としての石田梅岩	三・二〇	一四
法學博士 正雄著	赤字時代の財政諸問題	一・八〇	一〇	同	齊東野語	六・五〇	一四
同	滿洲國の財政經濟	一・〇〇	一〇	同	少年建國讀本	一・〇〇	〇八
同	地方稅改革問題	一・〇〇	一〇				
同	非常時の財源問題	一・五〇	一二				
同	增稅及整稅論	三・八〇	一二				

著者	書名	定價	送料	著者	書名	定價	送料
岡崎文規著	人口統計に於ける諸問題	二・二〇	一二	鈴木健一郎著	建國の哲學	一・五〇	一〇
金井次郎共著	商品の包裝	一・八〇	一二	釋 孤齋著	鎮撫使さんとお加代	二・〇〇	一〇
立命館大學編	三十五年記念論文集法經濟篇	三・五〇	一二	岩井智海著	旭人の疑問	一・八〇	一〇
文學博士 吉澤義則著	國語概論	一・五〇	一〇	齊東野人著	素人の疑心	一・六〇	一〇
同	國語史概論	一・五〇	一〇	山口光圓著	法華經十講	二・〇〇	一〇
同	徒然草	一・二〇	一二	種上亮一著	湖國夜話	一・五〇	一〇
同	異本徒然草	一・二〇	一二	高山辰三著	季節の顔	一・八〇	一〇
同	國語方語言索引	二・〇〇	一二	釋 孤齋著	美妙選集上下	一・二〇	一〇
同	國語文法概説	二・七〇	一二	關 一雄著	鬼の念佛	一・二〇	一〇
田中健三著	國文法概説	二・〇〇	一二	同	評傳米國文學大觀	三・〇〇	一四
清水 泰著	堤中納言物語評釋	二・〇〇	一二	長谷川善雄著	日本刀辭典新刀篇	四・五〇	一二
今小路覺瑞著	新興讀方教育	二・二〇	一二	黒田重太郎著	女形の研究	二・二〇	一二
堀尾實善著	紫式部日記の研究	一・三〇	一〇	松本 仁著	洋畫鑑賞十二講	二・二〇	一二
立命館大學編	三十五週年記念論文集文學篇	三・五〇	一四	坂井德藏著	最新代數學要解	一・六〇	一〇
川田瑞穂著	詩語集成	三・五〇	一四	加藤樂山著	ベン習字新辭典	一・五〇	一〇
鷹取岳陽著	漢詩作法附古詩作法	二・二〇	一〇	武用種吉著	公民科教授資料	四・五〇	一〇
角田香吉著	漢詩韻通覽	一・五〇	一〇	今泉定助著	國體原	二・〇〇	一二
細貝香塘著	漢詩絶句の作法と鑑賞	二・五〇	一四	小谷德水著	神道眼で觀た歐米	二・〇〇	一〇
同	漢詩絶句作例百講	二・二〇	一四	金井治郎著	英文輸出貿易通信	三・〇〇	一二
北村佳逸著	老子解	二・〇〇	一一				
同	孟子解	四・二〇	一一				
同	孫子解説	二・〇〇	一一				

發行所 東京・銀座西二ノ一・京都・廣小路寺町
立命館出版部
 振替東京七五三六二・振替大阪三六九四四
 一三三九

北原白秋著 (日本圖書館協會推薦) きよろろ鶯

これらの隨筆は人に示す藝でなく自ら語る言葉である點で楽しいのである。しかしその文體から言つて、所謂文壇人の隨筆には見られぬ繊細な心配りがあり、觀察の非凡があり表現の新鮮がある。彼は平叙する場合にも掴み處を失はない。ギョツと猫の首ねつこを握つた形である。(川路柳虹)

三村竹清著 佳氣春天(すき)

多少でも書物に親しみを有つ者は、三村翁の名を知らぬ筈がない。翁は常に世に出ることを嫌つて讀書と訪書に耽つてゐる。従つて著書としても『本の話』とこの『かきすて』位のものだ。眞の讀書家は、何はともあれ必ず一本を架蔵すべき稀品だ。

市島春城著 擁爐漫筆

隨筆文學の筆をとつては現今において他の追隨者をゆるさない市島翁が、最近書き卸された珠玉の即ち東西古今の雅俗に關する趣味・娯樂・紀行・身邊雜記の諸品を五篇八十五章に盛り、特に自著愛讀者の爲めの特定部數には親しく署名をほどこされ、裝釘亦この内容にふさはしい愛蔵版となせるものである。

齋藤昌三著 紙魚供養

書痴の紙魚漸くとなりて、爰に著者の最も親錫の杖を今更なるとして、向かうか、本著は筆立の漏るもの、伍すか、は、一冊に、或は、二、三、度、と、は、出、來、ぬ、の、で、あ、る。

渡部政盛著	教育科講座 全一冊	價五・八〇	送三	蘆谷重常著	童話學	價二・六〇	送二
同	學習指導原論	價三・八〇	送三	同	宗教童話の研究	價二・〇〇	送三
三浦藤作者	東洋教育史	價三・五〇	送四	同	兒童大會司會法	價一・八〇	送三
同	西洋教育史	價三・五〇	送四	同	新童話術綱要	價一・三〇	送二
藤岡龜芳著	全一的生命觀に立つる教育	價二・〇〇	送二	同	學校に於ける童話の活用	價二・六〇	送三
澁谷義夫著	作業教育概論	價二・五〇	送四	同	教師用第一の新童話	價二・二〇	送三
西 治公著	日本道勞作教育の新構成	價二・八〇	送六	同	學校鑑賞說話選集	價二・八〇	送六
同	勞作の新課程	價三・〇〇	送三	同	童話雜感及小品	價二・五〇	送四
同	生命の勞作教育	價二・〇〇	送四	同	模範口演童話選集	價二・〇〇	送四
川崎利市著	個別教育の原理實踐	價二・八〇	送四	同	村上童話實演集	價一・五〇	送三
阿部清美著	土の教育の教育道	價一・〇〇	送八	同	續村上童話實演集	價一・五〇	送三
同	農村神興の村の教育	價三・二〇	送二	同	家庭並童話範例	價二・五〇	送四
阿部清美著	農村神興の建設記録	價二・三〇	送四	同	學童相談と其の解決	價一・五〇	送二
内藤一己著	新興郷土建設と農村教育	價二・〇〇	送三	同	家庭教育と學校	價二・〇〇	送三
平林廣人著	丁抹農村文化の眞髓	價二・三〇	送四	同	家庭連絡の實際	價二・〇〇	送三
				竹田仁風著	子供の殿堂	價二・〇〇	送四

東京市富町三ノ七 區橋 書物展望社 振替東京六〇八〇 電話東京八〇七

東京市本郷區 文房書局 振替東京電話 二五二番 番八

Sanfeidos
CONCISE
Deutsch-Japanisches
Wörterbuch



コンサイス
獨和辭典

編纂者 文學博士 山岸光宣先生

定價 ¥ 3.50 送料 .06
特選優良インディア紙使用・總羊革裝
1100頁・印刷鮮明無比・裝釘堅牢

全獨逸語界待望の
獨和のコンサイス完成!

- 1 文化の諸領域に互る語彙を満載す。
- 2 各部門の専門語・専門譯語の豊富正確。
- 3 世界大戰後の政治的・經濟的・社會的發展に伴ふ新語・新熟語・在來語の轉義等を網羅す。
- 4 萬國音標文字にて發音を明示す。
- 5 廣範圍に互る熟語の撰載と適譯。

最新刊!
内容見本進呈

改訂 **コンサイス英和新辭典** ¥ 2.50
三省堂編輯所編

新コンサイス和英辭典 ¥ 2.50
石川林四郎編

東京市神田區神保町一
振替東京三一五五五番 **三省堂** 大阪市西區阿波座下通
振替大阪八一三〇〇番

●注文は東京堂へ

成聚屋寄數

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚	數寄屋建築構造聚
(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)	(室・内・外・欄・口)

建全
築國
の的
展茶
觀室

卷十四全 書叢藝工材木

錢拾七册一 編會學藝工材木

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家	家
具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具
用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用	用
材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材
40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建
具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具	具
造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造	造
作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作

會規請求是弊社へ

四二八一二京東替振 **社洋洪** 區込牛市京東
二六四四谷四話電 ○一町臺谷市

編生先郎三庄澤金^{學文博士}

廣辭林 新訂版

長き歴史が證明する

本辭典の絶對的眞價！

學習に、實務に、

ぜひ備ふべき

不朽の國語辭典はこれ！

四六判・總クローズ典雅裝・二千頁・函入



短期特價

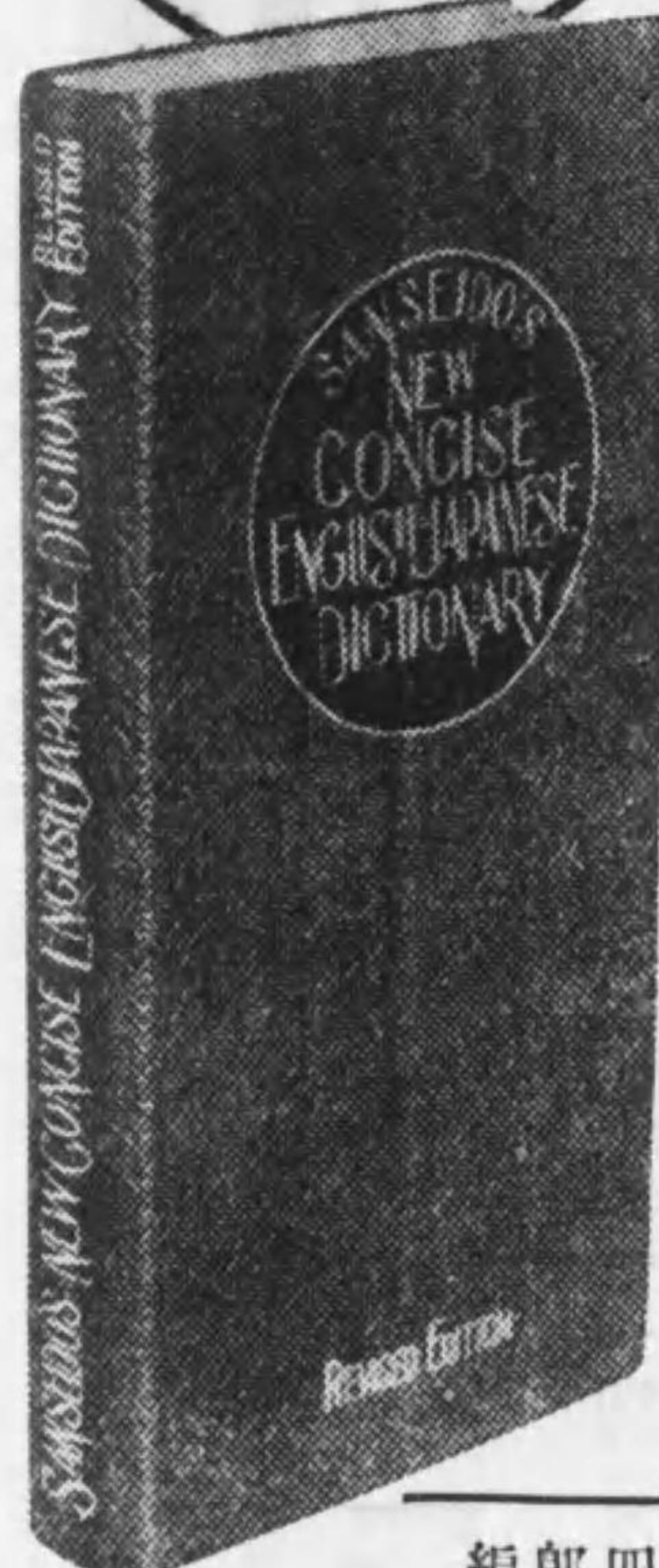
二圓九十錢(送料)

(正價三圓九十錢)

SSD **三省堂**

東京・神田 (振替東京三五五五)
大阪阿波座 (振替大阪八三〇〇)

SANSEIDO'S
NEW
CONCISE
ENGLISH-JAPANESE
DICTIONARY



辭書界に君臨するコンサイス英和！
内容新鮮充實の改訂新版をぜひ！

SSD

三省堂編輯所編

ポケット判・携帯至便
總羊革裝・一一三〇頁

定價 二圓五十錢(送料)

改訂 コンサイス英和 新辭典

姉妹篇
石川林四郎編
新コンサイス英和辭典
總羊革裝・一一三〇頁・定價二圓五十錢

振替東京三五五五
振替大阪八三〇〇

三省堂

東京市神田區保町
大阪西市區阿波座

第一書房

(呈進録目書圖) 町番三區町麴京東



夏目漱石

文學讀本

春夏の巻

四六判五〇〇頁 定價一圓五十錢

島崎藤村

文學讀本

春夏の巻
秋冬の巻

四六判各三五〇頁 定價各一圓五十錢

菊池寛

文學讀本

春夏の巻

四六判五〇〇頁 定價一圓五十錢

茅野蕭々著

ゲヨエテ研究

四六判一〇五〇頁 定價二圓

上田敏遺著

上田敏詩集

四六判七五〇頁 定價一圓五十錢

大田黒元雄著

洋樂夜話

四六判二八〇頁 定價一圓

龐大なる漱石文學の入門書、漱石文學の名所案内。世界的大文豪、夏目漱石の全貌は本書によつて初めてたやすく知ることが出来ると共に、日本文學の本質をも把握することが出来る。

季節の詩人であり、人生詩人である藤村の四十年に亙る足跡を季節と共に辿つてゆくとき、藤村の全貌は自らに浮び上つてくる。本書は大藤村を一眸に描く鏡であり、尊い眞髓である。

大正昭和のわが文壇に残した氏の足跡は大きく、その業績は輝かしい。本書は、著者に最も私淑せる永井龍男氏の苦心の編纂に成るもので、全著作の精粹は悉く此處に整理されてある。

學徒として詩人としての著者が二十餘年の蘊蓄を打つて一丸としたる、原稿二千枚の大著にして、此人にして此著あることは、日本が世界的に誇り得る唯一の大研究である。

わが國近代詩の偉大なる母、明治大正の詩壇を永遠に記念するこの不朽の珠玉、絶版の所江湖の要望に應へて従來の四六判を改め菊判とした。收るは「海潮音」「海潮音以後」「牧羊神」。

第一夜から第二十夜まで、いつ讀いてみても、懐しい著者と對坐して色々な啓發を受けるやうな楽しい氣持で讀み終る事が出来る。楽しい夜の團樂の好い話題となるであらう。

好評刊行書

四四三三段九話電 三二二四六京東替振



中河與一著

小説愛戀無限

四六判四八〇頁 定價一圓六十錢

江原小彌太著

小説若き日の良寛

四六判五〇〇頁 定價一圓五十錢

ツルゲエネフ 中山省三郎譯

全譯獵人日記

三六判八〇〇頁 定價一圓八十錢

パール・バック 深澤正策譯

小説母

四六判三三八頁 定價一圓五十錢

友松圓諦著 文部省推薦

法句經講義

四六判四六〇頁 定價一圓五十錢

高神覺昇著 茗溪會推薦

般若心經講義

四六判三二〇頁 定價一圓五十錢

東京大阪兩朝日新聞紙上に連載好評を博せる長篇小説。新しい女性の道徳、熱情と純粹の大悲劇。新聞小説の純粹文學化の第一矢として注目された傑作、小説道の大道を往く名篇。

多感多恨の難路を行く青春の日の良寛！著者みづから、前著『出家良寛』の絶版抹殺を期し、前人未踏の新境地を開拓せる、まさに乾坤一擲の大力作である。

『獵人日記』はツルゲエネフの文學者としての進路を決定的にした作品であるばかりでなく、彼の文學的才能を餘す所なく示した傑作である。さきに『散文詩』の名譯を大成せる譯者の快譯になるものだ。

夫の逃亡によつて家族を支へゆく支那貧農の妻の一生を描き、前人未踏の現實たる、暗黒と神祕とに覆はれたる農民生活と赤裸なる性本能の原始的なる悲劇とを抉る快作。

本講義は出版界空前の反響を喚び起した。現代の不安なる思想界に一の方向を指示する。何人も此書に依つて佛敎の深い眞理と美しい情操と強い信念の中に導かれるであらう。

欄入記古稽・記日由自・附

能樂年鑑

纂編界曲謠 ◆ 版年一十和昭

~~~~~ 班 一 容 內 ~~~~~

能樂盛衰表記  
現時能樂界概観  
各地能樂界展望  
昭和十年度演能概観  
演能記録(月別、演者別等)  
能の特殊なる催し  
特殊演能曲と評  
講演  
會合、催し  
ラヂオの一年  
海外往來  
逝ける人々  
學生と能謠の一年  
能樂と寫眞  
能評界の一年  
雜誌界の一年  
能謠雜誌の記事分類  
出版界の一年  
昭和十年略年譜  
グアラフ  
能謠家名鑑  
能謠會記録  
能謠會記録  
自由日記  
新項目を増加し完璧を期す

## 斯界の正確な縮圖!

昨年、斯界始めての『能樂年鑑』成るや、註文殺到し忽ち賣切増刷といふ盛況であつた。小社は更に周到な用意と調査によつて、充實完成せる『昭和十一年版』を刊行し、最近益隆盛の機運に満てる斯界に贈る榮を有する。謠ふ人も、舞

## 製本出來!

定價 金二圓 (送十二錢)

【注】發行部數に制限あり  
【體】四六版・クロース  
【裁】表紙・堅牢・優美

ふ人も、研究家も、是非この一冊を座右に備へなければならぬ。これは斯界の常識である。各流の歴史は勿論、約千名の能謠師範家、五百の謠會や能の會の來歴、系統、規約、一年間の總てが一目で解る斯界の正確なる縮圖である。

待望の完成版!

六ノ三町保神區田神市京東

〇三〇一二京東替振 所行發界曲謠 五八二二段九話電

二四八

▶ 誌雜門專大三行發堂賢養 ◀

生物學の研究に、教材に、應用に、最適雜誌!!

# 理論 應用 植物及動物

生物學家  
博物教育家  
醫學・獸醫  
畜産・養蠶  
水産・林學  
作物・園藝  
の必讀智囊

頁十六百列々三號每  
錢三料送錢十六冊一  
錢十六圓三分月ヶ六  
錢十七圓七分册二十

斯道の學理と實際とに眞に役立つ最優誌!!

# 農業及園藝

農學研究と  
農村收益の  
増進方法と  
農村更生の  
根本對策と  
を包含する  
最新智囊!

頁〇四二列々三號每  
錢三料送錢十五冊一  
共料送圓三分月ヶ六  
册十四圓六分册二十

發明の鍵、新智の泉、實地の師、學修の友!!

# 理論 實際 機械及電氣

工業關係の  
學者、技術  
家、教師、當  
業者の最新  
智囊!! 學生  
の技術の將來  
の修學資料

頁百二紀列々三號每  
錢八料送錢十五冊一  
共料送圓三分月ヶ六  
錢十九圓五分册二十

二四九

堂賢養 會社 〇七町川森區郷本京東 所行發 番〇〇七五二京東替振



# 一、哲學

## 哲學概論・哲學一般

| 著者             | 書名                     | 裝釘      | 頁數  | 定價  | 發行所   | 月行  | 内容大意                                     |
|----------------|------------------------|---------|-----|-----|-------|-----|------------------------------------------|
| 工學士 川上 嘉市      | 社會教育パンフレット(216) 1.宇宙生命 | 並四六製判   | 41  | 二五  | 育社協會教 | 月三  | ▲生、死、宇宙に對する問題に就て論述せるもので、自然現象界の法則外九篇。     |
| 東京帝國大學教授 九鬼 周造 | 偶然性の問題                 | 洋函四六布入判 | 331 | 二二〇 | 岩波書店  | 月二十 | ▲定言的偶然、假說的偶然、離接的偶然の三章にて偶然性の問題を論述す。       |
| 法學博士 浮田 和民     | 幸福の哲學                  | 洋函四六布入判 | 424 | 二二〇 | 大勝館   | 月五  | ▲理論的實際的に幸福學の本質を究明せるフイノリの一幸福學の譯。          |
| 石丸 梧平          | 幸福の哲學                  | 並四六製判   | 245 | 八〇  | 人生創造社 | 月三  | ▲幸福を賣る店、幸福の哲學、戀愛歡喜、人生苦の整理、職業ならびに健康の五部。   |
| 文學博士 得能 文眞     | 真理の追求                  | 布函四六製判  | 505 | 二四〇 | 第一書房  | 月六  | ▲義き出版した「最究者」の改訂版で、現代思想界に於ける二大潮流外十九篇。     |
| 小島 威彦          | 世界創造の哲學的序曲             | 上函新菊製判  | 355 | 一四〇 | 改造社   | 月二十 | ▲前奏曲及び哲學の運命、哲學の悲劇、悦ばしき哲學の三部より成る著者の哲學體系。  |
| 池島 重信          | 知性の敗北                  | 容四六布判   | 264 | 一〇〇 | 三笠書房  | 月二十 | ▲ドストイェフスキイと現代の意識に就て論じた書で、知性の敗北、意識家の劫罰其他。 |
| 本莊 可宗          | 哲學と人間                  | 上四六製判   | 361 | 一三〇 | 千倉書房  | 月二十 | ▲人生指導の原理を述べたもので、哲學と人間、如何に現代に生きるか、愛と所有の三篇 |

哲學(哲學概論・哲學一般)

◇本目録の分類方法は、大體書店本位に考へて、編輯部獨自の立場から立案したものである。本年度より各種分類後の目録配列は書名の五十音順に従つた。

◇尙、本年度より部門を左の如く改正増減した。

一、從來「教育」書類に含まれてゐた「受験参考書」を獨立させて、別に一部門設けたこと。

二、「數學」の獨立部門を廢止して、「理科學」と合併し、「理科學・數學」と改めたこと。

◇本目録は分解して、各種類別に數ヶ年を集めて合本すれば「哲學」「文學」「語學」等獨立した各種書類の目録が出来るやう工夫し、各頁の上欄に、特別頁を附して置いた。

◇例へば「哲學」の部の上欄に(10-1)とあるは昭和十年度發行の哲學書目録の第一頁といふ意味である。従つて十一年度は(11-1)より始る。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 哲 | 宗 | 教 | 文 | 語 | 美 | 歴 | 地 | 政 | 法 | 經 | 工 | 農 | 理 | 醫 | 運 | 婦 | 受 | 兒 | 日 |   |
| 學 | 教 | 育 | 學 | 學 | 學 | 史 | 理 | 治 | 濟 | 業 | 業 | 業 | 學 | 學 | 學 | 學 | 學 | 學 | 學 | 學 |
| 二 | 二 | 二 | 三 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 六 | 六 | 六 | 六 |
| 五 | 八 | 九 | 〇 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 〇 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 |

哲學(哲學概論・哲學一般)

|                                       |                                   |                                         |                                        |                                 |                                        |                                  |                                    |                                        |                                        |                                  |                                          |                              |
|---------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------|------------------------------|
| 新館正一                                  | 大島豊                               | 戸田三郎                                    | 中村壯太郎                                  | 得能文                             | 東北帝國大學                                 | 西田幾多郎                            | 吉田賢龍                               | 高山岩男                                   | 竹下直之                                   | 勝部謙造                             | 岡本利吉                                     | 酒井市郎                         |
| ブルノイ哲學入門                              | 哲學の使命                             | 哲學の本質                                   | 哲學はどんな考へ方をするか                          | 哲學概論                            | 十周年記念哲學論集                              | 哲學論文集                            | 内的生命觀                              | 西田哲學                                   | 人間哲學                                   | 人間を見つめる                          | 人間理學講話                                   | 能動感覺論                        |
| 布四六                                   | 布四六                               | 布四六                                     | 布四六                                    | 布四六                             | 布四六                                    | 布四六                              | 布四六                                | 布四六                                    | 布四六                                    | 布四六                              | 布四六                                      | 布四六                          |
| 250                                   | 343                               | 125                                     | 227                                    | 376                             | 430                                    | 348                              | 224                                | 405                                    | 269                                    | 382                              | 1082                                     | 195                          |
| 一、八〇                                  | 一、〇〇                              | 二、〇〇                                    | 一、八〇                                   | 二、〇〇                            | 三、〇〇                                   | 二、〇〇                             | 一、〇〇                               | 一、〇〇                                   | 一、〇〇                                   | 二、〇〇                             | 六、〇〇                                     | 一、〇〇                         |
| 福田書房                                  | 第一書房                              | 岩波書店                                    | 現代文化社                                  | 事務和會                            | 岩波書店                                   | 岩波書店                             | 日黒書店                               | 岩波書店                                   | 理想社                                    | 同文書院                             | 建設社                                      | 日本精神會社                       |
| 九月                                    | 七月                                | 十一月                                     | 七月                                     | 六月                              | 六月                                     | 六月                               | 五月                                 | 四月                                     | 四月                                     | 一月                               | 三月                                       | 五月                           |
| ▲ブルノイ・パウフの「哲學入門」の譯で、日常生活に於ける現實の理解外六章。 | ▲哲學と科學、宗教と教育、政治と經濟の三部二十二篇より成る評論集。 | ▲デイルタイの哲學の本質の譯で、哲學の本質を規定するための歴史的な手續外一部。 | ▲ジェヴオンスの「哲學とは何ぞや」をひの字にて譯し、平假名の振り仮名を附す。 | ▲哲學上の主なる問題を擧げて、之に歴史的及び組織的説明を加ふ。 | ▲根源可能性と體系可能性(高橋里美)固有有識としての意志(千葉胤成)外九篇。 | ▲世界の自己同一と連続、行為的直観の立場の二篇の哲學論文を収む。 | ▲誰にも理解し易いやう平易に詳述せる書で人生の深み、純粹自我外八章。 | ▲西田幾多郎博士の哲學の根本思想を叙述せる書で、自然界、意識界、哲學外三章。 | ▲人間の物質と人間學、人間學と辯證法的存在論、人間的存在の社會的規定外二章。 | ▲人間をあらゆる角度から見つめて「人間とは何であるか」を研究す。 | ▲人間理學の疑惑篇より努力篇までを説述し人間性を明確にし、倫理、道徳等を探究す。 | ▲純粹能動感覺の創造的進化的具體的過程を科學的に研究す。 |

哲學(哲學概論・哲學一般・西洋哲學・西洋思想)

|                                         |                                 |                                         |                                     |                                          |                                                                         |                                 |                                       |                                    |                                           |                                          |           |             |
|-----------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------|-----------|-------------|
| 和辻哲郎                                    | 三枝博音                            | 尾高朝雄                                    | 永田廣志                                | 永田廣志                                     | 岡邦雄                                                                     | 樺俊雄                             | 伊山保吉                                  | 九山保吉                               | 藤田英雄                                      | 長岡義三                                     | 福永渙       | 鳥井博郎        |
| 風                                       | 辯證法談叢                           | 現代哲學全集(17) 法哲                           | 唯物史觀講話                              | 唯物論哲學のために                                | 唯物論と自然科学                                                                | 歴史哲學概論                          | イマヌエル・カント                             | イマヌエル・カント                          | 永遠の相下に                                    | カント著作集(4) 神の存在の證明根據其他                    | カンチーとタゴール | 哲學者とキエルケゴール |
| 布四六                                     | 布四六                             | 布四六                                     | 布四六                                 | 布四六                                      | 布四六                                                                     | 布四六                             | 布四六                                   | 布四六                                | 布四六                                       | 布四六                                      | 布四六       | 布四六         |
| 407                                     | 355                             | 311                                     | 329                                 | 240                                      | 395                                                                     | 286                             | 1,000                                 | 1,000                              | 110                                       | 556                                      | 339       | 213         |
| 二、〇〇                                    | 一、〇〇                            | 一、〇〇                                    | 一、〇〇                                | 一、〇〇                                     | 一、〇〇                                                                    | 一、〇〇                            | 一、〇〇                                  | 一、〇〇                               | 二、〇〇                                      | 四、〇〇                                     | 一、〇〇      | 一、〇〇        |
| 岩波書店                                    | 中央公論社                           | 日本評論社                                   | 白揚社                                 | 清和書店                                     | 叢文閣                                                                     | 理想社                             | 春秋社                                   | 春秋社                                | 岩波書店                                      | 岩波書店                                     | 四條書房      | 第一書房        |
| 九月                                      | 四月                              | 二月                                      | 十月                                  | 一月                                       | 三月                                                                      | 六月                              | 五月                                    | 五月                                 | 五月                                        | 十月                                       | 七月        | 九月          |
| ▲人間存在 構造契機としての風土性を明らかにせるもので、風土の基礎理論外四章。 | ▲辯證法の理論と實際を東西の文獻中より抜萃し、之に説明を加ふ。 | ▲法哲學の概念、法哲學の過去及び現在の諸傾向、法哲學の主要問題に關して叙述す。 | ▲日本の事實に依つた唯物論的歴史觀で、辯證法のおよび史的唯物論外七章。 | ▲辯證法的唯物論及び史的唯物論の基礎的、一般理論的方面に關する七篇の論文を収む。 | ▲自然科学の唯物論的基礎を明かにした書で宗教に就ての回想、自然科学の危機外十三篇宗教に就ての諸問題を歴史的に立脚して解説せる書で、歴史的に立脚 | ▲カントの生涯と其哲學の發展、哲學體系の二編及び附録より成る。 | ▲永遠の相下に、文化生活に於ける傳統の本質と價值とに就て外二篇の哲學論集。 | ▲神の現存在の證明の唯一可能なる證明根據(松岡義和譯)外二篇を収録。 | ▲東西文明、宗教、道徳、科學、藝術、國家等に關するカンチーとタゴールの言葉を譯す。 | ▲哲學者キエルケゴールの思想を彼特有の性格や當時の歴史的諸條件の下に於て解明す。 |           |             |



哲學 - 西洋哲學・西洋思想

|                                      |                                    |                                        |                                           |                                                         |                                    |                             |                                    |                                  |                          |                                          |                                  |                                    |                          |                                      |                                      |                               |                                   |                                    |                                  |
|--------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--------------------------|------------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
| 伊藤 三木                                | 大曾 三木                              | 三木 清                                   | 神田 英                                      | 藤田 英                                                    | 三木 清                               | 哲學研究會                       | 新橋 川                               | ボルケ                              | マキアヴェ                    | 黒田 正                                     | 岩崎 純                             | 高桑 純                               | 本田 喜代治                   | 金子 武藏                                | 草間 平                                 | 三木 清                          | 木寺 黎二                             | 三木 清                               |                                  |
| 現代思想                                 | 現代思想                               | 現代思想                                   | 現代思想                                      | 現代思想                                                    | 現代思想                               | 技術論と唯物辯證法                   | 近代世界觀成立史                           | 形而上學                             | 形而上學                     | 形而上學                                     | 形而上學                             | 形而上學                               | 形而上學                     | 形而上學                                 | 形而上學                                 | 形而上學                          | 形而上學                              | 形而上學                               |                                  |
| 選集                                   | 選集                                 | 選集                                     | 選集                                        | 選集                                                      | 選集                                 | 選集                          | 選集                                 | 選集                               | 選集                       | 選集                                       | 選集                               | 選集                                 | 選集                       | 選集                                   | 選集                                   | 選集                            | 選集                                | 選集                                 |                                  |
| 432                                  | 433                                | 423                                    | 322                                       | 444                                                     | 241                                | 429                         | 118                                | 393                              | 259                      | 414                                      | 469                              | 419                                | 225                      | 599                                  | 286                                  | 283                           | 97                                | 227                                |                                  |
| 二五〇                                  | 二五〇                                | 二五〇                                    | 二五〇                                       | 二五〇                                                     | 二五〇                                | 二五〇                         | 二五〇                                | 二五〇                              | 二五〇                      | 二五〇                                      | 二五〇                              | 二五〇                                | 二五〇                      | 二五〇                                  | 二五〇                                  | 二五〇                           | 二五〇                               | 二五〇                                |                                  |
| 改造社                                  | 改造社                                | 改造社                                    | 白揚社                                       | 叢文閣                                                     | 岩波書店                               | 春秋社                         | 岩波書店                               | 芝書店                              | 日本評論社                    | 岩波書店                                     | 改造社                              | 改造社                                | 岩波書店                     | 山本書店                                 | 春秋社                                  | 叢文閣                           | 岩波書店                              | 日本書店                               |                                  |
| 一月一十                                 | 一月一十                               | 二月二十                                   | 二月二十                                      | 二月二十                                                    | 二月二十                               | 二月二十                        | 二月二十                               | 二月二十                             | 二月二十                     | 二月二十                                     | 二月二十                             | 二月二十                               | 二月二十                     | 二月二十                                 | 二月二十                                 | 二月二十                          | 二月二十                              | 二月二十                               |                                  |
| ▲第一卷は不安の概念(伊藤三木一譯)現代の批判(三木清譯)外一篇を収む。 | ▲其の著に於ける訓練(桑田秀延譯)懼れとをのき(鬼頭英一譯)外一篇。 | ▲アイロニーの概念について(三木清・神田英三郎譯)瞬間(藤本正高譯)外一篇。 | ▲「唯物辯證法最近の諸題」(科學と技術の問題)の合冊で、技術と辯證法の研究を収む。 | ▲封建的世界觀から市民的の世界觀までに就て述べたもので、上巻は自然性の概念外三章、し、更に各章毎に解説を附す。 | ▲マキアヴェルリの小傳を掲げ、君主論を譯し、更に各章毎に解説を附す。 | ▲哲學書中の古典たるアリストテレスの「形而上學」の譯。 | ▲トマス形而上學全體系のエッセンスである「有と本質とに就いて」の譯。 | ▲コントの生涯と著作とを研究し、更に學說乃至教義を批判せるもの。 | ▲上巻は自然存在、人間存在の二篇七章にて説述す。 | ▲ヒルチイの「幸福學」三卷の中の第一卷を譯した書で、仕事をする術、處世論外六篇。 | ▲自明の超越(阿部六郎)ハインリッヒ・ハイン(木寺黎二)外三篇。 | ▲第二卷は、科學と自由探究(木寺黎二)不逞の從順(阿部六郎)外四篇。 | ▲ジョン・スチニアート・ミルの「自由論」の全譯。 | ▲ニイチェの「ツアラトウストラ」序品を佛典式古文體口語譯にした改訂新譯。 | ▲パスカルの隨想錄を譯したもので、知力と文章とに就ての感想、哲學者其他。 | ▲世界觀と歴史的意識、世界觀の類型、世界觀の三篇にて述ぶ。 | ▲諸體系の抗爭に就いて、生と世界觀、自然主義、自由の觀念論外二章。 | ▲宇宙對個人、靈魂意識、惡の問題、自我の問題、愛に於ける實現外三篇。 | ▲精神諸科學の哲學的基礎の問題に就ての論述で、上巻は緒言外二部。 |

哲學 (西洋哲學・西洋思想)

|                                      |                                    |                                        |                                           |                                                         |                                    |                             |                                    |                                  |                          |                                          |                                  |                                    |                          |                                      |                                      |                               |                                   |                                    |                                  |
|--------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--------------------------|------------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
| 伊藤 三木                                | 大曾 三木                              | 三木 清                                   | 神田 英                                      | 藤田 英                                                    | 三木 清                               | 哲學研究會                       | 新橋 川                               | ボルケ                              | マキアヴェ                    | 黒田 正                                     | 岩崎 純                             | 高桑 純                               | 本田 喜代治                   | 金子 武藏                                | 草間 平                                 | 三木 清                          | 木寺 黎二                             | 三木 清                               |                                  |
| 現代思想                                 | 現代思想                               | 現代思想                                   | 現代思想                                      | 現代思想                                                    | 現代思想                               | 技術論と唯物辯證法                   | 近代世界觀成立史                           | 形而上學                             | 形而上學                     | 形而上學                                     | 形而上學                             | 形而上學                               | 形而上學                     | 形而上學                                 | 形而上學                                 | 形而上學                          | 形而上學                              | 形而上學                               |                                  |
| 選集                                   | 選集                                 | 選集                                     | 選集                                        | 選集                                                      | 選集                                 | 選集                          | 選集                                 | 選集                               | 選集                       | 選集                                       | 選集                               | 選集                                 | 選集                       | 選集                                   | 選集                                   | 選集                            | 選集                                | 選集                                 |                                  |
| 432                                  | 433                                | 423                                    | 322                                       | 444                                                     | 241                                | 429                         | 118                                | 393                              | 259                      | 414                                      | 469                              | 419                                | 225                      | 599                                  | 286                                  | 283                           | 97                                | 227                                |                                  |
| 二五〇                                  | 二五〇                                | 二五〇                                    | 二五〇                                       | 二五〇                                                     | 二五〇                                | 二五〇                         | 二五〇                                | 二五〇                              | 二五〇                      | 二五〇                                      | 二五〇                              | 二五〇                                | 二五〇                      | 二五〇                                  | 二五〇                                  | 二五〇                           | 二五〇                               | 二五〇                                |                                  |
| 改造社                                  | 改造社                                | 改造社                                    | 白揚社                                       | 叢文閣                                                     | 岩波書店                               | 春秋社                         | 岩波書店                               | 芝書店                              | 日本評論社                    | 岩波書店                                     | 改造社                              | 改造社                                | 岩波書店                     | 山本書店                                 | 春秋社                                  | 叢文閣                           | 岩波書店                              | 日本書店                               |                                  |
| 一月一十                                 | 一月一十                               | 二月二十                                   | 二月二十                                      | 二月二十                                                    | 二月二十                               | 二月二十                        | 二月二十                               | 二月二十                             | 二月二十                     | 二月二十                                     | 二月二十                             | 二月二十                               | 二月二十                     | 二月二十                                 | 二月二十                                 | 二月二十                          | 二月二十                              | 二月二十                               |                                  |
| ▲第一卷は不安の概念(伊藤三木一譯)現代の批判(三木清譯)外一篇を収む。 | ▲其の著に於ける訓練(桑田秀延譯)懼れとをのき(鬼頭英一譯)外一篇。 | ▲アイロニーの概念について(三木清・神田英三郎譯)瞬間(藤本正高譯)外一篇。 | ▲「唯物辯證法最近の諸題」(科學と技術の問題)の合冊で、技術と辯證法の研究を収む。 | ▲封建的世界觀から市民的の世界觀までに就て述べたもので、上巻は自然性の概念外三章、し、更に各章毎に解説を附す。 | ▲マキアヴェルリの小傳を掲げ、君主論を譯し、更に各章毎に解説を附す。 | ▲哲學書中の古典たるアリストテレスの「形而上學」の譯。 | ▲トマス形而上學全體系のエッセンスである「有と本質とに就いて」の譯。 | ▲コントの生涯と著作とを研究し、更に學說乃至教義を批判せるもの。 | ▲上巻は自然存在、人間存在の二篇七章にて説述す。 | ▲ヒルチイの「幸福學」三卷の中の第一卷を譯した書で、仕事をする術、處世論外六篇。 | ▲自明の超越(阿部六郎)ハインリッヒ・ハイン(木寺黎二)外三篇。 | ▲第二卷は、科學と自由探究(木寺黎二)不逞の從順(阿部六郎)外四篇。 | ▲ジョン・スチニアート・ミルの「自由論」の全譯。 | ▲ニイチェの「ツアラトウストラ」序品を佛典式古文體口語譯にした改訂新譯。 | ▲パスカルの隨想錄を譯したもので、知力と文章とに就ての感想、哲學者其他。 | ▲世界觀と歴史的意識、世界觀の類型、世界觀の三篇にて述ぶ。 | ▲諸體系の抗爭に就いて、生と世界觀、自然主義、自由の觀念論外二章。 | ▲宇宙對個人、靈魂意識、惡の問題、自我の問題、愛に於ける實現外三篇。 | ▲精神諸科學の哲學的基礎の問題に就ての論述で、上巻は緒言外二部。 |

|      |           |              |       |     |     |      |     |                                           |
|------|-----------|--------------|-------|-----|-----|------|-----|-------------------------------------------|
| 陶山   | シユライエマヘル著 | 獨り想ふ         | 洋四六布  | 326 | 二二〇 | 第一書房 | 月五  | ▲沈黙、心霊の覺醒、宿命者、神祕道德、女性論、日常生活の悲劇外四篇。        |
| 阿部六郎 | レオニエスタフ著  | 悲劇の哲學        | 並四六製判 | 278 | 二二〇 | 芝書店  | 月四  | ▲序論、プラトンとソクラテス、イデア論、法律、數學外三章にてプラトン哲學を叙述す  |
| 野中   | ニイテエ著     | 悲劇の誕生        | 洋四六布  | 316 | 二二〇 | 木村書店 | 月五  | ▲哲學者ヘーゲルの傳記で、少年時代、ヘーゲルトヘルダリン外十二章。         |
| 井上   | ニイテエ著     | 反時代的考察       | 並四六製判 | 233 | 二二〇 | 岩波書店 | 月十  | ▲ヘーゲルの精神現象學と客觀的精神の研究、ヘーゲルの精神史的世界外一篇にて研究す。 |
| 井上   | ニイテエ著     | 反時代的考察       | 並四六製判 | 233 | 二二〇 | 岩波書店 | 月十  | ▲眞理について、結婚と獨身生活について外五十七篇の生活と道德に關する隨筆集。    |
| 鬼頭   | 英一        | ハイデツガーの存在學   | 洋四六布  | 264 | 二二〇 | 東出版社 | 月一  | ▲マルクス・レーニン主義、唯物論と觀念論外四章にて論述した辯證法的唯物論の研究。  |
| 相原   | 一太        | ハイデツガー哲學に答ふ  | 並四六製判 | 65  | 二二〇 | 新生堂  | 月十  | ▲辯證法的唯物論の歴史的發展、辯證法的唯物論の二部にて論述す。           |
| カル   | バルマ       | ハイデツガー哲學     | 並四六製判 | 168 | 二二〇 | 理想社  | 月十  | ▲唯物論と觀念論、認識論としての辯證法、對立性の統一及び闘争の法則外二章。     |
| 理    | 想         | ハイデツガー哲學     | 並四六製判 | 243 | 二二〇 | ナウカ社 | 月九  | ▲緒言、ドルバツク、エルゲエシウス、マルクスの數章に收めた唯物論史入門。      |
| 高    | 沖         | ニイテエと現代精神    | 並四六製判 | 319 | 二二〇 | 清和書店 | 月九  | ▲辯證法的、史的唯物論に關するレーニンの著作を網羅せるもの。            |
| ブラ   | ン         | ニイテエの哲學      | 並四六製判 | 237 | 二二〇 | ナウカ社 | 月九  | ▲浪漫派を個性と聯關づけ實證的に總括せるヴァルツエルの「ドイッ浪漫主義」の譯。   |
| 廣    | 島         | ニイテエ哲學とフアジズム | 並四六製判 | 309 | 二二〇 | 耕進社  | 月一十 | ▲英國の文明批評家にして詩人たるカアベンタの自叙傳「吾が日吾が夢」の譯。      |
| 加    | 藤         | ニイテエ研究       | 洋四六布  | 365 | 二二〇 | 木村書店 | 月四  |                                           |

|    |     |              |       |     |     |      |     |                                           |
|----|-----|--------------|-------|-----|-----|------|-----|-------------------------------------------|
| 宮島 | 新三郎 | 吾が日吾が夢       | 洋四六布  | 326 | 二二〇 | 大勝館  | 月五  | ▲英國の文明批評家にして詩人たるカアベンタの自叙傳「吾が日吾が夢」の譯。      |
| 飯  | 田   | 浪漫主義の世界觀と藝術觀 | 並四六製判 | 227 | 二二〇 | 第一書房 | 月七  | ▲浪漫派を個性と聯關づけ實證的に總括せるヴァルツエルの「ドイッ浪漫主義」の譯。   |
| ア  | ド   | レニンの唯物論體系    | 並四六製判 | 584 | 二二〇 | ナウカ社 | 月九  | ▲緒言、ドルバツク、エルゲエシウス、マルクスの數章に收めた唯物論史入門。      |
| 藤  | 井   | 唯物論史入門       | 並四六製判 | 313 | 二二〇 | 改造社  | 月七  | ▲辯證法的、史的唯物論に關するレーニンの著作を網羅せるもの。            |
| 大  | 野   | 唯物論史入門       | 並四六製判 | 469 | 二二〇 | 白揚社  | 月五  | ▲辯證法的、史的唯物論に關するレーニンの著作を網羅せるもの。            |
| 西  | 白   | 辯證法的唯物論      | 洋四六布  | 346 | 二二〇 | 白揚社  | 月十  | ▲唯物論と觀念論、認識論としての辯證法、對立性の統一及び闘争の法則外二章。     |
| 直  | 井   | 辯證法的唯物論      | 並四六製判 | 347 | 二二〇 | ナウカ社 | 月九  | ▲緒言、ドルバツク、エルゲエシウス、マルクスの數章に收めた唯物論史入門。      |
| 廣  | 島   | 辯證法的唯物論      | 並四六製判 | 548 | 二二〇 | ナウカ社 | 月二十 | ▲唯物論と觀念論、認識論としての辯證法、對立性の統一及び闘争の法則外二章。     |
| 神  | 吉   | ヘーゲル隨筆集      | 並四六製判 | 288 | 二二〇 | 岩波書店 | 月九  | ▲眞理について、結婚と獨身生活について外五十七篇の生活と道德に關する隨筆集。    |
| 務  | 臺   | ヘーゲル研究       | 洋四六布  | 394 | 二二〇 | 弘文堂  | 月一十 | ▲哲學者ヘーゲルの傳記で、少年時代、ヘーゲルトヘルダリン外十二章。         |
| 甘  | 粕   | ヘーゲル傳        | 洋四六布  | 358 | 二二〇 | 三笠書房 | 月十  | ▲ヘーゲルの精神現象學と客觀的精神の研究、ヘーゲルの精神史的世界外一篇にて研究す。 |
| 宮  | 崎   | プラトン哲學       | 洋四六布  | 185 | 二二〇 | 學藝社  | 月七  | ▲序論、プラトンとソクラテス、イデア論、法律、數學外三章にてプラトン哲學を叙述す  |
| 吉  | 江   | 哲學者の賣        | 並四六製判 | 153 | 二二〇 | 新潮社  | 月九  | ▲沈黙、心霊の覺醒、宿命者、神祕道德、女性論、日常生活の悲劇外四篇。        |

東洋哲學・東洋思想

|         |              |          |       |      |    |                                          |
|---------|--------------|----------|-------|------|----|------------------------------------------|
| 木村 泰賢   | 印度哲學・佛教思想史   | 布面 357   | 二、八〇〇 | 誠光堂  | 一月 | ▲印度哲學思想史、印度佛教思想史の二篇に分けて研究せる印度哲學並に佛教思想史。  |
| 手塚 良道   | 儒教道徳に於ける君臣思想 | 布面 455   | 四、三〇〇 | 藤井書店 | 二月 | ▲孔子の儒教道徳に於ける君臣思想に就て述べた書で、古典と道徳、家族主義外八章。  |
| 五十澤二郎譯著 | 新譯 古典        | 並四六 313  | 一、〇〇〇 | 竹村書房 | 八月 | ▲論語及び孟子を譯し、語釋、註解等をも施せるもの。                |
| 五十澤二郎譯著 | 支那譯 古典       | 並四六 215  | 一、〇〇〇 | 竹村書房 | 八月 | ▲老子及び莊子を邦譯し、更に語釋、註解等をも施せるもの。             |
| 住谷 天來   | 孔子及孔子教       | 洋面四六 259 | 一、〇〇〇 | 新生堂  | 六月 | ▲孔子の事蹟、眞相、思想、並に孔子の教義を叙述せるもの。             |
| 北村 佳逸   | 孔子教と其反對者     | 洋面四六 239 | 一、〇〇〇 | 言海書房 | 六月 | ▲論語の中より孔子の説を抜き出し、それに反對者の學説を配す。           |
| 北村 佳逸   | 孔子教の戰爭理論     | 洋面四六 288 | 一、〇〇〇 | 南郊社  | 六月 | ▲戰爭の倫理性、勇の發生源、儒教の凱歌を聞け其他にて孔子教に於ける戰爭理論を述べ |
| 藤原 正譯註  | 子思           | 並四六 215  | 四、〇〇〇 | 岩波書店 | 五月 | ▲黃以周の輯解本を底本として孔子の孫子思の思想を述べた「子思子」を譯註す。    |
| 小和田 武紀  | 儒教概説         | 洋面四六 275 | 一、〇〇〇 | 弘道館  | 五月 | ▲スタール博士の記述を骨子として叙したもので、孔子、王陽明の哲學外六章。     |
| ブリュッセル著 | 儒教概説         | 洋面四六 164 | 一、〇〇〇 | 第一書房 | 五月 | ▲儒教の徳治主義の發生と展開と適應とを研究せる書で、徳治主義の起源と其の本質其他 |
| 後藤 末雄譯  | 儒教哲學解説       | 洋面四六 271 | 一、〇〇〇 | 言海書房 | 三月 | ▲儒教哲學を現代社會に連關させて新しく解説論述す。                |
| 北村 佳逸   | 諸子概説         | 洋面四六 251 | 一、〇〇〇 | 弘文堂  | 二月 | ▲儒家、墨家、名家外七章にて支那に於ける思想家の著作を概説す。附六國年表訂誤。  |

|       |          |          |       |      |    |                                          |
|-------|----------|----------|-------|------|----|------------------------------------------|
| 澤 斗岳  | 人間孔子     | 並四六 308  | 一、〇〇〇 | 學藝社  | 一月 | ▲人間孔子の遺徳を頌した書で、論語と孔子嵐の中に立てる受難の人外廿九章。     |
| 俊介譯註  | 孫子       | 並四六 218  | 四、〇〇〇 | 岩波書店 | 一月 | ▲宋の吉天保著孫子十家註及明の趙本學著孫子の書等を本として譯註を施す。      |
| 忠 孫   | 中庸講話     | 洋面四六 407 | 一、〇〇〇 | 章華社  | 三月 | ▲孫子の兵法を譯述せるもので、戰爭を思ふ必戰の地、蛇の眼外五十八篇。       |
| 一 中   | 中庸講話     | 洋面四六 326 | 一、〇〇〇 | 出版協會 | 六月 | ▲放逐講演「中庸講話」に加筆訂正し、更に中庸の原文に訓讀、解釋を施す。      |
| 稻上 四郎 | 經學大綱     | 洋面四六 131 | 一、〇〇〇 | 出版協會 | 三月 | ▲學典講義として本年の一月十一日より十九日まで放逐した「大學講話」の筆録。    |
| 秋月 胤繼 | 宋元學案人名索引 | 洋面四六 143 | 一、二〇〇 | 關書院  | 六月 | ▲宋元學案及び附傳に傳目を明示せるもの、人名を畫數により排列し、異名索引を附す。 |
| 字井 伯壽 | 攝大乘論研究   | 洋面四六 967 | 七、〇〇〇 | 岩波書店 | 七月 | ▲眞諦三藏譯の攝大乘論を研究し、著者の校訂せる攝大乘論を別冊に收む。       |
| 文部省   | 詩經諸話     | 並四六 179  | 八、〇〇〇 | 弘道館  | 五月 | ▲A Kより八回に亘つて放逐せる「詩經諸話」を譯めたもので、概説、大序圖外六篇。 |

|                                                                                                                                                                                                                                                   |            |                  |         |        |       |          |            |            |           |          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------------|---------|--------|-------|----------|------------|------------|-----------|----------|
| 伊藤 太郎                                                                                                                                                                                                                                             | 伊藤 太郎      | 石山 福治            | 秋月 胤繼   | 作 演吉   | 總 明   | 太 老      | 糸賀 國次郎     | 大 杉 章三郎    | 小 川 平吉    | 山 添 恒治郎  |
| 日本魂による論語解釋                                                                                                                                                                                                                                        | 日本魂による論語解釋 | 現代嚴禁 秘密繪本 豫言集 解説 | 陸 王 研 究 | 類別論語正解 | 老子の研究 | 老莊の思想と道教 | 海南朱子學發達の研究 | 改撰日本精神史 纂要 | 王道霸道と皇道政治 | 聖訓之大御國 振 |
| 和蘭菊                                                                                                                                                                                                                                               | 和蘭菊        | 和蘭菊              | 和蘭菊     | 和蘭菊    | 和蘭菊   | 和蘭菊      | 和蘭菊        | 和蘭菊        | 和蘭菊       | 和蘭菊      |
| 158                                                                                                                                                                                                                                               | 190        | 208              | 308     | 1032   | 802   | 392      | 572        | 136        | 412       | 346      |
| 一〇〇                                                                                                                                                                                                                                               | 一〇〇        | 二〇〇              | 三〇〇     | 三〇〇    | 二〇〇   | 二〇〇      | 二〇〇        | 二〇〇        | 二〇〇       | 二〇〇      |
| 論語研究會                                                                                                                                                                                                                                             | 論語研究會      | 第一書房             | 章華社     | 寶文館    | 春陽堂   | 關書院      | 成美堂        | 中文館        | 廣文堂       | 研聖社      |
| 月六                                                                                                                                                                                                                                                | 月二十        | 月七               | 月九      | 月五     | 月二十   | 月九       | 月一         | 月九         | 月八        | 月四       |
| ▲論語全篇、思想體系を組織せるもので、學而第一は「詩聖としての孔子」其他、校勘記、押韻考、異説考、分析考等を施す。▲支那古来の代表的豫言書即ち因識、讖書の類を集めて解説せるもの。▲宋の陸象山と明の王陽明の學術並に其後世に及ぼせる影響を闡明す。▲論語の原文を収め讀方、字義、解義、補説等を施して論語を類別解説せる書。▲老子の譯文を掲げ、それを解説して老子の思想を闡明す。▲老子の人物、思想、文獻、處世觀等を研究せるもの。▲老莊の思想及び道教を研究し、其の連絡を明かにし、遺漏を増補す。 |            |                  |         |        |       |          |            |            |           |          |

哲學(東洋哲學・東洋思想・日本哲學・日本思想)

日本哲學・日本思想

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |           |           |           |           |           |            |           |           |           |               |             |                |                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|---------------|-------------|----------------|-------------------|
| 石川 謙校訂                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 波邊 啓一     | 藤澤 親雄     | 戸 弘 柯三    | 鈴木 健一郎    | 大井 一哲     | 中 村 孝也     | 佐 藤 孝也    | 五 山 田 二   | 巨 理 章三郎   | 小 倉 鑑 爾       | 小林 大次郎      | 萩 原 一          | 宮 西 一             |
| カトリック大聖堂(イブツリ)の皇道教育原理としての皇道                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 近代政治思想と皇道 | 近代政治思想と皇道 | 近代日本哲學史   | 建國の哲學     | 建國由來と皇道政治 | 現代思想の歴史的批判 | 言 志 四 錄   | 言 志 四 錄   | 皇 國 日 本   | 皇 國 日 本 を 説 く | 皇 道 日 本 精 神 | 皇 國 の 行 く べき 道 | 國 史 を 貫 く 日 本 精 神 |
| 並 菊 半 製 判                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 並 菊 半 製 判 | 並 菊 半 製 判 | 並 菊 半 製 判 | 並 菊 半 製 判 | 並 菊 半 製 判 | 並 菊 半 製 判  | 並 菊 半 製 判 | 並 菊 半 製 判 | 並 菊 半 製 判 | 並 菊 半 製 判     | 並 菊 半 製 判   | 並 菊 半 製 判      | 並 菊 半 製 判         |
| 264                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 67        | 140       | 330       | 328       | 166       | 82         | 444       | 236       | 281       | 281           | 488         | 190            | 231               |
| 四〇                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 四〇        | 七〇        | 一〇〇       | 一〇〇       | 一〇〇       | 一〇〇        | 一〇〇       | 一〇〇       | 一〇〇       | 一〇〇           | 一〇〇         | 一〇〇            | 一〇〇               |
| 岩波書店                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 岩波書店      | 青年教育      | 青年教育      | ナウカ社      | 出版部       | 問題研究所      | 青年教育      | 岩波書店      | 目黒書店      | 二松堂           | 森山書店        | 日黒書店           | 新生閣               |
| 月二                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 月六        | 月三        | 月八        | 月五        | 月五        | 月一         | 月六        | 月六        | 月一十       | 月一十           | 月五          | 月八             | 月三                |
| ▲鳩翁道話、續鳩翁道話、續々鳩翁道話、鳩翁道話拾遺の四部を校訂す。▲教育原理としての皇道論述、附録皇道運動に於ける理想的動因と現實的動因との契合▲自由主義政治の没落と皇道の立場より新興政治思想を觀察せる書で、自由主義外三章の發達に就て論述す。▲哲學の移植を中心に我國の明治以後の哲學▲古事記に依り神代を研究し、我が固有の宗教問題を説き、神社の起源其他を解説す。▲我國建國の由來及び皇道精神を平易に説いた書で、建國由來と其の精神外九章。▲思想問題講習會に於ける講演速記で、現代思想の歴史的解析、神國思想外七篇。▲言志録、言志後録、言志晩録、言志遺録を譯註す。▲最も根本的に重要な我が國體を明瞭ならしめた書で、皇國日本の特殊性外六篇。▲皇國日本の本質を平明に説いたもので、緒言、天皇と皇國、臣民と軍人外四篇。▲皇道日本精神を神典、古事記、日本書紀、萬葉集等を通じて究明す。▲講演「皇國現下の諸問題と將來行くべき道」の筆録で、現實の皇國―現下の諸問題外四章を研究的方面と情操的方面に於ける日本精神を研究せる書で、日本精神の把握外八篇。 |           |           |           |           |           |            |           |           |           |               |             |                |                   |

哲學(日本哲學・日本思想)

|       |              |      |     |     |     |        |     |                                                           |
|-------|--------------|------|-----|-----|-----|--------|-----|-----------------------------------------------------------|
| 今泉 定助 | 國體原理         | 洋函菊  | 布入判 | 259 | 二〇〇 | 出版部    | 月二十 | ▲國體原理に關する講演速記を収めたもので三大神勅論、絕對國家論外四章。                       |
| 金井 眞澄 | 國體明徴講話資料     | 並菊   | 製判  | 113 | 六〇  | 協一會    | 月七  | ▲皇國日本の國體の眞意を道徳、倫理に重點を置いて明徴せるもの。                           |
| 石川 金吾 | 國體明徴と臣民の正念   | 洋函菊  | 革入判 | 206 | 一八〇 | 日本精神會  | 月九  | ▲國體明徴と臣民の正念に役立つ古文獻資料を説き、洋學憲法を検討し明徴資料を敷衍すし給ふ天皇を戴く我日本國體の解釋。 |
| 松本 重敏 | 國體明徴讀本       | 並四六  | 製判  | 139 | 四〇  | 世界公論社  | 月七  | ▲二千五百有餘年連続として統治權を總攬し給ふ天皇を戴く我日本國體の解釋。                      |
| 玉川 順造 | 國道           | 上四六  | 製判  | 208 | 一五〇 | 弘文堂    | 月八  | ▲大和魂及び日本精神に就て論述したもので國道の由來、日本の武士道其他。                       |
| 作田 莊一 | 國民科學の成立      | 洋函菊  | 布入判 | 305 | 二一〇 | 出版協送會  | 月七  | ▲現代の思想問題、國民科學の使命外二篇、國民科學の成立、日本國民科學の使命外二篇。                 |
| 廣瀬 豐  | 松陰先生規七則講話    | 洋四六  | 布判  | 149 | 一〇〇 | 日出版協送會 | 月七  | ▲放送講演「松陰先生規七則講話」及び附録として士規七則の由來外二章を収む。                     |
| 藤井 章  | 實踐道德概論       | 布函四六 | 製入判 | 329 | 二一〇 | 明治圖書社  | 月二  | ▲パウゼン、ホツブハウス、マツケンヂー、バインズ等の實踐道德の所論を書き改む。                   |
| 石川 謙  | 心學講話         | 洋四六  | 布判  | 273 | 一〇〇 | 章華社    | 月五  | ▲現代思想と生活に立脚して心學の本質を述べたもので、心學の話心學講話外一篇。                    |
| 石川 謙  | 心學と其の教化      | 並四六  | 製判  | 40  | 二二〇 | 育社協會   | 月五  | ▲心學の本質、心學教化の感化力外一篇。                                       |
| 田邊 龍雄 | 心學道の話        | 布函四六 | 製入判 | 419 | 二〇〇 | 協和書院   | 月十  | ▲奥田頼杖の「心學道の話」を解題し、更に校訂せるもの。                               |
| 奥田 頼杖 | 心學道の話        | 布函四六 | 製入判 | 419 | 二〇〇 | 協和書院   | 月十  | ▲皮相浮薄なる物質文明より現代人を救ひ流轉の大勢に魁けすべき「新士道」を提唱す。                  |
| 齋藤 正義 | 新士道          | 並四六  | 製判  | 97  | 二〇〇 | 精神文化會  | 月七  | ▲安大無邊なる日本の神意の中へ世界は歸ると云ふ事を論述す。                             |
| 村山 德作 | 宇宙の世界は日ノ本に歸る | 布函菊  | 製入判 | 100 | 六〇  | 五色屋書房  | 月七  |                                                           |

|          |           |      |     |     |     |       |     |                                                                         |
|----------|-----------|------|-----|-----|-----|-------|-----|-------------------------------------------------------------------------|
| 和辻 哲郎    | 續日本精神史研究  | 洋函菊  | 布入判 | 461 | 二二〇 | 岩波書店  | 月九  | ▲日本精神、日本に於ける佛教思想の移植外四篇の日本精神史に關する研究を収む。                                  |
| 森 信三     | 孝の眞理      | 洋函四六 | 布入判 | 256 | 二〇〇 | 日黒書店  | 月三  | ▲忠孝の眞理の本質を必然認識論形而上學及歴史哲學の論究によつて究明す。                                     |
| 北村 澤吉    | 勸語信仰の體験   | 洋函四六 | 布入判 | 215 | 一五〇 | 三友社   | 月十  | ▲教育勸語、神勅等の本質、本義を闡明し、西村泊翁と井上梧陰の儒學を記述す。                                   |
| 瀧川 宗勝    | 勸語信仰の體験   | 上四六  | 製判  | 448 | 二二〇 | 廣文堂   | 月九  | ▲勸語信仰に入るまで、既成宗教に對する私の體験、祭祀に關する諸問題の三篇。                                   |
| 山下 清一    | 天皇        | 上四六  | 製判  | 344 | 二〇〇 | 大倉廣文堂 | 月七  | ▲宇宙の神祕、犧牲、協同、進化の三元則、神皇民一體一如の國體日本の使命を闡明す。                                |
| 石田 梅巖    | 都鄙問答      | 並菊   | 製判  | 139 | 二二〇 | 岩波書店  | 月二  | ▲心學道話の開祖たる石田梅巖の「都鄙問答」を校訂す。                                              |
| 足立 栗岡    | 都鄙問答      | 並菊   | 製判  | 139 | 二二〇 | 岩波書店  | 月二  | ▲道徳に關する國家政策を組織的に論述せる書で、序論、本論(知の問題外三篇)の二篇に「道二翁道話」「道二翁道話續編」「道二翁前調」に校訂をなす。 |
| 佐田 弘治郎   | 道徳政策學大綱   | 洋函菊  | 布入判 | 233 | 一四〇 | 佐田家   | 月七  | ▲現代の日本主義と自由主義を様々な角度から併し終局に於て唯物論の觀點より検討す。                                |
| 石川 謙     | 道二翁道話     | 並菊   | 製判  | 352 | 二〇〇 | 岩波書店  | 月一十 | ▲皇國建國の由來眞相本質本義及び凡ゆる資料、史實を検討考察して我國體を闡明す。                                 |
| 戸坂 潤     | 日本イデオロギ一論 | 並四六  | 製判  | 350 | 二〇〇 | 白揚社   | 月七  | ▲我が國體の歴史的回顧、我が國體の本質、我が國民の國家觀念の基調外三章。                                    |
| 千村 長治郎   | 日本建國史考    | 洋函菊  | 布入判 | 222 | 一八〇 | 東白堂   | 月八  | ▲天壤無窮の神勅と我が國體の精華(三上參次)天皇政治論の本旨(村瀨武比古)其他。                                |
| 牧 健二     | 日本國體への反省  | 並四六  | 製判  | 82  | 二〇〇 | 青年教育會 | 月三  | ▲日本國民性と教育(入澤宗壽)日本神話の特質(溝口駒造)外十二篇。                                       |
| 日本文化研究會編 | 日本國體論     | 並菊   | 製入判 | 312 | 二二〇 | 東洋書院  | 月八  |                                                                         |
| 日本文化研究會編 | 日本國體論     | 並菊   | 製入判 | 312 | 二二〇 | 東洋書院  | 月八  |                                                                         |
| 日本文化研究會編 | 日本國體論     | 並菊   | 製入判 | 310 | 二二〇 | 東洋書院  | 月八  |                                                                         |

|                                      |                                      |                                          |                                   |                                 |                                          |                                     |                       |                                            |                                       |                                        |                                 |                                      |        |        |
|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------|--------------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|--------|--------|
| 加藤 玄智                                | 柴田 隆                                 | 小倉 鑑爾                                    | 鹽原 榮民之二                           | 中野 八十八                          | 小山 松吉                                    | 池岡 直孝                               | 西村 茂樹                 | 吉田 篤次郎                                     | 渥美 勝                                  | 奧田 寛太郎                                 | 日本文化研究會編                        | 清原 貞雄                                | 新渡戸 貞雄 | 石井 菊次郎 |
| 日本書紀講話                               | 青年に日本精神                              | 平易な日本精神解説                                | 日本精神史談                            | 日本精神と國民訓練                       | 日本精神讀本                                   | 日本精神の實現                             | 日本道徳論                 | 日本の生命                                      | 日本國體論                                 | 訂改比較國體論                                | 日本精神史(4)                        | 日本平安朝國民の精神生活                         | 思想史本   | 近世思想史  |
| 上四六製判                                | 洋四六布判                                | 洋四六布判                                    | 洋四六製判                             | 洋四六布判                           | 上製判                                      | 洋四六製判                               | 並製判                   | 並製判                                        | 洋四六製判                                 | 洋四六製判                                  | 洋四六製判                           | 洋四六製判                                | 洋四六製判  | 洋四六製判  |
| 308                                  | 257                                  | 466                                      | 249                               | 472                             | 303                                      | 331                                 | 121                   | 333                                        | 234                                   | 234                                    | 312                             | 311                                  | 300    | 300    |
| 一〇〇                                  | 一〇〇                                  | 一〇〇                                      | 八〇                                | 三〇〇                             | 一〇〇                                      | 一〇〇                                 | 二〇〇                   | 二〇〇                                        | 二〇〇                                   | 二〇〇                                    | 一〇〇                             | 一〇〇                                  | 一〇〇    | 一〇〇    |
| 章華社                                  | 櫻園書院                                 | 二松堂                                      | 春秋社                               | 同文館                             | 日本評論社                                    | 章華社                                 | 岩波書店                  | 日教本社                                       | 江書院                                   | 東洋書院                                   | 東洋書院                            | 中文館                                  | 慶文堂    | 慶文堂    |
| 月七                                   | 月十                                   | 月三                                       | 月二十                               | 月六                              | 月一                                       | 月一                                  | 月一                    | 月一                                         | 月一                                    | 月一                                     | 月一                              | 月一                                   | 月一     | 月一     |
| ▲我國體を闡明するに必須な事件を古事記と比較して日本書紀の特色を講明す。 | ▲やさしく説いた日本精神論で、日本精神、青年にいふ、天照大御神外廿五章。 | ▲日本精神の神髓、皇道の本義、日本國體の精華等を解説せる書で、日本の神話外八章。 | ▲日本精神の搖籃、儒教の傳來、平安時代外八章にて日本精神史を語る。 | ▲列國の眼に映ずる日本及び日本精神觀と國民訓練外四篇にて論述。 | ▲緒言、外來思想とその克服、神話の解説、日本精神、結語の五章にて日本精神を説く。 | ▲日本精神の歸趨及び現代的意義を明示し、更に今後に於ける實現を論究す。 | ▲西村茂樹の「日本道徳論」を校訂せるもの。 | ▲「桃太郎」の旗印を擔いで街頭に獅子吼せる皇道の行者渥美勝の行狀、思想、信仰を語る。 | ▲比較國體論の大意を記述したもので、緒論、國體、國民性、國家の成立外八章。 | ▲武士道(吉田靜致)鎌倉時代に於ける武士道の本質概観(佐々木一義)外十三篇。 | ▲平安朝時代の思想的傾向を叙述したもので平安朝時代初期外二篇。 | ▲新渡戸氏の名著「武士道」を邦譯し、武士道と北條時宗、石井菊次郎を附す。 |        |        |

|                                 |                                      |                                         |                                         |                                     |                                         |                                         |                                       |                                           |                                       |                                       |       |       |
|---------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|-------|-------|
| 小野 祖教                           | 河野 省三                                | 高須 芳次郎                                  | 日本文化研究會編                                | 永野 芳夫                               | 鈴木 權三郎                                  | 文野 芳夫                                   | 應用心理研究會編                              | 應用心理研究會編                                  | 應用心理研究會編                              | 應用心理研究會編                              | 菊地 甚一 | 丸山 良二 |
| 純粋論理學                           | 我が國體と日本精神                            | 水戸學の新研究                                 | 水戸學精神                                   | 論理學概論                               | 大(ゲルム)論理學                               | 論理學概論                                   | 應用心理研究會編                              | 應用心理研究會編                                  | 應用心理研究會編                              | 現代應用心理學概観                             | 心神喪失論 | 心理學   |
| 布四六製判                           | 布四六製判                                | 洋四六布判                                   | 並製判                                     | 洋四六製判                               | 洋四六製判                                   | 洋四六製判                                   | 洋四六製判                                 | 洋四六製判                                     | 洋四六製判                                 | 洋四六製判                                 | 洋四六製判 | 洋四六製判 |
| 346                             | 242                                  | 315                                     | 331                                     | 538                                 | 437                                     | 431                                     | 168                                   | 212                                       | 458                                   | 512                                   | 431   | 431   |
| 二〇〇                             | 一〇〇                                  | 二〇〇                                     | 二〇〇                                     | 二〇〇                                 | 二〇〇                                     | 二〇〇                                     | 二〇〇                                   | 二〇〇                                       | 二〇〇                                   | 二〇〇                                   | 二〇〇   | 二〇〇   |
| 昭和書房                            | 青年教育會                                | 明治書院                                    | 東洋書院                                    | 東洋出版社                               | 岩波書店                                    | 東洋出版社                                   | 中文館                                   | 中文館                                       | 中文館                                   | 三省堂                                   | 藤井書店  | 藤井書店  |
| 月五                              | 月二十                                  | 月七                                      | 月四                                      | 月四                                  | 月二十                                     | 月四                                      | 月九                                    | 月四                                        | 月一十                                   | 月四                                    | 月一    | 月一    |
| ▲水戸學一(一)一(深作安文)水戸義公傳(菊池謙二)外十四篇。 | ▲水戸學の内容を水戸史學、水戸精神學に分ち、その由来、本質其他を闡明す。 | ▲我が國體及び日本精神に就ての講話速記で國體精神の高調と日本精神の自覺外六章。 | ▲緒論、判斷論、概念論、思维的法則、推理論、推論及び方等より成る論理學の講義。 | ▲中卷の本質論で、自己自身に於ける反省としての本質現象、現實性の三編。 | ▲序の巻、演繹論理學の卷、歸納論理學の卷、認識論的論理學の卷の四篇にて叙述す。 | ▲騒音の作業能率に及ぼす影響に就いて(松本洋)裁縫教授の研究(松本順之)其他。 | ▲高温湿度乃至氣流の人體及びその心身作業能率に及ぼす影響(高峰博)外四篇。 | ▲労働による眼調節機能の變化に就いて(高橋春藏)我國職業指導の現狀(鈴木信)其他。 | ▲精神病學より心理喪失に就て論述せる書で指南力喪失、觀念聯合の障礙外六篇。 | ▲心理學の任務と研究法、神經系統、兒童の發達、衝動外九章にて心理學を述ぶ。 |       |       |

|                      |                                         |                                    |                                    |                                  |                                       |                                                               |                                  |                                        |                                           |
|----------------------|-----------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------|
| 原トル<br>久一<br>部著<br>著 | 木下<br>野一<br>雄著                          | 文<br>學<br>士<br>著                   | 大<br>西<br>昇<br>著                   | 高<br>山<br>晴<br>洲<br>著            | 大<br>槻<br>憲<br>二<br>著                 | 大<br>槻<br>憲<br>二<br>著                                         | 城<br>戸<br>橋<br>太<br>郎<br>編       | 黒<br>田<br>亮<br>著                       | 京<br>大<br>文<br>部<br>大<br>學<br>教<br>授<br>著 |
| 人生論・人生観              | 新倫理學概論                                  | 倫理學                                | 美學及藝術學史                            | 心理學人を知る法                         | 精神分析雜稿                                | 精神分析概論                                                        | 心理學論文集                           | 心理學概論                                  | 心理學・精神分析・美學・藝術哲學・倫理學・人生論・人生観              |
| 布<br>四<br>六<br>判     | 洋<br>四<br>六<br>判                        | 洋<br>四<br>六<br>判                   | 洋<br>四<br>六<br>判                   | 上<br>四<br>六<br>判                 | 並<br>四<br>六<br>判                      | 並<br>四<br>六<br>判                                              | 並<br>四<br>六<br>判                 | 洋<br>四<br>六<br>判                       | 洋<br>四<br>六<br>判                          |
| 1021                 | 162                                     | 221                                | 300                                | 358                              | 301                                   | 149                                                           | 559                              | 525                                    | 525                                       |
| 三<br>三<br>三          | 一<br>三<br>〇                             | 一<br>二<br>〇                        | 二<br>二<br>〇                        | 一<br>〇<br>〇                      | 二<br>〇<br>〇                           | 〇<br>〇                                                        | 三<br>〇<br>〇                      | 三<br>三<br>〇                            | 三<br>三<br>〇                               |
| 岩波書店                 | 日<br>本<br>書<br>院                        | 日<br>本<br>書<br>院                   | 出<br>版<br>社                        | 教<br>材<br>社                      | 岡<br>倉<br>書<br>房                      | 東<br>京<br>精<br>神<br>分<br>析<br>學<br>研<br>究<br>所<br>出<br>版<br>部 | 岩<br>波<br>書<br>店                 | 三<br>省<br>堂                            | 三<br>省<br>堂                               |
| 月五                   | 月五                                      | 月六                                 | 月四                                 | 月二十                              | 月三                                    | 月七                                                            | 月二十                              | 月三                                     | 月三                                        |
| ▲下巻は七月の巻より十二月の巻までを収む | ▲凡ゆる身上相談に解答を與へたもので、父の亂行に悩む家庭、青少年の悩み外十三篇 | ▲倫理學の概論で、生活と倫理、本務と道德法則外五章、附カント哲學概論 | ▲希臘以來西歐の地に發展した美及び藝術に就ての學術的研究の跡を叙述す | ▲精神分析學の一般を説明せる書で、精神分析とは何か外五章、増訂版 | ▲精神分析に關する隨筆集で、戀愛と性慾、男ごころ、女ごころ、人物月旦外三篇 | ▲心理學者に眞に人を知る法を述べたもので先づ人を知れ、人の操縦法外二章                           | ▲變容現象に就て(阿部滿洲)再犯者についての考察(石井俊瑞)其他 | ▲近代に於ける經驗心理學の發展、心理學の對象、感覺外十三章にて心理學を論述す | ▲變容現象に就て(阿部滿洲)再犯者についての考察(石井俊瑞)其他          |

哲學(心理學・精神分析・美學・藝術哲學・倫理學・人生論・人生観)

|                                         |                                     |                                       |                                     |                                          |                                        |                                   |                                          |                                      |                                       |                  |                                  |                               |
|-----------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| 石<br>井<br>滿<br>家<br>著                   | 理<br>想<br>社<br>編                    | 由<br>良<br>哲<br>次<br>著                 | 本<br>莊<br>可<br>宗<br>著               | 帆<br>足<br>理<br>一<br>郎<br>著               | 武<br>者<br>小<br>路<br>實<br>篤<br>著        | ブ<br>ラ<br>ア<br>ス<br>著             | 岡<br>島<br>龜<br>次<br>郎<br>著               | 石<br>丸<br>梧<br>平<br>著                | 本<br>莊<br>可<br>宗<br>著                 | 處世哲學・修養          | 村<br>上<br>珊<br>磨<br>維<br>著       | 横<br>井<br>川<br>南<br>一<br>著    |
| 人生觀の哲學                                  | 人生觀の哲學                              | 人生觀の問題                                | 人生の情熱                               | 人生の目的                                    | 人類の意志に就て                               | 生の神祕                              | 生命の舞踏                                    | 青春人生問答                               | 下惑の人生觀                                | 處世哲學・修養          | 上に立つ人                            | 運命の修理                         |
| 洋<br>四<br>六<br>判                        | 洋<br>四<br>六<br>判                    | 洋<br>四<br>六<br>判                      | 洋<br>四<br>六<br>判                    | 洋<br>四<br>六<br>判                         | 洋<br>四<br>六<br>判                       | 洋<br>四<br>六<br>判                  | 洋<br>四<br>六<br>判                         | 洋<br>四<br>六<br>判                     | 洋<br>四<br>六<br>判                      | 洋<br>四<br>六<br>判 | 洋<br>四<br>六<br>判                 | 洋<br>四<br>六<br>判              |
| 349                                     | 214                                 | 242                                   | 373                                 | 446                                      | 208                                    | 294                               | 423                                      | 372                                  | 367                                   | 255              | 127                              |                               |
| 一<br>五                                  | 一<br>〇                              | 一<br>〇                                | 一<br>〇                              | 一<br>〇                                   | 一<br>〇                                 | 一<br>〇                            | 一<br>〇                                   | 一<br>〇                               | 一<br>〇                                | 一<br>〇           | 一<br>〇                           | 一<br>〇                        |
| 關<br>谷<br>書<br>店                        | 理<br>想<br>社                         | 目<br>黒<br>書<br>店                      | 千<br>倉<br>書<br>房                    | 新<br>生<br>堂                              | 岩<br>波<br>書<br>店                       | 大<br>勝<br>館                       | 大<br>勝<br>館                              | 千<br>倉<br>書<br>房                     | 千<br>倉<br>書<br>房                      | 富<br>山<br>房      | 友<br>生<br>書<br>院                 |                               |
| 月七                                      | 月二                                  | 月九                                    | 月六                                  | 月三                                       | 月七                                     | 月六                                | 月六                                       | 月十                                   | 月二十                                   | 月十               | 月二                               |                               |
| ▲凡ゆる身上相談に解答を與へたもので、父の亂行に悩む家庭、青少年の悩み外十三篇 | ▲人生觀の基礎概念としての人間存在の有限性について(高橋里美)外十七篇 | ▲生活と人生觀、人生觀の類型、唯物的人生觀、辯證論的人生觀外一篇にて論述す | ▲運命に對する智慧並に自己の人生を生甲斐あらしめる爲めの心の座標を示す | ▲創造的人格主義の指導原理より政治其他の社會現象を批判し自由主義、人道主義を示す | ▲人々が如何に生くべきかの問題に就て人類の意志が我等を内部から導く事實を示す | ▲生の意義と目的を述べたもので、何か(身體の神祕)天の神祕)外二篇 | ▲エリス氏の人生に對する態度を述べた書で舞踏の藝術、思索の藝術、述作の藝術外四章 | ▲人生問答の思想的背景を述べ、青春時代に於ける人生の悩みを問答體にて説く | ▲不自由不便が「不安」による苦惱の問題に就て生の自由と幸福を説明す。普及版 | ▲處世哲學・修養         | ▲出来るだけ卑近の事例と説述とを用ひて上に立つ人の道を語つたもの | ▲運命を切り開く道を述べたもので、わが追憶、父の遺稿の二篇 |

哲學(人生論・人生觀・處世哲學・修養)

|       |           |     |     |     |     |         |     |                                           |
|-------|-----------|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-------------------------------------------|
| 坪野平太郎 | 快馬一鞭      | 上四六 | 製入判 | 325 | 二〇〇 | 東京實業社   | 月十  | ▲故南陽坪野平太郎氏の隨想録で「快馬一鞭」及び「叱牛録」よりの二者を收む。     |
| 岩崎高敏  | 學校と父母の教訓  | 洋四六 | 布入判 | 362 | 一三〇 | 二松堂     | 月十  | ▲明治維新以來の偉人の苦學、師の教訓及び父母の教育振りの實際を述べ逸事を紹介す。  |
| 谷孫六   | 逆説        | 上四六 | 製判  | 307 | 一三〇 | 千倉書房    | 月八  | ▲遺産の分配、活路の發見、誤つた勤務先、救はれた運命外十章にて處世術を語る。    |
| 吉田靜致  | 現代社會と人格生活 | 洋四六 | 布入判 | 239 | 一六〇 | 目黒書店    | 月六  | ▲人格の特性(自覺的生命外十一章・現代社會批判(罪と罰外三十二章))。       |
| 加藤咄堂  | 現代修養讀本    | 布四六 | 製判  | 227 | 一〇〇 | 學而書院    | 月三  | ▲現代人の覺醒すべき點を重視し、古今一貫の大道を提示せる書で、修養の根本義外五章。 |
| 西川雪峰  | 孝の修養      | 上四六 | 製判  | 255 | 一〇〇 | 文友堂     | 月十  | ▲孝道の眞髓に就て述べ現代孝子の德行を掲げたもので、日本精神と孝の修養外九章。   |
| 江原小彌太 | 心の置どころ    | 上四六 | 製判  | 348 | 一三〇 | 千倉書房    | 月七  | ▲著者の體験をもとに人生の何物であるかを物語つた書で、心の働らき外五編。      |
| 井上如眞  | 人生最後の勝利   | 洋四六 | 布入判 | 759 | 一八〇 | 模範圖書刊行會 | 月二十 | ▲著者の體験に即して倫理觀、社會觀を記述した書で、立志と修養、情義外八編。     |
| 尾崎行雄  | 處世記       | 上四六 | 製入判 | 367 | 一三〇 | 千倉書房    | 月三  | ▲今日までの政治生活より感得せる著者の人生觀、處世の態度を記述す。         |
| 山崎延吉  | 親愛なる青年へ   | 洋四六 | 布入判 | 201 | 一三〇 | 泰文館     | 月一  | ▲人の眞心、信念、臆病の矯正、死地を踐む個性の尊重、農村の現狀其他にて説く。    |
| 小倉國芳  | 眞人の言葉     | 布四六 | 製入判 | 437 | 一六〇 | 出玉川學部   | 月七  | ▲古今東西に亘る眞人の言葉を收めた金言名句集で、個人篇、家庭篇外三編。       |
| 谷口雅春  | 新生活への出發   | 洋四六 | 布入判 | 410 | 一〇〇 | 生命藝術社   | 月四  | ▲家庭争議の解決を語る、基督の偉さと奈翁の偉さ外九章にて説ける人生問答篇。     |
| 姉崎正風  | 人生逸話      | 上四六 | 製入判 | 284 | 一〇〇 | 厚生閣     | 月二  | ▲古今の偉人傑士の逸話を蒐集せるもので、荻生徂徠、松本順、柳橋綱子、豊臣秀吉其他  |

|       |            |     |     |     |     |       |     |                                            |
|-------|------------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|--------------------------------------------|
| 由井持水  | 人生問答       | 上四六 | 製入判 | 316 | 一〇〇 | 日實業社  | 月八  | ▲嘗て實業之日本誌上に連載した伊藤道海師の人生問答を纏めたもの。           |
| 野間清治  | 世間雜話       | 上四六 | 製判  | 257 | 一三〇 | 講談社   | 月一十 | ▲手近な事、些細な事に對する所感を述べたもので、面白く思つた話、人情の弱點其他    |
| 西川光二郎 | 生活道德實話     | 布四六 | 製入判 | 379 | 一三〇 | 北文館   | 月一  | ▲修養の第一歩を説明せる書で、精神修養必要、道とは何です、習慣、健康の基礎其他    |
| 石山賢吉  | 先人に學ぶ      | 上四六 | 製判  | 418 | 一三〇 | 千倉書房  | 月六  | ▲十七歳より月給取りとなつた著者が先人の長所に就て學んだ記述で、先人に學ぶ外四編   |
| 谷孫六   | 着眼の天才      | 上四六 | 製入判 | 342 | 一三〇 | 千倉書房  | 月一十 | ▲先見の明、天命は待つか作るか、勘の働きの心を讀む外七章にて目の着所に就て述べ    |
| 加藤咄堂  | 讀書と修養      | 上四六 | 製入判 | 248 | 一〇〇 | 春潮社   | 月一十 | ▲讀書を中心として修養を説いた書で、讀書の考察、讀書と自修、修養篇外一編。      |
| 井上角五郎 | 二宮尊徳の人格と思想 | 布四六 | 製入判 | 460 | 一四〇 | 國學院工  | 月二十 | ▲現代に生きる二宮尊徳翁の人格と思想を描く。人其他にて二宮尊徳翁の人格と思想を描く。 |
| 上野陽一  | 人を説く       | 上四六 | 製判  | 352 | 一〇〇 | 千倉書房  | 月二十 | ▲心理、生理、哲學、宗教等あらゆる方面から人を説く法、人を動かす力を述べ、著及版   |
| 丸岡英夫  | 武士道教本      | 上四六 | 製判  | 286 | 一〇〇 | 言海書房  | 月五  | ▲武士道の復活(平泉澄)土規七則(吉田松陰)武教小學(山鹿素行)外九篇。       |
| 佐々木良雄 | 強き方法       | 上四六 | 製判  | 360 | 一三〇 | 千倉書房  | 月一十 | ▲能率の原理、己れの正しい操縦法、完成法等を示し社會がどんな人物を求むるかを語る   |
| 上野陽一  | 働きの方法      | 上四六 | 製判  | 52  | 一三〇 | 現實處   | 月一十 | ▲人を使ふ法と人に使はれる法を記述したもので、支配人とは何か其他。          |
| 江原小彌太 | 凡人と非凡人     | 上四六 | 製判  | 402 | 一三〇 | 千倉書房  | 月十  | ▲凡人である吾々が如何にすれば世に勝ち、人生を全うするかの方法を述べ。        |
| 清水重遠  | 明治天皇御製謹話   | 上四六 | 製判  | 31  | 一三〇 | 育社協會教 | 月三  | ▲皇祖皇宗の御遺訓(清水澄)明治天皇の御孝徳(穂積重遠)の二篇。           |



|       |        |       |    |                                                            |
|-------|--------|-------|----|------------------------------------------------------------|
| 蘆谷重常譯 | 幼學綱要   | 厚生閣   | 五月 | ▲幼學綱要の原文に口譯を施し、更に例話を掲げたもの。                                 |
| 安文    | 幼學綱要講話 | 青年教育會 | 五月 | ▲ラヂオ放送により講演せる「幼學綱要講話」を纏めたもの。                               |
| 鳥影盟   | 生命の真相  | 日本書房  | 七月 | ▲靈魂の問題を日常生活に直接結びつけて述べた書で、生きてゐる意味、死の神秘其他の理論を以て科學的に靈界の實在を説く。 |

性想學・占術

|       |            |       |    |                                           |
|-------|------------|-------|----|-------------------------------------------|
| 口村靈山  | 運命の創造      | 言海書房  | 六月 | ▲人生に於ける開運の秘訣を述べたもので、人生と運命、運命の第一歩其他。       |
| 加藤大岳  | 易學通變       | 紀元書房  | 六月 | ▲易占の使命と易占術の全般に亘つて其の機能の明かにした書で、易占方術の維新其他。  |
| 遠藤隆吉  | 易學入門       | 言海書房  | 十月 | ▲易學を通俗的に述べたもので、易の話、經文講義、占の話、易者の道德の四篇。     |
| 藤村與六  | 易と人生       | 關書院   | 三月 | ▲易が人生生活に切實に關係する所以を述べた書で、序論、本論（通義外十九篇）外二篇。 |
| 山本精一郎 | 開運の神秘と其の實例 | 朝日書房  | 三月 | ▲成功の原因、失敗の原因に就て運命の神秘を實例に則して解説す。           |
| 石龍子   | 觀相學大意      | 新誠光文社 | 十月 | ▲東洋に於ける觀相學の由來、顔面に就て、顔面に於ける部位の例其他にて觀相學を語る。 |
| 初音郁子  | 氣學の神秘      | 二松堂   | 八月 | ▲萬民の生活支配を推理裁斷出来る大宇宙の氣象の支配作用の威力即ち氣學の神秘を説く。 |

|         |          |       |     |                                           |
|---------|----------|-------|-----|-------------------------------------------|
| 長谷川滔浦   | 個性と指紋    | 育社會教  | 九月  | ▲指紋と其の二性能、指紋活用の沿革、指紋による個人識別法外三篇。          |
| 加藤大岳    | 柱推命學     | 紀元書房  | 十月  | ▲運命學たる四柱推命學を解説せる書で、推命學概説、推命術の單式斷列外三篇。     |
| 姓名研究會編著 | 實用姓名學    | 正名閣   | 十一月 | ▲姓名學の起原、開運の嘉儀、姓名學批判、夫婦名の因縁其他にて姓名學を説く。     |
| 田中茂公    | 住宅と家相の研究 | 教育圖書社 | 十二月 | ▲住宅と家相との關係を述べたもので、住宅と意思、地相と家相の中心調和外八篇。    |
| 鈴木亨齋    | 相講義      | 言海書房  | 七月  | ▲林流の相に就て述べたもので、掌紋篇一は掌紋の解釋、三才編、三日紋其他。      |
| 鈴木亨齋    | 相講義      | 言海書房  | 九月  | ▲掌紋篇二は品負紋、掌中血色、豫妻紋、克害紋、三紋説明其他。            |
| 西勝造     | 新相解      | 實業社   | 九月  | ▲手相の理論と實際を説明せる書で、新相學の提唱、觀掌の方法外十七篇。        |
| 永島眞雄    | 相の科學     | 春秋社   | 三月  | ▲手相に就て記述せるもので、手相の一般原則、壽命の長短を知る方其他、改訂版。    |
| 櫻井大路    | 相の科學     | 春秋社   | 四月  | ▲人相に就て説明せるもので、相法由來、相法細論、柳庄編、秘傳十字面圖其他、改訂版。 |
| 中村文聰    | 人相の新研究   | 紀元書房  | 十一月 | ▲最も進歩的な科學的基礎と經驗によつて述べた人相の研究書で、性格篇其他。      |

宗教(宗教學・宗教一般)

| 著者       | 書名                | 版形  | 訂題  | 頁數  | 定額  | 料價  | 發行所     | 月行發  | 内容大意                                                                              |
|----------|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|---------|------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 谷口雅春     | いのちのはやて           | 洋四六 | 布入判 | 408 | 二〇〇 | 一〇〇 | 藝生 術命社  | 五月   | ▲自己の顔死の病ひが救はれた事實を正直平明に述べたもので、人間は神の子其他。                                            |
| 安藤藤昌丸編   | 本定清澤滿之文集          | 布四六 | 裝入判 | 550 | 一八〇 | 一〇〇 | 第一書房    | 二月二十 | ▲明治の親鸞と云はれた清澤滿之氏の文集で信仰修養の思索の究、日記語録に分つ。                                            |
| 永澤修二志    | 現代宗教批判講話          | 並菊  | 製判  | 336 | 一三〇 | 〇〇  | 白揚社     | 一月   | ▲宗教の本質を科學的に究明し、現代に於ける宗教の理論的基礎を科學的に批判す。                                            |
| 井上博      | 現代人生講話            | 上四六 | 製入判 | 345 | 一五〇 | 〇〇  | 日本公論社   | 三月   | ▲いろは歌の眞意を日常の現實生活に即して講述せるもので、諸行無常外三篇。                                              |
| 谷口雅春     | 谷口雅春著作集(2) 光明の思想  | 洋四六 | 布入判 | 429 | 二〇〇 | 一〇〇 | 藝生 術命社  | 九月   | ▲生命の實相を説く谷口氏の第八著作で、生活に生きる宗教、淨土を實現する道外七章、生ける人間が人間として幸福に生活する方法を説けるもので、朝の時間を生かせ外十七章、 |
| 谷口雅春     | 谷口雅春著作集(3) 光明の生活法 | 洋四六 | 布入判 | 274 | 一〇〇 | 八〇  | 普光 明思想會 | 二月二十 | ▲第一回日本文化講座に於ける金子大榮師の連続講義を骨子として收めたもの。                                              |
| 金子大榮     | 國家理想としての四十八願      | 洋四六 | 布入判 | 209 | 一〇〇 | 八〇  | 協會 出版部  | 九月   | ▲宗教と心理學の關係を宗教と育の全般に亘つて研究せるもの。                                                     |
| ウイロン著 雄譯 | 兒童心理學の宗教教育        | 上四六 | 製入判 | 202 | 一〇〇 | 八〇  | 新 生堂    | 十一月  |                                                                                   |

## 二、宗教

### 宗教學・宗教一般

# 神秘なる結合

發賣所

東京市麻布區材木町二四  
振替東京四一七四〇

聖公會出版社

八代斌助著  
四六版上等紙  
コットン上等紙  
定價四十五錢

自己と宇宙、家庭、社會、國家等に依つての關係及其微妙なる結合を秘かに解明し、且、初めて生活し得る愛を超越する見え、財産、事業、戀、懺悔に依つて、初めて眞實の平安と慰籍とを見出す人類の歸趨を論及せる新しき宗教研究書！

## 基督教要領

四六版一五〇頁  
定價一圓  
送料四十錢

柳原貞次郎牧師の名著にして、既に十三版を重ね、基督の入門より奧義迄を、知識階級に適應する様切に教示しあり。各派名士及諸新聞絶讚推獎！

## 舊約聖書續篇

四六版四九〇頁  
定價一圓

神學博士須貝止師外四博士に依り、ギリシヤ語原典より翻譯されし。新約と舊約との中間聖書！ 忽再版。

大好評  
童話六十篇

# 童話の泉

園兒を楽しくほとゑます爲  
愛兒の心をあかるくする爲  
生徒を明かに育てる爲  
子供が夢の世界へ旅立つ爲

太平洋をはるく来た童話集！

アメリカの子供たちが、喜んで喜んでゐる色々な本の中から選抜いた、新しく面白くて面白くてステキな童話六十篇！ 全国の幼稚園で大好評！

ジャンセン女史編 四六版・二八〇頁  
加藤とよ譯 五號總力ナ附  
定價一圓八十錢 美裝豪華

宗教(宗教學・宗教一般)

|                                       |                                          |                                          |                                  |                                     |                                   |                                       |                                         |                 |                                     |                                      |                                      |            |            |            |
|---------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------|-------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------|------------|------------|
| 豊田大誓                                  | 甲斐静也                                     | フオスデック著<br>大江專一譯                         | 富士川遊                             | 吉田稔                                 | 清水義樹                              | 波多野精一                                 | 伊賀駒吉郎                                   | 明山洗文            | ムンドレ著                               | 佐野勝也                                 | 吉村貫練                                 | 藤谷蔵村       | 福島重義       | オリブ・ジョーンズ著 |
| 信仰の書                                  | 現代女性信仰の讀本                                | 勝利生活                                     | 宗教の心理                            | 宗教の根本問題                             | 宗教哲學叙説                            | 宗教哲學                                  | 宗教大觀                                    | 宗教現象學           | 宗教學概論                               | 宗教界新風景                               | 釋尊と家庭                                | 兒童の宗教經驗    | 兒童の宗教經驗    | 兒童の宗教經驗    |
| 上四六<br>製入判                            | 上四六<br>製入判                               | 洋四六<br>布入判                               | 布四六<br>製入判                       | 洋四六<br>布入判                          | 洋四六<br>布入判                        | 洋四六<br>布入判                            | 洋四六<br>布入判                              | 洋四六<br>製入判      | 布四六<br>製入判                          | 洋四六<br>布入判                           | 並四六<br>製入判                           | 並四六<br>製入判 | 上四六<br>製入判 | 上四六<br>製入判 |
| 338                                   | 167                                      | 423                                      | 234                              | 439                                 | 207                               | 316                                   | 689                                     | 155             | 394                                 | 318                                  | 51                                   | 221        | 221        |            |
| 一八〇                                   | 七〇                                       | 一〇〇                                      | 一〇〇                              | 三〇〇                                 | 一〇〇                               | 八〇                                    | 四〇〇                                     | 六〇              | 一八〇                                 | 一〇〇                                  | 一〇〇                                  | 一〇〇        | 一〇〇        |            |
| 甲子社                                   | 新興出版社                                    | 日實業社                                     | 天來書房                             | 甲子社                                 | 新生堂                               | 岩波書店                                  | 大村書店                                    | 大村書店            | 建設社                                 | 育社                                   | 育社                                   | 新生堂        | 新生堂        |            |
| 月一十                                   | 月一十                                      | 月二十                                      | 月六                               | 月九                                  | 月五                                | 月四                                    | 月一十                                     | 月二              | 月三                                  | 月十                                   | 月五                                   | 月五         | 月五         |            |
| ▲減ひざるもの、友情、罪惡の問題、生命への愛著、現世利益其他の法話を收し。 | ▲現代女性を對照とせる信仰讀本で、朝夕の朗誦、眞實の實、孝道訓、處女性外四十六章 | ▲舊時代の宗教を現代生活に相應しく解釋し世界的非常時に處する勝利生活の態度を示す | ▲宗教的の感情が十分表はれるやうな「思考をなすこと」に就て叙述す | ▲宗教の根本問題を論述したもので、認識の問題及び宗教の問題の二編に分つ | ▲宗教哲學の全般に亘つて叙述した書で、序論、宗教哲學の諸問題の二章 | ▲實在する神、「力」の神、「眞」の神、「愛」の神の四篇にて宗教哲學を論述す | ▲現象學的見地より述べたムンドレの「宗教的諸體験」その意味と特異性」を譯せる書 | ▲宗教に關する問題の解釋外六章 | ▲現在我國の宗教界に在つて活躍してゐる人物の學風、思想、信仰等を紹介す | ▲釋尊の家庭とその出家、子としての釋尊、釋尊の孝道訓、釋尊の家庭訓外三篇 | ▲グルーブ運動に依り子供が大人に劣らぬ宗教經驗を踏み得ることを語つた記録 |            |            |            |

宗教(宗教學・宗教一般)

|                                     |                                       |                                  |                                  |                                          |                                        |                              |                                  |                                        |                                         |                                  |                                          |                                   |            |            |            |            |            |  |
|-------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------|----------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|--|
| 川邊宗英                                | 本間俊平                                  | 谷口雅春                             | 谷口雅春                             | 谷口雅春                                     | 谷口雅春                                   | 谷口雅春                         | 谷口雅春                             | 谷口雅春                                   | 谷口雅春                                    | 谷口雅春                             | 谷口雅春                                     | 中野善英                              | 村田鐵三郎      | 山口祥吉       | 巖木勝        | 岡野龍一       | 座古愛子       |  |
| 神政主義                                | 人生の大原動力                               | 生命の神秘                            | 生命の奔流                            | 生命の行方                                    | 生命の言葉                                  | 池湧の浄土                        | 徳本行者                             | 日本宗教史講話                                | 八聖殿講演集                                  | 伏屋の                              |                                          |                                   |            |            |            |            |            |  |
| 並四六<br>製入判                          | 並四六<br>製入判                            | 洋四六<br>布入判                       | 洋四六<br>布入判                       | 洋四六<br>布入判                               | 洋四六<br>布入判                             | 洋四六<br>布入判                   | 洋四六<br>布入判                       | 洋四六<br>布入判                             | 洋四六<br>布入判                              | 洋四六<br>布入判                       | 洋四六<br>布入判                               | 洋四六<br>布入判                        | 洋四六<br>布入判 | 洋四六<br>布入判 | 洋四六<br>布入判 | 洋四六<br>布入判 | 洋四六<br>布入判 |  |
| 114                                 | 317                                   | 406                              | 415                              | 429                                      | 432                                    | 402                          | 83                               | 301                                    | 41                                      | 367                              | 266                                      | 318                               |            |            |            |            |            |  |
| 五〇                                  | 一〇〇                                   | 二〇〇                              | 二〇〇                              | 二〇〇                                      | 二〇〇                                    | 二〇〇                          | 二〇〇                              | 二〇〇                                    | 二〇〇                                     | 二〇〇                              | 二〇〇                                      | 二〇〇                               | 二〇〇        | 二〇〇        | 二〇〇        | 二〇〇        | 二〇〇        |  |
| 學藝社                                 | 日實業社                                  | 藝生術社                             | 藝生術社                             | 藝生術社                                     | 藝生術社                                   | 藝生術社                         | 藝生術社                             | 藝生術社                                   | 藝生術社                                    | 藝生術社                             | 藝生術社                                     | 藝生術社                              | 藝生術社       | 藝生術社       | 藝生術社       | 藝生術社       | 藝生術社       |  |
| 月六                                  | 月四                                    | 月五                               | 月三                               | 月十                                       | 月二十                                    | 月五                           | 月二                               | 月六                                     | 月九                                      | 月七                               | 月二                                       | 月二十                               | 月六         | 月九         | 月七         | 月二         | 月二十        |  |
| ▲天地創造の神明に對する國民の信仰を基とする萬物化育の神徳政治を提唱す | ▲健全なる信仰と清く高き理想を鼓吹せる書で、人格の發見、人生の大原動力其他 | ▲總説篇(七つの光明宣言の解説)實相篇光明の眞理)の二篇にて説く | ▲著者の著作集第三篇で、生命に到る道、生命圓相の眞理の二篇十七章 | ▲生命は何處より來り何處へ行くかを述べたもので、差別心より觀たる靈界の消息外四章 | ▲智慧の言葉、甘露の法雨講義、精神分析による心の研究、人生の備みに答ふ等四篇 | ▲中心に歸する道、「生長の家」より觀たる「法華經」外四章 | ▲徳本行者が専修奉行、眞に血を流して「眞仰道」を求めた有様を叙す | ▲雜誌「大乘」に一年餘に亘つて掲載された宗教に關する隨筆「難思」を纏めたもの | ▲鳥民教化史、米西兩國の傳道戰、教化の個人的例證、鳥民の性能と今後の教化外四章 | ▲昔から今日まで我國の宗教はどんな形でどんな風に活動したかを示す | ▲第二輯は昭和九年四月廿九日より十一月十一日までの講演集で、生きる備みと喜び其他 | ▲幾十年の長い間病床にある著者の尊い宗教的體験談で、苦難の連続其他 |            |            |            |            |            |  |

宗教(宗教學・宗教一般・神道及雜教・佛教)

|                                                               |                                         |                                     |                                        |                                   |                                           |                                                                         |                                    |                                 |                          |
|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|--------------------------|
| 栗原 基譯                                                         | 宮崎安右衛門                                  | 永田廣志譯                               | 加藤常吉譯                                  | 松本君平                              | 小平國雄                                      | 神道研究會編                                                                  | 河野省三                               | 加藤玄智                            | 柴田外吉                     |
| 無宗教への叛逆                                                       | 無身の生活                                   | 無神論の基礎                              | 幼児の宗教心の目ざめ                             | 靈命觀                               | ロシヤの宗教事情                                  | 神道                                                                      | 神道                                 | 神道の宗教發達史的研究                     | 天光道                      |
| 四六判 261                                                       | 四六判 347                                 | 四六判 350                             | 四六判 137                                | 四六判 189                           | 四六判 40                                    | 四六判 638                                                                 | 四六判 315                            | 四六判 1384                        | 四六判 46                   |
| 100                                                           | 100                                     | 100                                 | 100                                    | 100                               | 100                                       | 100                                                                     | 100                                | 100                             | 100                      |
| 基督教思想叢書刊行會                                                    | 一如書房                                    | 白揚社                                 | 新生堂                                    | 言海書房                              | 育社協會                                      | 五色屋書房                                                                   | 弘道閣                                | 昭和書房                            | 中文館                      |
| 二月二十                                                          | 四月                                      | 五月                                  | 四月                                     | 十月                                | 五月                                        | 十一月                                                                     | 七月                                 | 十月                              | 三月                       |
| ▲「フオスチツク」の「世界の希望」「勝利の生活の秘訣」の二冊よりの選集で、靜思觀照其他方、幸福の在處、一人一宗外三十七篇。 | ▲無神論の基礎理論方面に關するものを譯した書で、科學と宗教、宗教の起源外二章。 | ▲子供に就ての最初の知識、子供の最初の祈、學校生活、信仰の喚起外三章。 | ▲靈命の眞理を説明せるもので、靈命第一、宇宙第二、因果第三、兩極第四外五篇。 | ▲ロシヤ宗教の再認識、革命時代の基督教、ソ同盟と教會の闘争外二篇。 | ▲日本神道の骨髄たる氏神絕對信仰の必要を説いた書で、氏子の奉ずべき眞の神道外二篇。 | ▲神宮篇、皇室篇、國體篇、神社篇、祭神篇の三篇にて神道の本質と神道、日本精神の研究の神道を宗教發達史的に研究せるもので、神道發達の三段階其他。 | ▲著者の提唱せる天光道の主張を述べたもので、天光道とは何ぞや外九章。 | ▲日常生活に即しての佛の聖語五百六十九を収め平易に述べたもの。 | ▲維摩經の原文に讀方、通釋、語釋を施して解釋す。 |

宗教(佛教)

|                                  |                          |                                        |                                       |                                        |                                      |                            |                                           |                                          |                                  |                                    |                                          |                                    |
|----------------------------------|--------------------------|----------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------|
| 小瀧 淳                             | 小林 一郎                    | 翁 久                                    | 玉置 翰晃                                 | 北村 大榮                                  | 馬田 行啓                                | 山川 智應                      | 北村 大榮                                     | 鈴木 大拙                                    | 松村 秀賢                            | 久野 芳隆                              | 加藤 咄堂                                    | 森田 卓三                              |
| 聖賢の安心を得る道                        | 維摩經講義                    | 印度佛跡を觀る                                | 孟蘭盆經禮讚                                | 最後のお釋迦さま                               | 開目鈔講話                                | 遺文開目抄講話                    | 觀音さま                                      | 悟道                                       | 御文章句讀                            | 弘法大師の宗教と生涯                         | 聖賢降魔表講話                                  | 於ける國家改造原理としての日蓮主義                  |
| 布面 152                           | 布面 1282                  | 上四六判 349                               | 上四六判 181                              | 上四六判 154                               | 上四六判 202                             | 上四六判 520                   | 上四六判 106                                  | 上四六判 358                                 | 上四六判 104                         | 上四六判 294                           | 上四六判 253                                 | 上四六判 132                           |
| 60                               | 55                       | 100                                    | 100                                   | 100                                    | 100                                  | 100                        | 100                                       | 100                                      | 100                              | 100                                | 100                                      | 100                                |
| 二松堂                              | 大乘佛教會                    | 大東出版社                                  | 丙午出版社                                 | 香風閣                                    | 大東出版社                                | 龍吟社                        | 香風閣                                       | 大雄閣                                      | 弘文館                              | 三省堂                                | 大東出版社                                    | 宗教問題會                              |
| 十月                               | 六月                       | 五月                                     | 七月                                    | 八月                                     | 十一月                                  | 十二月                        | 六月                                        | 一月                                       | 五月                               | 十月                                 | 五月                                       | 十一月                                |
| ▲日常の生活に即しての佛の聖語五百六十九を収め平易に述べたもの。 | ▲維摩經の原文に讀方、通釋、語釋を施して解釋す。 | ▲印度に於ける佛跡觀を収めた書で、印度まで、王舎城の感懷、祇園精舍へ外六篇。 | ▲日蓮の生涯並に孟蘭盆經を解説し、盆會、施餼鬼、盆歌と盆踊等に就て叙述す。 | ▲お釋迦さまの最後の御遺言を平易に書いたもので、釋尊御入滅の豫感外三十六篇。 | ▲朝の修養として放送した「開目鈔講話」の筆録で、日蓮聖人の御遺文外六篇。 | ▲開目抄の原文に文釋、義釋、事釋、想釋及び註を施す。 | ▲慈愛の母觀音さまに就て語り、更に妙法蓮華經觀世音菩薩普門品(讀讀と音讀)を附す。 | ▲悟り、何をか佛教生活と云ふ、佛教の基本的概念、心理學から見た禪外四篇にて述ぶ。 | ▲御文章の句讀法で、大功には○、三字下りには、中功には△を附す。 | ▲弘法大師の宗教及び傳記を語つたもので、大師の偉大さ、即身成佛其他。 | ▲放送講演「降魔表講話」を纏め、之に補ふとして圖表、降魔餘談、克己酌外一篇を添註 | ▲總説、法華思想、現代思潮と日蓮主義との交渉、結論の四章にて論述す。 |

宗教(佛教)

|                       |                             |                                   |                                      |                                       |                                           |                                  |                                  |                                  |                                    |                                                          |                                     |                                        |
|-----------------------|-----------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------|
| 芳川 祖眼 金剛經註解           | 加藤 唯堂 全茶根                   | 弘法大師 傳記                           | 常盤 大定 支那の佛教                          | 柴田 一能 聖典持法華問答鈔                        | 長井 眞琴 釋迦                                  | 岡田 宜法 修證                         | 萩原 雲來 釋迦牟尼聖訓集                    | 曉 烏 敏 太子十七條憲法講話                  | 小 瀧 淳 聖佛陀處世百講                      | 木村 泰賢 小乘佛教思想論                                            | 黒上 正一郎 聖德太子の信仰思想と日本文化創業             | 曉 烏 敏 聖德太子奉讚講話                         |
| 並四六製判                 | 布四六製判                       | 並四六製判                             | 布四六製判                                | 布四六製判                                 | 布四六製判                                     | 布四六製判                            | 布四六製判                            | 布四六製判                            | 布四六製判                              | 布四六製判                                                    | 布四六製判                               | 布四六製判                                  |
| 78                    | 466                         | 140                               | 228                                  | 410                                   | 227                                       | 397                              | 258                              | 436                              | 295                                | 705                                                      | 293                                 | 593                                    |
| 四〇                    | 一〇六                         | 二〇                                | 一〇〇                                  | 二〇                                    | 一〇〇                                       | 二〇                               | 一〇〇                              | 二〇                               | 二〇                                 | 三〇                                                       | 二〇                                  | 三〇                                     |
| 中央佛敎社                 | 大東出版社                       | 岩波書店                              | 三省堂                                  | 日本協會                                  | 三省堂                                       | 清水書店                             | 大東出版社                            | 日本協會                             | 二松堂                                | 明治書院                                                     | 第一高等學堂                              | 東方書院                                   |
| 月八                    | 月三                          | 月二                                | 月十                                   | 月一                                    | 月十                                        | 月九                               | 月一                               | 月四                               | 月十                                 | 月四                                                       | 月二十                                 | 月三                                     |
| ▲金剛般若波羅密經の全文に註釋を施せるもの | ▲茶根三百六十七篇の原文に讀方を附し、解釋を施せるもの | ▲發心出家の動機を寓意小説體に創作せる弘法大師の「三教指歸」の譯註 | ▲支那の佛教を思想的、文化史的に平易に記述したもので、傳記論、立宗論其他 | ▲日蓮聖人の遺文「持法華問答鈔」の放送講演を經めた書で、日蓮教義大要を附す | ▲佛の釋迦の傳記を中心し佛敎を語つた書で釋迦といふ稱號、梵天の勸請外三十五章及附録 | ▲朝の修養として放送せるものを纏めた書で修證の成立と其大要外九講 | ▲巴利文にて書ける釋迦の「修多尼波多」を和譯せるもので、註を附す | ▲日本精神の表現たる聖德太子の十七條憲法の放送講演を筆録せるもの | ▲佛陀よりうけた感激とそれに伴ふ想念百講を述べた書で、佛たる自己其他 | ▲總叙、本論(佛陀論、宇宙成立、要素、世觀、心理論、倫理論、修證論の六篇)、世界觀、心理論、倫理論、修證論の六篇 | ▲聖德太子の人生觀と萬機總攬、聖德太子の大乗佛敎批判綜合と國民敎化其他 | ▲聖德太子奉讚の講話を収めたもので、聖德太子奉讚、聖德太子の凡夫の自覺外六篇 |

宗教(佛教)

|                                       |                                  |                                       |                               |                                   |                                        |                                        |                        |                              |                                         |                                   |                                       |                           |
|---------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|------------------------|------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|---------------------------|
| 同部 宗城 親覺聖人と其の敎義                       | 遠山 諦觀 親覺聖人の信心                    | 寺田 彌吉 親覺の哲學                           | 松原 寛 親覺の哲學                    | 大谷 益潤 聖典正信偈講話                     | 神月 徹宗 話雙手のひよき                          | 間宮 英宗 禪苑夜話                             | 今北 洪川 禪海一瀾             | 山田 靈林 禪生活十二ヶ月                | 鈴木 大拙 禪堂の修行と生活                          | 中野 松堂 生活印大慈悲                      | 金子 大榮 歎異抄講話                           | 藤江 部合 歎異鈔の精隨              |
| 上四六製判                                 | 上四六製判                            | 布四六製判                                 | 布四六製判                         | 布四六製判                             | 布四六製判                                  | 布四六製判                                  | 布四六製判                  | 布四六製判                        | 布四六製判                                   | 布四六製判                             | 布四六製判                                 | 布四六製判                     |
| 110                                   | 294                              | 257                                   | 369                           | 225                               | 149                                    | 369                                    | 118                    | 320                          | 271                                     | 324                               | 421                                   | 238                       |
| 七〇                                    | 二〇                               | 二〇                                    | 二〇                            | 二〇                                | 八〇                                     | 一〇                                     | 二〇                     | 一〇                           | 一〇                                      | 一〇                                | 一〇                                    | 一〇                        |
| 東洋佛敎會                                 | 山喜房書林                            | 佛書喜林房                                 | 建設社                           | モナス                               | 大東出版社                                  | 新興出版社                                  | 岩波書店                   | 第一書房                         | 森江書店                                    | 二松堂                               | 萌文社                                   | 佛書喜林房                     |
| 月四                                    | 月九                               | 月二                                    | 月五                            | 月一十                               | 月二十                                    | 月三                                     | 月六                     | 月二十                          | 月三                                      | 月七                                | 月一十                                   | 月二                        |
| ▲序論、聖人の生涯、眞實の教、眞實の行信眞實信とその證果、信後の風光の六篇 | ▲親覺聖人の信心に關して解り易く述べたもので、二重の自我外十一章 | ▲親覺と哲學的諸問題、無常の必然性と因果論外三篇にて親覺の哲學に就て論述す | ▲現代生活の末期的症狀、親覺哲學の外貌、親覺哲學一般の三篇 | ▲放送した眞宗の聖典「正信偈講話」の筆録で、念佛を信するもの外八講 | ▲日常生活に於ける禪的態度を平易に説いた書で、雙手の聲、病甚の處にか有る其他 | ▲禪的體驗の一端を述べた書で、處世の妙味佛陀を念ず、身を棄てる、纏を絶つ其他 | ▲今北洪川師の「禪海一瀾」を譯し、脚註を施す | ▲一月より十二月に至る著者の禪生活の體驗隨想を収めたもの | ▲入衆、沒我、作務、陰徳、新りと報恩、參禪辨道の六章及び附録、禪語解説より成る | ▲如來の深き慈悲を叙述したもので、信仰と善惡の問題、實験の宗教其他 | ▲後篇は無義爲義、誓願と名號、聖敎の本意宿業と本願ほこり、唯念佛是眞外八講 | ▲生活體驗より歎異鈔に就て開いた座談會の記録を収む |

宗教(佛教)

|                                      |                                      |                                       |                                        |                                |                                      |                                |                                  |                                          |                                        |                                      |                                |                                          |
|--------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------------|
| 野依秀市                                 | 林屋友次郎                                | 高橋竹迷                                  | 釋瓢齋                                    | 田村隆治                           | 守屋貫教                                 | 淺野研眞                           | 日本文化研究會編                         | 岩井智海                                     | 秋山範二                                   | 大久保道修編                               | 福田亮顯                           | 關口慈光編                                    |
| 佛教から出た日常語の解説                         | 般若若心經講義                              | 修養白隠禪師言行録                             | 白隠和尙                                   | 人間弘法物語                         | 日蓮聖人の生涯と信仰                           | 日本佛教社會事業史                      | 日本(白道)の語                         | 聖典二河白道の語                                 | 道元の研究                                  | 増訂道元禪師全集                             | 傳教大師                           | 昭和天台四教義                                  |
| 並四六判                                 | 新四六判                                 | 布四六判                                  | 上四六判                                   | 布四六判                           | 新四六判                                 | 上四六判                           | 並四六判                             | 並四六判                                     | 布四六判                                   | 洋四六判                                 | 上四六判                           | 洋四六判                                     |
| 834                                  | 271                                  | 348                                   | 327                                    | 235                            | 262                                  | 260                            | 349                              | 138                                      | 413                                    | 807                                  | 118                            | 150                                      |
| 三、〇〇〇                                | 一、〇〇〇                                | 一、〇〇〇                                 | 二、〇〇〇                                  | 一、〇〇〇                          | 一、〇〇〇                                | 二、〇〇〇                          | 一、〇〇〇                            | 四、〇〇〇                                    | 二、〇〇〇                                  | 三、〇〇〇                                | 二、〇〇〇                          | 一、〇〇〇                                    |
| 大觀堂                                  | 理想社                                  | 目黒書店                                  | 東京實業社                                  | 大雄閣                            | 博文館                                  | 第一書房                           | 素人社                              | 凡人社                                      | 日本公論社                                  | 改造社                                  | 岩波書店                           | 佛教年鑑社                                    |
| 月八                                   | 月二十                                  | 月九                                    | 月一十                                    | 月四                             | 月四                                   | 月二                             | 月四                               | 月六                                       | 月五                                     | 月五                                   | 月五                             | 月四                                       |
| ▲明治より最近に至るまでの雑誌所載の佛教に關する論文題目を蒐集し排列す。 | ▲佛教の本質を根本的に論議せるもので、佛教研究法論史、佛教信仰論外四篇。 | ▲佛教倫理の綱要を平易に述べた入門書で、宗教としての佛教の概念、善外六篇。 | ▲佛教の哲學、詳化せる倫理等佛教の一般を記述せるもので、佛教本來の面目其他。 | ▲佛教の何たるかを知らぬ人の爲に、平易に佛教の要領を叙説す。 | ▲人生の最高目標と宗教、成佛の、代的意義社會的理想としての淨土外十四篇。 | ▲佛教の何たるかを知らぬ人の爲に、平易に佛教の要領を叙説す。 | ▲佛教社會學の基礎概念。諸部門並に佛教の社會形態學に就て論述す。 | ▲實際問題に觸れた佛教讀本で、心の佛法、人の偉き、出來上つた人外六十一篇及附録。 | ▲佛教哲學の概論で、佛教の中心概念、存在の分析、小乘に於ける因果律外十九篇。 | ▲人生の最高目標と宗教、成佛の、代的意義社會的理想としての淨土外十四篇。 | ▲佛教の何たるかを知らぬ人の爲に、平易に佛教の要領を叙説す。 | ▲天台四教儀を是版に於て調點を正し、頭註、傍註を施し解説し、天台の著書を紹介す。 |

宗教(佛教)

|                                      |                                      |                                       |                                        |                                |                                      |                                |                                  |                                          |                                        |                                      |                                |                                          |
|--------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------------|
| 佛典研究會編                               | 増谷文雄                                 | 馬場文翁                                  | 磯部精一                                   | 高楠順次郎                          | 宮澤英心                                 | 市川白弦譯註                         | 小瀧淳                              | 淺野研眞                                     | 手島文倉                                   | 年記念學會編                               | 年記念學會編                         | 年記念學會編                                   |
| 改訂佛敎論文總目錄                            | 佛敎                                   | 佛敎倫理                                  | 佛敎百語                                   | 佛敎の何たるかを知らぬ人の爲に                | 佛敎の正しい見方                             | 佛敎哲學概論                         | 佛敎通俗讀本                           | 佛敎社會學研究                                  | 佛敎實踐の聖典                                | 佛敎講話                                 | 佛敎學の諸問題                        | 佛敎學概論序説                                  |
| 洋四六判                                 | 洋四六判                                 | 洋四六判                                  | 上四六判                                   | 並四六判                           | 洋四六判                                 | 洋四六判                           | 布四六判                             | 布四六判                                     | 洋四六判                                   | 洋四六判                                 | 洋四六判                           | 洋四六判                                     |
| 834                                  | 241                                  | 218                                   | 188                                    | 124                            | 433                                  | 174                            | 131                              | 304                                      | 716                                    | 222                                  | 1085                           | 79                                       |
| 三、〇〇〇                                | 一、〇〇〇                                | 一、〇〇〇                                 | 六、七五                                   | 四、七五                           | 一、〇〇〇                                | 一、〇〇〇                          | 一、〇〇〇                            | 一、〇〇〇                                    | 一、〇〇〇                                  | 一、〇〇〇                                | 一、〇〇〇                          | 一、〇〇〇                                    |
| 大觀堂                                  | 理想社                                  | 目黒書店                                  | 東京實業社                                  | 大雄閣                            | 博文館                                  | 第一書房                           | 素人社                              | 凡人社                                      | 日本公論社                                  | 改造社                                  | 岩波書店                           | 佛教年鑑社                                    |
| 月八                                   | 月二十                                  | 月九                                    | 月一十                                    | 月四                             | 月四                                   | 月二                             | 月四                               | 月六                                       | 月五                                     | 月五                                   | 月五                             | 月四                                       |
| ▲明治より最近に至るまでの雑誌所載の佛教に關する論文題目を蒐集し排列す。 | ▲佛教の本質を根本的に論議せるもので、佛教研究法論史、佛教信仰論外四篇。 | ▲佛教倫理の綱要を平易に述べた入門書で、宗教としての佛教の概念、善外六篇。 | ▲佛教の哲學、詳化せる倫理等佛教の一般を記述せるもので、佛教本來の面目其他。 | ▲佛教の何たるかを知らぬ人の爲に、平易に佛教の要領を叙説す。 | ▲人生の最高目標と宗教、成佛の、代的意義社會的理想としての淨土外十四篇。 | ▲佛教の何たるかを知らぬ人の爲に、平易に佛教の要領を叙説す。 | ▲佛教社會學の基礎概念。諸部門並に佛教の社會形態學に就て論述す。 | ▲實際問題に觸れた佛教讀本で、心の佛法、人の偉き、出來上つた人外六十一篇及附録。 | ▲佛教哲學の概論で、佛教の中心概念、存在の分析、小乘に於ける因果律外十九篇。 | ▲人生の最高目標と宗教、成佛の、代的意義社會的理想としての淨土外十四篇。 | ▲佛教の何たるかを知らぬ人の爲に、平易に佛教の要領を叙説す。 | ▲天台四教儀を是版に於て調點を正し、頭註、傍註を施し解説し、天台の著書を紹介す。 |

宗教(佛教)

|                    |                |           |     |     |           |     |                                                                                                    |
|--------------------|----------------|-----------|-----|-----|-----------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 三井 光彌              | 獨逸文學に於ける佛陀及び佛教 | 洋函菊       | 布入判 | 二〇〇 | 第一書房      | 月二  | ▲獨逸文學に於ける佛陀及び佛教を觀照し、批判し歴史的系統的に説明す。                                                                 |
| 池邊 椋雄              | 佛陀の教説          | 洋函菊       | 布入判 | 四〇〇 | 三省堂       | 月五  | ▲佛陀教説の資料、佛陀の哲學、佛陀教説の外延の三篇にて論述す。                                                                    |
| ポール・ケラス著<br>八幡關太郎譯 | 佛陀の福音          | 布函四六      | 裝入判 | 二〇〇 | 南光社       | 月二  | ▲ケラスの「佛陀の福音」の譯で、悉達多太佛陀となる、正義の國の建設外五篇、一改訂版、重要なるものを講ぜるを觀む。                                           |
| 日種 讓山              | 佛陀の福音          | 洋函四六      | 布判  | 一八〇 | 大東出版社     | 月三  | ▲京都放送局より聖典講義として碧巖録中の重要なるものを講ぜるを觀む。                                                                 |
| 間宮 英宗              | 碧巖録            | 洋函四六      | 布入判 | 一八〇 | 新興出版社     | 月五  | ▲碧巖録の原文に訓讀、提唱を施して述べたもの。                                                                            |
| 福島 政雄              | 心地報恩品講話        | 洋函四六      | 布判  | 一〇〇 | 日本放送會社    | 月六  | ▲父母、衆生、國王、三寶の恩を説ける「心地報恩品」の講演速記録。                                                                   |
| 萩原雲來譯註             | 法句經            | 並菊半       | 裝入判 | 二〇〇 | 岩波書店      | 月六  | ▲法句經を原文より譯し、脚註を施せるもの。                                                                              |
| 友松圓 諦譯             | 法華經            | 並菊半       | 裝入判 | 一〇〇 | 全日本管理運動本部 | 月七  | ▲法句經四百二十三頌を巴利語から現代日本語に譯せるもの。                                                                       |
| 山口 光圓              | 法華經の心髓         | 布函菊       | 裝入判 | 一〇〇 | 出版部       | 月一十 | ▲京都放送局から朝の修養として講演せるものを觀めた書で、法華經とはどんなお経其他の如來壽量品に溯つて法華經の心髓を講明せる書で、大藏經中に於ける法華經の位置其他の故實を述べ、莊嚴の方法故實を説く。 |
| 本田 日生              | 法華經の心髓         | 布函菊       | 裝入判 | 一〇〇 | 晋文館       | 月九  | ▲梵唄集、聲明集を基本として本願寺の法式の故實を述べ、莊嚴の方法故實を説く。                                                             |
| 松村 秀賢              | 法華經の心髓         | 本願寺法式と其故實 | 和函菊 | 二〇〇 | 弘文館       | 月四  | ▲佛光大講演會に於ける講演速記で、國民精神の修養と佛教(岩井智海)外四篇。                                                              |
| 國民新聞社編             | 然上人            | 法華經       | 和函菊 | 二〇〇 | 國民新聞社     | 月二  | ▲梵唄經心地戒品の講演を筆録し、梵唄經心地戒品全部の和譯文に註解せるを添ふ。                                                             |
| 長井 眞琴              | 梵網經            | 洋函四六      | 布判  | 二〇〇 | 日本放送會社    | 月四  |                                                                                                    |

宗教(佛教・基督教)

|                |               |      |     |     |       |     |                                                                     |
|----------------|---------------|------|-----|-----|-------|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 蓮沼文範編著         | 山の日の蓮         | 並四六  | 裝入判 | 一三〇 | 大東出版社 | 月六  | ▲身延山に於ける思想の圓熟期に於ける大日蓮の全貌を描く。                                        |
| 間宮 英宗          | 法華經           | 洋函四六 | 布入判 | 一〇〇 | 新興出版社 | 月二十 | ▲臨濟錄を四料簡外五講に分けて講義し、臨濟照禪師語錄の本文並に註解を收む。                               |
| 朝比奈宗源譯註        | 法華經           | 並菊半  | 裝入判 | 一〇〇 | 岩波書店  | 月七  | ▲鎮州臨濟照禪師語錄の原文を對譯となし註を施す。                                            |
| 岩野 直英          | 法華經           | 布函菊  | 裝入判 | 二〇〇 | 晋文館   | 月八  | ▲法界の國體たる妙法蓮華經を平易に翻譯し註釋を施せるもの。                                       |
| 時田 信夫          | イエスの宗教の再吟味    | 並四六  | 裝入判 | 四〇〇 | 文書堂   | 月七  | ▲新約聖書の研究により知り得るイエスの宗教の特質を明示す。                                       |
| シャーマン          | イエスの生涯の記録     | 洋函三三 | 布入判 | 三〇〇 | ヤマクサ  | 月一十 | ▲イエス生涯の記録に於ける用語と順序とに従ひ、イエスの一生を記述す。                                  |
| トルストイ著<br>久一郎譯 | 愛の歴史          | 布函四六 | 裝入判 | 二〇〇 | 三笠書房  | 月九  | ▲古今東西に亘る聖賢偉哲の名言句を一年三百六十五日に配列せる福音書。                                  |
| 永橋 卓介          | 愛の歴史          | 並四六  | 裝入判 | 二〇〇 | 日獨書院  | 月六  | ▲先史時代から各時代を通じて正統的宗教と相反撥してゐたものを宗教民族學的に説く、相対してゐる民族の女性の姿を、教育史的觀點から考察す。 |
| 平塚 益徳          | イスラエルの民族と女子教育 | 並四六  | 裝入判 | 二〇〇 | 日獨書院  | 月三  | ▲イスラエル民族の女性の姿を、教育史的觀點から考察す。                                         |
| 原田 信夫          | カール・バルトの人間學   | 並四六  | 裝入判 | 二〇〇 | 新生堂   | 月八  | ▲バルト研究と一人間の疑問性、教會の疑問性、バルト辨證法外四章にて研究す。                               |
| 水野 恭介          | 概説新約地誌        | 並四六  | 裝入判 | 二〇〇 | 日獨書院  | 月八  | ▲新約聖書の順に従つて地理的問題を解説せるもので、福音書の世界外一編に分つ。                              |
| 小田 信士          | 現代の經濟問題       | 並四六  | 裝入判 | 二〇〇 | 叢書刊行會 | 月五  | ▲現代のプロテスタントの歴史的使命を檢討し、基督教的經濟實踐の意味と方向を示す。                            |

宗教(基督教)

|                              |                             |                                     |                                     |                                     |                                     |                                     |                                     |                                     |                                     |                                     |                                     |                                     |
|------------------------------|-----------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 金井爲一郎                        | 神田 盾夫                       | 郷司 健爾                               | 山本 秀煌                               | 松田 明三郎                              | 佐藤 勝也                               | 大塚 節治                               | 熊野 義孝                               | 比屋根 安定                              | 郷司 健爾                               | 高谷 道男                               | 渡部 元                                | 木下 啓                                |
| 基督教文藝叢書                      | 新約聖書の言葉                     | カールグイン神學概要                          | 聖人殉教史話                              | 詩篇の宗教思想                             | 使徒パウロの神秘主義                          | 基督教倫理學序説                            | 基督教要義                               | 近世基督教人物史                            | 基督教經濟文化史                            | 基督教のふ今日                             | キリストの生涯                             | キリストの生涯                             |
| 洋四六                          | 洋四六                         | 洋四六                                 | 上四六                                 | 洋四六                                 | 洋四六                                 | 洋四六                                 | 洋四六                                 | 洋四六                                 | 洋四六                                 | 上四六                                 | 洋四六                                 | 洋四六                                 |
| 布入判                          | 製判                          | 布入判                                 | 製判                                  | 製判                                  | 布入判                                 | 布入判                                 | 布入判                                 | 布入判                                 | 布入判                                 | 製判                                  | 製判                                  | 製判                                  |
| 280                          | 42                          | 390                                 | 148                                 | 169                                 | 365                                 | 614                                 | 252                                 | 630                                 | 486                                 | 267                                 | 190                                 | 752                                 |
| 二〇〇                          | 二〇                          | 二二〇                                 | 六〇                                  | 六〇                                  | 二二〇                                 | 二二〇                                 | 二〇〇                                 | 二〇〇                                 | 二〇〇                                 | 二〇〇                                 | 二〇〇                                 | 二〇〇                                 |
| 新生堂                          | 新生堂                         | 新生堂                                 | 不二屋書房                               | 日獨書院                                | 第一書房                                | 基督教思想叢書刊行會                          | 新生堂                                 | 基督教思想叢書刊行會                          | 新生堂                                 | 三省堂                                 | 文書堂                                 | 斯文書院                                |
| 月一                           | 月二                          | 月八                                  | 月四                                  | 月三                                  | 月九                                  | 月二                                  | 月二                                  | 月十                                  | 月七                                  | 月五                                  | 月一十                                 | 月六                                  |
| ▲スエデンボルグの傳記並に彼の著「基督教」に就て叙述す。 | ▲基督教の聖書たる新約聖書の歴史其他に就て述べたもの。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 | ▲基督教信仰の全體に亘る思想的表現で、創造者なる神に關する知識外一卷。 |

宗教(基督教)

|                                              |                                      |                              |                              |                              |                              |                              |                              |                              |                              |                              |
|----------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 辻村三郎                                         | 内村 三郎                                | 武者小路實篤                       | 廣瀬 哲士                        | 千葉 勇五郎                       | 後藤 安雄                        | 高柳 伊三郎                       | 額賀 鹿之助                       | 八住 利雄                        | 中村 獅雄                        | 原 久一                         |
| 我が日毎の祈禱                                      | 余は如何にして基督教徒となりし乎                     | 耶                            | 耶                            | 非常時黙示録の現代研究                  | 辨證法的神學序説                     | 福音書概論                        | ブルンナー基督教絶対論                  | 聖者の懺悔                        | 聖書に於ける矛盾思想                   | 聖書                           |
| 上四六                                          | 洋四六                                  | 並四六                          | 並四六                          | 並四六                          | 並四六                          | 洋四六                          | 洋四六                          | 洋四六                          | 洋四六                          | 洋四六                          |
| 製入判                                          | 布入判                                  | 製判                           | 製判                           | 製判                           | 製判                           | 布入判                          | 製判                           | 製判                           | 製判                           | 製判                           |
| 187                                          | 391                                  | 204                          | 424                          | 146                          | 178                          | 436                          | 87                           | 515                          | 506                          | 565                          |
| 六〇                                           | 一〇〇                                  | 一〇〇                          | 一〇〇                          | 一〇〇                          | 一〇〇                          | 一〇〇                          | 一〇〇                          | 一〇〇                          | 一〇〇                          | 一〇〇                          |
| 新生堂                                          | 岩波書店                                 | 山本書店                         | 東京堂                          | 文書堂                          | 岩波書店                         | 新生堂                          | 新生堂                          | 新生堂                          | 太陽堂                          | 四條書房                         |
| 月二十                                          | 月五                                   | 月二十                          | 月二十                          | 月七                           | 月二                           | 月九                           | 月七                           | 月五                           | 月五                           | 月六                           |
| ▲マイヤールのMy Daily Prayer Seriesの一年の毎日に一つの祈を配す。 | ▲英文にて書かれた内村鑑三氏の「余は如何にして基督教徒となりし乎」の譯。 | ▲ルナンの名著「基督教起源史」第一卷に當る耶蘇傳の全譯。 | ▲ルナンの名著「基督教起源史」第一卷に當る耶蘇傳の全譯。 | ▲ルナンの名著「基督教起源史」第一卷に當る耶蘇傳の全譯。 | ▲ルナンの名著「基督教起源史」第一卷に當る耶蘇傳の全譯。 | ▲ルナンの名著「基督教起源史」第一卷に當る耶蘇傳の全譯。 | ▲ルナンの名著「基督教起源史」第一卷に當る耶蘇傳の全譯。 | ▲ルナンの名著「基督教起源史」第一卷に當る耶蘇傳の全譯。 | ▲ルナンの名著「基督教起源史」第一卷に當る耶蘇傳の全譯。 | ▲ルナンの名著「基督教起源史」第一卷に當る耶蘇傳の全譯。 |



宗教(基督教・回教)

| 著者           | 書名            | 形態    | 訂價  | 送料  | 発行所   | 発行年月 | 内容大意                                   |
|--------------|---------------|-------|-----|-----|-------|------|----------------------------------------|
| 八代 斌助        | 神秘なる結合        | 並四六製判 | 90  | 六   | 出聖版公社 | 月四   | ▲宇宙萬有の神秘を探り、その主體たる神へ到達すべき道を示す書。        |
| 加藤 正彦        | 童話の泉          | 布四六製判 | 278 | 一〇八 | 出聖版公社 | 月八   | ▲アメリカの子供等に愛讀されてゐる新しい童話を六十篇集めた童話集。      |
| 菅 剛          | 基督教者は現代に斯く生きる | 上四六製判 | 159 | 八六  | 出聖版公社 | 月八   | ▲現代クリスチャンの心理描寫と精神指導書。                  |
| 村田 俊雄        | 聖餐と懺悔の友       | 布四六製判 | 78  | 四七  | 出聖版公社 | 月九   | ▲聖公會の信徒が聖餐を受ける心の準備書。                   |
| 石黒 つぎ子       | 基督教児童劇集       | 上四六製判 | 186 | 一〇〇 | 出聖版公社 | 月十   | ▲JOBKで放送した基督教的な児童劇をまとめた書。              |
| 三浦 清一        | エペソ書の新精神      | 並四六製判 | 202 | 八六  | 出聖版公社 | 月十   | ▲新約聖書中のエペソ書を思想的に講解した書。                 |
| チャールズ・マクドナルド | 神への信仰         | 布四六製判 | 384 | 二二〇 | 出聖版公社 | 月二十  | ▲基督教神觀の根本を論じた高等神學書。                    |
| ハンドラー        | 神への信仰         | 布四六製判 | 16  | 四七  | 出聖版公社 | 月二十  | ▲英國宗教畫家ハンドラーの宗教畫にやさしい新を添へた聖書本位の祈禱集。    |
| アブリガン        | 宗教の発展         | 並四六製判 | 358 | 一〇〇 | 出聖版公社 | 月二十  | ▲聖公會の信徒に必要な教へが、一年間に渡つて細釋せる書。           |
| 佐久間 貞次郎      | 回教解説          | 上四六製判 | 241 | 一〇〇 | 言海書房  | 月五   | ▲回教の聖典コラーンを骨子として回教を解説せる書で、永遠の光の上の光外九章。 |

三、教育

教育(教育學・教育一般)

| 著者     | 書名            | 形態    | 訂價  | 送料  | 発行所  | 発行年月 | 内容大意                                                                        |
|--------|---------------|-------|-----|-----|------|------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 土井 竹治  | 新しい熟の教育       | 洋四六製判 | 248 | 一〇八 | 日黒書店 | 月四   | ▲著者の體驗と實踐の記述で、關聯教育(他の教育其他)子供の實相子供に生きる(其他)の教育の形而上學(長田新)教育作用の産婆的形態(稲富榮次郎)外二篇。 |
| 廣島 三十二 | 學校放送の理論と實際    | 洋四六製判 | 299 | 二二〇 | 日黒書店 | 月十   | ▲學校放送の社會學的意義外十章。                                                            |
| 橋本 文壽  | 教育革新の理論及實際    | 並製判   | 201 | 一〇三 | 岩波書店 | 月五   | ▲教育革新の理論並に實際上の具體的方法を示した書で、總論外二篇。                                            |
| 山本 猛   | 教育學概説         | 洋四六製判 | 264 | 一〇八 | 三友社  | 月一十  | ▲小學校教育を中心に教育學を概説した書で緒論、教育目的論、教育方法論外三篇。                                      |
| 稲富 榮次郎 | 教育作用の本質       | 洋四六製判 | 302 | 二二〇 | 日黒書店 | 月九   | ▲教育作用の本質に就て研究せるもので、教育作用の本質、教育愛外二章。                                          |
| 大伴 茂編  | 教育診断治療の實踐     | 洋四六製判 | 808 | 二二〇 | 培風館  | 月四   | ▲教育診断と教育治療(大伴茂)教育診断及び治療の實際(坂田勇造)外十七篇。                                       |
| 阿部 仁三  | 現代とシュプラン文化教育學 | 洋四六製判 | 270 | 一〇八 | 日黒書店 | 月九   | ▲シュプランの哲學說を叙述し、其の教育說を論究す。                                                   |



教育行政

|          |           |                   |                  |     |                                                               |
|----------|-----------|-------------------|------------------|-----|---------------------------------------------------------------|
| 中島市三郎    | 教育廣瀬淡窓の研究 | 洋四六<br>布入判<br>384 | 二、四<br>版第一<br>會出 | 月一十 | ▲我國に於ける教育偉人廣瀬淡窓の研究で、淡窓先生の小傳、成宜園の教育外五篇                         |
| 關口泰      | 教育國策の諸問題  | 洋四六<br>布入判<br>346 | 一、八<br>岩波書店      | 月一十 | ▲文教關係の行政改革、小學教育と師範教育外二篇の教育に關する論文を收む。                          |
| 谷原義一     | 教科書行政法    | 洋四六<br>布入判<br>224 | 一、〇<br>有斐閣       | 月二  | ▲教科書の行政制度に關する研究で、教科書行政制度の沿革、小學校の教科書外七章、教科書の機關、初等普通教育、學校衛生外七章。 |
| 協大日本學術編著 | 日本教育行政法論  | 上四六<br>製入判<br>264 | 一、八<br>モナス       | 月三  | ▲教育行政の全般的記述で、緒論、教育行政の機關、初等普通教育、學校衛生外七章。                       |

教育實務・法規・要覽

|           |            |                   |              |    |                                           |
|-----------|------------|-------------------|--------------|----|-------------------------------------------|
| 教材王國編輯部   | 十年教育日録     | 洋四六<br>布入判<br>452 | 一、〇<br>文化書房  | 月三 | ▲公私二面に分けた日記欄、現代日本教育家錄、昭和九年の教育界其他の必要事項を收む。 |
| 産業と教育編輯部  | 教育年鑑       | 並四六<br>製入判<br>716 | 二、〇<br>編輯部   | 月六 | ▲教育界の全般に亘る正確なる實證的資料を收めた年鑑で、宮廷、日本教育小史其他。   |
| 相島龜三郎編    | 教育必携       | 洋四六<br>布入判<br>338 | 一、二<br>文政社   | 月九 | ▲詔勅並御沙汰書、宮中三殿の御事、小學校教員心得其他教育に必要な事項を網羅す。   |
| 川崎市特設小學校長 | 事務統制の新研究   | 洋四六<br>布入判<br>710 | 三、〇<br>株式會社  | 月五 | ▲教育計劃、教育基礎の設定、教授其他の統整及び教育者勤務其他を實際例に就て述ぶ。  |
| 黒川喜太郎編    | 教育實務便覽     | 洋四六<br>布入判<br>460 | 一、〇<br>左文字書店 | 月五 | ▲教育實務家の執務上必要な法規の取扱、書式其他の事項を收録す。           |
| 東京市役所編    | 東京市教育關係職員録 | 並四六<br>製入判<br>706 | 東京市役所        | 月九 | ▲昭和十年七月現在に於ける東京市教育關係の職員を網羅輯録す。            |

教育心理學・兒童研究

|          |                  |                   |             |     |                                         |
|----------|------------------|-------------------|-------------|-----|-----------------------------------------|
| 中江順市郎    | 教育の對象とし、教師と母の心理學 | 洋四六<br>布入判<br>358 | 一、八<br>文教書院 | 月四  | ▲子供の身體の狀態、精神の作用其他の心理に就て教師と母の爲に述ぶ。       |
| 波多野完治    | 子供の社會心理學         | 洋四六<br>布入判<br>224 | 二、〇<br>刀江書院 | 月五  | ▲子供の本質を究明したもので、新しい兒童の見方、子供と子供らしい行爲外二篇。  |
| 加多野完治編著  | 子供の社會心理學         | 洋四六<br>布入判<br>300 | 一、〇<br>刀江書院 | 月二  | ▲最近に於ける子供の生活心理に關する論文を收めた書で、子供の哲學外三篇。    |
| 丹野禎子譯    | 子供の日常問題          | 洋四六<br>布入判<br>349 | 一、〇<br>叢文閣  | 月四  | ▲第二卷は子供の嫉妬心、破壊本能、盜癖、嘘言・浮浪癖、性教育外六章。      |
| 大日本學術編著  | 最新教育の心理學         | 上四六<br>製入判<br>534 | 三、〇<br>モナス  | 月十  | ▲心理學の全野を教育的見地から考察せるもので、緒論、精神の身體的基礎外十三篇。 |
| 協谷俊夫     | 兒童環境學            | 洋四六<br>布入判<br>241 | 二、〇<br>刀江書院 | 月九  | ▲學校も子供の環境の一部分と考へて兒童の環境を解剖せる書で、模倣と暗示外八篇。 |
| クルト・コフカ著 | 兒童精神發達の原理        | 洋四六<br>布入判<br>386 | 一、〇<br>モナス  | 月二十 | ▲兒童心理の發達に就て論述したもので、心理學の課題とその方法外五章。      |
| 縣卷太郎譯    | 兒童道德意識の研究        | 洋四六<br>布入判<br>253 | 一、〇<br>文化書房 | 月五  | ▲兒童道德意識の研究序説(松本浩記)兒童生活と道德意識(岡野直)外八篇。    |
| 修身教育編輯部編 | 兒童道德意識の研究        | 洋四六<br>布入判<br>253 | 一、〇<br>文化書房 | 月五  | ▲兒童の語彙を調査して教育上の問題を論じ話聽教育を提唱し其の教育方法を叙述す。 |
| 岡山縣師範學校  | 兒童の語彙と教育         | 布四六<br>製入判<br>264 | 二、三<br>藤井書店 | 月一十 | ▲新興心理學の見地においてゲタルト教育心理學の諸問題を取扱つた書。       |
| オ・グレン著   | 心理學と教育           | 洋四六<br>布入判<br>331 | 二、〇<br>厚生閣  | 月二  | ▲最近の科學的研究に立脚して青年期少女の本質を明かにし、その教育原理を探求す。 |
| 友生書院編輯部編 | 青年期少女の科學的解剖      | 布四六<br>製入判<br>314 | 一、八<br>友生書院 | 月八  | ▲劣能兒、不良兒教育の理論一般と實際を述べた書で、精神貧困兒教育の意義外十四章 |
| 波谷政盛     | 精神貧困兒の教育         | 洋四六<br>布入判<br>397 | 二、三<br>啓文社  | 月六  | ▲智力の個人的差異、智力と知識、智能の發達と關の發育、智力と知識。       |
| 深谷瑞輔     | 應用智能力増進法         | 並四六<br>製入判<br>240 | 六、八<br>言海書房 | 月九  | ▲智力の個人的差異、智力と知識、智能の發達と關の發育、智力と知識。       |

教育(道徳教育・國民道徳・宗教教育・社會教育・公民教育)

道徳教育・國民道徳

|                                       |                                      |                                       |                                           |                                       |                                          |            |
|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------|------------|
| 大杉 謹一                                 | 伊藤 千眞三                               | 大杉 謹一                                 | 大杉 謹一                                     | 大杉 謹一                                 | 大杉 謹一                                    | 大杉 謹一      |
| 現代の國民道徳                               | 新國民道徳要領                              | 詔勅謹言                                  | 道徳教育                                      | 日本歴代御詔勅謹言                             | 我が國の教育                                   |            |
| 洋四六<br>布入判                            | 洋四六<br>布入判                           | 洋四六<br>布入判                            | 洋四六<br>布入判                                | 洋四六<br>布入判                            | 洋四六<br>布入判                               | 洋四六<br>布入判 |
| 306                                   | 419                                  | 232                                   | 386                                       | 561                                   | 92                                       |            |
| 二二〇                                   | 二二〇                                  | 一〇〇                                   | 二〇〇                                       | 三〇〇                                   | 三〇〇                                      |            |
| 明治圖書                                  | 大明堂                                  | 目黒書店                                  | 同文書院                                      | 皇道顯揚會                                 | 青年教育普及會                                  |            |
| 月二                                    | 月三                                   | 月九                                    | 月五                                        | 月九                                    | 月一十                                      |            |
| ▲現下に於ける各般の道徳問題に就て論述せるもので、國民道徳の諸問題外二篇。 | ▲國民道徳に就て述べたもので、總説、傳承道徳、現代思想外二篇。一修正版。 | ▲國民道徳及國民教育の立場から歴朝の詔勅を網羅し解釋を施し由來を明かにす。 | ▲倫理教育を少年に試みた所に基き、年齢に應じて具體案を立て道徳教育の性質を論明す。 | ▲御神勅より最近の御詔勅語までの中三篇を謹輯し之を年代順に排列して謹言す。 | ▲著者の「道徳一般の眞理と我が國民道徳」と題する講演速記で、國民道徳の成立外四篇 |            |

宗教教育

|                                      |                                         |                                    |                                    |            |
|--------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------|
| 川上 清吉                                | 佐々木 彌吉                                  | 寺田 彌吉                              | 大日本學 編著                            | 教育經營編輯部    |
| 教育の宗教的反省                             | 小學校の宗教的教育の建設                            | 宗教教育の新思潮                           | 小學校の宗教教育                           |            |
| 布四六<br>裝入判                           | 布四六<br>裝入判                              | 布四六<br>裝入判                         | 布四六<br>裝入判                         | 布四六<br>裝入判 |
| 434                                  | 575                                     | 288                                | 112                                |            |
| 一七〇                                  | 二〇〇                                     | 一五〇                                | 一〇〇                                |            |
| モナス                                  | 株明治圖書                                   | 株明治圖書                              | 株明治圖書                              |            |
| 月四                                   | 月五                                      | 月九                                 | 月一                                 |            |
| ▲教育統合の原理としての宗教、教育に於ける反省の深化、自我の否定外四章。 | ▲新宗教教育の要求と問題、新宗教教育概論其他にて宗教的教育の建設に就て論述す。 | ▲宗教教育上の諸問題(尼子止) 宗教教育の眞諦(谷本富) 外十四篇。 | ▲人格教育としての佛教(高楠順次郎) 國民教育と宗教教育(大村桂巖) |            |

社會教育・公民教育

|                           |                               |                                        |                                      |             |
|---------------------------|-------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------|-------------|
| 文部省 社會教育局編                | 倉澤 剛                          | 深澤 安文                                  | 松尾 長造                                | 社會教育委員と其の任務 |
| 各國の成人教育概況                 | 公民倫理概論                        | 社會教育委員と其の任務                            |                                      |             |
| 並四六<br>裝入判                | 洋四六<br>布入判                    | 洋四六<br>布入判                             | 並四六<br>裝入判                           | 並四六<br>裝入判  |
| 42                        | 397                           | 350                                    | 42                                   |             |
| 二五                        | 二〇〇                           | 三〇〇                                    | 二五                                   |             |
| 育社會協會                     | 育社會協會                         | 育社會協會                                  | 育社會協會                                |             |
| 月一十                       | 月一十                           | 月五                                     | 月五                                   | 月五          |
| ▲獨逸、丁林、和蘭、露西亞の成人教育に就て記述す。 | ▲主として小學校に於ける公民教育の原理と方法を述べたもの。 | ▲社會、社會的正義、國家、國體、神道、家族制度、職業、獨創外五章にて叙述す。 | ▲教育の進歩、社會教育の不振、社會教育の重要性、社會教育委員制度外三篇。 |             |

青年教育・青年學校

|                                         |                                            |                                                             |                                                              |                                         |                                    |                                   |                                   |
|-----------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 文部省 社會教育局編                              | 川崎 利市                                      | 金井 眞澄                                                       | 北海道廳編                                                        | 長野 長廣                                   | 菅原 龜五郎                             | 渡部 政盛                             | 渡部 政盛                             |
| 女子青年團指導教範                               | 青年學校經營案                                    | 要目 青年學校講話資料                                                 | 青年學校施設經營の實際                                                  | 青年學校の新經營                                | 青年學校の新經營                           | 青年學校の理想と經營                        | 農村青年學校の教育                         |
| 洋四六<br>布入判                              | 洋四六<br>布入判                                 | 洋四六<br>布入判                                                  | 洋四六<br>布入判                                                   | 洋四六<br>布入判                              | 洋四六<br>布入判                         | 洋四六<br>布入判                        | 洋四六<br>布入判                        |
| 312                                     | 453                                        | 251                                                         | 351                                                          | 446                                     | 414                                | 304                               | 421                               |
| 二二〇                                     | 二〇〇                                        | 二〇〇                                                         | 二〇〇                                                          | 二〇〇                                     | 二〇〇                                | 二〇〇                               | 二〇〇                               |
| 啓文社                                     | 株明治圖書                                      | 株明治圖書                                                       | 株明治圖書                                                        | 株明治圖書                                   | 株明治圖書                              | 株明治圖書                             | 株明治圖書                             |
| 月一十                                     | 月五                                         | 月九                                                          | 月八                                                           | 月九                                      | 月一十                                | 月六                                | 月一十                               |
| ▲女子青年團の理念、團體の編成、女子青年團員、自己修養、技能の練磨修得外二篇。 | ▲興國教育、青年學校教育實際案、青年學校各科取扱實際、再度渡米印象の四章にて述べた。 | ▲青年學校教育要旨の全般に準據する講話教材を収めた書で、國體國家に關する講話其他ける關係教育實務者の研究及意見を輯録。 | ▲北海道廳主催全道實業補習教育研究會に於ける青年學校法令を説き、農村と都市に於ける青年の特性、青年教育の體験其他を述べ。 | ▲青年學校の沿革と根本義、經營の原則並に實際、土地の情況による經營法等を説く。 | ▲青年學校の原理と實際上の經營法を述べたもので、青年學校原論外三篇。 | ▲農村青年學校の理論と實際を述べたもので、農村青年學校原論外三篇。 | ▲農村青年學校の理論と實際を述べたもので、農村青年學校原論外三篇。 |

教育(社會教育・公民教育・青年教育・青年學校)

教育(實業教育・補習教育・職業指導・學校教育・學級經營)

實業教育・補習教育・職業指導

|                                                                          |                                   |                                      |                                      |                                           |                                       |
|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------|
| 東亞學藝協會編                                                                  | 小向勇藏編                             | 小向勇藏編                                | 文部省社會局編                              | 山本孫義                                      | 井上正記                                  |
| 作業教育の指導精神と其實踐                                                            | 主務實務作業指導書                         | 主務實務作業指導書                            | 實業補習教育の沿革と現況                         | 小學校職業指導の實踐                                | 學校學級經營の實際                             |
| 布面菊 396                                                                  | 並菊 36                             | 並菊 387                               | 並菊 331                               | 布面菊 344                                   | 洋面菊 297                               |
| 三三〇                                                                      | 一〇〇                               | 二〇〇                                  | 二〇〇                                  | 二〇〇                                       | 二〇〇                                   |
| 學藝書院                                                                     | 國民更生社                             | 國民更生社                                | 青年教育會                                | 三省堂                                       | 啓文社                                   |
| 月九                                                                       | 月六                                | 月六                                   | 月一                                   | 月三                                        | 月四                                    |
| ▲作業教育の指導精神と其實踐編纂について(木村秀吉)作業教育(淺野孝之)外十三篇。各學年の實習教材並に要領其他を記述。就ての實際指導要項を掲ぐ。 | ▲後篇は實業學校各學年に於ける實務作業に就ての實際指導要項を掲ぐ。 | ▲實業補習教育の沿革、實業補習學校教員養成所、實業補習教育の現況外二章。 | ▲職業指導、個性調査、職業指導運動の二部二十講にて職業指導に關して述ぶ。 | ▲小學校に於ける職業指導の理論と實際とに就て述べた書で、教育の趨勢と職業指導其他、 | ▲敬と愛の教育による學校學級經營の實際を述べた書で、敬愛生活の指導外四章。 |

學校教育・學級經營

教育(學校教育・學級經營)

|                                                                       |                                          |                                     |                                          |                                     |                                        |                                          |                                   |                                        |                             |                      |                     |              |
|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------|----------------------|---------------------|--------------|
| 山崎力之介                                                                 | 内田康平                                     | 栃木縣師範學校附屬小學校編                       | 山崎力之介                                    | 教育資料編纂會                             | 三木英太郎                                  | 角替保郎                                     | 山崎力之介                             | 中村彌四郎                                  | 村田英吉                        | 村田英吉                 | 三本重長                | 三本重長         |
| 行事訓學校經營細案                                                             | 學習園に依る教育と其實際                             | 學習訓練の眞諦                             | 増進を訓育行事の實踐                               | 月次講話揭示資料                            | 斯くも參觀と批評                               | 月末兒童出席率早見表                               | 三十年の體験 小學校訓育細案                    | 新興複式教育                                 | 第一の學級經營                     | 第二の學級經營              | 第三の學級經營             | 第四の學級經營      |
| 布面菊 262                                                               | 洋面菊 307                                  | 洋面菊 306                             | 洋面菊 255                                  | 洋面菊 318                             | 洋面菊 249                                | 洋面菊 506                                  | 洋面菊 339                           | 洋面菊 246                                | 布面菊 116                     | 布面菊 121              | 布面菊 143             | 布面菊 146      |
| 一〇〇                                                                   | 一〇〇                                      | 一〇〇                                 | 一〇〇                                      | 一〇〇                                 | 一〇〇                                    | 一〇〇                                      | 一〇〇                               | 一〇〇                                    | 一〇〇                         | 一〇〇                  | 一〇〇                 | 一〇〇          |
| 版第一會出                                                                 | 目黒書店                                     | 版第一會出                               | 版第一會出                                    | 版第一會出                               | 株明治圖書                                  | 版第一會出                                    | 版第一會出                             | 育英書院                                   | 厚生閣                         | 厚生閣                  | 厚生閣                 | 厚生閣          |
| 月三                                                                    | 月一                                       | 月一                                  | 月二十                                      | 月六                                  | 月三                                     | 月四                                       | 月四                                | 月五                                     | 月十                          | 月九                   | 月九                  | 月九           |
| ▲學校を經營するに必要な計劃方針の樹立、事務處理の方法、行事實踐の用意等を説く。▲著者が實際に經營し、活用しつゝある學習園の現狀を記述す。 | ▲學習訓練に就て研究せるもので、總論、學習訓練の理論外五篇、各論(修身科其他)。 | ▲三十年の體験に立脚して小學校の毎月に於ける訓育行事の施設實踐を示す。 | ▲各月に於ける學校學級講話及び學校揭示の實演資料を兒童の感興生活に即して記述す。 | ▲參觀篇(參觀の心組外九章)批評篇(指導者の信念に對する批評外九章)。 | ▲授業日數廿日乃至廿六日、在籍兒童五十名乃至百廿九名に對する出席率の早見表。 | ▲教育生活卅年の體験録、訓育手記及教育の原理、思潮に依り日本精神に基く訓育細案。 | ▲複式教育の各科指導の實際に就て述べた書で、複式教育の經營外三章。 | ▲學級經營の基礎調査、第一學級經營の根本方針、第一學級經營上の諸問題外二章。 | ▲學級經營上の基礎調査、第二學級經營の根本方針外三章。 | ▲學級經營理念の本質、學級經營と教育思潮 | ▲學級生活經營と本學兒童の特質外二章。 | ▲學級經營と訓練外三章。 |

教育(學校教育・學級經營・教授法・學習指導)

|                                                                      |                                 |                                          |                                        |                                        |                                        |                               |                                         |                                         |                                        |                                    |                                          |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------------|
| 野村芳兵衛                                                                | 野村芳兵衛                           | 渡部政盛                                     | 霜田靜志                                   | 學習生活研究會                                | 學習生活研究會                                | 中野八十八編著                       | 松本光亮                                    | 福井信美                                    | 玉川學園小學部編                               | 東京市小島尋常小學校編                        | 小川正行                                     |
| 尋五の學級經營                                                              | 尋六の學級經營                         | 生活學校の機構と經營                               | 低學年兒童の教育                               | 統合日案教育書                                | 統合日案教育書                                | 日本精神の訓育と各科教授                  | 辨證的教育の實踐                                | 勞作教育の實際                                 | 勞作教育の理念とその實際經營                         | 勞作教育論及教授法                          | 勞作教育論及教授法                                |
| 新四六判                                                                 | 新四六判                            | 洋四六判                                     | 並四六判                                   | 並四六判                                   | 並四六判                                   | 並四六判                          | 並四六判                                    | 並四六判                                    | 並四六判                                   | 並四六判                               | 並四六判                                     |
| 99                                                                   | 93                              | 335                                      | 320                                    | 426                                    | 430                                    | 245                           | 402                                     | 229                                     | 355                                    | 235                                | 406                                      |
| 二二〇                                                                  | 二二〇                             | 二二〇                                      | 二二〇                                    | 二二〇                                    | 二二〇                                    | 二二〇                           | 二二〇                                     | 二二〇                                     | 二二〇                                    | 二二〇                                | 二二〇                                      |
| 厚生閣                                                                  | 厚生閣                             | 友生書院                                     | 刀江書院                                   | 弘學社                                    | 弘學社                                    | 新生閣                           | 厚生閣                                     | 厚生閣                                     | 玉川學園                                   | 南光社                                | 日黑書店                                     |
| 月十                                                                   | 月十                              | 月三                                       | 月四                                     | 月四                                     | 月九                                     | 月五                            | 月二                                      | 月九                                      | 月六                                     | 月一十                                | 月十                                       |
| ▲學級經營と教育の組織原理、學級經營の具體的方針、教科經營の實際外二篇、學習指導の實際、職業指導の實際外二篇、學習指導の實際に就て述ぶ。 | ▲今後學校理念となるべき生活學校の機構及びその實際に就て述ぶ。 | ▲低學年兒童の教育に就ての體驗記で、生活と藝術と教育と、低學年の教育記録外一篇。 | ▲統合學級經營の實際(小林佐源治) 修身統合日案解説(熊井甚太郎) 外八篇。 | ▲綜合學級經營の實際(小林佐源治) 修身統合日案解説(熊井甚太郎) 外八篇。 | ▲日本精神の訓育、日本精神を生かす訓育の實際、日本精神陶冶の讀方教育外五篇。 | ▲辨證法の見地より修身、國史、國語教育の實踐に就て敘述す。 | ▲兒童の力を發揮させる綜合リズム教育の實際を説いた書で、低學年教育の部を收む。 | ▲概論(小原國芳) 勞作教育の實際(「修身」藤井勉三) 國語(北原清外五篇)。 | ▲勞作教育の理念(由良哲次) 勞作教育の諸相と施設概観(中山國六) 外八篇。 | ▲勞作教育論の思想的根柢を明かにし、教授法の實際的方法の原理を示す。 | ▲環境による各科學習の新機構(小島巖) 生活修身の新機構(岩瀬六郎) 外十三篇。 |

教育(教授法・學習指導・修身教育)

|                                            |                                          |                                    |                                    |                                   |                               |                                        |                                           |                             |                                          |                              |                                          |
|--------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------------|------------------------------|------------------------------------------|
| 伏見猛彌                                       | 松本浩記                                     | 松本浩記                               | 松本浩記                               | 松本浩記                              | 松本浩記                          | 松本浩記                                   | 附馬縣師範學校                                   | 群馬縣師範學校                     | 群馬縣女子師範                                  | 梯英雄                          | 川口下村                                     |
| 修身教育實踐の進歩                                  | 修身教育實踐の進歩                                | 修身教育實踐の進歩                          | 修身教育實踐の進歩                          | 修身教育實踐の進歩                         | 修身教育實踐の進歩                     | 修身教育實踐の進歩                              | 各科教授法概説                                   | 各科教授法概説                     | 各科教授法概説                                  | 各科教授法概説                      | 各科教授法概説                                  |
| 洋四六判                                       | 洋四六判                                     | 洋四六判                               | 洋四六判                               | 洋四六判                              | 洋四六判                          | 洋四六判                                   | 洋四六判                                      | 洋四六判                        | 洋四六判                                     | 洋四六判                         | 洋四六判                                     |
| 331                                        | 264                                      | 259                                | 280                                | 176                               | 277                           | 236                                    | 407                                       | 726                         | 310                                      | 706                          | 310                                      |
| 二二〇                                        | 二二〇                                      | 二二〇                                | 二二〇                                | 二二〇                               | 二二〇                           | 二二〇                                    | 二二〇                                       | 二二〇                         | 二二〇                                      | 二二〇                          | 二二〇                                      |
| 厚生閣                                        | 日獨書院                                     | 三友社                                | 三友社                                | 三友社                               | 三友社                           | 三友社                                    | モナス                                       | 文教書院                        | 三友社                                      | 明治圖書                         | 三友社                                      |
| 月六                                         | 月十                                       | 月五                                 | 月五                                 | 月五                                | 月四                            | 月四                                     | 月六                                        | 月六                          | 月二十                                      | 月三                           | 月二十                                      |
| ▲現時代修身教育序説(加藤將之) 修身教育の新思潮と實踐研究(小林佐源治) 外六篇。 | ▲我國の直觀教授、郷土教育及び各科教授の沿革と現在に於ける理論並に實際を敘述す。 | ▲尋六に於ける修身、讀方、算術、手工、國史、地理其他の細目式指導案。 | ▲尋五に於ける修身、讀方、算術其他各科の細目式指導案を掲載せるもの。 | ▲修身、讀方、綴方、算術其他尋三に於ける各科の細目式指導案を掲載。 | ▲修身、讀方、綴方、算術、手工、唱歌、體操の指導案を收む。 | ▲尋二の修身、讀方、書方、綴方、算術、國畫、手工、唱歌、體操の指導案を收む。 | ▲入學前後の尋一教育の實際を説き、修身、讀方、書方、綴方、算術其他の指導案を掲載。 | ▲全體觀に立つ各科教授の目的、教材、教授法其他を述ぶ。 | ▲環境による各科學習の新機構(小島巖) 生活修身の新機構(岩瀬六郎) 外十三篇。 | ▲修身、國語、算術其他各科の教授法の一概を概説せるもの。 | ▲環境による各科學習の新機構(小島巖) 生活修身の新機構(岩瀬六郎) 外十三篇。 |

教育(修身教育)

|       |             |     |     |     |     |       |    |                                           |
|-------|-------------|-----|-----|-----|-----|-------|----|-------------------------------------------|
| 荒井勇藏編 | 修身の徳目と東郷元帥  | 洋四六 | 布入判 | 488 | 二〇〇 | 成武堂   | 九月 | ▲修身の徳目教授の資料として日本精神の権化たる東郷元帥の徳を蒐集せるもの。     |
| 川島次郎  | 小學修身指導書     | 並六  | 製判  | 478 | 二〇〇 | 目黒書店  | 五月 | ▲修正修身書卷二の各教材の意義、内容を説明せる指導書。               |
| 市村清次郎 | 小學新修身書解説    | 洋四六 | 布入判 | 549 | 二〇〇 | 株明治圖書 | 四月 | ▲修正修身書を修身教育の本質に立脚し、各課に教材観、指導要項其他を施して解説す。  |
| 熊井甚太郎 | 新修身書の指導精神   | 洋四六 | 布入判 | 444 | 二〇〇 | 株明治圖書 | 五月 | ▲修正修身書の各課に指導目的、教材考察、指導計画、指導実践等を掲げて指導法を説く。 |
| 龍川芳道  | 新修身の生活指導    | 上四六 | 製入判 | 443 | 二〇〇 | モナス   | 一月 | ▲序説、新修身の基調、教授の過程、實際教授の跡、方途上の諸問題外三章。       |
| 岩瀬六郎  | 新定修身書精説     | 洋四六 | 布入判 | 480 | 二〇〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲新修身書の編纂趣意を述べ、各教材の主張を明にし、實踐指導と生活訓練を叙述す。   |
| 野瀬寛顯  | 新日本の修身と訓練   | 洋四六 | 布入判 | 392 | 二〇〇 | 南光社   | 六月 | ▲日本修身教育の根本問題と其の實踐體系を述べた書で、新日本修身教育の要諦外一章。  |
| 河野芳通  | 教員一修身例話と指導法 | 洋四六 | 布入判 | 362 | 二〇〇 | 厚生閣   | 二月 | ▲修身童話の理論問題並に尋一修身の各課に二篇乃至五篇の例話を配當して指導法を述べ。 |
| 野瀬寛顯  | 修身の指導       | 洋四六 | 布入判 | 132 | 二〇〇 | 厚生閣   | 九月 | ▲尋一修身指導の根柢、尋一兒童の道徳意識。                     |
| 松本浩記  | 修身教育の實踐     | 洋四六 | 布入判 | 300 | 二〇〇 | 文化書房  | 九月 | ▲尋二修身書の各課に目的、題材観、生活訓練の實際、補充例話等を掲げた指導書。    |
| 安部清見  | 尋二新修身指導案    | 洋四六 | 布入判 | 448 | 二〇〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲尋二修身書の各課に學習指導の着眼點、指導要項並に取扱法を述べ例話を掲ぐ。     |
| 野瀬寛顯  | 修身          | 洋四六 | 布入判 | 118 | 二〇〇 | 厚生閣   | 九月 | ▲尋二修身教材の根本的研究、尋二兒童の道徳意識、修身指導過程の様式外一章。     |

教育(修身教育・國語教育)

|            |           |     |     |     |     |       |    |                                          |
|------------|-----------|-----|-----|-----|-----|-------|----|------------------------------------------|
| 野瀬寛顯       | 修身        | 洋四六 | 布入判 | 499 | 二〇〇 | 南光社   | 二月 | ▲尋二修身の各課の取扱を述べ、更に全體的研究をなせるもの。            |
| 赤坂清一       | 修身        | 洋四六 | 布入判 | 88  | 二〇〇 | 厚生閣   | 九月 | ▲本學年學習指導要領、指導過程の研究、各學期の指導要領の三章。          |
| 小林巖        | 修身        | 洋四六 | 布入判 | 82  | 二〇〇 | 厚生閣   | 九月 | ▲本學年學習指導要領、指導過程の研究、各學期の指導要領の三章。          |
| 岩瀬六郎       | 修身        | 洋四六 | 布入判 | 92  | 二〇〇 | 厚生閣   | 九月 | ▲一般修身教育の根本問題、尋五修身學習指導の根柢、各學期の指導要領外一章。    |
| 教材王國編輯部編   | 修身補充例話    | 上六  | 製判  | 122 | 八〇  | 文化書房  | 九月 | ▲尋五、六各修身教科書の各課に二つ乃至三つの補充例話を掲ぐ。           |
| 岩瀬六郎       | 修身        | 洋四六 | 布入判 | 104 | 二〇〇 | 厚生閣   | 九月 | ▲一般修身教育の根本方針、尋六修身學習指導の根本方針外四章にて論述。       |
| 關原正浩       | 修身        | 洋四六 | 布入判 | 558 | 二〇〇 | 南光社   | 六月 | ▲卷二小學修身書の各課を要旨、教材、區分準備、方法、注意に分けて指導案を掲ぐ。  |
| 野瀬寛顯       | 修身        | 洋四六 | 布入判 | 396 | 二〇〇 | 目黒書店  | 五月 | ▲道徳に於ける時代の要請、時代の要請する日本道徳、日本的修身訓練の根柢外一章。  |
| 沖山光        | 一點凝視の讀方教育 | 上四六 | 製入判 | 320 | 二〇〇 | 南光社   | 八月 | ▲國語の種々相、魂の故郷、凝視の行的實踐相の三編にて一點凝視の讀方教育道を語る。 |
| 西原慶一編      | 解釋學の教壇實踐  | 並六  | 製判  | 113 | 二〇〇 | 啓文社   | 五月 | ▲解釋學回顧(垣内松三)解釋學の實踐的根據(飛田隆)解釋(金原省吾)外十四篇。  |
| 渡部政盛       | 現代國語教育の革新 | 洋四六 | 布入判 | 352 | 二〇〇 | 株明治圖書 | 五月 | ▲解釋學、表現學、意義學の一般に關して講述せるもの。               |
| 東京女子高等師範學校 | 現代國語教育の革新 | 洋四六 | 布入判 | 304 | 二〇〇 | 株明治圖書 | 五月 | ▲綴方教育と劣等兒童(飯田恒作)童話長篇と讀み方指導(原田直茂)外七篇。     |

教育(國語教育)

|         |           |      |     |     |     |       |      |                                           |
|---------|-----------|------|-----|-----|-----|-------|------|-------------------------------------------|
| 垣内 松三   | 國語教育講話    | 布面菊  | 裝入判 | 411 | 三〇〇 | 同志同行社 | 二月二十 | ▲國語教室、實踐の技術學、國心と國語等國語教育に關して記述す。           |
| 飛田 隆    | 國語教育哲學    | 洋面菊  | 布入判 | 235 | 二〇〇 | 啓文社   | 二月二十 | ▲國語教育科學の組織、解釋學の實踐的根據文學史に於ける新生の問題外三章の論文集。  |
| 丸山 良二   | 國語の心理     | 洋面菊  | 布入判 | 265 | 一〇〇 | 藤井書店  | 二月十  | ▲兒童の國語成績はどのやうに發達するかを中心に之に關聯する諸問題を心理的に研究す  |
| 兒童學習會編  | 國語の整理と試練  | 上四六  | 裝入判 | 272 | 六〇〇 | 小學出版社 | 二月九  | ▲小學國語讀本卷九、十、十一、十二に亘つて重要な問題を選擇せるもの。        |
| 白鳥 省吾   | 詩の鑑賞と教育   | 洋面四六 | 布入判 | 359 | 二〇〇 | 賢文館   | 二月九  | ▲韻文指導に就て説き、卷一より卷六までの新國語讀本の詩を鑑賞し、新詩鑑賞法を語る。 |
| 田中 武烈   | 實踐讀み方教育   | 布面菊  | 裝入判 | 458 | 三〇〇 | 目黒書店  | 二月四  | ▲讀み方教育の主要問題を取扱つた書で、實踐讀み方教育の建設外十九章。        |
| 宮川 菊芳編著 | 小學國語讀本解説  | 洋面四六 | 布入判 | 600 | 二〇〇 | 株明治會社 | 二月三  | ▲卷五、小學國語讀本の各課に教材觀、指導觀補充文、參考資料の四項目を施して解説す。 |
| 宮川 菊芳編著 | 小學國語讀本解説  | 洋面四六 | 布入判 | 620 | 二〇〇 | 株明治會社 | 二月九  | ▲小學國語讀本卷六の各課に教材觀、指導觀補充文、參考資料等を掲げて解説す。     |
| 秋田 喜三郎  | 小學國語讀本指導書 | 洋面四六 | 布入判 | 432 | 二〇〇 | 小學館   | 二月九  | ▲卷六國語讀本の各課に於ける指導の實際を解説し、教授細目を掲ぐ。          |
| 佐藤 才治   | 小學國語讀本指導書 | 洋面四六 | 布入判 | 305 | 二〇〇 | 株明治會社 | 二月四  | ▲尋常科卷五の國語讀本の各課に指導細目、文章研究、指導要諦の三項を掲げて解説す。  |
| 山内 才治   | 小學國語讀本指導書 | 洋面四六 | 布入判 | 422 | 二〇〇 | 株明治會社 | 二月八  | ▲小學國語讀本卷六の各課に教材觀、指導觀、指導過程の三項目を掲げて指導法を説く。  |
| 山内 才治   | 小學國語讀本指導書 | 洋面四六 | 布入判 | 306 | 二〇〇 | 賢文館   | 二月十  | ▲小學國語讀本卷六の編纂精神と指導概説を示し各課の指導法を解説す。         |

11011

教育(國語教育)

|        |                |      |     |     |     |       |      |                                            |
|--------|----------------|------|-----|-----|-----|-------|------|--------------------------------------------|
| 濱田 俊次郎 | 新小學國語讀本指導精説    | 布面菊  | 裝入判 | 549 | 二〇〇 | 南光社   | 二月二十 | ▲卷六國語讀本の編纂精神と教材機構を述べ各課指導の實際を説く。            |
| 坂本 豊   | 成長小學國語讀本の教授    | 洋面四六 | 布入判 | 432 | 二〇〇 | 株明治會社 | 二月四  | ▲尋常科卷五の國語讀本の各課に目的、教材觀、指導計畫、指導の實際等を掲ぐ。      |
| 佐藤 末吉  | 生活小學國語讀本の指導    | 洋面四六 | 布入判 | 516 | 二〇〇 | 株明治會社 | 二月九  | ▲小學國語讀本卷六の各課に目的、教材觀、指導計畫、實地研究、補充分を掲げた指導書。  |
| 佐藤 末吉  | 生活小學國語讀本の指導    | 洋面四六 | 布入判 | 540 | 二〇〇 | 株明治會社 | 二月四  | ▲尋常科卷五の國語讀本の各課に要旨、教材觀、教材の考察、指導の實際の四項を施す。   |
| 佐藤 末吉  | 生活小學國語讀本の指導    | 洋面四六 | 布入判 | 526 | 二〇〇 | 株明治會社 | 二月十  | ▲卷六小學國語讀本の指導の實際を研究叙述せるもの。                  |
| 千葉 春雄  | 小學國語讀本の指導とその理論 | 並菊   | 裝入判 | 241 | 〇〇〇 | 厚生閣   | 二月五  | ▲卷一國語讀本の各課の精神、各課の文章、指導細目案を記述し、改正意見其他を掲載す   |
| 千葉 春雄  | 小學國語讀本の指導とその理論 | 並菊   | 裝入判 | 297 | 一〇〇 | 厚生閣   | 二月五  | ▲卷二國語讀本の各課の精神、各課文章の解説・批評・研究、指導細目其他を記述す。    |
| 田中 武烈  | 小學國語讀本の指導の實際   | 布面四六 | 裝入判 | 466 | 二〇〇 | 三元堂   | 二月五  | ▲尋一國語讀本の各課に要旨、教材觀、時間相當、指導過程外一項目を掲げて指導法を示す。 |
| 田中 武烈  | 小學國語讀本の指導の實際   | 布面四六 | 裝入判 | 340 | 二〇〇 | 目黒書店  | 二月四  | ▲卷五小學國語讀本の各課に教材觀、實際指導の二項目を掲げて實際取扱法を示す。     |
| 田中 武烈  | 小學國語讀本の指導の實際   | 布面四六 | 裝入判 | 330 | 二〇〇 | 目黒書店  | 二月九  | ▲卷六小學國語讀本の各課に教材觀、實際指導の二項目を掲げて實際取扱法を示す。     |
| 田中 武烈  | 小學國語讀本の指導の實際   | 布面四六 | 裝入判 | 330 | 二〇〇 | 目黒書店  | 二月九  | ▲小學國語讀本卷六の朗讀法を示せるもの。                       |
| 神保 格   | 小學國語讀本朗讀法      | 並菊   | 裝入判 | 126 | 一〇〇 | 厚生閣   | 二月七  | ▲小學國語讀本卷六の朗讀法を示せるもの。                       |
| 神保 格   | 小學國語讀本朗讀法      | 並菊   | 裝入判 | 133 | 一〇〇 | 厚生閣   | 二月十一 | ▲小學國語讀本卷六の朗讀法を示せるもの。                       |
| 小林 佐源治 | 小學國語讀本朗讀法      | 並菊   | 裝入判 | 384 | 二〇〇 | 三省堂   | 二月五  | ▲尋三前期用の國語讀本に關する總説を述べ各課指導の實際を説明す。           |

11011



教育(國語教育)

|        |             |    |    |    |     |     |       |    |                                         |
|--------|-------------|----|----|----|-----|-----|-------|----|-----------------------------------------|
| 岩瀬 六郎  | 新小學國語讀本指導案  | 洋装 | 布装 | 判入 | 120 | 二二〇 | 南光社   | 四月 | ▲新小學國語讀本卷五の各課を解説し 指導案を掲げたもの。            |
| 浅黄 俊次郎 | 新小學國語讀本指導精説 | 洋装 | 布装 | 判入 | 134 | 二二〇 | 南光社   | 五月 | ▲新小學國語讀本卷五の教材機構と指導機構を述べ、各課指導の實際を説明す。    |
| 岩瀬 六郎  | 新小學國語讀本指導案  | 洋装 | 布装 | 判入 | 208 | 二二〇 | 南光社   | 五月 | ▲巻六小學國語讀本の各課に教材解説、指導計畫、指導の實際、參考を掲げた指導案。 |
| 西原 慶一  | 新讀本漢字の字源研究  | 洋装 | 布装 | 判入 | 184 | 二二〇 | 啓文社   | 五月 | ▲小學國語讀本卷一、二、三、四に掲載されてゐる漢字の六書的の字源研究。     |
| 友納 友次郎 | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 628 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲巻五新讀本の姿態と機構を究め、各課の要旨、教材研究、指導計畫其他を解説す。  |
| 友納 友次郎 | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 105 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲形象直観乃至本質認識の原理に立つて、巻六新讀本の指導法を解説す。       |
| 友納 友次郎 | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 442 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲第一讀み方教育の目的、小學國語卷一の組織と指導方針外三章。          |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 445 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲第三讀み方學習指導要領、模式的指導過程の研究、尋三各學期の指導要領の三章。  |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 135 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲尋四讀み方學習指導要領、模式的指導過程の研究、尋四各學期の指導要領の三章。  |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 128 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲尋五の讀み方教育に就ての論述で、尋五讀み方學習指導要領外二章。        |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 146 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲尋六讀み方學習指導要領其基礎論、模式的指導過程の研究外一章にて論述。     |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 630 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲現代讀み方教育思潮動向の鳥瞰、假名指導とその實踐工作外十三章にて叙述す。   |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 617 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 | ▲古典文學と國語教育(藤村作) 國文學研究法と國語教育(久松義一) 外十六篇。 |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 723 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 |                                         |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 361 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 |                                         |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 77  | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 |                                         |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 83  | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 |                                         |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 134 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 |                                         |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 128 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 |                                         |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 146 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 |                                         |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 630 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 |                                         |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 617 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 |                                         |
| 徳田 進   | 新讀本の指導精説    | 洋装 | 布装 | 判入 | 723 | 二二〇 | 株明治圖書 | 三月 |                                         |

教育(國語教育・綴方教育)

|        |               |    |    |    |     |     |       |    |                                             |
|--------|---------------|----|----|----|-----|-----|-------|----|---------------------------------------------|
| 新國民教育  | 綴方教育          | 洋装 | 布装 | 判入 | 175 | 二二〇 | 新國民教育 | 四月 | ▲小學國語讀本卷五の編纂趣旨、綴方指導の實際より見たる新讀本卷五外一篇。        |
| 小島 忠治  | まことと綴方教育      | 洋装 | 布装 | 判入 | 135 | 二二〇 | 育英書院  | 四月 | ▲綴方及綴方教育の理念を「まこと」に求めこの根本精神に依つて原理と方法を考究す。    |
| 原上 直吉  | 模範指導書         | 洋装 | 布装 | 判入 | 445 | 二二〇 | 日黒書店  | 四月 | ▲尋常三學年の國語讀本の教材の観点を明かにして指導の實際を具體的に詳述せるもの。    |
| 原上 直吉  | 模範指導書         | 洋装 | 布装 | 判入 | 442 | 二二〇 | 日黒書店  | 四月 | ▲巻六小學國語讀本の各課に教材、教材の観点、指導の要綱、指導の實際を掲げた指導書。   |
| 東京市編   | 綴方教育測定        | 洋装 | 布装 | 判入 | 187 | 二二〇 | 勝田書店  | 二月 | ▲児童、學校、學校の成績診斷、教育研究に必要な綴方教育の成績テストの方法を示す。    |
| 西原 慶一  | 綴方教育の指導過程の新研究 | 洋装 | 布装 | 判入 | 105 | 二二〇 | 啓文社   | 二月 | ▲編纂の趣意(西原慶一) 國語との闘争(垣内松三) 行的統一の過程(小松寛) 外十六篇 |
| 佐藤 徳市  | 綴方教育の領野と方法    | 洋装 | 布装 | 判入 | 628 | 二二〇 | 啓文社   | 二月 | ▲序論、教材論、方法論、児童及環境論、實際の五篇にて綴方教育の領野と方法を論述す    |
| 西原 慶一  | 綴方教育の心理學的實踐研究 | 洋装 | 布装 | 判入 | 184 | 二二〇 | 啓文社   | 二月 | ▲編纂の趣意(西原慶一) 綴方に於ける語彙負擔(奥水實) 其他。            |
| 武藤 要   | 綴方の解釋學的實踐     | 洋装 | 布装 | 判入 | 275 | 二二〇 | 厚生閣   | 九月 | ▲文のもてる機構を考證し、解釋學的實踐に就て説き、それを系統づけて叙述す。       |
| 田中 豊太郎 | 綴方教育の指導文例其取扱  | 洋装 | 布装 | 判入 | 208 | 二二〇 | 賢文館   | 三月 | ▲尋二綴方各月の指導文例と指導要項を収めたもので、指導書を附す。            |
| 富原 義徳  | 綴方の綴方         | 洋装 | 布装 | 判入 | 134 | 二二〇 | 厚生閣   | 九月 | ▲綴り方教育の目的、綴り方をかく正しい態度について、尋一綴り方指導系統概説外五章    |
| 富原 義徳  | 綴方の綴方         | 洋装 | 布装 | 判入 | 120 | 二二〇 | 厚生閣   | 九月 | ▲綴り方教育の本質的考察、新しい綴り方教育思潮とその實踐精神について外五章。      |

教育（綴方教育・書方教育）

|        |                                                           |        |     |     |      |       |
|--------|-----------------------------------------------------------|--------|-----|-----|------|-------|
| 田中 豊太郎 | 綴方教育の根本態度、取材の實相と指導要領、表現形式について外四章。相と取材の指導外四章。尋四の題材の實       | 布面新四六判 | 89  | 二〇〇 | 四月九  | 厚生閣   |
| 田中 豊太郎 | 北海道余市地方の綴方題材層（高島幸次）其他全国の生活層と綴方題材に就て述べ、心的表現性並に実践的指導形態を叙述す。 | 布面新四六判 | 278 | 二〇〇 | 四月十  | 文録社   |
| 石森 延男  | 綴方教育の歴史と現時的動向を批判し、心的表現性並に実践的指導形態を叙述す。                     | 布面新四六判 | 411 | 二〇〇 | 四月六  | 啓文社   |
| 飯田 恒作  | 綴方教育の歴史と現時的動向を批判し、心的表現性並に実践的指導形態を叙述す。                     | 布面新四六判 | 227 | 二〇〇 | 四月一十 | 培風館   |
| 田中 豊太郎 | 綴方教育の歴史と現時的動向を批判し、心的表現性並に実践的指導形態を叙述す。                     | 布面新四六判 | 363 | 二〇〇 | 四月五  | 株明治會社 |
| 菱田 亮一  | 綴方教育の歴史と現時的動向を批判し、心的表現性並に実践的指導形態を叙述す。                     | 布面新四六判 | 298 | 二〇〇 | 四月四  | 啓文堂   |
| 丸山 良寛  | 綴方教育の歴史と現時的動向を批判し、心的表現性並に実践的指導形態を叙述す。                     | 布面新四六判 | 137 | 二〇〇 | 四月四  | 藤井書店  |
| 笠井 義夫  | 綴方教育の歴史と現時的動向を批判し、心的表現性並に実践的指導形態を叙述す。                     | 布面新四六判 | 253 | 二〇〇 | 四月四  | 株明治會社 |
| 前田 春晃  | 綴方教育の歴史と現時的動向を批判し、心的表現性並に実践的指導形態を叙述す。                     | 布面新四六判 | 168 | 二〇〇 | 四月四  | 文書堂   |
| 前田 春晃  | 綴方教育の歴史と現時的動向を批判し、心的表現性並に実践的指導形態を叙述す。                     | 布面新四六判 | 208 | 二〇〇 | 四月十  | 文書堂   |

教育（書方教育・算術教育）

|          |                |        |     |     |      |        |
|----------|----------------|--------|-----|-----|------|--------|
| 日本算術教育聯盟 | 算術基本教材の吟味及び鍛錬法 | 布面新四六判 | 95  | 二〇〇 | 五月五  | 日本算術聯盟 |
| 大原 三藏    | 算術基本教材の吟味及び鍛錬法 | 布面新四六判 | 118 | 二〇〇 | 五月五  | 育英書院   |
| 厚生 閣編    | 算術教育の實踐の進歩     | 布面新四六判 | 368 | 二〇〇 | 四月四  | 厚生閣    |
| 岩下 吉衛    | 算術教育の體系        | 布面新四六判 | 444 | 二〇〇 | 二月二  | 株明治會社  |
| 永野 芳夫    | 算術の心理學         | 布面新四六判 | 441 | 二〇〇 | 一月一十 | モナス    |
| 森 三郎     | 算術の原理と實際       | 布面新四六判 | 335 | 二〇〇 | 六月六  | 厚生閣    |
| 岩下 吉衛    | 算術幾何問題解法       | 布面新四六判 | 378 | 二〇〇 | 三月三  | 株明治會社  |
| 岩下 吉衛    | 算術教授法          | 布面新四六判 | 321 | 二〇〇 | 三月三  | 株明治會社  |
| 岩下 吉衛    | 算術教授法          | 布面新四六判 | 356 | 二〇〇 | 八月八  | 株明治會社  |
| 池内 房吉    | 算術指導法          | 布面新四六判 | 290 | 二〇〇 | 三月三  | 株明治會社  |

教育(算學教育)

Table with 10 columns: Author, Title, Format, Price, Publisher, Date, Description. Includes entries for 池内房吉, 藤原安治郎, 村田英吉, 高木佐加枝, 高木佐加枝, 高木佐加枝, 高木佐加枝, 三溝芳郎, 香取良範, 何本三二, 福井茂三郎, 福井茂三郎, 小山崎藤亮.

教育(算學教育)

Table with 10 columns: Author, Title, Format, Price, Publisher, Date, Description. Includes entries for 安東壽郎, 關本忠七, 池松良雄, 池松良雄, 東京市算術教育研究会, 神田次郎, 中山野本恭孫, 中山野本恭孫, 吉野代秀, 吉野代秀, 實生活算術, 實生活算術, 實生活算術.

教育(數學教育・理科教育)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |       |       |       |       |            |           |           |               |             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|-----------|-----------|---------------|-------------|
| 關山本根                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 池内房吉  | 山内俊次  | 山内俊次  | 關根忠   | 關根忠   | 中邑幾太       | 中野恭一      | 香取良範      | 岩下吉術          | 國民教育新聞社編    |
| 尋一新算術の教育                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 尋一の算術 | 尋三の算術 | 尋四の算術 | 尋五の算術 | 尋六の算術 | 數學教授の心理的研究 | 生活算術の實踐原理 | 系統的算術の新研究 | 作業中心生活指導の算術教育 | 小算術の編纂趣旨と取扱 |
| 上編                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 新四六判  | 新四六判  | 新四六判  | 新四六判  | 新四六判  | 新四六判       | 新四六判      | 新四六判      | 新四六判          | 新四六判        |
| 266                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 105   | 195   | 147   | 90    | 94    | 323        | 367       | 308       | 406           | 162         |
| 二〇〇                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 一〇〇   | 一〇〇   | 一〇〇   | 一〇〇   | 一〇〇   | 一〇〇        | 一〇〇       | 一〇〇       | 一〇〇           | 一〇〇         |
| 目黒書店                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 厚生閣   | 厚生閣   | 厚生閣   | 厚生閣   | 厚生閣   | 中文館        | 賢文館       | モナス       | 新生閣           | 國民教育新聞社     |
| 月十                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 月九    | 月十    | 月九    | 月九    | 月九    | 月一         | 月一        | 月九        | 月一            | 月二          |
| ▲尋一新算術書下巻の指導主眼と教材の要點<br>其他の一般事項を説き、指導の實際を述べ、<br>▲尋一算術教育の根本方針、尋一算術教材の<br>全般的研究外一章。<br>▲尋三算術教材を概説し、第一學期、第二學<br>期、第三學期の教材を説明す。<br>▲尋四算術教育の實際に就て述べた書で、第<br>一學期教材外二章。<br>▲尋五算術指導要領、各學期の指導要領、指<br>導過程の研究の三章。<br>▲尋六算術教育要領、各學期の指導要領、模<br>式的指導過程の三章。<br>▲數を取扱つた結果からそれに至る機能を推<br>究する方法により算術教授を心理的に研究す<br>るの算術教育の本質、目的、教材、方法等の總<br>論の算術教育の材料外三章にて研究す。<br>▲高學年算術教育の目的、高學年<br>算術教育の材料外三章にて研究す。<br>▲事實を尊重し、作業を中心とする生活指導<br>の算術教育に就て論述す。<br>▲新尋常小算術の編纂趣旨を述べ、其の取<br>扱方法を解説す。 |       |       |       |       |       |            |           |           |               |             |

教育(理科教育)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                |         |         |            |         |       |       |       |         |             |              |              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|---------|---------|------------|---------|-------|-------|-------|---------|-------------|--------------|--------------|
| 宗田克巳                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 有坂勝久           | 堂東傳     | 佐藤清明    | 吉田弘        | 大島鎮治    | 高村廣吉  | 高村廣吉  | 栗山重   | 福井玉夫    | 厚生閣編輯部編     | 大島鎮治         | 桑原理助         |
| 岡山縣理科教材                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 危險の伴ふ理科實驗と其取扱法 | 最新理科教授法 | 趣味の博物教材 | 小學理化實驗圖説集成 | 新理科教育概論 | 尋四の理科 | 尋五の理科 | 尋六の理科 | 小動物教材研究 | 最近理科教育實踐の進歩 | 尋常理科教材の基礎的研究 | 最新理科教育の動向と革新 |
| 新四六判                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 新四六判           | 新四六判    | 新四六判    | 新四六判       | 新四六判    | 新四六判  | 新四六判  | 新四六判  | 新四六判    | 新四六判        | 新四六判         | 新四六判         |
| 120                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 129            | 397     | 567     | 283        | 371     | 93    | 120   | 98    | 342     | 345         | 259          | 472          |
| 七〇                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 八〇             | 三〇〇     | 一〇〇     | 二〇〇        | 二〇〇     | 二〇〇   | 二〇〇   | 二〇〇   | 二〇〇     | 二〇〇         | 二〇〇          | 二〇〇          |
| 文正社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 啓文社            | 賢文館     | 文教書院    | 目黒書店       | モナス     | 厚生閣   | 厚生閣   | 培風館   | 培風館     | 厚生閣         | モナス          | 明治圖書株式會社     |
| 月四                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 月六             | 月七      | 月九      | 月六         | 月五      | 月九    | 月九    | 月九    | 月三      | 月五          | 月九           | 月四           |
| ▲中等學校生徒及び小學教員の參考書で、植<br>物之部、動物之部外二篇。<br>▲準備實驗の動行を望む(安東壽郎)危險の<br>伴ふ理科實驗に關する注意(桑木來吉)其他<br>の理科教育目的の検討、教法に關する實際問<br>題の解決外三章にて最新理科教授法を説く。<br>▲最新の科學に基礎を置いて動物、植物、礦<br>物の知識を面白く趣味的に述べ。<br>▲小學理科書に出てゐる實驗を網羅し、圖解<br>により實驗法を説き原理を述べ。<br>▲總論、科學的研究法概説、理科教授の教育<br>的職能、理科教授の實際的研究外二章。<br>▲理科學習の主眼、理科學習の指導過程、本<br>學年理科學習指導の注意外三章。<br>▲理科學習の目的、理科學習指導要領、理科<br>各教材指導の目的、理科學習指導要領、理科<br>各教材指導の目的、理科學習指導過程の研<br>究、各學期の指導要領の三章。<br>▲現行小學校の理科教科書中の動物教材を教<br>科實施の具體的方法(栗山重)外四篇。<br>▲自然科學の生活と理科教育(太田章一)自然<br>科學の生活と理科教育(栗山重)外四篇。<br>▲小學校の理科に於ける物理の教材を掲げ各教<br>材の科學的意味、家庭社會生活の關係を説く<br>▲我國に於ける理科教育の將に進むべき大道<br>を明示したるもの。 |                |         |         |            |         |       |       |       |         |             |              |              |

教育(理科教育・歴史教育)

|                                                     |                                                          |                                                                            |                                          |                                                             |                                                             |                                                |                                              |                                                 |                                                      |                                                  |                                |
|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------|
| 有坂 勝久編<br>理科教材取扱の難點研究<br>理科教材取扱の難點研究<br>理科教材取扱の難點研究 | 長下 島政理市夫<br>國小學校高理化實驗と製作<br>國小學校高理化實驗と製作<br>國小學校高理化實驗と製作 | 堀七藏<br>理科の教育<br>理科の教育<br>理科の教育                                             | 吉田 弘<br>理科の系統的指導<br>理科の系統的指導<br>理科の系統的指導 | 東京成徳學園<br>谷 光長<br>日本精神の教壇上の國史<br>日本精神の教壇上の國史<br>日本精神の教壇上の國史 | 東京成徳學園<br>谷 光長<br>日本精神の教壇上の國史<br>日本精神の教壇上の國史<br>日本精神の教壇上の國史 | 吉 義一<br>國史教育の解釋と實踐<br>國史教育の解釋と實踐<br>國史教育の解釋と實踐 | 厚生 閣編<br>國史教育實踐の進歩<br>國史教育實踐の進歩<br>國史教育實踐の進歩 | 各科教育研究會編<br>國史指導案の新研究<br>國史指導案の新研究<br>國史指導案の新研究 | 加太野 八十八<br>國體觀念強調の國史教育<br>國體觀念強調の國史教育<br>國體觀念強調の國史教育 | 京都府師範<br>學校史友會編<br>今後の國史教育<br>今後の國史教育<br>今後の國史教育 |                                |
| 上 菊<br>製判<br>123                                    | 洋函四六<br>布入判<br>370                                       | 洋函四六<br>布入判<br>404                                                         | 洋函四六<br>布入判<br>370                       | 上四六<br>製入判<br>291                                           | 上四六<br>製入判<br>291                                           | 洋函四六<br>布入判<br>490                             | 洋函四六<br>布入判<br>290                           | 洋函四六<br>布入判<br>380                              | 洋函四六<br>布入判<br>329                                   | 洋函四六<br>布入判<br>389                               | 正 菊<br>製判<br>100               |
| 啓文社                                                 | 啓文社                                                      | 啓文社                                                                        | 啓文社                                      | 啓文社                                                         | 啓文社                                                         | 厚生閣                                            | 厚生閣                                          | 南光社                                             | 南光社                                                  | 南光社                                              | 啓文社                            |
| 月九                                                  | 月一                                                       | 月十                                                                         | 月二                                       | 月三                                                          | 月三                                                          | 月九                                             | 月九                                           | 月四                                              | 月四                                                   | 月十                                               | 月三                             |
| ▲理科書取扱方の難點(桑木來吉)尋常四年の植物教材(守田久男)其他                   | ▲小學校高學年を中心として理化實驗とそれによる製作を圖説す。                           | ▲小學校理科教育の全般に亘つて實際的に述べたもので、我國に於ける理科教育史外十章▲實地觀察による理科を知識的方面並に方法上による系統的指導法を示す。 | ▲尋常五學年の國史の各科に史眼及史料の項目を設けて説述せる書。          | ▲兒童の現實生活に意味關聯する國史材の研究、國民精神指導形態の二編。                          | ▲國史教材を如何に解釋し、國史教育を如何に實踐すべきかに就て説述す。                          | ▲歴史哲學について(由良哲次)國史教育の本道とその實踐(大久保馨)外五篇。          | ▲國史科指導過程を企圖する場合に於ける各種の問題を叙述す。                | ▲國體觀念の確立強調を期し、現代教育思潮を基石として國史教育の實際問題を叙述す。        | ▲國史教育の正しい方向(大久保馨)外三篇。                                | ▲國史教育の正しい方向(大久保馨)外三篇。                            | ▲第六回は建國の體制、國內の統一・上古の社會政治組織の二篇。 |

教育(歴史教育)

|                                          |                                         |                                 |                                   |                                          |                                          |                                   |                                          |                                 |                                 |                                        |                                           |                                           |                                           |
|------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 京都府師範<br>學校史友會編<br>小學校用國史<br>實踐究明の國史教育原論 | 池澤 彦治<br>日本精神實踐國史教育の大道<br>日本精神實踐國史教育の大道 | 平野 武夫<br>趣味の國史教材<br>趣味の國史教材     | 岡本 瓊二<br>新小學國史の指導精神<br>新小學國史の指導精神 | 北垣 恭次郎<br>小學新國史<br>小學新國史                 | 三木 英太郎<br>新尋常小學國史<br>新尋常小學國史             | 増澤 淑<br>新尋常小學國史挿畫<br>新尋常小學國史挿畫    | 増澤 淑<br>新尋常小學國史挿畫<br>新尋常小學國史挿畫           | 中村 孝也<br>尋常小學國史の活用<br>尋常小學國史の活用 | 確井 正丸<br>尋常小學國史の活用<br>尋常小學國史の活用 | 確井 正丸<br>尋常小學國史の活用<br>尋常小學國史の活用        | 京都府師範<br>學校史友會編<br>國史教育の系統的研究             | 東京府青山師範學校附<br>屬小學校教育研究會編<br>國史教育の系統的研究    |                                           |
| 洋函四六<br>布入判<br>108                       | 洋函四六<br>布入判<br>148                      | 洋函四六<br>布入判<br>650              | 洋函四六<br>布入判<br>470                | 洋函四六<br>布入判<br>615                       | 洋函四六<br>布入判<br>536                       | 洋函四六<br>布入判<br>424                | 洋函四六<br>布入判<br>420                       | 洋函四六<br>布入判<br>162              | 洋函四六<br>布入判<br>136              | 洋函四六<br>布入判<br>129                     | 洋函四六<br>布入判<br>136                        | 洋函四六<br>布入判<br>365                        | 洋函四六<br>布入判<br>365                        |
| 啓文社                                      | 啓文社                                     | 啓文社                             | 啓文社                               | 啓文社                                      | 啓文社                                      | 啓文社                               | 啓文社                                      | 啓文社                             | 啓文社                             | 啓文社                                    | 啓文社                                       | 啓文社                                       | 啓文社                                       |
| 月五                                       | 月二十                                     | 月五                              | 月九                                | 月三                                       | 月三                                       | 月三                                | 月五                                       | 月五                              | 月九                              | 月九                                     | 月六                                        | 月二                                        | 月二                                        |
| ▲第六回は建國の體制、國內の統一・上古の社會政治組織の二篇。           | ▲歴史教育の實踐的究明として今後の國史教育に對する意見を述べた書。       | ▲日本精神の確認、體現をめざす國史教育の進むべき大道を明示す。 | ▲凡ゆる角度から國史を自由に眺めて述べた趣味の國史教材。      | ▲尋六小學國史の各課に教授の要旨、説話要領、注意事項等を掲げて指導精神を述べた。 | ▲尋六新國史の各課を教材の解説、教材の構成、中心陶治の求め外二項を掲げて解説す。 | ▲尋常小學國史上下二巻の挿畫及び歴史地圖を觀察し、之を解剖批判す。 | ▲尋常小學國史各章に就き、之を活用する道を述べた書で、第一分冊は天照大神外一篇。 | ▲尋五國史學習指導の原理、第一學期の指導要領外二章にて論述。  | ▲尋六國史學習指導の根本原理、第一學期指導要領外二章にて論述。 | ▲王政回復の御志、承久の變、北條氏の無道建武中興の宏業、足利尊氏の反外八篇。 | ▲國史教育に於て日本精神の陶治に就て如何なる觀點に立ち如何に實踐すべきかを研究す。 | ▲國史教育に於て日本精神の陶治に就て如何なる觀點に立ち如何に實踐すべきかを研究す。 | ▲國史教育に於て日本精神の陶治に就て如何なる觀點に立ち如何に實踐すべきかを研究す。 |

教育(歴史教育・地理教育)

|                      |                 |               |      |     |     |       |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------|-----------------|---------------|------|-----|-----|-------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 京都府師範<br>學校史友會編      | 小澤國史教師用書(資料詳見8) | 平安時代の文化       | 並六判  | 86  | 四〇  | 政經書院  | 月八  | ▲第八回は平安時代の文化を解説せるもので時代概説(國際關係の變化外十篇)其他、<br>▲純粹心理學の原則に立脚して歴史教育による日本人教育の基本問題を論述す。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 東京女子高等師範學校教授<br>齋藤英夫 | 歴史教育の<br>基本問題   | 歴史教育の<br>基本問題 | 洋四六判 | 216 | 二〇〇 | 刀江書院  | 月一  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 三木英太郎                | 作業地理教育法         | 作業地理教育法       | 洋四六判 | 432 | 三〇〇 | 賢文館   | 月九  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 對馬敬吾郎                | 新地理教育原論         | 新地理教育原論       | 洋四六判 | 536 | 四〇〇 | 株式會社書 | 月四  | ▲地理科の指導精神、作業地理教育の指導原理外十章にて作業地理教育法を叙述す。<br>▲地理教育に於ける種々の問題に就て述べたもので、地理科を基礎づけるもの其他、<br>▲最近に於ける地理教授の傾向及び地理經營を叙述した書で、理論編、實際編に分つ。<br>▲五教科書に準據し、地方別により日本の地誌を解説せる教授用参考書。<br>▲地理科取扱上の計畫に就て叙述せるもので教材の價値を認識することが先づ第一歩其他の、外國地理取扱上の着眼點に就て解説せるもの。<br>▲景観的、地域的綜合地理を明日の教壇に生かすべき方法を記述す。<br>▲地理教育の重要點(内田寛一)新興滿洲國の地理指導(鶴居滋一)外五篇。<br>▲國民教科としての地理教育の精神を述べたもので、小學校に於ける地理教授の意義其他の、地理教育による非常時局打開を述べた書で最近の國際關係、軍縮と國防外八篇。 |
| 香川幹一                 | 新地理教授の動向と經營     | 新地理教授の動向と經營   | 洋四六判 | 347 | 二〇〇 | 友生書院  | 月四  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 柴田來                  | 尋五の地誌           | 尋五の地誌         | 洋四六判 | 298 | 二〇〇 | 古今書院  | 月八  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 柴田來                  | 尋五の地理           | 尋五の地理         | 洋四六判 | 93  | 四〇  | 厚生閣   | 月十  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 寺中光義                 | 景観的綜合地理教育新論     | 景観的綜合地理教育新論   | 洋四六判 | 260 | 二〇〇 | 新生閣   | 月二  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 厚生閣編                 | 最近地理教育實踐の進歩     | 最近地理教育實踐の進歩   | 洋四六判 | 331 | 二〇〇 | 厚生閣   | 月二十 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 齋藤英夫                 | 生活地理教授の革新的新主張   | 生活地理教授の革新的新主張 | 洋四六判 | 440 | 二〇〇 | 新生閣   | 月三  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 西龜正夫                 | 非常時局と地理教育       | 非常時局と地理教育     | 洋四六判 | 150 | 六〇  | 古今書院  | 月二  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

教育(地理教育・圖畫教育)

|                      |               |               |      |     |     |       |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------|---------------|---------------|------|-----|-----|-------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 三木英太郎                | 模範地理教授        | 模範地理教授        | 洋四六判 | 504 | 三〇〇 | 古今書院  | 月四  | ▲地理書と地理書附圖の聯絡、地理書附圖への教育外三章にて説述。<br>▲日本及び世界地理並に地理通論に於ける地理教授全般に亘つて掲ぐ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 東京女子高等師範學校教授<br>三苦正雄 | 高等小學圖畫の解説と其取扱 | 高等小學圖畫の解説と其取扱 | 洋四六判 | 389 | 二〇〇 | 株式會社書 | 月五  | ▲高一小學圖畫の男女別各課題材を解説し意義、目的、指導要旨、指導方法を記述す。<br>▲指導要領篇、指導實際篇の二篇にて尋常小學一年より六年までの圖畫指導の實際を記述す。<br>▲第一圖畫指導の實際外二章。<br>▲第二圖畫指導要領、模式的指導過程の研究の實際外一篇にて論述。<br>▲第三圖畫指導の實際に就ての論述で、尋常小學指導要領外二章。<br>▲尋四圖畫學習指導要領、模式的指導過程の研究外一章にて論述。<br>▲圖畫科の要旨其他を述べ、尋常科各學年に於ける教授細目を掲ぐ。<br>▲圖畫指導上の問題、各學年に於ける指導の着眼點、題材を説き繪畫史を概説す。<br>▲圖畫手工教育に携はる人達の心得て置くべき常識を網羅せる著者の體驗記録。<br>▲日本美術の精神による圖畫教育論と小學圖畫に就ての論述。 |
| 東京女子高等師範學校教授<br>大竹排三 | 尋一の圖畫         | 尋一の圖畫         | 洋四六判 | 103 | 六〇  | 厚生閣   | 月九  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 東京女子高等師範學校教授<br>大竹排三 | 尋二の圖畫         | 尋二の圖畫         | 洋四六判 | 92  | 六〇  | 厚生閣   | 月九  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 東京女子高等師範學校教授<br>横井曹一 | 尋三の圖畫         | 尋三の圖畫         | 洋四六判 | 73  | 六〇  | 厚生閣   | 月九  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 東京女子高等師範學校教授<br>横井曹一 | 尋四の圖畫         | 尋四の圖畫         | 洋四六判 | 60  | 六〇  | 厚生閣   | 月九  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 初等教育研究會編             | 小學圖畫科教授細目     | 小學圖畫科教授細目     | 並六判  | 158 | 六〇  | 培風館   | 月一十 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 加藤不可止                | 圖畫指導體系と指導細目   | 圖畫指導體系と指導細目   | 洋四六判 | 332 | 二〇〇 | 三省堂   | 月三  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 中谷健次                 | 手工全體系指導記録     | 手工全體系指導記録     | 洋四六判 | 498 | 三〇〇 | 美術協會  | 月七  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 鈴木美和治                | 日本精神畫教育論と小學圖畫 | 日本精神畫教育論と小學圖畫 | 並四六判 | 115 | 六〇  | 聚文社   | 月七  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |



教育(體育・體育ダンス・學校遊戲)

|                        |                     |                              |                                          |                    |                                                                |                                         |                         |                         |                         |                                        |                                         |                                      |                                    |                                         |                                        |                         |                         |                                         |                                                                |                                          |                              |
|------------------------|---------------------|------------------------------|------------------------------------------|--------------------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------|
| 石井 藤                   | 石井 藤                | 石井 藤                         | 石井 藤                                     | 石井 藤               | 石井 藤                                                           | 石井 藤                                    | 石井 藤                    | 石井 藤                    | 石井 藤                    | 石井 藤                                   | 石井 藤                                    | 石井 藤                                 | 石井 藤                               | 石井 藤                                    | 石井 藤                                   | 石井 藤                    | 石井 藤                    | 石井 藤                                    | 石井 藤                                                           | 石井 藤                                     |                              |
| 小 藤                    | 小 藤                 | 小 藤                          | 小 藤                                      | 小 藤                | 小 藤                                                            | 小 藤                                     | 小 藤                     | 小 藤                     | 小 藤                     | 小 藤                                    | 小 藤                                     | 小 藤                                  | 小 藤                                | 小 藤                                     | 小 藤                                    | 小 藤                     | 小 藤                     | 小 藤                                     | 小 藤                                                            | 小 藤                                      |                              |
| 最新運動會資料大全              | 最新運動會資料大全           | 最新運動會資料大全                    | 最新運動會資料大全                                | 最新運動會資料大全          | 最新運動會資料大全                                                      | 最新運動會資料大全                               | 最新運動會資料大全               | 最新運動會資料大全               | 最新運動會資料大全               | 最新運動會資料大全                              | 最新運動會資料大全                               | 最新運動會資料大全                            | 最新運動會資料大全                          | 最新運動會資料大全                               | 最新運動會資料大全                              | 最新運動會資料大全               | 最新運動會資料大全               | 最新運動會資料大全                               | 最新運動會資料大全                                                      | 最新運動會資料大全                                |                              |
| 布函編                    | 布函編                 | 布函編                          | 布函編                                      | 布函編                | 布函編                                                            | 布函編                                     | 布函編                     | 布函編                     | 布函編                     | 布函編                                    | 布函編                                     | 布函編                                  | 布函編                                | 布函編                                     | 布函編                                    | 布函編                     | 布函編                     | 布函編                                     | 布函編                                                            | 布函編                                      |                              |
| 231                    | 864                 | 240                          | 116                                      | 114                | 114                                                            | 122                                     | 119                     | 122                     | 360                     | 284                                    | 228                                     | 228                                  | 228                                | 228                                     | 228                                    | 228                     | 228                     | 228                                     | 228                                                            | 228                                      |                              |
| 三〇〇                    | 三〇〇                 | 一〇〇                          | 一〇〇                                      | 一〇〇                | 一〇〇                                                            | 一〇〇                                     | 一〇〇                     | 一〇〇                     | 二〇〇                     | 二〇〇                                    | 二〇〇                                     | 二〇〇                                  | 二〇〇                                | 二〇〇                                     | 二〇〇                                    | 二〇〇                     | 二〇〇                     | 二〇〇                                     | 二〇〇                                                            | 二〇〇                                      |                              |
| 新生閣                    | 育日學本會體              | 出版第一相互社                      | 大正書院                                     | 大正書院               | 大正書院                                                           | 厚生閣                                     | 厚生閣                     | 厚生閣                     | 中文館                     | 弘學社                                    | 弘學社                                     | 弘學社                                  | 弘學社                                | 弘學社                                     | 弘學社                                    | 弘學社                     | 弘學社                     | 弘學社                                     | 弘學社                                                            | 弘學社                                      |                              |
| 月九                     | 月八                  | 月二十                          | 月九                                       | 月十                 | 月十                                                             | 月九                                      | 月九                      | 月十                      | 月十                      | 月八                                     | 月八                                      | 月八                                   | 月八                                 | 月八                                      | 月八                                     | 月八                      | 月八                      | 月八                                      | 月八                                                             | 月八                                       |                              |
| ▲北滿の少女、海洋少年、アサガオ、海の生命線 | ▲十九校の體育施設經營の實際を記述す。 | ▲歐米體育史と日本體育史に大別し、體育を歴史的に概観す。 | ▲尋六學校舞蹈指導観及び指導案例を掲げ、舞踏教材「朧月夜」其他の指導法を記述す。 | ▲尋四小學唱歌のうち、春の小川其他。 | ▲尋五小學唱歌のうち、舞踏に適合する曲譜を選び、之に振付をせるもので、みがかずば其他舞踏教材「朧月夜」其他の指導法を記述す。 | ▲尋四小學唱歌のうち、舞踏に適合する曲譜を選定し振付したもので、春の小川其他。 | ▲尋三體操學習指導要領、模式的指導過程の研究。 | ▲尋二體操學習指導要領、模式的指導過程の研究。 | ▲尋一體操學習指導要領、模式的指導過程の研究。 | ▲現代體育指導の概論、作業主義體育指導の原理、尋一體操科教育の實際案外二篇。 | ▲小學體操指導の指導に就て述べたもので、體操科、體操科の指導、成績考査外六章。 | ▲中巻は尋三、四年用の運動會の資料に關する理論、實際並に舞踏に就て説く。 | ▲下巻は尋五、六年、高等科、青年學校用に適合する運動會の資料を掲ぐ。 | ▲小學體操指導の指導に就て述べたもので、體操科、體操科の指導、成績考査外六章。 | ▲現代體育指導の概論、作業主義體育指導の原理、尋一體操科教育の實際案外二篇。 | ▲尋二體操學習指導要領、模式的指導過程の研究。 | ▲尋一體操學習指導要領、模式的指導過程の研究。 | ▲尋四小學唱歌のうち、舞踏に適合する曲譜を選定し振付したもので、春の小川其他。 | ▲尋五小學唱歌のうち、舞踏に適合する曲譜を選び、之に振付をせるもので、みがかずば其他舞踏教材「朧月夜」其他の指導法を記述す。 | ▲尋六學校舞蹈指導観及び指導案例を掲げ、舞踏教材「朧月夜」其他の指導法を記述す。 | ▲歐米體育史と日本體育史に大別し、體育を歴史的に概観す。 |

教育(音樂教育・體育・體育ダンス・學校遊戲)

|                                |                                                         |                                      |                                |                                                         |                                      |                              |                                          |                                         |                                                                |                                          |                              |                                         |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------|-----------------------------------------|
| 山岸 澤                           | 三浦 ヒロ                                                   | 佐々木 等                                | 赤間 雅彦                          | 宮川 登造                                                   | 藤村 トヨ                                | 厚生閣編輯部編                      | 大谷 武一                                    | 安田 弘嗣                                   | 小出 浩平                                                          | 坊田 壽真                                    | 坊田 壽真                        | 坊田 壽真                                   |
| 最新運動會資料大全                      | 最新運動會資料大全                                               | 最新運動會資料大全                            | 最新運動會資料大全                      | 最新運動會資料大全                                               | 最新運動會資料大全                            | 最新運動會資料大全                    | 最新運動會資料大全                                | 最新運動會資料大全                               | 最新運動會資料大全                                                      | 最新運動會資料大全                                | 最新運動會資料大全                    | 最新運動會資料大全                               |
| 布函編                            | 布函編                                                     | 布函編                                  | 布函編                            | 布函編                                                     | 布函編                                  | 布函編                          | 布函編                                      | 布函編                                     | 布函編                                                            | 布函編                                      | 布函編                          | 布函編                                     |
| 110                            | 408                                                     | 347                                  | 119                            | 426                                                     | 388                                  | 350                          | 336                                      | 350                                     | 144                                                            | 116                                      | 128                          | 144                                     |
| 二〇〇                            | 二〇〇                                                     | 二〇〇                                  | 二〇〇                            | 二〇〇                                                     | 二〇〇                                  | 二〇〇                          | 二〇〇                                      | 二〇〇                                     | 二〇〇                                                            | 二〇〇                                      | 二〇〇                          | 二〇〇                                     |
| 大正書院                           | 中文館                                                     | 中文館                                  | モナス                            | 中文館                                                     | 中文館                                  | 厚生閣                          | 中文館                                      | 中文館                                     | 厚生閣                                                            | 厚生閣                                      | 厚生閣                          | 厚生閣                                     |
| 月十                             | 月四                                                      | 月五                                   | 月二                             | 月二                                                      | 月二十                                  | 月九                           | 月四                                       | 月十                                      | 月九                                                             | 月九                                       | 月九                           | 月十                                      |
| ▲小學唱歌のうち特に舞踏に適合する曲譜を選定し振付せるもの。 | ▲月、たこの歌、雲雀、春の散步、アツプウエーゴ、胡蝶其他より成る學校舞踏教材集其他凡ゆる球技の指導法を説明す。 | ▲ダンスに就て述べ、行進遊戯の目的、教授法、補充材料の解説其他を叙述す。 | ▲小學唱歌のうち特に舞踏に適合する曲譜を選定し振付せるもの。 | ▲月、たこの歌、雲雀、春の散步、アツプウエーゴ、胡蝶其他より成る學校舞踏教材集其他凡ゆる球技の指導法を説明す。 | ▲ダンスに就て述べ、行進遊戯の目的、教授法、補充材料の解説其他を叙述す。 | ▲歐米體育史と日本體育史に大別し、體育を歴史的に概観す。 | ▲尋六學校舞蹈指導観及び指導案例を掲げ、舞踏教材「朧月夜」其他の指導法を記述す。 | ▲尋四小學唱歌のうち、舞踏に適合する曲譜を選定し振付したもので、春の小川其他。 | ▲尋五小學唱歌のうち、舞踏に適合する曲譜を選び、之に振付をせるもので、みがかずば其他舞踏教材「朧月夜」其他の指導法を記述す。 | ▲尋六學校舞蹈指導観及び指導案例を掲げ、舞踏教材「朧月夜」其他の指導法を記述す。 | ▲歐米體育史と日本體育史に大別し、體育を歴史的に概観す。 | ▲尋四小學唱歌のうち、舞踏に適合する曲譜を選定し振付したもので、春の小川其他。 |



|                        |               |            |     |     |      |     |                                              |
|------------------------|---------------|------------|-----|-----|------|-----|----------------------------------------------|
| 伊澤<br>エイ               | 體育ダンスと唱歌遊戲    | 洋四六<br>布入判 | 243 | 三〇〇 | 日黑書店 | 月三  | ▲だるまさん、水藻はゆらぐ、一番星みつけ<br>た其他の體育ダンス及唱歌遊戲を收む。   |
| 大谷<br>武一               | 訂改體育の諸問題      | 洋四六<br>布入判 | 230 | 一〇〇 | 日黑書店 | 月十  | ▲教育は體育から、體育の目的とその範圍、<br>運動選擇の根據外三十問題を論述。     |
| 東京高等師範學校助教<br>森<br>慎次郎 | 歐洲に於ける體操の新傾向  | 洋四六<br>布入判 | 380 | 二〇〇 | 中文館  | 月一十 | ▲主としてドイツ、オーストリア、デンマー<br>クの體操の實際的方面を記述す。      |
| 佐藤<br>信一               | 陸上競技學級指導法     | 洋四六<br>布入判 | 222 | 一八〇 | 目黒書店 | 月二  | ▲小中學校に於ける學級指導の實際を述べた<br>もので、序論、本論、指導一般論其他、結論 |
| 野口<br>源三郎              | 陸上競技指導法       | 洋四六<br>布入判 | 358 | 二〇〇 | 中文館  | 月六  | ▲陸上競技運動の指導法を述べた書で、總論<br>競技の指導法、競技指導者(コーチ)外二章 |
| 長尾<br>豊                | 新讀本準據一年の劇對話お話 | 上四六<br>製入判 | 210 | 八〇  | 新生閣  | 月十  | ▲一年生の小學國語讀本と聯絡のある劇、對<br>話、お話を實演中心に収めたもの。     |
| 長尾<br>豊                | 新讀本準據二年の劇對話お話 | 上四六<br>製入判 | 184 | 八〇  | 新生閣  | 月十  | ▲新讀本に準據して實演中心に二年の劇、對<br>話、お話を収めた書で、高くなる外十四篇。 |
| ビテ<br>ツア<br>コト<br>ロ編   | 學藝會演出技術と資料集   | 並四六<br>製入判 | 400 | 二〇〇 | 弘學社  | 月一十 | ▲尋一二年用の學藝會に於ける音樂、舞踊、<br>對話其他の資料を掲げ、演出技術を解説す。 |
| ビテ<br>ツア<br>コト<br>ロ編   | 學藝會演出技術と資料集   | 並四六<br>製入判 | 462 | 二〇〇 | 弘學社  | 月一十 | ▲音樂、舞踊、學校劇其他の尋三四年用の學<br>藝會に於ける資料を収め演出技術を解説す。 |
| ビテ<br>ツア<br>コト<br>ロ編   | 學藝會演出技術と資料集   | 並四六<br>製入判 | 534 | 二〇〇 | 弘學社  | 月一十 | ▲尋五六年、高等科及び青年學校の學藝會に<br>於ける演出技術並に資料を收む。      |
| 内海<br>繁太郎              | 學藝會國史劇        | 洋四六<br>布入判 | 268 | 一〇〇 | 三友社  | 月一  | ▲天の岩戸、大蛇退治、羅生門、楠正行、江<br>戸城開城外十六篇の國史の兒童劇集。    |
| 加藤<br>不可止              | 學校兒童劇と學校舞踊    | 洋四六<br>布入判 | 207 | 一〇〇 | 三成社  | 月六  | ▲學校兒童劇の理論と教科聯絡による學年適<br>用の兒童劇舞踊の實際並にリズムに就て述べ |

學校劇・學藝會

|                        |               |            |     |     |       |     |                                                |
|------------------------|---------------|------------|-----|-----|-------|-----|------------------------------------------------|
| 淺野<br>歳郎               | 新しい理論教育藝術兒童劇集 | 上四六<br>製入判 | 444 | 三〇〇 | 文松堂   | 月三  | ▲十篇十六篇の兒童劇作品及び新しい兒童劇<br>の理論と指導法を述べたもの。         |
| 長谷山<br>峻彦              | 高等小學學校劇集成     | 布四六<br>製入判 | 194 | 一四〇 | 大正書院  | 月二  | ▲高等小學學校の生徒に適する學校劇「太郎<br>やあい」「小楠公」樂しき花園」外七篇を收む。 |
| 信田<br>秀一               | 國定教科書實演偉人劇    | 並四六<br>製入判 | 345 | 二四〇 | 新生閣   | 月二十 | ▲教科書に表はれた偉人の話を戯曲化するも<br>ので、低學年用、中學年用、高學年用の三冊   |
| 兒童劇研究會編                | 新兒童劇集         | 上四六<br>製入判 | 189 | 一〇〇 | 日本學藝社 | 月七  | ▲尋一より尋六までの兒童劇を収めたもので<br>ばかなあ(北村壽夫)外九篇。         |
| 北村<br>大榮               | 童話繪話の作り方・話し方  | 布四六<br>製入判 | 242 | 一〇〇 | 香風閣   | 月六  | ▲童話、繪話の作り方、話し方を述べ、繪話<br>の實例二篇、實演童話集を附す。        |
| 醫學博士<br>吉田<br>章信       | ナー式學校衛生評價     | 洋四六<br>布入判 | 110 | 一〇〇 | 中文館   | 月五  | ▲ナー博士が案出した都市及村落の學校<br>衛生評價形式を本邦の實狀に適する様工作す     |
| 徳村<br>謙吉               | 教育政治の國民保健の研究  | 洋四六<br>布入判 | 156 | 一〇〇 | 國民協心會 | 月三  | ▲我國國民の心身に關する種々の統計を集め之<br>を綜合し或は加工して考察を施せる書。    |
| 井谷<br>正己               | 自用最新學校園藝      | 洋四六<br>布入判 | 801 | 五〇〇 | 厚生閣   | 月七  | ▲應用自在に學校園藝設定を述べ、栽培價値の<br>ある植物を記述し、その栽培法を説く。    |
| 高村<br>弘平               | 兒童園の施設と遊戯器具   | 洋四六<br>布入判 | 196 | 二〇〇 | 文書堂   | 月四  | ▲兒童園の施設と運動遊戯器具の一般に就て<br>解説しその實際問題を説く。          |
| 東京女子高等師範學校<br>坂内<br>三ツ | 子供の遊ばせ方       | 上四六<br>製入判 | 213 | 一〇〇 | 厚生閣   | 月一  | ▲あらゆる種類に互つて子供の遊ばせ方を説<br>いたもので、子供の好む遊びの種類其他     |
| 三田<br>啓                | 子供の心の導き方      | 並四六<br>製入判 | 283 | 一〇〇 | 刀江書院  | 月五  | ▲父と母との感化、母の遺傳とコードモの導き<br>方、教育から見た上手な叱り方外十八篇。   |
| 家庭教育・幼稚園教育             |               |            |     |     |       |     |                                                |
| 學校設備・學校衛生              |               |            |     |     |       |     |                                                |

(10-34)

教育(家庭教育・幼稚園教育)

|                                         |                                        |                                    |                                     |                                          |
|-----------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------|
| 金子 近次                                   | 朝原 梅一                                  | 霜田 静志                              | 長谷山 峻彦                              | 久保 艶子                                    |
| 家庭に於ける中學生の父母                            | 幼稚園保育の實際                               | 幼児への理解                             | 幼稚園用唱歌遊び                            | 幼年・少年・青年期の心                              |
| 布四六判                                    | 洋四六判                                   | 並四六判                               | 布四六判                                | 並三五判                                     |
| 365                                     | 316                                    | 362                                | 144                                 | 98                                       |
| 一〇〇                                     | 一〇〇                                    | 一〇〇                                | 一〇〇                                 | 一〇〇                                      |
| 精文館                                     | 三友社                                    | 刀江書院                               | 大正書院                                | 新生堂                                      |
| 月九                                      | 月四                                     | 月六                                 | 月六                                  | 月三                                       |
| ▲中學生がどんな風に発達變化するかを説き、學校の内容を述べ家庭への註文を語る。 | ▲現在の保育制度の實際に即し述べたもので、保育事業の起源、保育の實際外三編。 | ▲幼児の理解、發育各期に於ける心理的取扱、幼稚園教育等に就て叙述す。 | ▲ワンワンとニヤンニヤン、ジャンケンボン、汽車ごっこ外七篇の唱歌劇集。 | ▲幼年、少年、青年期に於ける心理状態を述べたもので、幼年時、少年少女の頃外一篇。 |

早大教授 中島半次郎著

普及版 送料 二・三〇

改訂版 送料 一・二〇

東京堂

教育思潮大觀

四、文學

(A)文學一般・外國文學研究

文學總論・文藝評論

(10-1) ✓ ✓ ✓ ✓

|                                       |                                          |                                    |                                    |                                |                                  |
|---------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| 中河 與一                                 | 成田 龍平                                    | 小松 清                               | 叢文 閣編                              | 小林 秀雄                          | 田邊 茂一                            |
| 偶然と文學                                 | 現代浪漫主義研究                                 | 行動主義文學論                            | コスモ                                | 私小説論                           | 純文學のたぐひ                          |
| 並四六判                                  | 並四六判                                     | 並四六判                               | 上編 並四六判                            | 上編 並四六判                        | 並四六判                             |
| 351                                   | 170                                      | 222                                | 307                                | 197                            | 218                              |
| 一〇〇                                   | 一〇〇                                      | 一〇〇                                | 一〇〇                                | 一〇〇                            | 一〇〇                              |
| 第一書房                                  | 言海書房                                     | 紀伊國屋                               | 叢文閣                                | 作品社                            | 紀伊國屋                             |
| 月一十                                   | 月一十                                      | 月六                                 | 月一十                                | 月一十                            | 月五                               |
| ▲小説禮讚、眞實とは、偶然の毛毯、三連符、新しき頌歌外四十一篇の文學論集。 | ▲ロマンについて二三の斷片(本莊可宗)行動主義、新浪漫主義批判(勝本清一郎)其他 | ▲行動主義文學の提唱、ジイドへの公開狀、行動主義は發展する外十一篇。 | ▲ばけもの屋敷(高村光太郎) 現實に對する作家の位置(植村謙)其他。 | ▲文藝時評、文藝時評について、新人X、私小説論の四篇を收む。 | ▲人間の文藝論(横光利一)文學精神に就いて(舟橋聖一)外十五篇。 |

文學(文學總論・文藝評論)

三三三

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |              |         |         |                  |         |         |                   |                      |             |                 |                   |                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------|---------|------------------|---------|---------|-------------------|----------------------|-------------|-----------------|-------------------|------------------|
| 日本英文學會編                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 春山 行夫        | 吉田 健一   | メレデイス   | 土方 定一            | 奧津 彦重   | 上村 清延   | トマス・マン著<br>阿部 六郎譯 | ボオル・ウアレリイ著<br>佐藤 正彰譯 | 野 藤         | 高垣 松雄           | 志 賀 勝             | 馬ヱレサエフ著<br>上義太郎譯 |
| 英文 學                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 二十 英文 學の新 運動 | 喜 劇     | 喜 劇     | クル チュウ ス佛 蘭西 文 學 | 序 論     | テ 以 後   | ゲ エ テ             | ゲ エ テ 頌              | ゲ ヨ エ テ 研 究 | 現 代 ア メ リ カ 文 學 | 現 代 英 米 文 學 の 研 究 | ゴ オ ゴ リ 研 究      |
| 並 編                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 並 編          | 並 編     | 並 編     | 上 四 六 冊          | 洋 四 六 冊 | 洋 四 六 冊 | 洋 四 六 冊           | 洋 四 六 冊              | 洋 四 六 冊     | 洋 四 六 冊         | 洋 四 六 冊           | 上 四 六 冊          |
| 157                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 408          | 241     | 109     | 304              | 570     | 297     | 107               | 107                  | 1050        | 432             | 366               | 204              |
| 一、八〇〇                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 一、四〇〇        | 一、三〇〇   | 二、〇〇〇   | 一、五〇〇            | 二、二〇〇   | 一、三〇〇   | 一、〇〇〇             | 二、〇〇〇                | 二、〇〇〇       | 一、五〇〇           | 一、〇〇〇             | 一、〇〇〇            |
| 日 本 學 會                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 芝 波 書 店      | 芝 波 書 店 | 岩 波 書 店 | 樂 浪 書 院          | 白 水 社   | 白 水 社   | 白 水 社             | 芝 波 書 店              | 野 田 書 房     | 健 文 社           | 創 元 社             | ナウ カ 社           |
| 二 月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 九 月          | 十 一 月   | 十 五 月   | 十 月              | 十 月     | 二 十 月   | 五 月               | 十 一 月                | 八 月         | 六 月             | 六 月               | 四 月              |
| ▲第十卷第一號(市河三喜氏の「現代英語に及ぼした聖書の影響」外十七篇及雜録) ▲ジョイスを中心にした英文學の運動を観察し、英佛文學の關係、日本に與へた影響等を説く ▲ボオルのエッセイで、マルジナリア、悪口文、弗全盛、アメリカ、類似外數十章 ▲メレデイスの講演「喜劇の概念と喜劇的精神の效用」に加筆せるもの ▲フランスの文化概念、フランス文學と精神生活、アンドレ・ジイド外五篇の佛文學論 ▲すでに發表されたゲーテに關する諸論文を集めたもの ▲近代獨逸文藝思潮に關する研究を掲げた書で、新浪漫主義とは何ぞや外五篇 ▲作家としてのゲーテの道程、市民時代の代表者としてのゲーテの二篇を収む ▲一九三二年ソルボンヌ大學に於けるゲーテ百年祭に際してなされた講義の譯 ▲ゲヨエテの傳記を叙述し、更に詩作を通してゲヨエテを考察す ▲現代に於けるアメリカ文學の紹介で、アメリカ文學に於ける現代性外二十三篇 ▲現代英米文學の一般動向に就ての論文を収めた書で、ロマンテイズムの一過程其他 ▲露文豪ゴゴリの研究書で、「彼はどういふ風に仕事をしたか」につき論究す |              |         |         |                  |         |         |                   |                      |             |                 |                   |                  |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |           |                     |                 |         |         |           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|---------------------|-----------------|---------|---------|-----------|
| 鼓 常 良                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 岡崎 義 惠    | 田邊 茂 一              | 藝術遺產研究會編        | 源馬 源 菫  | 森 山 啓   | 小松 清 編    |
| 生活 文化 の 東 西                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 日 本 文 藝 學 | 能 動 情 神 パ ン フ レ ッ ト | 文 學 古 典 の 再 認 識 | 文 學 雜 論 | 文 學 論 争 | 文 化 の 擁 護 |
| 洋 四 六 冊                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 洋 四 六 冊   | 洋 四 六 冊             | 洋 四 六 冊         | 洋 四 六 冊 | 洋 四 六 冊 | 洋 四 六 冊   |
| 463                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 660       | 236                 | 342             | 371     | 394     | 319       |
| 二、五〇〇                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 三、三〇〇     | 一、六〇〇               | 一、八〇〇           | 三、〇〇〇   | 一、〇〇〇   | 一、〇〇〇     |
| 章 華 社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 岩 波 書 店   | 紀 伊 國 屋 出 版 部       | 現 代 文 化 社       | 永 吉 書 房 | ナウ カ 社  | 第 一 書 房   |
| 四 月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 二 十 月     | 二 月                 | 二 月             | 六 月     | 八 月     | 十 一 月     |
| ▲東西文化の特性に就ての研究で、文化の東西生活構成の思想外四篇 ▲方法と體系、解釋と批評、美學的基礎の三篇に分け収めた論文 ▲能動的積極性(阿部知二)外十三篇 ▲藝術主義の積極性(中條百合子)外七篇 ▲嫉妬と文學、ノオベル賞と受賞文學者、産業革命と文學、秋冬詩篇其他を収む ▲創作理論に關する二三の問題、知識階級と文學、藝術學への辯護其他 ▲文化の擁護と國際作家會議の主要演説を収む ▲アメリカの批評家が文學及び批評に就て、何を考へ、言ひ、行つてゐるかを研究す ▲アンドレ・ジイドと我々の時代及びX氏より「ユウレカ」に就きて其他の隨筆評論集 ▲「精神の危機、覺醒」アドニスに就きて ▲ヘンリー・ワイル、新進詩人論、ラム雜論、T.S.エリオット論等其外 ▲シェイクスピアと花、ブレイクのヨブ記解説、餿味の英書外八篇の英文學の論文集 |           |                     |                 |         |         |           |

歐米文學研究・評論・翻譯

文學 (歐米文學研究・評論・翻譯)

|                                           |                                            |                                            |                                   |                              |                                      |                                           |                                          |                                      |                                           |                                       |                                         |                                           |                                      |                                        |                                        |                                      |                                 |                               |                                         |                               |                                   |                                          |                           |                               |                                          |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------------|---------------------------|-------------------------------|------------------------------------------|
| ラ<br>本<br>間<br>立<br>也<br>著                | 石<br>山<br>田<br>正<br>順<br>著                 | 平<br>ア<br>ウ<br>ル<br>ジ<br>昇<br>著            | 秋<br>千<br>ア<br>田<br>岡<br>著        | 宮<br>崎<br>ア<br>レ<br>ス<br>著   | エ<br>ド<br>ガ<br>ー<br>ア<br>ラ<br>ン<br>著 | ウ<br>オ<br>ー<br>ル<br>タ<br>ア<br>著           | 工<br>藤<br>著                              | セ<br>ウ<br>エ<br>ル<br>著                | ロ<br>シ<br>ア<br>文<br>化<br>研<br>究<br>所<br>著 | 服<br>部<br>正<br>己<br>著                 | 日<br>本<br>文<br>化<br>協<br>会<br>著         | 東<br>京<br>文<br>化<br>協<br>会<br>著           | 宮<br>崎<br>著                          | ア<br>ン<br>ド<br>レ<br>シ<br>ア<br>著        | 竹<br>内<br>道<br>之<br>助<br>著             |                                      |                                 |                               |                                         |                               |                                   |                                          |                           |                               |                                          |
| 胡<br>麻<br>と<br>百<br>合                     | 胡<br>麻<br>と<br>百<br>合                      | 作<br>家<br>の<br>心<br>理                      | 作<br>家<br>の<br>心<br>理             | 三<br>人<br>論                  | 詩<br>の<br>原<br>理                     | シ<br>エ<br>イ<br>ク<br>ス<br>ビ<br>ア<br>序<br>説 | ジ<br>ヤ<br>ン<br>・<br>ラ<br>シ<br>イ<br>ス     | ソ<br>ヴ<br>エ<br>ト<br>文<br>学<br>読<br>本 | 體<br>験<br>と<br>文<br>学                     | 獨<br>逸<br>文<br>学<br>研<br>究            | ド<br>ス<br>ト<br>エ<br>フ<br>ス<br>キ<br>ー    | ド<br>ス<br>ト<br>エ<br>フ<br>ス<br>キ<br>ー      | ド<br>ス<br>ト<br>エ<br>フ<br>ス<br>キ<br>ー | ド<br>ス<br>ト<br>エ<br>フ<br>ス<br>キ<br>ー   | ド<br>ス<br>ト<br>エ<br>フ<br>ス<br>キ<br>ー   |                                      |                                 |                               |                                         |                               |                                   |                                          |                           |                               |                                          |
| 布<br>新<br>四<br>六<br>判                     | 布<br>新<br>四<br>六<br>判                      | 上<br>四<br>六<br>判                           | 上<br>四<br>六<br>判                  | 並<br>四<br>六<br>判             | 並<br>四<br>六<br>判                     | 並<br>四<br>六<br>判                          | 並<br>四<br>六<br>判                         | 並<br>四<br>六<br>判                     | 並<br>四<br>六<br>判                          | 並<br>四<br>六<br>判                      | 並<br>四<br>六<br>判                        | 並<br>四<br>六<br>判                          | 並<br>四<br>六<br>判                     | 並<br>四<br>六<br>判                       | 並<br>四<br>六<br>判                       |                                      |                                 |                               |                                         |                               |                                   |                                          |                           |                               |                                          |
| 134                                       | 272                                        | 267                                        | 305                               | 404                          | 68                                   | 69                                        | 461                                      | 337                                  | 587                                       | 335                                   | 123                                     | 305                                       | 286                                  | 297                                    | 305                                    |                                      |                                 |                               |                                         |                               |                                   |                                          |                           |                               |                                          |
| 四〇                                        | 四〇                                         | 一六〇                                        | 一六〇                               | 二四〇                          | 二五                                   | 二五                                        | 三三〇                                      | 八〇                                   | 一八〇                                       | 一六〇                                   | 一〇〇                                     | 一〇〇                                       | 一〇〇                                  | 八〇                                     | 一〇〇                                    |                                      |                                 |                               |                                         |                               |                                   |                                          |                           |                               |                                          |
| 春<br>秋<br>社                               | 岩<br>波<br>書<br>店                           | 山<br>本<br>書<br>店                           | 山<br>本<br>書<br>店                  | 山<br>本<br>書<br>店             | 研<br>究<br>社                          | 研<br>究<br>社                               | 川<br>瀬<br>日<br>進<br>堂                    | ナ<br>ウ<br>カ<br>社                     | 第<br>一<br>書<br>房                          | 第<br>一<br>書<br>房                      | 東<br>京<br>堂                             | 三<br>笠<br>書<br>房                          | 三<br>笠<br>書<br>房                     | ナ<br>ウ<br>カ<br>社                       | 三<br>笠<br>書<br>房                       |                                      |                                 |                               |                                         |                               |                                   |                                          |                           |                               |                                          |
| 月八                                        | 月十                                         | 月九                                         | 月三                                | 月二                           | 月二                                   | 月二                                        | 月二                                       | 月八                                   | 月四                                        | 月三                                    | 月一十                                     | 月一十                                       | 月一十                                  | 月一十                                    | 月一十                                    |                                      |                                 |                               |                                         |                               |                                   |                                          |                           |                               |                                          |
| ▲讀書に關する意義、効用を説いた「胡麻」及女性の教育、使命を述べた「百合」の二篇。 | ▲ラスキンの二篇の講演を収めた書で「胡麻」に於て讀書を論じ「百合」に於て婦人を論ず。 | ▲『現代心理に關する試論』からボオドレエルフロオベル、スタンダールの三篇だけを譯載。 | ▲テエヌのシエイクスピア、スタンダール、バルザックの作家論を譯す。 | ▲パスカル訪問、イブセンの肖像、ドストエフスキイの三篇。 | ▲ボオの「詩の原理」を譯せるもの。                    | ▲ロリーの「シエイクスピア」の第一章「シエイクスピア」を譯出す。          | ▲ジュル・ルメイトルの「ジャン・ラシイヌ」の譯で、ラシイヌの幼年期―其教育其他。 | ▲大ロシア文學（十月革命以前の文學外四章）ソヴエト諸民族の文學の二篇。  | ▲哲人デイルタイの文學的思索の翻譯で、近世歐洲文學の動向外四篇。          | ▲非合理主義と市民的悲劇の誕生（内山貞三郎）現代詩斷篇（星野慎一）外九篇。 | ▲ドストエフスキイに就て論じた書で、彼の生涯について、像、露西亞の深き外二篇。 | ▲ヴェイユ・コロンビエ座にて朗讀したドストエフスキイに關するチイアの講演―普及版― | ▲マルクス主義の照明の下にドストエフスキイを綜合的に研究す。       | ▲トルストイとドストエフスキイの生涯とその藝術に就て叙述せるもの。―普及版― | ▲偉哲トルストイの生涯を叙したもので、第一の聲、トルストイの右手と左手其他。 | ▲一九一九年のパリ・ミデ紙に載せたコクトオの評論感想集の翻譯。―改訂版― | ▲有名なツルゲネフの論文「ハムレットとドン・キホーテ」の翻譯。 | ▲バルザックの家系及び幼年時代より晩年までの出來事を描く。 | ▲NRFの協働者の一人テイホオデの代表的著作で、自然的批評、職業的批評他四章。 | ▲リドの文藝批評論集「理論と浪漫主義」の卷頭の一章を譯す。 | ▲ジイド・ブルウスト以後の詩人、小説家、批評家の文學に就て批評す。 | ▲ヴアレリの文學に關する雜考を「REKUM」に、其他の著書から抜萃譯集せるもの。 | ▲ソヴエイト作家大會に於けるゴリキイの報告を譯す。 | ▲一九二八年から一九三三年に至るゴリキイの主要文學論文集。 | ▲文學の樂しみ、私の小説勉強、若き人たちと語る、戯曲について外五篇を収めた文學論 |

文學 (歐米文學研究・評論・翻譯)

|                                                |                                                                    |                                        |                                           |                                                               |                                      |                                         |                               |                                   |                                          |                            |                               |                                          |                       |                            |                       |                       |                       |                       |
|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------------|----------------------------|-------------------------------|------------------------------------------|-----------------------|----------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 昇<br>曙<br>著                                    | 昇<br>曙<br>著                                                        | 原<br>久<br>一<br>郎<br>著                  | ジ<br>ヤ<br>ン<br>・<br>コ<br>ク<br>ト<br>オ<br>著 | 堀<br>口<br>大<br>學<br>著                                         | 宮<br>原<br>晃<br>一<br>郎<br>著           | 若<br>園<br>清<br>太<br>郎<br>著              | テ<br>イ<br>ホ<br>オ<br>著         | 石<br>川<br>湧<br>著                  | ハ<br>ア<br>バ<br>ア<br>ト<br>著               | 佐<br>山<br>榮<br>太<br>郎<br>著 | 増<br>田<br>篤<br>著              | ボ<br>オ<br>ル<br>グ<br>ア<br>著               | 堀<br>口<br>大<br>學<br>著 | ゴ<br>ー<br>リ<br>キ<br>ー<br>著 | 外<br>村<br>史<br>郎<br>著 | マ<br>キ<br>シ<br>ム<br>著 | 本<br>間<br>七<br>郎<br>著 | 熊<br>澤<br>復<br>六<br>著 |
| ド<br>ス<br>ト<br>エ<br>フ<br>ス<br>キ<br>ー<br>再<br>観 | ト<br>ル<br>ス<br>ト<br>イ<br>と<br>ド<br>ス<br>ト<br>エ<br>フ<br>ス<br>キ<br>ー | ト<br>ル<br>ス<br>ト<br>イ<br>傳             | 白<br>紙                                    | ハ<br>ム<br>レ<br>ツ<br>ト<br>と<br>ド<br>ン<br>・<br>キ<br>ホ<br>ー<br>テ | バ<br>ル<br>ザ<br>ツ<br>ク<br>の<br>生<br>涯 | バ<br>ル<br>ザ<br>ツ<br>ク<br>の<br>生<br>涯    | 批<br>評<br>の<br>生<br>理<br>學    | 批<br>評<br>の<br>生<br>理<br>學        | 批<br>評<br>の<br>生<br>理<br>學               | 批<br>評<br>の<br>生<br>理<br>學 | 不<br>安<br>と<br>再<br>建         | 文<br>學<br>雜<br>考                         | 文<br>學<br>雜<br>考      | 文<br>學<br>論                | 文<br>學<br>論           | 文<br>學<br>論           | 文<br>學<br>論           | 文<br>學<br>論           |
| 並<br>四<br>六<br>判                               | 並<br>四<br>六<br>判                                                   | 並<br>四<br>六<br>判                       | 並<br>四<br>六<br>判                          | 並<br>四<br>六<br>判                                              | 並<br>四<br>六<br>判                     | 並<br>四<br>六<br>判                        | 並<br>四<br>六<br>判              | 並<br>四<br>六<br>判                  | 並<br>四<br>六<br>判                         | 並<br>四<br>六<br>判           | 並<br>四<br>六<br>判              | 並<br>四<br>六<br>判                         | 並<br>四<br>六<br>判      | 並<br>四<br>六<br>判           | 並<br>四<br>六<br>判      | 並<br>四<br>六<br>判      | 並<br>四<br>六<br>判      | 並<br>四<br>六<br>判      |
| 297                                            | 560                                                                | 430                                    | 222                                       | 121                                                           | 267                                  | 267                                     | 286                           | 286                               | 55                                       | 269                        | 201                           | 33                                       | 414                   | 286                        | 414                   | 33                    | 286                   | 286                   |
| 八〇                                             | 一六〇                                                                | 一六〇                                    | 八〇                                        | 二〇                                                            | 一〇〇                                  | 一〇〇                                     | 一〇〇                           | 一〇〇                               | 二〇                                       | 二〇〇                        | 一〇〇                           | 二〇                                       | 二〇                    | 一〇〇                        | 二〇                    | 二〇                    | 一〇〇                   | 一〇〇                   |
| ナ<br>ウ<br>カ<br>社                               | 東<br>京<br>堂                                                        | 三<br>笠<br>書<br>房                       | 第<br>一<br>書<br>房                          | 春<br>陽<br>堂                                                   | 建<br>設<br>社                          | 建<br>設<br>社                             | 春<br>秋<br>社                   | 春<br>秋<br>社                       | 研<br>究<br>社                              | 研<br>究<br>社                | 小<br>山<br>書<br>店              | 第<br>一<br>書<br>房                         | 文<br>化<br>集<br>團<br>社 | 改<br>造<br>社                | 改<br>造<br>社           | 文<br>化<br>集<br>團<br>社 | 改<br>造<br>社           | 三<br>笠<br>書<br>房      |
| 月一十                                            | 月二十                                                                | 月一十                                    | 月一十                                       | 月二                                                            | 月八                                   | 月八                                      | 月九                            | 月九                                | 月二                                       | 月二                         | 月一                            | 月六                                       | 月二                    | 月二十                        | 月二十                   | 月二                    | 月二十                   | 月一十                   |
| ▲マルクス主義の照明の下にドストエフスキイを綜合的に研究す。                 | ▲トルストイとドストエフスキイの生涯とその藝術に就て叙述せるもの。―普及版―                             | ▲偉哲トルストイの生涯を叙したもので、第一の聲、トルストイの右手と左手其他。 | ▲一九一九年のパリ・ミデ紙に載せたコクトオの評論感想集の翻譯。―改訂版―      | ▲有名なツルゲネフの論文「ハムレットとドン・キホーテ」の翻譯。                               | ▲バルザックの家系及び幼年時代より晩年までの出來事を描く。        | ▲NRFの協働者の一人テイホオデの代表的著作で、自然的批評、職業的批評他四章。 | ▲リドの文藝批評論集「理論と浪漫主義」の卷頭の一章を譯す。 | ▲ジイド・ブルウスト以後の詩人、小説家、批評家の文學に就て批評す。 | ▲ヴアレリの文學に關する雜考を「REKUM」に、其他の著書から抜萃譯集せるもの。 | ▲ソヴエイト作家大會に於けるゴリキイの報告を譯す。  | ▲一九二八年から一九三三年に至るゴリキイの主要文學論文集。 | ▲文學の樂しみ、私の小説勉強、若き人たちと語る、戯曲について外五篇を収めた文學論 |                       |                            |                       |                       |                       |                       |

|                                       |                                          |                                       |                                       |                                          |                                      |                                                                                |                                         |
|---------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 石川 湧著                                 | 長野 春樹編                                   | 寮 金 吉譯著                               | 小牧 野 和信 夫譯著                           | 西村 孝次譯著                                  | 辰 野 隆                                | 關 一 雄                                                                          | 山 村 房 次・廣 尾 猛 著<br>水 村 安 一・九 目 秋 一 譯    |
| わが毒舌                                  | ロレンスのもとに                                 | ロマン主義心情                               | ユリイカ                                  | ユウレカ                                     | ポオドレエル研究序説                           | 米國文學大觀                                                                         | 文 學 論                                   |
| 布四六 装判                                | 並四六 装判                                   | 上四六 装判                                | 布四六 装判                                | 上四六 装判                                   | 並新 裝判                                | 布四六 装判                                                                         | 並四六 装判                                  |
| 323                                   | 182                                      | 284                                   | 207                                   | 189                                      | 241                                  | 381                                                                            | 393                                     |
| 一八〇<br>二二〇                            | 一〇〇<br>一四〇                               | 一〇〇<br>一四〇                            | 一〇〇<br>一四〇                            | 三〇〇<br>四〇〇                               | 一〇〇<br>二〇〇                           | 一〇〇<br>二〇〇                                                                     | 一〇〇<br>二〇〇                              |
| サイレン社                                 | 健文社                                      | 作品社                                   | 芝書店                                   | 山本書店                                     | 白水社                                  | 出版部                                                                            | ナウカ社                                    |
| 月十                                    | 月七                                       | 月三                                    | 月八                                    | 月五                                       | 月九                                   | 月四                                                                             | 月一十                                     |
| ▲序文の代りに、ガイクトル・ユゴオについてメリメについて其他の感想を収む。 | ▲ロマン主義心情、バルザック論、ハイネ論、トルゲエフ論其他の心理學的評論を収む。 | ▲ロマン主義の管見(舟橋聖一) ロレンスと日本文學(阿部知二) 外十三篇。 | ▲魯迅の「中國小説史略」の譯で、史家の小説に關する著録及及論述外二十七篇。 | ▲物語的並に精神的宇宙に就てその本質、起原其他を説いたボウの「ユーレカ」の翻譯。 | ▲ポオドレエルの著作、日記、書簡を通して彼の思想、性格と行動とを探求す。 | ▲米國文學の發生と現代に至る推移を描く。米國文學の發ける文學作家三百餘人の評傳並に米國文學の發する文學作家三百餘人の評傳並に彼の思想、性格と行動とを探求す。 | ▲文藝放談、社會主義リアリズム、文學について、戯曲について其他より成る文學論。 |

文學 (歐米文學研究・評論・翻譯・支那文學研究・評論・翻譯・童話研究)

|                                          |                                           |                  |                                 |                                                                                  |                                      |                                     |
|------------------------------------------|-------------------------------------------|------------------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 廣 谷 重 常                                  | 藤 村 作 編                                   | 文 藝 家 協 會 編      | 尾 崎 久 彌                         | 尾 崎 久 彌                                                                          | 瀬 古 確                                | 斎 藤 茂 吉                             |
| 童話學十二講                                   | 日本文學大辭典                                   | 文藝辭典・文藝年鑑        | 江戸小説研究                          | 江戸文學講話                                                                           | 大伴家持の研究                              | 楠 本 人 齋                             |
| 上四六 装判                                   | 洋四六 裝判                                    | 洋四六 裝判           | 布四六 裝判                          | 布四六 裝判                                                                           | 洋四六 裝判                               | 洋四六 裝判                              |
| 446                                      | 576                                       | 386              | 492                             | 492                                                                              | 319                                  | 354                                 |
| 一〇〇<br>二〇〇                               | 三〇〇<br>四〇〇                                | 二〇〇<br>三〇〇       | 二〇〇<br>三〇〇                      | 二〇〇<br>三〇〇                                                                       | 二〇〇<br>三〇〇                           | 二〇〇<br>三〇〇                          |
| 言海書房                                     | 日本童話協會出版部                                 | 新潮社              | 三笠書房                            | 敬文堂                                                                              | 青々館                                  | 岩波書店                                |
| 月二                                       | 月三                                        | 月四               | 月四                              | 月一                                                                               | 月二                                   | 月十                                  |
| ▲童話の發生及び發達の歴史を講述したもので、童話の語義と分類、童話の蒐集外十講。 | ▲日本童話史(上) 中田千敏(世界童話史) 廣谷重常(童話史) 田中梅吉(外三篇) | ▲別卷は補遺、索引、年表を収む。 | ▲江戸時代の浮世草紙、洒落本、郷土本其他の小説を研究せるもの。 | ▲過去十年間の江戸文學に關する放談講演より廿六篇を選んだ書で、洒落本の話其他、演劇、貴族文學と平民文學の二大流派が如何に交錯展開して江戸文學を形成したかを説く。 | ▲大伴家持をあらゆる角度から眺めて研究せるもので、人としての家持外三篇。 | ▲鴨山考の證據として役立つあらゆる事項を記述せる書で、鴨山考補註其他。 |

(B) 國文學・漢文學  
國文學史・研究・雜纂

文學 (童話研究・文藝辭典・文藝年鑑・國文學史・研究・雜纂)

|                     |                         |            |     |                |       |     |                                           |
|---------------------|-------------------------|------------|-----|----------------|-------|-----|-------------------------------------------|
| 藤岡 作太郎              | 鎌倉室町時代文學史               | 洋四六<br>布入判 | 546 | 七〇〇<br>二〇〇     | 國本出版社 | 月九  | ▲鎌倉、室町時代の文學史を研究し、日本文學小史及び西行論の二篇を附す。       |
| 蓮沼 文範               | 兼好法師<br>―其の生活と「徒然草」の統一― | 洋四六<br>布入判 | 310 | 一、二〇〇<br>八〇〇   | 大東出版社 | 月十  | ▲兼好法師の生活を描き、徒然草の全文を収め、それを統一的に説明しつゝ、解釋をなす。 |
| 小林 榮子               | 源氏伊勢物語新研究               | 洋四六<br>布入判 | 222 | 一、二〇〇<br>八〇〇   | 晋文館   | 月九  | ▲源氏物語五十四帖説並に伊勢物語東下りを否定し、その論據を示せるもの。       |
| 物集 高見               | 源氏物語繪卷                  | 洋四六<br>布入判 | 73  | 一、二〇〇<br>四〇〇   | 朝日書房  | 月三  | ▲光源氏の君の事どもを書きたる源氏物語を収め、桐壺の巻外五十三帖の繪卷を収む。   |
| 坂井 衡平               | 現代國文學講話                 | 洋四六<br>布入判 | 334 | 二、〇〇〇<br>一、〇〇〇 | 文松堂   | 月三  | ▲明治、大正、昭和時代の國文學に關して述べた書で、明治青年期―樹立時代其他。    |
| 廣島國文學科大學<br>國語國文學會編 | 國文學                     | 並編<br>製判   | 230 | 一、〇〇〇<br>八〇〇   | 中文館   | 月九  | ▲秋成佚文(藤井乙男)國語教育を如何に理論し實踐して来たか(佐藤徳市)其他。    |
| 江馬 務                | 國文學の文獻學的的研究             | 洋四六<br>布入判 | 444 | 三、〇〇〇<br>二、〇〇〇 | 岩波書店  | 月七  | ▲國文學を文獻學的に研究せるもので、序論萬葉集の研究、歌人及び歌集の紹介外四篇。  |
| 新屋敷 幸繁              | 國文故實風俗語集釋               | 洋四六<br>布入判 | 524 | 四、〇〇〇<br>二、〇〇〇 | 共立社   | 月四  | ▲國文の故實や風俗に關する語の中、容儀服飾に就ての語を五十音順に排列し解釋す。   |
| 安藤 正次               | 古典と古語                   | 洋四六<br>布入判 | 489 | 三、〇〇〇<br>二、〇〇〇 | 三省堂   | 月六  | ▲古事記を正しくはつきりと理解出来る様に説いた書で、上代生活の序説外十二章。    |
| 水谷 弓彦               | 古版小説挿畫史                 | 洋四六<br>布入判 | 435 | 七、〇〇〇<br>三、〇〇〇 | 大岡山書店 | 月四  | ▲古典及び古語に關係ある論文を収めたもので、古典以前から古典時代へ、神奈備考其他。 |
| 小池 藤五郎              | 山東京傳の研究                 | 洋四六<br>布入判 | 808 | 五、〇〇〇<br>二、〇〇〇 | 岩波書店  | 月二十 | ▲江戸文學の上に光彩を添へた挿繪に就ての研究で、大和繪時代、浮世繪の初期外十二章。 |
| 川島 秀二               | 趣味の日本文學史                | 洋四六<br>布入判 | 513 | 二、〇〇〇<br>一、〇〇〇 | 大同館   | 月六  | ▲人及び藝術家としての京傳の輪廓、山東京傳の合巻外八篇にて、山東京傳を研究す。   |

和歌史・同研究

|        |           |            |     |                |      |    |                                           |
|--------|-----------|------------|-----|----------------|------|----|-------------------------------------------|
| 野村 八良  | 時代古説話文學論  | 洋四六<br>布入判 | 344 | 二、〇〇〇<br>一、〇〇〇 | 明治書院 | 月九 | ▲近古時代に於ける説話文學に就て研究せるもので、序論、近古時代説話文學研究の二章。 |
| 原田 芳起  | 日本小説評論史序説 | 洋四六<br>布入判 | 331 | 二、〇〇〇<br>一、〇〇〇 | 大同館  | 月四 | ▲日本小説評論の發展を、文學の自意識と批評論、近代小説論の發達外一編にて叙述す。  |
| 阪口 玄章  | 日本佛教文學序説  | 洋四六<br>布入判 | 400 | 二、〇〇〇<br>一、〇〇〇 | 啓文社  | 月九 | ▲國文學と佛教との交渉を述べた書で、社會階級と佛教との交渉外二章。         |
| 萩原 蘿月  | 芭蕉の全貌     | 洋四六<br>布入判 | 844 | 六、〇〇〇<br>三、〇〇〇 | 三省堂  | 月九 | ▲事實の記録を主として芭蕉の全面を考察せるもので、芭蕉の家系、仕官時代外八章。   |
| 藤田 治郎  | 資料平安時代概観  | 洋四六<br>布入判 | 528 | 三、〇〇〇<br>二、〇〇〇 | 金星堂  | 月二 | ▲經世、神祇、佛教、歴史、傳記、傳説、文學、雜に分け收めた平安時代の概観。     |
| 今井 卓爾  | 平安朝日記の研究  | 洋四六<br>布入判 | 343 | 二、〇〇〇<br>一、〇〇〇 | 啓文社  | 月十 | ▲土佐日記其他の平安朝に於ける日記に就てその本質、發生、環象、影響、地位を考説す。 |
| 佐藤 仁之助 | 平安朝日記の研究  | 洋四六<br>布入判 | 281 | 二、〇〇〇<br>一、〇〇〇 | 敬文堂  | 月一 | ▲思想感情を中心として見た代表作のみを掲げて平安文學史を叙述す。          |
| 鳥津 久基  | 義經傳説と文學史  | 洋四六<br>布入判 | 768 | 三、〇〇〇<br>二、〇〇〇 | 明治書院 | 月一 | ▲義經に關する諸傳説とそれに就ての文學を記述せるもので、義經傳記、義經文學其他。  |
| 松岡 靜雄  | 有由縁歌と防人歌  | 洋四六<br>布入判 | 532 | 三、〇〇〇<br>一、〇〇〇 | 瑞穂書院 | 月六 | ▲萬葉集に於ける有由縁歌と防人歌を語釋し民族誌的考察をなす。            |
| 森 敬三   | 近世女流歌人の研究 | 洋四六<br>布入判 | 324 | 二、〇〇〇<br>一、〇〇〇 | 素人社  | 月二 | ▲元祿期より幕末に至る女流歌人山田龜子、田捨女、祇園棍女、手塚増子其他を研究す。  |
| 横尾 豊   | 新古今時代詳説   | 洋四六<br>布入判 | 260 | 一、〇〇〇<br>〇、〇〇〇 | 言海書房 | 月九 | ▲序説、歌界史、作歌環境、後成の指導精神、新古今時代の和歌、成立の経緯等七章。   |
| 齋藤 清衛  | 新講和歌史     | 洋四六<br>布入判 | 357 | 一、〇〇〇<br>〇、〇〇〇 | 育英書院 | 月十 | ▲和歌文學の歴史を講述せるもので、序説、上世時代、中古時代外四篇に分つ。      |

|                                          |                                      |                                |                                       |                                         |                          |                                       |                                           |                                         |                                         |                                       |
|------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------|
| 蓮沼文範編著                                   | 久松 潜一                                | 菊池 壽人                          | 石井庄司編                                 | 佐々木信綱                                   | 齊藤 潤                     | 相馬 御風                                 | 能勢朝次編著                                    | 青木 健作                                   | 鹽田 良平                                   | 柳 田 泉                                 |
| 七<br>西行・親鸞・一編・良寛・一茶・寒山・拾得                | 萬葉集考                                 | 萬葉集精考                          | 萬葉集の綜合研究                              | 萬葉讀本                                    | 萬葉名歌鑑賞                   | 良寛百考                                  | 歌の六百番歌合                                   | 新講 俳諧史                                  | 近代日本文學論                                 | 政治小説研究                                |
| 並四六判                                     | 洋四六判                                 | 洋四六判                           | 布四六判                                  | 上 判                                     | 布四六判                     | 布四六判                                  | 洋四六判                                      | 洋四六判                                    | 洋四六判                                    | 布四六判                                  |
| 283                                      | 400                                  | 717                            | 418                                   | 282                                     | 278                      | 597                                   | 491                                       | 393                                     | 529                                     | 602                                   |
| 一、三〇〇                                    | 三、〇〇〇                                | 四、三〇〇                          | 二、八〇〇                                 | 一、三〇〇                                   | 一、八〇〇                    | 四、三〇〇                                 | 三、三〇〇                                     | 一、八〇〇                                   | 二、三〇〇                                   | 三、三〇〇                                 |
| 大東出版社                                    | 栗田書店                                 | 中興館                            | 改造社                                   | 日本評論社                                   | 人文書院                     | 厚生閣                                   | 文學社                                       | 育英書院                                    | 萬上閣                                     | 春秋社                                   |
| 月一                                       | 月三                                   | 月七                             | 月三                                    | 月一十                                     | 月六                       | 月三                                    | 月十                                        | 月十                                      | 月五                                      | 月五                                    |
| ▲西行、親鸞、一編、良寛、一茶、寒山、拾得の七人の小傳並に此等の人の制作を収む。 | ▲大和時代文化の特質、萬葉集研究の方法と本質、萬葉歌人と特殊問題外一編。 | ▲萬葉集卷一及び卷二の原文に讀方、註釋、通釋を施して解釋す。 | ▲序註・音訓・口譯・言語・鑑賞その他(折口信夫)史的研究(窪田空穂)其他。 | ▲序論、解題、叙情詩人柿本人麿、萬葉人の精神生活其他にて萬葉集を平易に記述す。 | ▲萬葉の歌に原歌を附し、歌意を掲げ、鑑賞を施す。 | ▲良寛和尚を生んだ家、芭蕉と良寛、僧義諦の良寛追憶記其他にて良寛を研究す。 | ▲新古今の研究に必要なる六百番歌合を校合し顯昭陳狀を添へ、歌人の略傳其他を記述す。 | ▲俳句作品を掲げてその發達變遷の跡を説いた書で、連歌概説、俳諧生成時代外九章。 | ▲明治文學を考察批判せるもので、近代文學概観、明治の佛敎文學、國木田獨歩其他。 | ▲明治初期の政治小説、政治小説家の研究で上巻は政治小説發展の背景外十三篇。 |

明治大正文學史・同研究(附・現代文學研究)

俳諧史・同研究

|                                        |                                     |                                          |                                       |                                         |                                          |                                         |                                     |                          |                                   |                                        |                                          |
|----------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------|
| 柳 田 泉                                  | 小宮 豊隆                               | 宮田 戊子編                                   | 宮田 戊子                                 | 柳 田 泉                                   | 姥原 八郎                                    | 永井 一孝                                   | 笠原 節二                               | 野 呂 匡                    | 大竹 貞治                             | 宇 田 久                                  | 窪田 空穂                                    |
| 政治小説研究                                 | 漱石 襟記                               | 訂正 岡子規研究                                 | 正岡子規の新研究                              | 明治初期の翻譯文學                               | 明治文學雜記                                   | 明治文學史                                   | 折焚く柴の記新註                            | 海道記新註                    | 國文學 神樂催馬樂通釋                       | 去來抄 新註                                 | 古今和歌集評釋                                  |
| 布四六判                                   | 布四六判                                | 並四六判                                     | 布四六判                                  | 布四六判                                    | 洋四六判                                     | 洋四六判                                    | 洋四六判                                | 洋四六判                     | 洋四六判                              | 洋四六判                                   | 布四六判                                     |
| 651                                    | 316                                 | 285                                      | 387                                   | 615                                     | 373                                      | 270                                     | 274                                 | 264                      | 270                               | 495                                    | 764                                      |
| 三、三〇〇                                  | 二、〇〇〇                               | 一、〇〇〇                                    | 二、〇〇〇                                 | 三、三〇〇                                   | 三、〇〇〇                                    | 一、七〇〇                                   | 一、八〇〇                               | 二、〇〇〇                    | 二、〇〇〇                             | 三、〇〇〇                                  | 四、〇〇〇                                    |
| 春秋社                                    | 小山書店                                | 樂浪書院                                     | 叢文閣                                   | 春秋社                                     | 學而書院                                     | 敬文堂                                     | 明文社                                 | 育英書院                     | 大同館                               | 俳書堂                                    | 東京堂                                      |
| 月十                                     | 月五                                  | 月二                                       | 月六                                    | 月二                                      | 月九                                       | 月一                                      | 月四                                  | 月二十                      | 月五                                | 月三                                     | 月二十                                      |
| ▲中巻は春の屋主人とその政治小説、政治小説と一小説神髓、末廣鐵鷹研究外二篇。 | ▲漱石の著作物其他に就て語つたもので「木屑録」解説、漱石先生の畫其他。 | ▲正岡子規論の變遷(藤田太郎)子規の短歌論に關して(矢代東村)外十三篇、訂正版。 | ▲子規の生涯、思想より觀たる子規、俳句に於ける子規の革新、子規の歌論其他。 | ▲明治初期に於ける翻譯文學書と翻譯文學者とを傳へた書で、研究篇、傳記篇外一篇。 | ▲明治文學に關する論文を集めたもので、明治文學前史考、明治以降新聞小説略史其他。 | ▲眞實破壊時代の、國會開設前後、日清戰役後日露戰役後の四期に分けて史的考察す。 | ▲國書刊行會本を底本として新井白石の自叙傳「折焚く柴の記」に註を施す。 | ▲海道記の原文に語釋、通釋を施して解釋せるもの。 | ▲御神樂、催馬樂の原文に語釋、通釋を施して國文學的方面より考察す。 | ▲曉臺梓行本の去來抄を底本とし其複刻校異講述等を収録せるもので上巻は先師評。 | ▲古今和歌集の歌に語釋、釋、評、評又を施して評釋す、上巻は一巻より十巻までを収む |

|                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 澤田良芳                 | 龍澤田良芳                | 小林榮子                 | 井上通泰                 | 半田良平                 | 加内川                  | 廣瀬菅次                 | 武田祐吉                 | 塚本哲三                 | 植村邦正                 | 井上通泰                 | 伊藤正雄                 | 大塚龍夫                 | 溝口駒造                 |
| 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              | 撰新枕草子詳解              |
| 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  | 布四六                  |
| 230                  | 230                  | 546                  | 196                  | 420                  | 818                  | 325                  | 463                  | 565                  | 283                  | 301                  | 449                  | 512                  | 548                  |
| 四〇                   | 四〇                   | 三〇〇                  | 二〇〇                  | 一七〇                  | 一〇〇                  | 一〇〇                  | 一〇〇                  | 一〇〇                  | 二〇〇                  | 二〇〇                  | 二〇〇                  | 二〇〇                  | 二〇〇                  |
| 健文社                  | 健文社                  | 言海書房                 | 巧人社                  | 素人社                  | 谷島屋                  | 彰考館                  | 山海堂                  | 有朋堂                  | 大同館                  | 巧人社                  | 富山房                  | 大倉廣文堂                | 中文館                  |
| 月三                   | 月三                   | 月二十                  | 月一                   | 月六                   | 月一十                  | 月七                   | 月一十                  | 月九                   | 月四                   | 月四                   | 月五                   | 月三                   | 月九                   |
| ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 | ▲枕草子の原文に語釋、通解を施せるもの。 |

|                                        |                                          |                                 |                                 |                                          |                                       |                           |                                          |                           |                                           |                          |                           |                                   |
|----------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------|------------------------------------------|---------------------------|-------------------------------------------|--------------------------|---------------------------|-----------------------------------|
| 小宮豊隆校訂                                 | 中村多麻                                     | 近藤忠義校訂                          | 千田憲編                            | 神山岡次編                                    | 武田祐吉編                                 | 藤村作註解                     | 玉井幸助校訂                                   | 金元臣                       | 鴻巣盛廣                                      | 次田潤                      | 中村烏堂                      |                                   |
| 撰新枕草子詳解                                | 撰新枕草子詳解                                  | 撰新枕草子詳解                         | 撰新枕草子詳解                         | 撰新枕草子詳解                                  | 撰新枕草子詳解                               | 撰新枕草子詳解                   | 撰新枕草子詳解                                  | 撰新枕草子詳解                   | 撰新枕草子詳解                                   | 撰新枕草子詳解                  | 撰新枕草子詳解                   |                                   |
| 布四六                                    | 布四六                                      | 布四六                             | 布四六                             | 布四六                                      | 布四六                                   | 布四六                       | 布四六                                      | 布四六                       | 布四六                                       | 布四六                      | 布四六                       |                                   |
| 109                                    | 386                                      | 144                             | 82                              | 298                                      | 233                                   | 74                        | 150                                      | 657                       | 582                                       | 827                      | 234                       |                                   |
| 二〇〇                                    | 二〇〇                                      | 二〇〇                             | 二〇〇                             | 二〇〇                                      | 二〇〇                                   | 二〇〇                       | 二〇〇                                      | 二〇〇                       | 二〇〇                                       | 二〇〇                      | 二〇〇                       |                                   |
| 岩波書店                                   | 岩波書店                                     | 岩波書店                            | 岩波書店                            | 巧藝社                                      | 岩波書店                                  | 栗田書店                      | 岩波書店                                     | 岩波書店                      | 廣文堂                                       | 成美堂                      | 新英社                       |                                   |
| 月十                                     | 月五                                       | 月九                              | 月二                              | 月一十                                      | 月七                                    | 月三                        | 月八                                       | 月一十                       | 月二十                                       | 月六                       | 月二十                       |                                   |
| ▲芭蕉の臨終を記述せる「花屋日記」を校訂せるもの、芭蕉翁終焉記外二篇を附す。 | ▲土佐日記に關する異本を系統的に研究し、三條西家本を底本として土佐日記を校訂す。 | ▲近松門左衛門の「曾根崎心中」及び「用明天皇職人鑑」を校訂す。 | ▲延喜式卷第八祝詞に、中臣壽詞、火鑽詞、室壽詞を合せて校訂す。 | ▲熊澤蕃山が源氏物語を評釋せる「源氏物語蕃山抄」を收め、石崎又造氏の解説を附す。 | ▲神樂歌、催馬樂、東遊、風俗等の歌謡を含む書の本文を平假名にし漢字を充つ。 | ▲一茶の「おらが春」の原文を收め、之に註解を施す。 | ▲東關紀行は群書類従本を、海道記は前田侯爵家蔵群書類の古寫本を底本として校訂す。 | ▲一茶の「おらが春」の原文を收め、之に註解を施す。 | ▲寛永板本を底本として萬葉集に釋、歌意、評を施せる書で、第一冊は卷一及卷二を收む。 | ▲第六冊は卷第二十及び五句索引、作者索引を收む。 | ▲萬葉集中の卷十四上下東歌を解説し、評釋せるもの。 | ▲萬葉集中の傑出した歌や注意すべき作品に語釋、通釋、評論等を施す。 |



|         |               |            |      |         |     |                                           |
|---------|---------------|------------|------|---------|-----|-------------------------------------------|
| 國府 犀東   | 漢 詩 鑑 賞       | 洋四六<br>布入判 | 二〇〇  | 春陽堂     | 月八  | ▲漢詩に訓讀、意解、字解、義、體、押韻、句法等を施して鑑賞す。           |
| 飯島 忠一   | 杜 詩 索 引       | 洋四六<br>布入判 | 二二〇  | 松雲堂     | 月十  | ▲杜詩の逸篇断句を収めたる索引。                          |
| 細 具 香 塘 | 詩體の研究と唐朝の詩壇   | 布四六<br>裝入判 | 四二〇  | 秋 豐 園   | 月九  | ▲詩體に就てその歴史的背景を研究し、唐朝の詩壇に關して論究す。           |
| 重 澤 俊 支 | 左傳人名地名索引      | 洋四六<br>布判  | 一〇〇  | 弘 文 堂   | 月二十 | ▲左氏傳に載せらるる人名地名及び之に準ず可き者を網羅排列し、所在年代を示す。    |
| 森 本 角 藏 | 五 經 索 引       | 洋四六<br>布判  | 一〇〇  | 目 黒 書 店 | 月九  | ▲五經に用ひられてある文字を五十音順に排列し、それに屬する語を分類し出處を示す。  |
| 小 川 貫 道 | 漢學者傳記及著述集覽    | 洋四六<br>布入判 | 三二〇  | 關 書 院   | 月五  | ▲元和五年以降昭和九年末までに物故した漢學者及先哲の著作名を輯め作者の略傳を附す。 |
| 野上 豊一郎  | 室町時代短篇集       | 洋四六<br>布入判 | 六〇〇  | 栗田書店    | 月一  | ▲未だ活版にされない室町時代の短篇小説のうちから主なるものを撰輯す。        |
| 蜂須賀 笛子  | 松 浦 宮 物 語     | 洋四六<br>布入判 | 二〇〇  | 岩波書店    | 月一  | ▲蜂須賀家所藏傳後光嚴院宸翰松浦宮物語を底本として校訂す。             |
| 吉澤 義則   | 平 賀 源 内 家 物 語 | 洋四六<br>布入判 | 七五〇  | 改 造 社   | 月二  | ▲久原文庫藏應永書寫平家物語を校註せるもの。                    |
| 平賀 源内   | 平賀源内全集        | 洋四六<br>布入判 | 一五〇〇 | 中 文 館   | 月二  | ▲上巻は本草及工藝、風來六六部集、和歌其他、下巻は神靈矢口渡其他の戯曲等を收む。  |

|             |                   |            |       |             |     |                                               |
|-------------|-------------------|------------|-------|-------------|-----|-----------------------------------------------|
| 坂井 米雄       | 漢 詩 入 門           | 上四六<br>製入判 | 二〇〇   | 信 港 堂       | 月十  | ▲漢詩の構成法其他を解説し、味讀すべき名作を掲げそれに讀方及び解釋をなす。         |
| 東北 詩吟會編     | 興 國 詩 吟 集         | 並 製 珍      | 八 一   | 金 港 堂       | 月二十 | ▲青年の士氣を鼓舞するに足る和漢の詩を採録し讀み方、摘解を施す。              |
| 森 槐 南       | 作 詩 法 講 話         | 洋四六<br>布入判 | 一三〇   | 桑 文 社       | 月五  | ▲漢詩の作り方を説明せる書で、平仄の原理古詩の音節、唐韻の區別外三章。           |
| 細 具 香 塘 校訂  | 詩 韻 通 覽           | 洋四六<br>布入判 | 四三三   | 出 立 版 命 部 館 | 月三  | ▲詩韻を排列し四聲の關係を述べ、韻字を説き、熟語に平仄を付せる「詩韻通覽」の校訂註を施す。 |
| 小 村 定 吉     | 郭 支 那 古 詩         | 並 製 珍      | 一三三   | 推 の 木 社     | 月六  | ▲支那唐代の詩を邦譯して掲げ、原詩を附し註を施す。                     |
| 新 道 高 章     | 新 劍 舞 の 解 説 と 指 導 | 上四六<br>製入判 | 九 四   | 桑 文 社       | 月九  | ▲詩に讀方並に解説を施し、圖を挿入して劍舞の舞ひ方を指導す。                |
| 細 具 香 塘     | 詩 絶 句 作 例 百 講     | 布四六<br>裝入判 | 四 六六  | 出 立 版 命 部 館 | 月五  | ▲唐、宋、元、明、清諸大家の絶句を撰び章法、句法の簡綜變化の工合其他を解剖し説く。     |
| 田 村 位 岳     | 續 漢 詩 大 要         | 布四六<br>裝入判 | 三 三六八 | 平 仄 社       | 月三  | ▲日本に於ける漢詩に對して記述せるもので日本詩學變遷史、詩體分類、百選二種外三章。     |
| 木 村 岳 風 編著  | 略符及第二皇漢名詩の吟じ方     | 上四六<br>製入判 | 一 一三  | 桑 文 社       | 月九  | ▲皇朝漢土の名詩多數に吟じ方の符を記入し尙和歌朗詠を附記す。                |
| 川 原 壽 市 編著  | 日 本 精 神 朗 吟 詩 集   | 上 編 製 判    | 一 二一六 | 出 立 版 命 部 館 | 月九  | ▲日本精神の作興の資となるべき漢詩を収め之に讀方並に解釋をなす。              |
| 山 田 準       | 日 本 名 詩 選         | 洋四六<br>布入判 | 一 三七八 | 章 華 社       | 月二十 | ▲日本の名詩の趣意を述べ、漢詩に讀方を附し、字講、義講を施す。               |
| 菅 原 龜 五 郎 編 | 愛 詠 年 朗 詠 と 歌 曲   | 洋三五<br>布判  | 二 二一三 | 北 海 出 版 社   | 月十  | ▲御製、禮式歌、軍歌、校歌、寮歌、民謡、漢詩、和歌、俳句其他著名な唱歌を網羅す。      |
| 木 村 鐵 山 編   | 評 名 詩 朗 吟 新 選 集   | 上三五<br>製判  | 三 二〇四 | 藤 谷 崇 文 館   | 月五  | ▲和漢古今の名詩を収録し、平仄を施し讀方を掲げ大意を附す。                 |

(C) 隨筆・文集・日記・書翰

隨筆

|                                         |                                      |                                          |                                         |                                       |                                               |                                        |                                  |                                          |                                          |
|-----------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|
| 釋 瓢 齋 鬼 の 念 佛                           | 藤 木 九 三 雲 表 縱 走                      | 吉 田 絃 二 郎 梅 の 咲 く こ ろ                    | 田 中 茂 穂 魚 の 隨 筆                         | 本 山 荻 舟 板 前 の 隨 筆                     | 及 川 道 子 い ば ら の 道                             | 宮 城 道 雄 雨 の 念 佛                        | 永 井 荷 風 雨 瀟 瀟                    | 内 田 誠 淺 黄 裏                              | 杉 山 平 助 愛 國 心 と 猫                        |
| 上四六 製入判                                 | 上四六 製入判                              | 並新四六 製入判                                 | 上四六 製入判                                 | 布四六 製入判                               | 布四六 製入判                                       | 布四六 製入判                                | 布四六 製入判                          | 並四六 製入判                                  | 並四六 製入判                                  |
| 298                                     | 234                                  | 262                                      | 224                                     | 262                                   | 190                                           | 276                                    | 66                               | 151                                      | 450                                      |
| 一〇〇                                     | 一〇〇                                  | 六〇                                       | 二〇〇                                     | 二〇〇                                   | 一三〇                                           | 一〇〇                                    | 三〇〇                              | 二〇〇                                      | 一〇〇                                      |
| 出立 販命 部館                                | 三 省 堂                                | 新 潮 社                                    | 龍 星 閣                                   | 岡 倉 書 房                               | 紀 元 書 房                                       | 三 笠 書 房                                | 野 田 書 房                          | 文 休 社                                    | 白 揚 社                                    |
| 月 一                                     | 月 七                                  | 月 二 十                                    | 月 七                                     | 月 十                                   | 月 三                                           | 月 二                                    | 月 九                              | 月 四                                      | 月 一                                      |
| ▲日記、覺書、惡靈について、自然と純粹、純粹小説論其他數十篇の隨筆感想評論集。 | ▲山に就ての隨想研究評傳小品詩等を収めた書で、リングワラデルング考其他。 | ▲究竟の言葉、俳諧寺一茶の忌日に、武蔵野の秋、多摩の冬近く其他の隨筆感想を収む。 | ▲板前隨筆、刀劍雜記、山水懷古、都會感觸酒修行、戌辰秋冬の六篇より成る隨筆集。 | ▲魚と暮して、牧野先生の歸省、その他の二部に分け百二十六篇を収めた隨筆集。 | ▲幼い頃より今日までの思出を書き綴つたもので、暴風雨の中かう、恐ろしい災厄外五篇の隨筆集。 | ▲純粹の聲、モデル、演奏餘談、伊勢參宮、四季の趣、レコード雜話其他の隨筆集。 | ▲嘗て著者が雜誌「新小説」に發表せる隨筆「雨瀟瀟」を収めたもの。 | ▲會社員、釣堀にて其他の隨筆を収む。京都、奥多摩吟行、釣堀にて其他の隨筆を収む。 | ▲ひとつの告白、「オルグ」の大衆性、田舎まひ、荷風氏のこと其他の評論隨筆を収む。 |

|                      |                                        |                                         |                                   |                                         |                     |                                        |                                         |                                          |                                    |                                       |                                      |                                         |
|----------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------------|---------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------|
| 宮 川 曼 魚 花 鳥 風 月      | 新 井 出 花 鳥 草 紙                          | 荻 原 井 泉 水 花 鳥 小 品 書                     | 荻 原 井 泉 水 火 中 の 踏 む               | 土 岐 善 磨 筆 隨 影 を 踏 む                     | 三 村 竹 清 筆 隨 佳 氣 春 天 | 横 光 利 一 書 懷 往 時 談                      | 兼 常 清 佐 音 樂 と 生 活                       | 大 田 黒 元 雄 音 樂 生 活 二 十 年 筆                | 瀧 井 孝 作 折 柴 隨 筆                    | 内 藤 澄 思 は ざ る 收 穫 書                   | 横 光 利 一 覺                            |                                         |
| 上四六 製入判              | 布四六 製入判                                | 布四六 製入判                                 | 上四六 製入判                           | 布四六 製入判                                 | 上四六 製入判             | 並新四六 製入判                               | 布四六 製入判                                 | 上四六 製入判                                  | 布四六 製入判                            | 上四六 製入判                               | 上四六 製入判                              |                                         |
| 312                  | 375                                    | 298                                     | 294                               | 325                                     | 364                 | 428                                    | 512                                     | 395                                      | 381                                | 351                                   | 269                                  | 296                                     |
| 二〇〇                  | 一八〇                                    | 一八〇                                     | 二〇〇                               | 一〇〇                                     | 二〇〇                 | 一〇〇                                    | 一八〇                                     | 一七〇                                      | 一〇〇                                | 二〇〇                                   | 一〇〇                                  | 一〇〇                                     |
| 人 文 書 院              | 中 央 公 論 社                              | 三 笠 書 房                                 | 岡 倉 書 房                           | 四 條 書 房                                 | 書 物 展 望 社           | 白 水 社                                  | 中 央 公 論 社                               | 岩 波 書 店                                  | 第 一 書 房                            | 野 田 書 房                               | 白 水 社                                | 沙 羅 書 店                                 |
| 月 六                  | 月 五                                    | 月 六                                     | 月 六                               | 月 一 十                                   | 月 十                 | 月 十                                    | 月 一 十                                   | 月 六                                      | 月 四                                | 月 九                                   | 月 四                                  | 月 六                                     |
| ▲柿、餃、酒注、一節切の話其他の隨筆集。 | ▲佛蘭西の春、樹木の名と實、雲雀隨筆、小鳥の名、蝸牛禮讚其他よる成る隨筆集。 | ▲小鯖釣、ひぐらし、秋扇、二錢銅貨、富士ドライブ、句碑を書く、椿其他の小品集。 | ▲其物になる、左と右、標の道徳、愛する心地震、其他より成る隨筆集。 | ▲小鳥を聴きつつ、聲三題、抒情詩曲、浴泉記、道成寺詣、叱らない話其他の隨筆集。 | ▲茶話を収めた隨筆集、特製三篇五十篇。 | ▲納涼、天才と象徴、海、扇子を使ふ、新覺論、其他の隨筆、詩、評論集、普及版。 | ▲懐往時談、時局青眼展望、昭和維新論、枯川と秋水を語る、暖窓漫談外四篇を収む。 | ▲湯瀬漫信、樂人ケイベル、ビール漫談、老人をからかふ、紫式部其他より成る隨筆集。 | ▲過去二十年間の音楽上の著作生活に於ける隨筆集で、音楽の横顔外二部。 | ▲隨筆小品集で、京都奈良にて、飛騨雜記、八王子にて、感想批判、釣魚雜筆等。 | ▲靜観と逍遙(佛蘭西新文學の殺到外二篇)外五篇の佛蘭西文藝隨筆を収録す。 | ▲日記、覺書、惡靈について、自然と純粹、純粹小説論其他數十篇の隨筆感想評論集。 |

文學(隨筆)

|                                          |                                         |                                     |                                            |                                        |                                      |                                       |                                          |                                          |                                         |                                                                          |                                         |                                           |
|------------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------|
| 杉村 楚人冠                                   | 山 川 均                                   | 伊 藤 松 雄                             | 永 田 秀 次 郎                                  | 長 谷 川 時 雨                              | 松 波 閑                                | 岡 鬼 太 郎                               | 辻 潤                                      | 堀 口 大 學                                  | 高 山 辰 三                                 | 櫻 井 忠 温                                                                  | 北 原 白 秋                                 | 田 中 左 川                                   |
| か                                        | か                                       | 漢 詩 を 探 る                           | 青 嵐 九 十 五 點 主 義                            | 舊 聞 日 本 橋                              | 牛 門                                  | 鬼 言 冗 語                               | 瀨 人 の 獨 語                                | 季 節 と 詩 心                                | 季 節 の 横 顔                               | 北 を 征 ぐ                                                                  | よ ろ ろ                                   | 京 を ん な                                   |
| 上四六                                      | 上四六                                     | 上四六                                 | 上四六                                        | 上四六                                    | 上四六                                  | 上四六                                   | 上四六                                      | 上四六                                      | 上四六                                     | 上四六                                                                      | 上四六                                     | 上四六                                       |
| 製入判                                      | 製入判                                     | 製入判                                 | 製入判                                        | 製入判                                    | 製入判                                  | 製入判                                   | 製入判                                      | 製入判                                      | 製入判                                     | 製入判                                                                      | 製入判                                     | 製入判                                       |
| 390                                      | 420                                     | 335                                 | 293                                        | 323                                    | 378                                  | 362                                   | 348                                      | 348                                      | 313                                     | 201                                                                      | 381                                     | 356                                       |
| 一八〇                                      | 一八〇                                     | 一六〇                                 | 一八〇                                        | 二二〇                                    | 二〇〇                                  | 二二〇                                   | 二〇〇                                      | 二〇〇                                      | 一〇〇                                     | 六〇                                                                       | 三〇〇                                     | 一〇〇                                       |
| 四條書房                                     | 日本評論社                                   | 桑文社                                 | 日實本業社                                      | 岡倉書房                                   | 日本評論社                                | 岡倉書房                                  | 書物展望社                                    | 第一書房                                     | 出版命部館                                   | 朝日新聞社                                                                    | 書物展望社                                   | 出版命部館                                     |
| 月二十                                      | 月十                                      | 月七                                  | 月二                                         | 月二                                     | 月二                                   | 月四                                    | 月八                                       | 月八                                       | 月六                                      | 月七                                                                       | 月七                                      | 月五                                        |
| ▲ガラクタを論ず、調子はそれの調子、私の日記、國語讀本の點檢其他に分けた隨筆集。 | ▲搾取者になつた話、アナトール・フランスの赤化、鎌倉と廻町其他より成る隨筆集。 | ▲漢詩に纏はる隨筆、小品並に漢詩篇の集輯を収めた書で、漢詩の變遷其他。 | ▲私の處世觀、釣と句と旅と、卓上演説と挨拶、放送したもの、等四篇數十章の隨筆を収む。 | ▲東京日本橋に生まれ、日時の記録を収む。來見聞して來た過ぎし日の記録を収む。 | ▲夏目漱石と私、東郷元帥と私、徳川慶喜公と私、學校の夏休み其他の隨筆集。 | ▲言語風俗の話、劇界内幕の話、芝居型物の話に大別して數十篇を収めた隨筆集。 | ▲階級した小宇宙、おうこんといれる、惰眠洞安語、天狗になつた頃の話其他の隨筆集。 | ▲自畫像(日記、初飛行外六篇)季節の構圖(初の秋風外四篇)外二部十八篇の隨筆集。 | ▲春のトビツクス、朝の話題、季節の横顔、一日一題、秋四題外六篇より成る隨筆集。 | ▲大阪朝日に連載した「北を征ぐ」に「古戰場巡禮記」及「黄沙渦まく頃」の二篇を添ふる春の枯野、剝製の栗鼠、季節の臙、きよろろ等數十章の詩文隨筆集。 | ▲平安時代より現代に至る京都の女性に就て女性美を描いた書で、平安朝の才媛其他。 | ▲還元録、生と死との間、冬ごもり、砂上漫筆(心の泉外廿一篇)童心讀外六篇の隨筆集。 |

文學(隨筆)

|                                           |                                            |                                        |                                           |                                           |                                          |                                       |                                          |                                         |                                        |                                        |                                           |                                |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------|
| 相 馬 御 風                                   | 萩 原 朔 太 郎                                  | 石 角 春 之 助                              | 萩 原 井 泉 水                                 | 丸 山 幹 治                                   | 吉 村 冬 彦                                  | 竹 越 與 三 郎                             | 中 島 武 雄                                  | 加 藤 武 雄                                 | 別 所 梅 之 助                              | 住 田 正 一                                | 武 田 麟 太 郎                                 | 吉 安 碧 天                        |
| 御 風 隨 筆                                   | 虛 妄 の 正 義                                  | 銀 座 女 譚                                | 雲 の 如 く 行 く                               | 黒 頭 布 を 脱 ぐ                               | 螢 光 板                                    | 倦 鳥 求 林 集                             | 航 海 風 景                                  | 郊 外 通 信                                 | 江 湖 の 中                                | 考 古 漫 筆                                | 紅 塵 無 門                                   | 紅 塵 無 門                        |
| 上四六                                       | 上四六                                        | 上四六                                    | 上四六                                       | 上四六                                       | 上四六                                      | 上四六                                   | 上四六                                      | 上四六                                     | 上四六                                    | 上四六                                    | 上四六                                       | 上四六                            |
| 製入判                                       | 製入判                                        | 製入判                                    | 製入判                                       | 製入判                                       | 製入判                                      | 製入判                                   | 製入判                                      | 製入判                                     | 製入判                                    | 製入判                                    | 製入判                                       | 製入判                            |
| 236                                       | 444                                        | 306                                    | 329                                       | 347                                       | 410                                      | 371                                   | 290                                      | 329                                     | 458                                    | 180                                    | 304                                       | 330                            |
| 三〇〇                                       | 二二〇                                        | 一八〇                                    | 二〇〇                                       | 一〇〇                                       | 二〇〇                                      | 二二〇                                   | 二〇〇                                      | 一〇〇                                     | 二〇〇                                    | 一〇〇                                    | 一〇〇                                       | 一〇〇                            |
| 春 陽 堂                                     | 第一書房                                       | 丸 版 の 社 内                              | 清 水 書 店                                   | 言 海 書 房                                   | 岩 波 書 店                                  | 岡 倉 書 房                               | 學 而 書 院                                  | 健 文 社                                   | 日 獨 書 院                                | 海 文 堂                                  | 文 圃 堂                                     | 言 海 書 房                        |
| 月八                                        | 月七                                         | 月一                                     | 月九                                        | 月四                                        | 月七                                       | 月六                                    | 月七                                       | 月二十                                     | 月十                                     | 月五                                     | 月二十                                       | 月七                             |
| ▲還元録、生と死との間、冬ごもり、砂上漫筆(心の泉外廿一篇)童心讀外六篇の隨筆集。 | ▲結婚と女性、社會と文明、藝術に就いて、孤獨と社交其他の項目にて數百章の斷想を収む。 | ▲海濱たりし頃より現在までの銀座女の變遷ロマンチス、悲喜劇事實其他を描寫す。 | ▲男鹿の夏、黒部の秋、大佐渡小佐渡、阿蘇山、耶馬溪、山陰雜記外二篇より成る紀行集。 | ▲人物篇(宮相湯淺倉平氏其他)世相篇(昭和七年史、女は老込む其他)の二篇の隨筆集。 | ▲螢光板(疑問と空想、新春偶語其他)自由書稿、映畫雜感、書物と人の四篇の隨筆集。 | ▲轉蓬日記、策士チーガツク、蕪蕪、昭和七年長節放送、書詩雜談其他の隨筆集。 | ▲海、港、航海、海軍等に就ての見聞、感想を収めた書で、航海風景、港の風景外六篇。 | ▲村居十年、春夏秋冬、自畫像、旅行記その他、故人追憶外三篇に分けた隨筆小品集。 | ▲のぞみ、江湖の中、山の植物、進みたれど尚、聖書と譯の事も其他の隨筆を収む。 | ▲考古趣味に關する隨筆を集めたもので、黄金物語、乗合船漫筆、海上雜記外五篇。 | ▲文學的自叙傳、盛り場の友情、好色の戒め六階の暮し、岡田川附近其他を収めた隨筆集。 | ▲大阪時事に掲載された一日一言及び其他の隨筆隨想を収めた書。 |

|                                        |                                          |                                          |                                          |                                         |                                        |                                      |                                         |                                           |                                      |                           |                                      |                                         |
|----------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------|
| 吉田 絃二郎                                 | 鈴木 文史朗                                   | 田部 重治                                    | 松原 至大                                    | 中野 重治                                   | 横地 信輔                                  | 平山 蘆江                                | 春日 俊吉                                   | 小嶋 徳子                                     | 室伏 高信                                | 杉村 楚人冠                    | 木村 毅編                                | 戸川 秋骨                                   |
| 小草をさゝぐ                                 | 心を打つもの                                   | 心の行方を追うて                                 | 心の子と遊ぶ                                   | 子供と花                                    | 酒屋のつと                                  | 三味線情趣                                | 岳漫歩                                     | 山荘三年居                                     | 山中説法                                 | 紫煙の人々                     | 自畫像                                  |                                         |
| 新四六判                                   | 新四六判                                     | 新四六判                                     | 新四六判                                     | 新四六判                                    | 新四六判                                   | 新四六判                                 | 新四六判                                    | 新四六判                                      | 新四六判                                 | 新四六判                      | 新四六判                                 | 新四六判                                    |
| 299                                    | 376                                      | 367                                      | 360                                      | 424                                     | 356                                    | 281                                  | 260                                     | 334                                       | 520                                  | 320                       | 354                                  | 376                                     |
| 八六                                     | 二〇〇                                      | 一〇〇                                      | 二〇〇                                      | 二〇〇                                     | 二〇〇                                    | 一〇〇                                  | 六〇                                      | 二〇〇                                       | 一〇〇                                  | 一〇〇                       | 二〇〇                                  | 一〇〇                                     |
| 改造社                                    | 三省堂                                      | 第一書房                                     | 健文社                                      | 沙羅書店                                    | 双雅房                                    | 岡倉書房                                 | 朋文堂                                     | 人文書院                                      | モナス                                  | 日本評論社                     | 書物展望社                                | 第一書房                                    |
| 三月                                     | 七月                                       | 七月                                       | 四月                                       | 二月                                      | 十月                                     | 十一月                                  | 七月                                      | 三月                                        | 二月                                   | 七月                        | 五月                                   | 十月                                      |
| ▲富士山記、小草をさゝぐ、生活の詩、三月の武蔵野、秋深し其他を収めた感想集。 | ▲兎奴、異國話題、心を打つもの、随想隨記、婦人と青年に等に分け収めた随想隨筆集。 | ▲人生、心の行方を追うて、二つの態度、随想、萌え出づる心其他の隨筆を収む。普及版 | ▲子供をめぐる著者の研究、隨筆、詩を集めた書で、感想(わが子と遊ぶ其他)外四篇。 | ▲海、青梅の記、學問と生活、控へ帳、文藝時評、職業の道其他より成る隨筆評論集。 | ▲喜代や、泣き虫、茶地から淺草、兩國の花火、實美公の勳章外七十八篇の隨筆集。 | ▲三味線情趣、隨處隨心、花柳風景、月光、高砂の鳥外四篇を収めた花柳隨筆。 | ▲野に寝山に宿る心、針の木、銀岳漫歩、横から見る山岳遺難の諸相其他の隨想小品集 | ▲隨筆、小品、創作等を収めた書で、自身に囁く(求道外六篇)小麻隨筆(母其他)外四篇 | ▲著者の三澤村生活三年の記録で、山荘三年土に還る、春動く、洋燈夜話其他。 | ▲週刊朝日に連載した隨筆「山中説法」を纏めたもの。 | ▲先輩・友人・知己、政界馳驅の人々、俳聖芭蕉と支考の三篇より成る隨筆集。 | ▲私の顔、軽い葛籠、野菜の趣味、銀座の半世紀、風車小屋から其他より成る隨筆集。 |

|                                          |                              |                                          |                                      |                                        |                                     |                                           |                                          |                                          |                                          |                                      |                                          |                                       |
|------------------------------------------|------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|
| 森 於 苑                                    | 室 生 犀 星                      | 林 龍                                      | 櫻 井 忠 温                              | 德 富 猪 一 郎                              | 吉 江 喬 松                             | 吉 田 絃 二 郎                                 | 田 中 貢 太 郎                                | 高 橋 義 雄                                  | 津 村 秀 松                                  | 成 瀬 慶 子                              | 吉 井 勇 姿                                  | 齋 藤 昌 三                               |
| 屍 室 斷 想                                  | 慈 眼 山 隨 筆                    | 刺 戟                                      | 死 後 の た め に                          | 四 時 佳 興                                | 自 然 美 論                             | 静 かな る 土                                  | 筆 頭 鏡                                    | 筆 趣 味 ぶ く ろ                              | 社 會 小 景                                  | 寂 光 の 人 蓮 月                          | 娑 婆 風 流                                  | 淫 行 狀 記                               |
| 新四六判                                     | 新四六判                         | 新四六判                                     | 新四六判                                 | 新四六判                                   | 新四六判                                | 新四六判                                      | 新四六判                                     | 新四六判                                     | 新四六判                                     | 新四六判                                 | 新四六判                                     | 新四六判                                  |
| 225                                      | 304                          | 330                                      | 385                                  | 360                                    | 236                                 | 268                                       | 386                                      | 464                                      | 224                                      | 251                                  | 275                                      | 212                                   |
| 八六                                       | 二〇〇                          | 二〇〇                                      | 二〇〇                                  | 二〇〇                                    | 一〇〇                                 | 六〇                                        | 二〇〇                                      | 二〇〇                                      | 一〇〇                                      | 一〇〇                                  | 二〇〇                                      | 三〇〇                                   |
| 時 湖 社                                    | 竹 村 書 房                      | 京 都 人 文 書 院                              | 千 倉 書 房                              | 民 友 社                                  | 春 秋 社                               | 新 潮 社                                     | 學 藝 社                                    | 秋 豐 閣                                    | 双 雅 房                                    | 春 秋 社                                | 岡 倉 書 房                                  | 書 物 展 望 社                             |
| 二月                                       | 一月                           | 一月                                       | 十一月                                  | 五月                                     | 七月                                  | 九月                                        | 八月                                       | 五月                                       | 八月                                       | 四月                                   | 七月                                       | 一月                                    |
| ▲屍體の感嘆、生命の泉、解剖雑話、海外と醫學、海外秘話其他を収めた隨筆集。普及版 | ▲涅槃西風、蕤賓、曝涼、三冬の四篇數十章より成る隨筆集。 | ▲隨筆と小品、生理學斷章、條件反射學、生理學認識論、餘技一篇の五篇より成る隨筆集 | ▲死に對する感想録及び其他の隨筆、讀物を收めたもので、死後のために其他。 | ▲楓檜窓寓記、岳麓獨語、旭日丘漫筆、四時佳興、時務陳言の五篇より成る隨筆集。 | ▲自然美觀の發達、近代文學に現れたる自然の二編に分けて自然美を論述す。 | ▲死と黎明の切線、暗き酒倉、若き日を讃ふ、黄昏の登足、信濃だより、冬の山にて其他。 | ▲出雲石見紀行、原村の梅林へ、暮は困る記、象牙のパイプ、金瓶梅楔子其他の隨筆集。 | ▲趣味至上主義、おらが茶の湯、茶道正念、書道趣味、隨筆十五則其他より成る隨筆集。 | ▲或目の葺合村塾、佛と泣き上戸、春宵閑話、囑目六景、社會小景其他より成る隨筆集。 | ▲残つてゐる尼の和歌、先輩の文、老人の話、をたよりに蓮月尼の生活を描く。 | ▲市井の藝術に關する隨筆を集めた書で、身邊雜記、市井夜講、酒客列傳外一篇數十章。 | ▲明治文化相、書痴徒然草、湘雨窓雜記の三編數十章の書物に關する隨筆を収む。 |

文學(隨筆)

|                                          |                                       |                                          |                              |                                        |                                        |                                          |                                      |                                          |                         |                                    |                                        |                                       |
|------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------|------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------------|
| 平田 禿木書窓 雜筆                               | 林 禪條                                  | 木下 桂風                                    | 畑 耕一                         | 齊東 野人                                  | 岡 邦雄                                   | 福原 麟太郎                                   | 武者小路 實篤                              | 下村 虎六郎                                   | 眞山 青果                   | 三上 於菟吉                             | 德富 健次郎                                 | 木村 毅                                  |
| 春田新 布四六 裝入判                              | 春田新 布四六 裝入判                           | 春田新 布四六 裝入判                              | 春田新 布四六 裝入判                  | 春田新 布四六 裝入判                            | 春田新 布四六 裝入判                            | 春田新 布四六 裝入判                              | 春田新 布四六 裝入判                          | 春田新 布四六 裝入判                              | 春田新 布四六 裝入判             | 春田新 布四六 裝入判                        | 春田新 布四六 裝入判                            | 春田新 布四六 裝入判                           |
| 162                                      | 267                                   | 218                                      | 338                          | 329                                    | 361                                    | 450                                      | 268                                  | 288                                      | 243                     | 429                                | 243                                    | 316                                   |
| 二〇〇                                      | 二〇〇                                   | 二〇〇                                      | 一〇〇                          | 一〇〇                                    | 二〇〇                                    | 一〇〇                                      | 二〇〇                                  | 二〇〇                                      | 二〇〇                     | 二〇〇                                | 二〇〇                                    | 二〇〇                                   |
| 三省堂                                      | 人文書院                                  | 交蘭社                                      | 出版部                          | 福田書房                                   | 研究社                                    | 學藝社                                      | 泰文館                                  | サイレン社                                    | サイレン社                   | 岩波書店                               | 岩波書店                                   | 双葉房                                   |
| 月一十                                      | 月一十                                   | 月二十                                      | 月二                           | 月六                                     | 月九                                     | 月一十                                      | 月二十                                  | 月二十                                      | 月六                      | 月五                                 | 月五                                     | 月一十                                   |
| ▲門、法政大學風景、江戸文學史、落着(ベロツク)七月(メネル)其他の隨筆を収む。 | ▲歴史と條件、三つの研究法、條件反射の概、文學と醫學外六篇を収めた隨筆集。 | ▲茶道禮讚、茶碗の變遷、茶の湯生活の姿、婦人と茶の湯、花押の話其他の茶道隨筆集。 | ▲季節と茶話、創作メモ、蜘蛛子句鈔の三篇に分けた隨筆集。 | ▲中外日報に掲載せるを纏めた書で、迷信といふ事其他の宗教界を批判せる隨筆集。 | ▲新アンシクロペヂスト、宗教復興に就て、吉村冬彦論、技術の規定其他の評論集。 | ▲英京短信、クリスマス前後、春興倫敦子、ギリシヤ語、英語を讀む樂み其他の隨筆集。 | ▲著者の人生觀、宗教觀、文學美術に就て書いたもので、人間の力と運命其他。 | ▲一全體に即して、獨自に生きる一と云ふ著者の生活指標に關する隨感及び短歌を収む。 | ▲諸種の引證を以て人間馬琴を縦横に描けるもの。 | ▲風流道、三奇老の説、文壇眼鏡、無用の用、軍部と僕其他の隨筆を収む。 | ▲漁師の娘、恐ろしき一夜、沼山津村、夏の夜かたり、數鹿流が瀧外四篇の隨筆集。 | ▲蠟燭味、破片を拾ひて、東郷元帥と東西の文人外十九篇の隨筆集。特製全三冊。 |

文學(隨筆)

|                                       |                                          |                                                            |                                        |                                      |                                         |                                           |                                        |                                  |                                   |                                           |                                          |             |
|---------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------|-------------|
| 德富 蘆花 青蘆集                             | 竹内 勝太郎 西歐藝術風物記                           | 閑 人 會編 華世界を 描く                                             | 谷崎 潤一郎 絶望の 逃走                          | 萩原 朔太郎 絶望の 逃走                        | 長谷川 時雨 草魚                               | 吉川 英治 草魚                                  | 富安 風生 草魚                               | 杉村 楚人 續々湖 畔吟                     | 深尾 須磨子 丹波の 牧歌                     | 内 田 誠 父                                   | 堀内 敬三 チンタ 以                              | 得能 文 沈黙の 疑問 |
| 並百六 裝入判                               | 上四六 裝入判                                  | 並四六 裝入判                                                    | 上四六 裝入判                                | 上四六 裝入判                              | 上四六 裝入判                                 | 上四六 裝入判                                   | 並三六 裝入判                                | 上四六 裝入判                          | 上四六 裝入判                           | 洋四六 裝入判                                   | 上四六 裝入判                                  | 上四六 裝入判     |
| 245                                   | 340                                      | 563                                                        | 419                                    | 285                                  | 237                                     | 366                                       | 241                                    | 361                              | 271                               | 128                                       | 229                                      | 295         |
| 八〇                                    | 三〇〇                                      | 二〇〇                                                        | 一七〇                                    | 一〇〇                                  | 一〇〇                                     | 二〇〇                                       | 二〇〇                                    | 一〇〇                              | 一〇〇                               | 六〇〇                                       | 二〇〇                                      | 一〇〇         |
| 岩波書店                                  | 芸艸堂                                      | 出版部                                                        | 中央公論社                                  | 第一書房                                 | サイレン社                                   | 新英社                                       | 龍星閣                                    | 日本評論社                            | 書物展望社                             | 双葉房                                       | アオイ書房                                    | 第一書房        |
| 月四                                    | 月九                                       | 月一                                                         | 月五                                     | 月十                                   | 月七                                      | 月九                                        | 月十                                     | 月六                               | 月一十                               | 月七                                        | 月一                                       | 月八          |
| ▲五分時の夢、除夜物語、燕尾服着初の記事、零落、慈悲心鳥、伴助七翁外六篇。 | ▲太平洋の旅、煤けた倫敦、ルカブルの混亂、ロニア其他より成る藝術に關する隨筆集。 | ▲風雲閣漫談(尾崎聖堂)歐洲の自然と人(松岡洋右)東郷元帥と私(長谷川如是)其他漫談、半袖ものがたり外四篇の隨筆集。 | ▲陰翳禮讃、春琴抄後語、裝釘漫談、文房具想集で、女性、結婚、戀愛など外三章。 | ▲箱根山展望、草魚、山の人たち、一錢のバナナ、起死の藥、栗其他の隨筆集。 | ▲日曜夕語、市井雜音、僕の三疊、机邊脱出史話片六、草魚隨筆の六篇に分けた隨筆集 | ▲星祭、落花の庭、姪、小園景情、湖畔にて雜魚いろく、其他を収めた隨筆集。特製三冊。 | ▲龜退治、書庫、停車場の祭、その娘、キヤンブ・フワヤ、染井吉野其他の隨筆集。 | ▲句ひの足跡、花、巴里とメトロ、丹波の牧歌の四篇を収めた散文集。 | ▲臺灣總督として又、實業界の重鎮たりし故内田嘉吉氏に關する追悼録。 | ▲音樂雜篇(チンタ興亡史外十一篇)筆のすさび(神田に育つ外十篇)の二篇のエッセイ集 | ▲沈黙の洞穴、安代温泉雜記、俳句と自然、明治十四年の旅其他より成る感想、回顧録。 |             |

|                      |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |
|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 石黒                   | 平山                  | 花野                  | 竹内                  | 竹内                  | 久米                  | 河井                  | 小林                  | 花野                  | 谷川                  | 細田                  | 内田                  | 内田                  |
| 敬七                   | 蘆江                  | ラエス                 | 内                   | 内                   | 正雄                  | 醉茗                  | 一三                  | ラエス                 | 徹三                  | 源吉                  | 百間                  | 百間                  |
| 蛋                    | 女人                  | 日本                  | 日本                  | 日本                  | 二階                  | 南                   | 奈良                  | 徳島                  | 評論                  | 轉向                  | 凸                   | 鶴                   |
| の                    | 人                   | 本                   | 本                   | 本                   | 階                   | 南                   | 良                   | 鳥                   | 展                   | 作家                  | 凹                   |                     |
| 市                    | 帳                   | 神                   | 味                   | 味                   | 堂                   | 窓                   | は                   | 盆                   | 望                   | 家の                  | 道                   |                     |
|                      |                     |                     |                     |                     | 放                   |                     | た                   | 踊                   |                     | の手                  |                     |                     |
|                      |                     |                     |                     |                     | 話                   |                     | ご                   |                     |                     | 記                   |                     |                     |
|                      |                     |                     |                     |                     |                     |                     | や                   |                     |                     |                     |                     |                     |
| 上四六                  | 上四六                 | 脊四六                 | 並四六                 | 並四六                 | 布四六                 | 上四六                 | 並四六                 | 脊四六                 | 布四六                 | 並四六                 | 布四六                 | 脊四六                 |
| 製入判                  | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 |
| 299                  | 377                 | 466                 | 348                 | 299                 | 391                 | 328                 | 355                 | 374                 | 314                 | 582                 | 275                 | 312                 |
| 二〇〇                  | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 |
| 双                    | 岩                   | 新                   | 帝                   | 書                   | 不                   | 言                   | 時                   | 樂                   | 岡                   | 文                   | 新                   | 大                   |
| 雅                    | 波                   | 都                   | 都                   | 物                   | 二                   | 海                   | 潮                   | 浪                   | 倉                   | 川                   | 潮                   | 乘                   |
| 房                    | 書                   | 日                   | 日                   | 展                   | 層                   | 書                   | 社                   | 書                   | 書                   | 堂                   | 社                   | 社                   |
| 月二十                  | 月六                  | 月二十                 | 月一                  | 月二                  | 月四                  | 月八                  | 月二                  | 月一十                 | 月九                  | 月一十                 | 月九                  | 月二十                 |
| ▲「蚤の市」ばなし、白粉を塗って試合、沙 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 |

|                      |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |
|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 小野                   | 寺田                  | 三宅                  | 石川                  | 香取                  | 加藤                  | 福良                  | 井上                  | 江口                  | 平山                  | 石井                  | 吉田                  | 岡田                  |
| 賢一郎                  | 寅彦                  | 雪嶺                  | 三四郎                 | 秀眞                  | 一夫                  | 竹亭                  | 吉次郎                 | 漢                   | 蘆江                  | 露月                  | 絃二郎                 | 指呂                  |
| 佛                    | 物質                  | 二日                  | 不盡                  | 齋                   | 貧者                  | 百樂                  | 秘密                  | 向日                  | 左                   | 露月                  | 春                   | 灰                   |
| 魔                    | と言                  | 一言                  | 想                   | 祭                   | の安                  | 樂漫                  | 社會                  | 葵之                  | り                   | 聞                   | の                   | に                   |
| 抄                    | 葉                   | 望                   | 望                   | 住                   | 住                   | 記                   | 學                   | 書                   | 情                   | き                   | 日                   | 書                   |
|                      |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |
| 上四六                  | 布四六                 | 上四六                 | 脊四六                 | 上四六                 | 上四六                 | 布四六                 | 上四六                 | 上四六                 | 並四六                 | 布四六                 | 並四六                 | 布四六                 |
| 製入判                  | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 | 製入判                 |
| 299                  | 377                 | 466                 | 348                 | 299                 | 391                 | 328                 | 355                 | 374                 | 314                 | 582                 | 275                 | 312                 |
| 二〇〇                  | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 | 二〇〇                 |
| 双                    | 岩                   | 新                   | 帝                   | 書                   | 不                   | 言                   | 時                   | 樂                   | 岡                   | 文                   | 新                   | 大                   |
| 雅                    | 波                   | 都                   | 都                   | 物                   | 二                   | 海                   | 潮                   | 浪                   | 倉                   | 川                   | 潮                   | 乘                   |
| 房                    | 書                   | 日                   | 日                   | 展                   | 層                   | 書                   | 社                   | 書                   | 書                   | 堂                   | 社                   | 社                   |
| 月二十                  | 月六                  | 月二十                 | 月一                  | 月二                  | 月四                  | 月八                  | 月二                  | 月一十                 | 月九                  | 月一十                 | 月九                  | 月二十                 |
| ▲「蚤の市」ばなし、白粉を塗って試合、沙 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 | ▲折花柳記、花柳界に學ぶ、紅燈新話、女 |

文學(隨筆)

|                                       |                                     |                                         |                                          |                                          |                                          |                                       |                                       |                                           |                   |                                     |                                          |                                         |
|---------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------|-------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 西村眞琴                                  | 下村海                                 | 小林橋川                                    | 釋眞齋                                      | 川路柳虹                                     | 千葉龜雄                                     | 武野藤介                                  | 宇野浩二                                  | 室生犀星                                      | 下村海南              | 永井荷風                                | 小岩井淨多                                    | 中條百合子                                   |
| 凡人                                    | 本卦かへり                               | 太閤                                      | 隨筆                                       | 遠隨筆                                      | ベソ縦横                                     | 壇餘白                                   | 藝草子                                   | 學ム                                        | ブリズム              | 多の蠅                                 | 冬を凌ぐ                                     | 冬を越す蕾                                   |
| 布四六<br>裝入判                            | 布四六<br>裝入判                          | 布三六<br>裝入判                              | 布四六<br>裝入判                               | 布四六<br>裝入判                               | 上四六<br>裝入判                               | 上四六<br>裝入判                            | 布四六<br>裝入判                            | 上四六<br>裝入判                                | 上四六<br>裝入判        | 布四六<br>裝入判                          | 上四六<br>裝入判                               | 上四六<br>裝入判                              |
| 176                                   | 535                                 | 207                                     | 316                                      | 275                                      | 298                                      | 312                                   | 435                                   | 357                                       | 694               | 258                                 | 352                                      | 439                                     |
| 三、三〇                                  | 一、二〇                                | 一、〇〇                                    | 二、〇〇                                     | 二、〇〇                                     | 二、〇〇                                     | 一、〇〇                                  | 一、二〇                                  | 一、四〇                                      | 二、〇〇              | 二、〇〇                                | 一、二〇                                     | 一、五〇                                    |
| 書物展望社                                 | 四條書房                                | 春秋社                                     | 人文書院                                     | 岡倉書房                                     | 岡倉書房                                     | 健文社                                   | 竹村書房                                  | 三笠書房                                      | 四條書房              | 偏奇館                                 | ナウカ社                                     | 現代文化社                                   |
| 月三                                    | 月三                                  | 月六                                      | 月八                                       | 月一                                       | 月九                                       | 月七                                    | 月一十                                   | 月九                                        | 月二十               | 月五                                  | 月四                                       | 月六                                      |
| ▲水平線上の幸、峠のおいん、木の葉文其他の隨筆及びそれに因める繪を挿入す。 | ▲傳説篇(久米榮左衛門と薰の和尚其他)隨筆篇(本卦かへり其他)外五篇。 | ▲豊太閤の一生を隨筆的に描いたもので、私は老人だ、運命の一戦、戦勝の秘訣其他。 | ▲鴨水の荒魂、首塚眞偽、七生報國、峡谷秘事、併壇下坐行、茶人の感心其他の隨筆集。 | ▲ゲテものと民藝、小供の遊び、ルウ・ドラホエシ、巴里の競馬其他の隨筆及滑稽雜記。 | ▲海の作家海の作物、讀書むだ話、晩鐘は鳴り渡る、主観と客観他數十章の感想評論集。 | ▲文壇に關する覺書、ゴシップ等を收めたもので、文壇餘白、文壇雜記帳外三篇。 | ▲齋藤茂吉と柿本人麿、初秋三題、童話の國へ、木曾路の旅其の隨想隨筆を收む。 | ▲文藝隨筆八章、小品八章、感想と批評十七章、日録四章、洗印詩集廿章を收めた隨筆集。 | ▲史傳、時局等に關する隨筆評論集。 | ▲斷腸花、深川の散歩、谷崎潤一郎氏の作品つくりばなし外十五篇の隨筆集。 | ▲田園雜筆、ひとつの生活、プロ雜記帖、獄窓にうたふ其他の感想、雜文、歌等を收む。 | ▲マキシム・ゴリキイの人及び藝術、今日の文化の諸問題、日記其他の他評論隨筆集。 |

文學(隨筆)

|                                        |                                          |                                          |                                      |                                |                                         |                                            |                                       |                                           |                                           |                                         |                                         |                                       |
|----------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------|
| 長尾宏也                                   | 室伏高信                                     | 内田清之助                                    | 久保田万太郎                               | 碓氷元                            | 結城哀草果                                   | 富田溪仙                                       | 松岡讓                                   | 相馬御風                                      | 平野敬夫                                      | 寺田寅彦                                    | 今井慶松                                    | 東京中央出版局長<br>藤吉                        |
| 山の隣人                                   | 山の小屋から                                   | 野鳥禮讚                                     | 夜光蟲                                  | 名士と犬を語る                        | 村里生活記                                   | 無用の用                                       | 無限を想ふ                                 | 道限りなし                                     | 滿洲國皇帝                                     | 萬華鏡                                     | 松の吹き寄せ                                  | マイク放談                                 |
| 布四六<br>裝入判                             | 上四六<br>裝入判                               | 上四六<br>裝入判                               | 上四六<br>裝入判                           | 布四六<br>裝入判                     | 布四六<br>裝入判                              | 上四六<br>裝入判                                 | 上四六<br>裝入判                            | 布四六<br>裝入判                                | 並四六<br>裝入判                                | 上四六<br>裝入判                              | 上四六<br>裝入判                              | 上四六<br>裝入判                            |
| 248                                    | 405                                      | 249                                      | 170                                  | 460                            | 369                                     | 245                                        | 552                                   | 456                                       | 235                                       | 225                                     | 219                                     | 262                                   |
| 二、二〇                                   | 一、二〇                                     | 一、〇〇                                     | 三、〇〇                                 | 三、〇〇                           | 一、二〇                                    | 二、〇〇                                       | 一、二〇                                  | 二、〇〇                                      | 六、〇〇                                      | 一、〇〇                                    | 一、〇〇                                    | 一、〇〇                                  |
| 竹村書房                                   | 日本評論社                                    | 集林書房                                     | 双雅書房                                 | 狼吟莊                            | 岩波書店                                    | 人文書院                                       | 第一書房                                  | 厚生閣                                       | 平原社                                       | 岩波書店                                    | 岡倉書房                                    | 東學社                                   |
| 月十                                     | 月四                                       | 月九                                       | 月七                                   | 月一十                            | 月二                                      | 月五                                         | 月十                                    | 月十                                        | 月四                                        | 月六                                      | 月一十                                     | 月七                                    |
| ▲無人の牧場、山の隣人、鳥獸野性譚、獵人野帖、山のたより外十篇の山の小話集。 | ▲山の小屋から(ひとり想ふ其他)東方思想のために(論語復興其他)外四篇の隨筆集。 | ▲鳥の名前、初夏の鳥、佛法僧に就て、味覺から見た野鳥、東京市中の鳥其他の隨筆集。 | ▲わが工房、大晦日年々、書きぬき、よせなべ、菊松等廿八篇を收めた隨筆集。 | ▲名士とその愛犬とを語つたもので、清浦圭吾、金子堅太郎其他。 | ▲蘭の話、上等兵と希望村、冬の農家、山と雪の國、祝ひ火、滯京雜筆其他の隨筆集。 | ▲無形の塔、萬葉の歌、物は化する其他の隨筆及びくわんせおん、河豚と穂其他の詩を收録。 | ▲宗教批判、宗教都市、宗教文化、宗教復興の四篇に分けた佛教に關する隨筆集。 | ▲自然現象の豫報、物理学と感覺、言語と道具、雷車の混雑に就て外九篇の科學的隨筆集。 | ▲滿洲國皇帝の御半生、西安炭坑探險記、女の總司令川島芳子、新京漫筆外五篇の隨筆集。 | ▲字を書く歡び、雪のない雪國の冬、坪内先生を憶ふ、紗上居漫筆其他の隨筆を收む。 | ▲生立ち、山田松韻先生へ入門、琴と氣象、山田流と生田流其他を收めた藝談隨筆集。 | ▲香報はマイクプロフォンである、笑はせる肉體的振音、防空演習其他の隨筆集。 |

文學(隨筆)

|      |          |     |     |     |     |              |     |                                              |
|------|----------|-----|-----|-----|-----|--------------|-----|----------------------------------------------|
| 三土忠造 | 幽囚徒然草    | 上四六 | 製入判 | 364 | 二二〇 | 千倉書房         | 月八  | ▲帝人事件の渦中に捲かれて入獄せる著者の<br>鐵窓記で、人間強弱の差異其他。      |
| 近重眞澄 | 雪だるま     | 上四六 | 製入判 | 364 | 二二〇 | 人文書院         | 月六  | ▲信心銘新譯、參禪餘話、素人俳論、小説祇<br>園繪日傘其他の隨筆集。附禪林世語集。   |
| 竹内逸  | 浴室風景     | 上四六 | 製入判 | 290 | 二〇〇 | 岡倉書房         | 月十  | ▲浴室風景、西洋の女日本の女、エチプト紀<br>行、京阪俗語風俗、日本女性禮讚外五篇。  |
| 辰野隆  | りやん      | 布四六 | 製入判 | 312 | 一〇五 | 白水社          | 月七  | ▲フランス文藝論攷、隨筆、人物評論等を收<br>めた書で、自然兒モリエール其他。     |
| 丸山幹治 | 溜飲を下ぐ    | 布四六 | 製入判 | 335 | 一〇五 | 星海書房         | 月六  | ▲今昔篇(福密院の今昔其他)内外篇(英國<br>の遺產稅、元老の頭其他)に分けた隨筆集。 |
| 前田夕暮 | 草(1.18)  | 布四六 | 製入判 | 177 | 四〇  | 春陽堂          | 月十  | ▲病牀思索、木の花、デントルビーと天南<br>星、鞠つき、雜草、草の感覺其他。      |
| 吹田順助 | 緑野抄      | 上四六 | 製入判 | 269 | 一〇〇 | 白水社          | 月四  | ▲文藝雜筆、閑話、追憶、消息、机上漫策、<br>短篇の六篇二十八章より成る隨筆集。    |
| 木村莊太 | 園賦       | 上四六 | 製入判 | 236 | 八〇  | 建設社          | 月四  | ▲野帳雜記、自家の立場、頌、謀、生活記、<br>雜傳、心の繋がり八篇より成る隨筆集。   |
| 阪田英一 | レヴューをり   | 上四六 | 製入判 | 173 | 八〇  | 沙羅書店         | 月九  | ▲レヴューをりをり、温泉宿主人漫語、演劇<br>草紙、銀幕畫夢、はやり歌外二篇。     |
| 林房雄  | 浪漫主義者の手帖 | 布四六 | 製入判 | 275 | 一八〇 | サイレン社        | 月九  | ▲著者が入獄中、妻及び知人に宛てた手紙、<br>出獄感想記、文學評論等を收めたもの。   |
| 徳宮蘆花 | 蘆花家信     | 布四六 | 製入判 | 450 | 二二〇 | 岩波書店         | 月四  | ▲明治二十八年より大正四年に至る徳宮蘆花<br>夫妻間の書簡を収録す。          |
| 五十嵐力 | 六十一年莖集   | 布四六 | 製入判 | 316 | 一四〇 | 早稲田大學<br>出版部 | 月二十 | ▲著者五十嵐氏の還暦を記念せる隨筆集で、<br>鳴く虫の聯想、新年の旅外五十九篇。    |
| 松本泰  | 樹蔭と樹蔭    | 布四六 | 製入判 | 247 | 二〇〇 | 岡倉書房         | 月二十 | ▲毀れ人形、毒鳥、老寫眞師、パツクストン<br>の木乃伊、紅茶漫談其他の隨筆を收む。   |

文學(隨筆・文集・讀本)

|       |         |     |     |     |     |      |    |                                            |
|-------|---------|-----|-----|-----|-----|------|----|--------------------------------------------|
| 石川秀脩  | 基督教鑑賞文選 | 布四六 | 製入判 | 200 | 一四〇 | 厚生閣  | 月四 | ▲基督教教育的見地に立つて明治、大正、昭<br>和時代に於ける基督教文學を収録す。  |
| 間山秀脩  | 基督教鑑賞文選 | 布四六 | 製入判 | 200 | 一四〇 | 厚生閣  | 月四 | ▲基督教教育的見地に立つて明治、大正、昭<br>和時代に於ける基督教文學を収録す。  |
| 吉江喬松  | 自然然     | 布三六 | 製入判 | 229 | 一〇〇 | 春秋社  | 月二 | ▲地平線、眞夏の海、夜鳴く鳥、若葉の夜の<br>森、緑の沈黙、五月雨其他の隨筆集。  |
| 吉江喬松  | 自然然     | 布三六 | 製入判 | 201 | 一〇〇 | 春秋社  | 月七 | ▲海の上、波の響の二篇に分け、印度洋、銀<br>葉樹、霧、伊良湖の旅外八篇を收む。  |
| 吉江喬松  | 自然然     | 布三六 | 製入判 | 236 | 一〇〇 | 春秋社  | 月七 | ▲自然の寂光、自然美と女性、巴里の印象、<br>櫻の森、二瀑布、石造建築物其他。   |
| 吉江喬松  | 自然然     | 布三六 | 製入判 | 292 | 一〇〇 | 春秋社  | 月二 | ▲自然美の心象、山影、八州展望、平原と高<br>原、洗馬節、谷の眞冬其他の隨筆集。  |
| 杉谷恵美子 | 杉谷代水選集  | 布四六 | 製入判 | 431 | 二八〇 | 富山房  | 月十 | ▲杉谷代水の歌劇、戯曲、狂言、小説、新體<br>詩、唱歌、論說、俳句等を収録。    |
| 北原白秋  | 全貌      | 布四六 | 製入判 | 559 | 一八〇 | アルス  | 月八 | ▲昭和九年度創作を収めたもので、雪朝、日<br>の大皇子其他詩、短歌、民謡等を收む。 |
| 鳥崎藤村  | 文學讀本    | 布四六 | 製入判 | 355 | 二〇〇 | 第一書房 | 月三 | ▲春、花のさかり、古城の夏、青夢の熟する<br>時、祭の日、大舞其他より成る。    |



文學(文集・讀本・日記・書翰)

|           |                      |            |      |     |        |     |                                           |
|-----------|----------------------|------------|------|-----|--------|-----|-------------------------------------------|
| 小原國芳      | 文藝例話                 | 布四六<br>裝入判 | 520  | 二〇〇 | 出玉川學部園 | 月二  | ▲個人篇、家庭篇、社會篇、國家篇に分けて古今の文豪の作品を蒐集す。         |
| 河野與一      | アミエルの日記              | 並菊半<br>製載  | 208  | 四〇〇 | 岩波書店   | 月二  | ▲アミエルの二十七歳より三十七歳に至る間の日記を抜萃譯せるもの。          |
| 河野與一      | アミエルの日記              | 並菊半<br>製載  | 209  | 四〇〇 | 岩波書店   | 月五  | ▲第二卷は三十八歳より四十一歳までの日記を収む。                  |
| 河野與一      | アミエルの日記              | 並菊半<br>製載  | 220  | 四〇〇 | 岩波書店   | 月一十 | ▲第三冊はアミエルが四十二歳より四十七歳迄の日記を譯せるもの。           |
| 小林泉一      | 一異端者への手紙             | 布四六<br>裝入判 | 161  | 一〇〇 | 第一書房   | 月一十 | ▲ラフカディオ・ハーンとデトロイト市のアンネツタ・ハリデイとの間の手紙を収む。   |
| 小林三吾      | 小林多喜二書簡集             | 布四六<br>裝入判 | 261  | 一〇〇 | ナウカ社   | 月八  | ▲田口瀧子への手紙、藏原惟人への手紙、獄中からの手紙、其他の書簡を収む。      |
| 中村光夫      | フロオベル著 ジョルジュ・サンドへの書簡 | 布四六<br>裝入判 | 323  | 二〇〇 | 文圃堂    | 月一十 | ▲フロオベルがジョルジュ・サンドに與へた手紙の全譯。                |
| 徳富健次郎     | 書翰十年                 | 布四六<br>裝入判 | 1037 | 三〇〇 | 岩波書店   | 月二十 | ▲大正七年より昭和二年最終に至るまでの徳富蘆花の書翰を収録す。           |
| 文學アカデミア註譯 | トルストイ未發表日記一九一〇年      | 布四六<br>裝入判 | 507  | 三〇〇 | ナウカ社   | 月二十 | ▲一九一〇年の一月二日より臨終までのトルストイの日記及自分一人のための日記を収む。 |
| 八住利雄      | トルストイ日記抄             | 並菊半<br>製載  | 261  | 四〇〇 | 岩波書店   | 月七  | ▲一八四七年より一九一〇年に至るトルストイの日記を抄録し邦譯す。          |
| 除村吉太郎     | 鳥崎藤村の手紙              | 並菊半<br>製載  | 215  | 一〇〇 | 新英社    | 月十  | ▲鳥崎藤村の小諸時代乃至飯倉時代に於ける消息五十九篇を牧めたもの。         |
| 安野隆三      | アンドレ・ジイド著 日記抄        | 布四六<br>裝入判 | 297  | 一〇〇 | 文圃堂    | 月二十 | ▲アンドレ・ジイドの「轉向」を物語る日記と文章の譯で、日記抄、草紙外二篇。     |

(D) 詩歌・俳句・民謡

詩論・作法

|       |                           |            |     |     |      |     |                                          |
|-------|---------------------------|------------|-----|-----|------|-----|------------------------------------------|
| 三好達治  | 母への手紙                     | 並菊半<br>製載  | 129 | 二〇〇 | 岩波書店 | 月八  | ▲兩親並に母へ宛て、著者が巴里に於ける私生活日常生活を報じた手紙を収む。     |
| 内田百閒  | 百鬼園日記帖                    | 布四六<br>裝入判 | 371 | 二〇〇 | 三笠書房 | 月四  | ▲大正六年より八年までの著者の日記を収録せるもの。                |
| 奥山宇七  | 本居宜長翁書簡集                  | 布四六<br>裝入判 | 681 | 三〇〇 | 啓文社  | 月五  | ▲本居宜長翁の二十五歳より七十二歳までの間に於ける書簡五百九十通を収録す。    |
| 武田昌一  | リルケの手紙                    | 布四六<br>裝入判 | 147 | 一〇〇 | 芝書店  | 月九  | ▲若き一詩人への手紙、若き一婦人への手紙の二篇を収む。              |
| 岸田國士  | 第一冊は一九九七年より一九九九年に至るルナ     | 並新菊<br>製判  | 310 | 二〇〇 | 白水社  | 月七  | ▲第一冊は一九九七年より一九九九年に至るルナアルの日記を譯す。          |
| 岸田國士  | 第二冊は一九〇〇年より一九〇一年までの日記を収む。 | 並新菊<br>製判  | 272 | 二〇〇 | 白水社  | 月十  | ▲第二冊は一九〇〇年より一九〇一年までの日記を収む。               |
| 中野重治  | ゴオリキーへの手紙                 | 並菊半<br>製載  | 147 | 二〇〇 | 岩波書店 | 月一  | ▲レイニンよりゴオリキーへ宛てた手紙を譯せるもの。                |
| 川路柳虹  | 詩學                        | 布四六<br>裝入判 | 422 | 二〇〇 | 耕進社  | 月四  | ▲詩に關する論説を蒐めたもので、詩論、詩の形態學的研究、詩の運動、詩の批判の四篇 |
| 萩原朝太郎 | の原理                       | 並四六<br>裝入判 | 320 | 一〇〇 | 第一書房 | 月一十 | ▲詩的精神、文學に於ける詩の位置、詩の概念の本質等詩の原理を究明す。普及版。   |
| 阪本越郎  | の周園                       | 布四六<br>裝入判 | 324 | 二〇〇 | 耕進社  | 月五  | ▲詩論、エスキイス、詩人素描、間接的詩論の四篇より成る。             |

文學(日記・書翰・詩論・作詩法)

詩

集

|                                          |                                          |                                       |                                    |                               |                                     |                                       |                                         |                                       |                                   |                             |                                  |
|------------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|----------------------------------|
| 萩原 朔太郎                                   | 内田 忠                                     | 室生 犀星                                 | 中原 綾子                              | 上田 敏                          | 山村 西之助                              | 小 熊 秀雄                                | 稻 垣 恒子                                  | 新 潮 社編                                | 鳥 崎 藤村                            | 土 井 晚翠                      | 薄 田 泣菫                           |
| 純正詩論                                     | 詩の純粹性                                    | 愛の詩                                   | 悪魔の貞操                              | 訂上田敏詩集                        | 美しき家族                               | 小 熊 秀雄詩集                              | 啞の唄                                     | 現代詩人全集                                | 現代詩人全集                            | 現代詩人全集                      | 現代詩人全集                           |
| 四六判                                      | 四六判                                      | 並菊半製                                  | 並菊半製                               | 並菊半製                          | 並菊半製                                | 並菊半製                                  | 並菊半製                                    | 並菊半製                                  | 並菊半製                              | 並菊半製                        | 並菊半製                             |
| 207                                      | 98                                       | 340                                   | 108                                | 732                           | 92                                  | 305                                   | 135                                     | 170                                   | 163                               | 147                         | 155                              |
| 二〇〇                                      | 六〇                                       | 六〇                                    | 二〇〇                                | 一四〇                           | 一八〇                                 | 二一〇                                   | 一〇〇                                     | 四二                                    | 四二                                | 四二                          | 四二                               |
| 第一書房                                     | 椎の木社                                     | 春陽堂                                   | いづかし社                              | 第一書房                          | 椎の木社                                | 耕進社                                   | 蠟人形社                                    | 新潮社                                   | 新潮社                               | 新潮社                         | 新潮社                              |
| 四月                                       | 二月二十                                     | 三月                                    | 十月                                 | 二月二十                          | 二月二十                                | 五月                                    | 八月                                      | 八月                                    | 八月                                | 八月                          | 八月                               |
| ▲收質と精神、素材と認識について、科學と文學の進歩、詩の純粹性其他を収めた詩論集 | ▲文壇、詩壇に對して挑戦し、啓蒙し、更に散人主義に對する詩的精神を高調せる詩論。 | ▲「愛の詩集」と「第二愛の詩集」とを合巻せるもので、故郷にて作れる詩其他。 | ▲悲哀、貞操、近代風景、眼、愛憐、黄昏の感傷、夜半其他より成る詩集。 | ▲海潮音、海潮音以後、牧羊神の三篇に大別せる詩集。改訂版。 | ▲柘榴咲く花かげに、地上、花をもつ乙女の歌、愛の學校其他より成る詩集。 | ▲踏鐵屋の歌、しやべり捲くれ、茫漠たるもの、孤獨の超特急其他より成る詩集。 | ▲はじめに夕べありき、いのち、秘唱、果は花咲きたり、歸らぬ春其他より成る詩集。 | ▲湯淺半月、山田美妙、宮崎湖處子、國木田獨歩、與謝野鐵幹外七氏の詩を収む。 | ▲若菜集より、一葉舟より、夏草より、落梅集よりの四部より成る詩集。 | ▲天地有情、曉鐘、曙光、天馬の道にの四部より成る詩集。 | ▲森笛集、ゆく春、二十五絃、白羊宮、十字街頭の五部より成る詩集。 |

|                                      |                                           |                                     |                                          |                                          |                                          |                                      |                                    |                                     |                                         |                                          |                                          |                           |
|--------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------|
| 蒲 原 有 明                              | 岩 野 泡 鳴                                   | 野 口 米 次 郎                           | 横 瀬 夜 雨                                  | 北 原 白 秋                                  | 三 木 露 風                                  | 川 路 柳 虹                              | 堀 口 大 學                            | 雷 石 楡                               | 藤 井 福 壽                                 | 伊 藤 松 雄 編 著                              | 帆 足 理 一 郎 編                              | 生 田 春 月                   |
| 現代詩人全集                               | 現代詩人全集                                    | 現代詩人全集                              | 現代詩人全集                                   | 現代詩人全集                                   | 現代詩人全集                                   | 現代詩人全集                               | 現代詩人全集                             | 現代詩人全集                              | 現代詩人全集                                  | 現代詩人全集                                   | 現代詩人全集                                   | 現代詩人全集                    |
| 並菊半製                                 | 並菊半製                                      | 並菊半製                                | 並菊半製                                     | 並菊半製                                     | 並菊半製                                     | 並菊半製                                 | 並菊半製                               | 並菊半製                                | 並菊半製                                    | 並菊半製                                     | 並菊半製                                     | 並菊半製                      |
| 139                                  | 154                                       | 134                                 | 163                                      | 174                                      | 171                                      | 158                                  | 173                                | 93                                  | 81                                      | 368                                      | 496                                      | 167                       |
| 四二                                   | 四二                                        | 四二                                  | 四二                                       | 四二                                       | 四二                                       | 四二                                   | 四二                                 | 四二                                  | 四二                                      | 六二                                       | 二〇〇                                      | 四二                        |
| 新潮社                                  | 新潮社                                       | 新潮社                                 | 新潮社                                      | 新潮社                                      | 新潮社                                      | 新潮社                                  | 新潮社                                | 前奏社                                 | 論文堂                                     | 桑文社                                      | 新生堂                                      | 新潮社                       |
| 八月                                   | 九月                                        | 九月                                  | 九月                                       | 九月                                       | 九月                                       | 九月                                   | 九月                                 | 三月                                  | 五月                                      | 十一月                                      | 十月                                       | 五月                        |
| ▲有明集、有明集以後、春鳥集、獨絃哀歌、草わかばの五部に分け収めた詩集。 | ▲「夕潮」より「悲戀悲歌」より、闇の盃盤戀のしやりからうべ、晩年の作の五篇の詩集。 | ▲代表、詩散文詩に分けた詩集で、私の歌、釣鐘、白紙、泣き聲、橋、其他。 | ▲筑波に登る、夜雨集より、二十八宿より、花守日記より、花守より、夕月よりの六篇。 | ▲思ひ出、性の芽生、過ぎしは、斷章、邪宗門、天草雅歌、雪と花火外五篇より成る詩集 | ▲廢園、白き手の獵人、幻の田園、蘆間の幻影、信仰の曙、神と人の六篇より成る詩集。 | ▲「我」を歌ふ、村落風景、歩む人、豫言、曙の聲、勝利はつ戀外三篇の詩集。 | ▲月光とピエロ、水の面に書きて、新しき小徑、砂の枕の四篇の詩を収む。 | ▲カフエー、自ら訴へる、涙、俺は新年がない、沙漢の歌其他より成る詩集。 | ▲斜面(藤井福壽)瘦せた鼻唄(穂曾谷秀雄)路傍の手記(五十嵐茂)の三篇の詩集。 | ▲過去の歴史より一日一史を撰み、その史料を主題とした作品、史的人物の作品を集輯す | ▲人生の讃歌、村の鍛冶屋、世界は吾々に過分だ、廢墟の中の愛外四十六篇の人生詩集。 | ▲澄める青空、自然の恵みの二部數十篇より成る詩集。 |

|                                      |                                         |                            |                                       |                                          |                                       |                                         |                                     |                                           |                                   |                                       |                                       |                                      |                                     |                                        |                                       |                                          |                                       |                                    |                                    |                                     |                                           |                                          |                                        |                                         |
|--------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------|
| 前奏社編                                 | 一九三五年詩集                                 | 森山啓                        | 沈黙の血汐・山上に立つ                           | 野口米次郎                                    | 當選歌全集                                 | 上岡政雄編                                   | 飛ぶ                                  | 小熊秀雄                                      | 集詩二なき生命                           | 清水ちとせ                                 | 野の径                                   | 滄瀨白雨                                 | 集詩白日                                | 春山行夫                                   | 集詩花                                   | 長谷部俊一郎                                   | 集詩光る                                  | サトウハチロー                            | 僕等の詩集                              | 西川滿                                 | 媽祖                                        | 伊豆公犬                                     | 詩明                                     |                                         |
| 並四六判                                 | 並四六判                                    | 並四六判                       | 並四六判                                  | 並四六判                                     | 並四六判                                  | 並四六判                                    | 並四六判                                | 並四六判                                      | 並四六判                              | 並四六判                                  | 並四六判                                  | 並四六判                                 | 並四六判                                | 並四六判                                   | 並四六判                                  | 並四六判                                     | 並四六判                                  | 並四六判                               | 並四六判                               | 並四六判                                | 並四六判                                      | 並四六判                                     | 並四六判                                   |                                         |
| 279                                  | 253                                     | 312                        | 296                                   | 188                                      | 95                                    | 202                                     | 173                                 | 173                                       | 149                               | 283                                   | 57                                    | 97                                   | 100                                 | 100                                    | 100                                   | 100                                      | 100                                   | 100                                | 100                                | 100                                 | 100                                       | 100                                      | 100                                    |                                         |
| 前奏社                                  | ナウカ社                                    | 新潮社                        | 櫻華社                                   | 前奏社                                      | 版畫社                                   | 耕進社                                     | 三笠書房                                | 版畫莊                                       | 日獨書院                              | 講談社                                   | 媽祖書房                                  | 綜合書院                                 | 綜合書院                                | 綜合書院                                   | 綜合書院                                  | 綜合書院                                     | 綜合書院                                  | 綜合書院                               | 綜合書院                               | 綜合書院                                | 綜合書院                                      | 綜合書院                                     | 綜合書院                                   |                                         |
| 月二十                                  | 月五                                      | 月二十                        | 月二十                                   | 月六                                       | 月七                                    | 月十                                      | 月二十                                 | 月二十                                       | 月五                                | 月十                                    | 月四                                    | 月六                                   | 月六                                  | 月六                                     | 月十                                    | 月二十                                      | 月二十                                   | 月二十                                | 月二十                                | 月二十                                 | 月二十                                       | 月二十                                      | 月二十                                    |                                         |
| ▲杭打のうた(赤石茂)鶯の歌(小熊秀雄)早春(北川冬彦)其他の詩を収む。 | ▲草の中(巢立つ、村の砂利濱に其他)病中吟(私の街よさらば其他)外二篇の詩集。 | ▲「沈黙の血汐」及び「山上に立つ」の二篇の詩を収む。 | ▲都市、新聞雑誌社、協会、團體等が一般に募集した歌謡の當選作を集めたもの。 | ▲綱渡りの現實、移民通信、プランバコ中隊空の脱走者、飛ぶ機外二篇の長篇叙事詩集。 | ▲神聖羅馬帝國皇帝、日本の秋、哀哭、モラル、二なき生命外二篇より成る詩集。 | ▲春のともしび、遠き人、千曲川讚、野の追憶、田園を謳ふ外三篇に分けた抒情詩集。 | ▲愁訴、コスモスの秋、秋意、灰色の想念、バルコンの薄明其他の詩を収む。 | ▲郷愁、落葉、新月、竹、病中傷感、さびしい噴水、海風、氷河、地獄の手に分けた詩集。 | ▲信ぜんとする意思、青木のかげ、山川草木の三篇數十章より成る詩集。 | ▲いとしき弟、思ひ出の雨、春を待つ子守唄其他に分け収めた少年の爲めの詩集。 | ▲媽祖祭、慶讃城隍爺祭、胡人の書、於戲、類唐以後、花戲外六篇より成る詩集。 | ▲握手、新興詩學、明日、韻律を求めて、われら明日を迎ふ其他より成る詩集。 | ▲故園の葉、初夏、水仙の花、浴泉抄、北の五部に分けて數十篇の詩を収む。 | ▲心の漂泊、砂上の夢、夢の断片、かたみに歌ふ、夢みる珠外二篇に大別せる詩集。 | ▲わが心樂し、むかしの戀、養蠶、母の死、種蒔きの譬、耶穌其他より成る詩集。 | ▲若き女性に贈る詩、萌え出づる力、友愛友情讚、新春を迎へて其他より成る散文詩集。 | ▲アルコホル、動物詩集、カリグラム、雜集に分けてアポリネールの詩を抄譯す。 | ▲憂鬱と理想、巴里圖繪、酒、惡の華、反逆其他に分け収めて譯せる詩集。 | ▲ヴェルレーヌの代表詩集土星びとの歌、なまめかしき詩其他より抄譯す。 | ▲主として一八七三年獄中にある頃書かれたヴェルレーヌ一代の代表作の譯。 | ▲ボオの有名な「大鴉」の詩を翻譯せるもので、用紙は一々「大鴉」の字を渡ける豪華版。 | ▲酒と阿片とアシツシユに就て體験を語り、批判を述べたエッセイ集「人工樂園」の譯。 | ▲ボオドレエルの抒情詩を集めたもので、ジャンヌ・ジュバルへの献詩其他に分つ。 | ▲ステファン・マラルメの「牧神の午後」「海風」「詩の賜物」等三篇の詩を譯載す。 |

|                                     |                                        |                                       |                                          |                                       |                                    |                                    |                                     |                                           |                                          |                                        |                                         |                                     |                                        |                                       |                                          |                                       |                                    |                                    |                                     |                                           |                                          |                                        |                                         |
|-------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------|
| 田中冬二                                | 詩集山鳴                                   | 萩原公星                                  | 夢みる珠                                     | 中勘助                                   | 琅玕                                 | 藤田香月                               | 散文集若き女性に贈る                          | 堀口大學                                      | アポリネール詩抄                                 | ボオドレエルの詩                               | 惡の華                                     | 堀口大學                                | ヴェルレーヌ詩抄                               | 河上徹太郎                                 | 觀智                                       | 日夏耿之介                                 | 大鴉                                 | 松井好夫                               | 人工樂園                                | 矢野文夫                                      | ボオドレエルの抒情詩集                              | マラルメ                                   | 牧神の午後                                   |
| 並四六判                                | 並四六判                                   | 並四六判                                  | 並四六判                                     | 並四六判                                  | 並四六判                               | 並四六判                               | 並四六判                                | 並四六判                                      | 並四六判                                     | 並四六判                                   | 並四六判                                    | 並四六判                                | 並四六判                                   | 並四六判                                  | 並四六判                                     | 並四六判                                  | 並四六判                               | 並四六判                               | 並四六判                                | 並四六判                                      | 並四六判                                     | 並四六判                                   | 並四六判                                    |
| 97                                  | 236                                    | 144                                   | 182                                      | 216                                   | 466                                | 254                                | 210                                 | 18                                        | 331                                      | 238                                    | 26                                      | 100                                 | 100                                    | 100                                   | 100                                      | 100                                   | 100                                | 100                                | 100                                 | 100                                       | 100                                      | 100                                    | 100                                     |
| 第一書房                                | 出羽書房                                   | 岩波書房                                  | 文憲堂                                      | 第一書房                                  | 耕進社                                | 第一書房                               | 芝書店                                 | 野田書房                                      | 耕進社                                      | 學而書院                                   | 椎の木社                                    | 第一書房                                | 耕進社                                    | 野田書房                                  | 芝書店                                      | 野田書房                                  | 耕進社                                | 學而書院                               | 椎の木社                                | 學而書院                                      | 椎の木社                                     | 椎の木社                                   | 椎の木社                                    |
| 月七                                  | 月二十                                    | 月三                                    | 月二                                       | 月一十                                   | 月一十                                | 月一十                                | 月六                                  | 月三                                        | 月六                                       | 月二十                                    | 月二十                                     | 月二十                                 | 月六                                     | 月三                                    | 月六                                       | 月三                                    | 月六                                 | 月二十                                | 月二十                                 | 月二十                                       | 月二十                                      | 月二十                                    | 月二十                                     |
| ▲故園の葉、初夏、水仙の花、浴泉抄、北の五部に分けて數十篇の詩を収む。 | ▲心の漂泊、砂上の夢、夢の断片、かたみに歌ふ、夢みる珠外二篇に大別せる詩集。 | ▲わが心樂し、むかしの戀、養蠶、母の死、種蒔きの譬、耶穌其他より成る詩集。 | ▲若き女性に贈る詩、萌え出づる力、友愛友情讚、新春を迎へて其他より成る散文詩集。 | ▲アルコホル、動物詩集、カリグラム、雜集に分けてアポリネールの詩を抄譯す。 | ▲憂鬱と理想、巴里圖繪、酒、惡の華、反逆其他に分け収めて譯せる詩集。 | ▲ヴェルレーヌの代表詩集土星びとの歌、なまめかしき詩其他より抄譯す。 | ▲主として一八七三年獄中にある頃書かれたヴェルレーヌ一代の代表作の譯。 | ▲ボオの有名な「大鴉」の詩を翻譯せるもので、用紙は一々「大鴉」の字を渡ける豪華版。 | ▲酒と阿片とアシツシユに就て體験を語り、批判を述べたエッセイ集「人工樂園」の譯。 | ▲ボオドレエルの抒情詩を集めたもので、ジャンヌ・ジュバルへの献詩其他に分つ。 | ▲ステファン・マラルメの「牧神の午後」「海風」「詩の賜物」等三篇の詩を譯載す。 | ▲故園の葉、初夏、水仙の花、浴泉抄、北の五部に分けて數十篇の詩を収む。 | ▲心の漂泊、砂上の夢、夢の断片、かたみに歌ふ、夢みる珠外二篇に大別せる詩集。 | ▲わが心樂し、むかしの戀、養蠶、母の死、種蒔きの譬、耶穌其他より成る詩集。 | ▲若き女性に贈る詩、萌え出づる力、友愛友情讚、新春を迎へて其他より成る散文詩集。 | ▲アルコホル、動物詩集、カリグラム、雜集に分けてアポリネールの詩を抄譯す。 | ▲憂鬱と理想、巴里圖繪、酒、惡の華、反逆其他に分け収めて譯せる詩集。 | ▲ヴェルレーヌの代表詩集土星びとの歌、なまめかしき詩其他より抄譯す。 | ▲主として一八七三年獄中にある頃書かれたヴェルレーヌ一代の代表作の譯。 | ▲ボオの有名な「大鴉」の詩を翻譯せるもので、用紙は一々「大鴉」の字を渡ける豪華版。 | ▲酒と阿片とアシツシユに就て體験を語り、批判を述べたエッセイ集「人工樂園」の譯。 | ▲ボオドレエルの抒情詩を集めたもので、ジャンヌ・ジュバルへの献詩其他に分つ。 | ▲ステファン・マラルメの「牧神の午後」「海風」「詩の賜物」等三篇の詩を譯載す。 |

|                                     |                           |                                          |                                        |                                         |                                       |                                         |                                      |                                      |                                                                              |                                |                                          |                                          |                                          |
|-------------------------------------|---------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|
| 並木秋人編                               | 森敬三                       | 佐佐木信綱                                    | 高田浪吉                                   | 尾山篤二郎                                   | 鈴木北溪                                  | 淵脇義雄                                    | 窪田空穂                                 | 北原白秋                                 | 太田水穂                                                                         | アウシキン著<br>中山省三郎譯               | モオツアルトとサリエーリ                             | ワアツワス詩集                                  | ワアツワス詩集                                  |
| 新短歌辭典                               | 上代名歌評釋                    | 現代歌論叢書<br>佐佐木信綱篇                         | 作歌手記                                   | 作歌道雜話                                   | 現代短歌發展史論                              | 現代短歌の特質と鑑賞                              | 窪田空穂篇                                | 北原白秋篇                                | 現代歌論叢書<br>太田水穂篇                                                              | 新編文庫(25)                       | 上四六倍判                                    | 並四六倍判                                    | 並四六倍判                                    |
| 432                                 | 192                       | 326                                      | 278                                    | 361                                     | 377                                   | 423                                     | 303                                  | 321                                  | 337                                                                          | 44                             | 307                                      | 307                                      | 307                                      |
| 一五〇                                 | 八〇                        | 二〇〇                                      | 一〇〇                                    | 二〇〇                                     | 二〇〇                                   | 二〇〇                                     | 二〇〇                                  | 二〇〇                                  | 二〇〇                                                                          | 一〇〇                            | 六〇                                       | 六〇                                       | 六〇                                       |
| 資文堂                                 | 大倉廣文堂                     | 改造社                                      | 古今書院                                   | 人文書院                                    | 木鐸社                                   | 厚生閣                                     | 改造社                                  | 改造社                                  | 改造社                                                                          | ナウカ社                           | 版畫莊                                      | 新潮社                                      | 新潮社                                      |
| 五月                                  | 七月                        | 七月                                       | 四月                                     | 一月一十                                    | 一月一十                                  | 五月                                      | 四月                                   | 七月                                   | 六月                                                                           | 一月一十                           | 三月                                       | 三月                                       | 六月                                       |
| ▲作歌に當つて必要な短歌の用語を五十音順に排列して解説し、例歌を掲ぐ。 | ▲古事記、日本書紀、萬葉集等に於ける名歌を評釋す。 | ▲歌は人なり、自然の歌、將來の短歌に對する一考察、歌がたり外廿二篇の歌論歌話集。 | ▲現代の短歌と萬葉集、子規の歌論、啄木について、選歌餘談其他より成る歌論集。 | ▲きれ、の感想、結論のない手記、アララギ隨感、空穂さんの横畑其他の短歌隨筆集。 | ▲現代短歌の發展史に就て論述した書で、新派短歌の勃興とロマンチズム外四篇。 | ▲現代短歌の本質、特質、歌論を述べ、史的觀察をなし、現代短歌を全面的に鑑賞す。 | ▲短歌の文藝上の位置、柿本人麿、現代短歌への道外十四篇の歌論歌話を収む。 | ▲古泉千経の歌、短歌作者として、詩歌の道短歌一夕論、歌人憲法外三十九篇。 | ▲昭和二年より九年に至る歌話、歌評、時論時評を纏めた書で、若山牧水の史上位置其他時評を纏めた書で、若山牧水の史上位置其他短歌一夕論、歌人憲法外三十九篇。 | ▲作曲家モツアルトとサリエーリとを描いた劇詩、ブノワの挿入。 | ▲抒情短詩(虹其他)物語詩(私等は七人其他)雜篇(四季の思ひ其他)外二篇の詩集。 | ▲抒情短詩(虹其他)物語詩(私等は七人其他)雜篇(四季の思ひ其他)外二篇の詩集。 | ▲抒情短詩(虹其他)物語詩(私等は七人其他)雜篇(四季の思ひ其他)外二篇の詩集。 |

|                                     |                                        |                                  |                                       |                                         |                                   |                                        |                                      |                                     |                                        |                                     |                                  |                                  |
|-------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 渡邊代順三村                              | 柳田新太郎編                                 | 柳田新太郎編                           | 北村まささを                                | 北村まささを                                  | 松本仁                               | 由利貞三                                   | 石樽茂                                  | 森敬三                                 | 川田順                                    | 金田千鶴                                | 金田千鶴                             | 短歌研究會編                           |
| 啄木短歌評釋                              | 短歌年鑑                                   | 短歌年鑑                             | 短歌の味作                                 | 短歌の味作                                   | 短歌表現辭典                            | 短歌模範新技法                                | 現代人の短歌のつくり方                          | 幕末歌壇の研究                             | 利玄と憲吉                                  | 金田千鶴歌集                              | 金田千鶴歌集                           | 近代一萬歌集                           |
| 241                                 | 350                                    | 319                              | 219                                   | 219                                     | 374                               | 396                                    | 128                                  | 404                                 | 328                                    | 263                                 | 426                              | 426                              |
| 一〇〇                                 | 一〇〇                                    | 一〇〇                              | 一〇〇                                   | 一〇〇                                     | 二〇〇                               | 二〇〇                                    | 八〇                                   | 二〇〇                                 | 二〇〇                                    | 二〇〇                                 | 二〇〇                              | 二〇〇                              |
| ナウカ社                                | 出版部                                    | 出版部                              | 平原社                                   | 平原社                                     | 出版部                               | 東學社                                    | 三省堂                                  | 樂浪書院                                | 岩波書店                                   | 古今書院                                | 金葉社                              | 金葉社                              |
| 一月一十                                | 一月一十                                   | 一月一十                             | 二月                                    | 二月                                      | 三月                                | 二月二十                                   | 七月                                   | 一月                                  | 二月二十                                   | 九月                                  | 九月                               | 十月                               |
| ▲石川啄木の歌集「一握の砂」及び「悲しき玩具」を概説し、短歌を評釋す。 | ▲作品、彙報、日本歌人協會録事、全國歌界一年史、歌壇紀要の五部より成る年鑑。 | ▲昭和八年一月より同年十二月に至る短歌に關する一切の記録を収む。 | ▲短歌道の初心者の爲に、短歌の作法、古今名歌鑑賞、短歌史等にも亘つて説く。 | ▲短歌のあぢはひ、短歌の形式と内容律、短歌の作り方、短歌の歴史外四章にて説く。 | ▲古今の短歌に表はれた語句を五十音順に配列して解説し、例歌を掲ぐ。 | ▲實際の作歌技術を中心に準備篇、技法篇、鑑賞篇に別けて作歌上の技術を説明す。 | ▲短歌初學講座としてBKより放送せる講義の補訂で、歌の素材外五講及附録。 | ▲幕末歌壇に關する研究論文集で、幕末歌壇の諸相、加納諸平の研究外十篇。 | ▲木下利玄と中村憲吉の兩歌人を論じたもので、利玄の習作時代、中村憲吉論其他。 | ▲大正十三年より病歿せる昭和九年までの短歌六百六十四首を年代順に収む。 | ▲春、夏、秋、冬、無季、戀及び雜の六部に分け收めた近代一萬歌集。 | ▲春、夏、秋、冬、無季、戀及び雜の六部に分け收めた近代一萬歌集。 |